

平成 29 年度

# 授業計画(シラバス)集

総合教育科目

専門基礎/学部共通科目



国際医療福祉大学

大田原キャンパス

# 目 次

平成29年度 授業週間及び定期試験週間

## 総合教育科目

### <人間系>

文学論 《ICT》	白岩 英樹	1
演劇論 《ICT》	白岩 英樹	3
心理学	田中 あけ見、相澤 裕紀	5
哲学	森田 耕喜	7
コミュニケーション概論	向後 裕美子、山本 栄美子	10
雑談と傾聴 ～話す力と聴く力～ 《VOD授業》	小野寺 敦志	12
人間学	金野 充博、絹木 憲司	18
歴史学 《ICT》	福井 譲	19
倫理学	森田 耕喜	21
宗教学 《VOD》	戸松 義晴	22
日本近現代史	福井 譲	23
文化人類学	加藤 尚子	25
文化人類学 《ICT》	加藤 尚子	26
教育学	小野瀬 善行	27
教育学 《VOD》	渡邊 弘	28
死生学 - 死を通して生を考える -	森田 耕喜	29
死生学 - 死を通して生を考える - 《VOD》	小野 充一	31
		32

### <社会系>

法学	奥津 康祐、市村 英彦	35
日本国憲法	奥津 康祐	37
日本国憲法 《ICT》	奥津 康祐	39
法と道徳・倫理	奥津 康祐	40
社会学	押小路 忠昭	41
日本政治経済論	平田 哲	42
日本政治経済論 《ICT》	平田 哲	46
マスメディア論	平田 哲	47
福祉経済学	児玉 平生	48
アジア諸国の経済・社会・文化	大野 敏明	50
国際関係論 《ICT》	大野 敏明	52
国際関係論	大野 敏明	54
世界の経済	児玉 平生	55
国際医療福祉論 《VOD》	北村 義浩	56
組織運営管理論	埴岡 健一	57
海外保健福祉事情	福井 譲	61
社会保障制度論	丸木 一成、埴岡 健一	62
地球環境論	大河 喜彦	64
ボランティア論	大石 剛史	66
ボランティア論 《VOD》	大石 剛史	68
ボランティアコーディネーター論	大石 剛史	70
手話入門	宮田 和実	72
将棋で養う社会力	北村 義浩	74
経済の仕組み	児玉 平生	78
経済の歴史	児玉 平生	82
		83

### <自然・情報系>

統計学	島田 直樹、縣 俊彦、岸 浩一郎	85
疫学・保健医療統計学	島田 直樹、縣 俊彦	87
数学	岸 浩一郎	92
物理学	荒川 哲、菊地 義信	95
化学	金谷 貴行、渡邊 敏子	98
生物学	多田納 豊、---	101
コンピュータの基礎	斎藤 恵一、石川 徹、江田 哲也、平間 信	106
情報処理Ⅰ（初歩）	江田 哲也	114
情報処理Ⅱ（基礎）	江田 哲也、石川 徹、斎藤 恵一	117
情報処理Ⅲ（応用）	江田 哲也	121
生命倫理	谷口 敬道	123
生命倫理 《VOD》	青木 清	125
医学／医療史 《VOD》	黒澤 和生	127
人間工学	山本 澄子	128
		130

### <総合系>

大学入門講座Ⅰ（基礎）	オムニバス	131
大学入門講座Ⅱ（展開）	オムニバス	133
郷土論 ～栃木学～ 《市民開放授業》	金野 充博	135
医療福祉教養講義 《VOD》	谷口 敬道	137
メディカルマナー入門 《VOD》	谷口 敬道	139
総合講義 ～超高齢社会とジェロントロジー～ 《市民開放授業》	谷口 敬道	140
食と人間	谷口 敬道	142
人間と性	門脇 弘子	143
持続可能な発展	宮崎 路子	144
読書ゼミナール	大河 喜彦	145
現代医療福祉事情	内山 仁志	147
	谷口 敬道	149

〈外国語系〉		151
英語講読 1 (Primary)	語学教員	153
英語講読 2 (Basic)	語学教員	163
英語講読 3 (Intermediate)	語学教員	179
英語講読 4 (Advanced)	語学教員	184
英語CALL 1 (Primary)	語学教員	188
英語CALL 2 (Basic)	語学教員	202
英語会話 1 (Primary)	語学教員	217
英語会話 2 (Primary)	語学教員	218
英語会話 3 (Intermediate)	語学教員	219
英語会話 4 (Advanced)	語学教員	221
聖書英語 1 (Primary)	語学教員	223
聖書英語 2 (Basic)	語学教員	224
医学英語 1 (Primary)	語学教員	225
医学英語 2 (Basic)	語学教員	226
英語ライティング 1 (Primary)	語学教員	227
英語医療通訳入門 1 (Primary)	語学教員	228
英語医療通訳入門 2 (Basic)	語学教員	229
資格英語 1 (Primary)	語学教員	230
資格英語 2 (Basic)	語学教員	232
基礎英文法 1 (Primary)	語学教員	234
基礎英文法 2 (Basic)	語学教員	237
上級英語会話 1 (発展)	語学教員	239
上級英語会話 2 (総合)	語学教員	240
ドイツ語初級 1 (基礎)	森田 耕喜	241
ドイツ語初級 2 (基礎)	森田 耕喜	243
ドイツ語中級 1 (応用)	森田 耕喜	245
ドイツ語中級 2 (応用)	森田 耕喜	247
ドイツ語上級 1 (発展)	森田 耕喜	249
ドイツ語上級 2 (発展)	森田 耕喜	250
スペイン語初級 1 (基礎)	瀬上 マレーナ	251
スペイン語初級 2 (基礎)	瀬上 マレーナ	252
中国語初級 1 (基礎)	陳 霞芬、山田 登美子	253
中国語初級 2 (基礎)	陳 霞芬、山田 登美子	256
中国語中級 1 (応用)	陳 霞芬	258
中国語中級 2 (応用)	陳 霞芬	259
韓国語初級 1 (基礎)	福井 讓	260
韓国語初級 2 (基礎)	福井 讓	262
韓国語中級 1 (応用)	福井 讓	264
韓国語中級 2 (応用)	福井 讓	266
作文・読解 I (入門)	福井 讓	268
作文・読解 II (応用)	福井 讓	269
作文・読解 III (完成)	福井 讓	270
文法・語彙 I (入門)	福井 讓	271
文法・語彙 II (応用)	福井 讓	272
文法・語彙 III (完成)	福井 讓	273
発表・討論 I (応用)	福井 讓	274
発表・討論 II (完成)	福井 讓	275
医療福祉専門漢字	福井 讓	276
医療福祉専門語彙	福井 讓	277
日本語基礎 I (初級)	福井 讓	278
日本語基礎 II (初級)	福井 讓	279
〈保健・体育系〉		281
健康科学理論《VOD》	金子 純一郎	283
健康科学実践	金子 純一郎	284
専門基礎 (学部共通)		287
公衆衛生学	島田 直樹、浅野 哲	289
救急医学	篠澤 洋太郎	296
微生物と病気	北村 義浩	298
リハビリテーション概論	前田 真治、若江 幸三良、藤田 亘	300
関連職種連携論	オムニバス	305
看護論	笹谷 孝子	308
ケアマネジメント論	林 和美	310
ケースワーク論	小嶋 章吾	311
医療管理学	加藤 尚子	312
保健医療福祉制度論	金野 充博	314
社会福祉学	山口 佳子	317
臨床心理学概論	皆川 久仁子、佐久間 伸一	318
医療情報学概論	斎藤 恵一	323
福祉支援工学概論	山本 澄子	325
関連職種連携ワーク	谷口 敬道	327
関連職種連携実習	新井田 孝裕	328
リスクマネジメント論《VOD》	武藤 正樹	330
電子カルテによるチーム医療概論	斎藤 恵一	332
レクリエーション概論	金子 純一郎	334

※最新版はUNIVERSAL PASSPORTで確認してください。

平成29年度(学部・前期) 授業週間及び定期試験期間

大田原キャンパス

曜日 授業週間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	備考
	3月27日	3月28日	3月29日	3月30日	3月31日	4月1日	4月2日	
第1週	4月3日 大田原 入学式	4月4日	4月5日	4月6日	4月7日 前期授業開始 ①	4月8日	4月9日	前期前半開始 4/7(金)~4/20(木)年間 履修科目登録期間
第2週	4月10日 ①	4月11日 ①	4月12日 ①	4月13日 ①	4月14日 ②	4月15日	4月16日	
第3週	4月17日 ②	4月18日 ②	4月19日 ②	4月20日 ②	4月21日 ③	4月22日 水曜授業日 ③	4月23日	4/22(土) 土曜(水曜)授業実施日
第4週	4月24日 ③	4月25日 ③	4月26日 ④	4月27日 ③	4月28日 ④	4月29日 (昭和の日)	4月30日	
第5週	5月1日 (創立記念日) ④	5月2日 ④	5月3日 (憲法記念日) ④	5月4日 (みどりの日) ④	5月5日 (こどもの日) ④	5月6日	5月7日	
第6週	5月8日 ⑤	5月9日 ⑤	5月10日 ⑤	5月11日 ④	5月12日 ⑤	5月13日	5月14日	
第7週	5月15日 ⑥	5月16日 ⑥	5月17日 ⑥	5月18日 ⑤	5月19日 ⑥	5月20日 運動会	5月21日	
第8週	5月22日 ⑦	5月23日 ⑦	5月24日 ⑦	5月25日 ⑥	5月26日 ⑦	5月27日 補講日 (大田原)	5月28日	5/27(土)補講日
第9週	5月29日 ⑧	5月30日 ⑧	5月31日 ⑧	6月1日 ⑦	6月2日 ⑧	6月3日 木曜授業日 ⑧	6月4日	6/3(土) 土曜(木曜)授業実施日 前期前半終了
第10週	6月5日 ⑨	6月6日 ⑨	6月7日 ⑨	6月8日 ⑨	6月9日 ⑨	6月10日	6月11日	前期後半開始 6/5(月)~6/16(金)前期 後半選択科目の履修登録 取消期間
第11週	6月12日 ⑩	6月13日 ⑩	6月14日 ⑩	6月15日 ⑩	6月16日 ⑩	6月17日	6月18日	
第12週	6月19日 ⑪	6月20日 ⑪	6月21日 ⑪	6月22日 ⑪	6月23日 ⑪	6月24日	6月25日	
第13週	6月26日 ⑫	6月27日 ⑫	6月28日 ⑫	6月29日 ⑫	6月30日 ⑫	7月1日 関連職種連携 ワーク報告会	7月2日	7/1(土) 関連職種連携ワーク報告 会
第14週	7月3日 ⑬	7月4日 ⑬	7月5日 ⑬	7月6日 ⑬	7月7日 ⑬	7月8日 補講日 (大田原)	7月9日	7/8(土)補講日
第15週	7月10日 ⑭	7月11日 ⑭	7月12日 ⑭	7月13日 ⑭	7月14日 ⑭	7月15日	7月16日	
第16週	7月17日 (海の日) 月曜授業日 ⑮	7月18日 ⑮	7月19日 ⑮	7月20日 ⑮	7月21日 ⑮	7月22日 VOD試験日 前期試験開始 (1)	7月23日	7/17(月) 祝日(月曜)授業実施日 前期後半終了 7/22(土)~7/29(土) 前期定期試験期間 7/22(土)VOD試験日 7/29(土)試験予備日
第17週	7月24日 ⑯	7月25日 ⑰	7月26日 ⑱	7月27日 ⑲	7月28日 ⑳	7月29日 関連職種連携実習 前期試験終了 (予備日)	7月30日	
	7月31日	8月1日	8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	
	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日 (山の日)	8月12日	8月13日	8/15(火)~8/16(水)保健 医療学部再試験申込 8/17(木)~8/18(金)医療 福祉・薬学部再試験申込 8/22(火)~8/25(金) 追・再試験期間
	8月14日	8月15日 再試験申込(保)	8月16日 再試験申込(保)	8月17日 再試験申込(福薬)	8月18日 再試験申込(福薬)	8月19日	8月20日	
	8月21日	8月22日 追再試験	8月23日 追再試験	8月24日 追再試験	8月25日 追再試験	8月26日 学術大会	8月27日 学術大会	
	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	
	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	

注1) 授業は、半期:90分×15回実施する。

注2) 〇の日は、大学行事、祝祭日、休暇期間等により授業は行わない。

注3) 授業回数確保のため、補講日以外にも土曜日に補講を行う場合がある。

※上記日程は予定であり、変更が生じる場合は  
学生掲示板にて連絡する。

平成29年度(学部・後期) 授業週間及び定期試験期間

大田原キャンパス

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	備考
授業週間	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	
						AO入試		
第1週	9月18日 (敬老の日)	9月19日	9月20日 後期授業開始	9月21日	9月22日 後期授業開始	9月23日 (秋分の日)	9月24日	後期前半開始 9/20(水)～10/3(火) 後期選択科目の履修登録 変更期間
第2週	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	
第3週	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日 大学祭前日 休講日 避難訓練	10月7日 大学祭	10月8日 大学祭	10/6(金)終日休講 10/7(土)・8(日)大学祭
第4週	10月9日 (体育の日)	10月10日	10月11日	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	
第5週	10月16日	10月17日	10月18日 金曜授業日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10/18(水) 金曜授業実施日
第6週	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日 月曜授業日	10月27日	10月28日	10月29日	10/26(木) 月曜授業実施日
第7週	10月30日	10月31日	11月1日	11月2日	11月3日 (文化の日)	11月4日	11月5日	
第8週	11月6日	11月7日	11月8日	11月9日	11月10日	11月11日 補講日 (大田原)	11月12日	11/11(土)補講日
第9週	11月13日	11月14日	11月15日	11月16日	11月17日	11月18日 高校推薦入試 帰国生徒入試	11月19日	後期前半終了
第10週	11月20日	11月21日	11月22日	11月23日 (勤労感謝の日)	11月24日	11月25日	11月26日	後期後半開始 11/20(月)～12/1(金) 後期後半選択科目の履修 登録取消期間
第11週	11月27日	11月28日	11月29日	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	
第12週	12月4日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日 補講日 (大田原)	12月10日	12/9(土)補講日
第13週	12月11日	12月12日	12月13日	12月14日	12月15日	12月16日 特待生入試 (成田以外)	12月17日 特待生入試 (成田)	12/17(日)薬学部OSCE
第14週	12月18日	12月19日 金曜授業日	12月20日	12月21日	12月22日	12月23日 (天皇誕生日)	12月24日 害虫駆除 全館立入禁止	12/19(火) 金曜授業実施日 12/27(水)～1/3(水) 冬期休暇期間
第15週	1月1日 (元旦)	1月2日	1月3日	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	
第16週	1月8日 (成人の日)	1月9日	1月10日	1月11日	1月12日 センター試験準備 休講日 (補講日)	1月13日 センター試験	1月14日 センター試験	1/12(金)終日休講 1/13(土)、1/14(日) センター試験
第17週	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日 後期試験開始	1月20日 VOD試験日	1月21日	1/15(月)～1/26(金)まで の入試による休講日 が発生する可能性あり 後期後半終了
第18週	1月22日	1月23日	1月24日	1月25日	1月26日 後期試験終了 (予備日)	1月27日	1月28日	1/19(金)～1/26(金) 後期定期試験期間 1/20(土)はVOD試験日 1/26(金)は試験予備日
	1月29日 一般入試前期	1月30日 一般入試前期	1月31日 一般入試前期	2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	
	2月5日 再試験申込(保)	2月6日 再試験申込(保)	2月7日 再試験申込(保)	2月8日 再試験申込(福薬)	2月9日 再試験申込(福薬)	2月10日	2月11日 (建国記念日)	2/6(火)～2/7(水)保健医 療学部再試験申込 2/8(木)～2/9(金)医療福 祉・薬学部再試験申込
	2月12日 (振替休日)	2月13日 追再試験	2月14日 追再試験	2月15日 追再試験	2月16日 追再試験	2月17日	2月18日	2/13(火)～2/16(金)追 再試験
	2月19日	2月20日	2月21日	2月22日	2月23日	2月24日	2月25日	

注1) 授業は、半期:90分×15回実施する。

注2) 〇の日は、大学行事、祝祭日、休暇期間等により授業は行わない。

注3) 授業回数確保のため、補講日以外にも土曜日に補講を行う場合がある。

※上記日程は予定であり、変更が生じる場合は  
学生掲示板にて連絡する。

総合教育科目  
【人間系】



				大田原キャンパス			
科目名	文学論 (ICT)			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	白岩 英樹	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>文学のステレオタイプを打ち破り、後進に多大な影響を与えつづける二人の作家、夏目漱石と村上春樹。日本文学を代表する彼らの作品と思考を通して、文化や文明との関係性を考察しつつ、われわれの生(ライフ)そのものをまなざしていく授業。</p> <p>漱石と村上の生年とでは八十年ほどのギャップがある。それでも、彼らの文学は地下水脈のような場所で通じている。そこにはなにが流れ、なにが留まっているのか、われわれはそこからなにを継承するののか。各作品の内外を往還しながら、拡張的な応答を試みる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各作家の作品や思考を通して、自己の生を相対化できる。</li> <li>2. 現実の生に対する認識を深められる。</li> <li>3. 読むこと(能動的に受容すること)を生きることにつなげられる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	本講義「文学論」の目的:夏目漱石『ころ』1 人間は親友を一人亡くした上で、そんなに変化できるものでせうか。(p.54.)	
第 2 回	夏目漱石『ころ』2:乃木さんは此三十五年の間死なう死なうと思つて、死ぬ機会を待つてみたらしいのです。(p.298.)	
第 3 回	夏目漱石『ころ』3:私は思ひ切つてどろどろの中へ片足踏ん込みました。(p.239.)	
第 4 回	夏目漱石『ころ』4:「奥さん、K は自殺しました」(p.280.)	
第 5 回	夏目漱石『ころ』5:妻が己れの過去に対してもつ記憶を、成るべく純白に保存して置いて遣りたいのが私の唯一の希望なのですから…(p.300.)	
第 6 回	村上春樹「トニー滝谷」1:孤独とは牢獄のようなものだと思つた。(p.139.)	
第 7 回	村上春樹「トニー滝谷」2:正直なところ、彼女にはトニー滝谷の言っている話の筋がよく呑み込めなかった。(pp.149-150.)	
第 8 回	村上春樹「トニー滝谷」3:不思議に名前も覚えていないその女の子のことは忘れられなかった。(p.157.)	
第 9 回	村上春樹『ノルウェイの森』1:ぼくはそつと手をのばして彼女の肩に触れた。肩はぶるぶると小刻みに震えていた。(上、p.75.)	
第 10 回	村上春樹『ノルウェイの森』2:彼女は僕の手をそつととつた。そしてなんだか言いにくそうに自分にはつきあっている人がいるのだと言つた。(上、p.146.)	
第 11 回	村上春樹『ノルウェイの森』3:「あの人が死んじゃつたあとでは、いったいどういう風に人と接すればいいのか私にはわからなくなつちやつたの。人を愛するというのがいったいどういうことなのかというの」(上、p.207.)	
第 12 回	村上春樹『ノルウェイの森』4:彼女の発する力はささやかなものなのだが、それが相手の心の共感を呼ぶのだ。(下、p.118.)	
第 13 回	村上春樹『ノルウェイの森』5:「自分に同情するな」と彼は言つた。「自分に同情するのは下劣な人間のやることだ」(下、p.170.)	
第 14 回	村上春樹『ノルウェイの森』6:「あなたはもう大人なんだから、自分の選んだものにはきちんと責任を持たなくちゃ。そうしないと何もかも駄目になつちやうわよ」(下、p.251.)	
第 15 回	村上春樹『ノルウェイの森』7:総括 僕は今どこにいるのだ?…僕はどこでもない場所のまん中から緑を呼びつづけていた。(下、p.262.)	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、■その他(受講・対話姿勢等)
評価の基準	毎授業時に作成・提出するレポート 100%(授業における対話の姿勢や内容を含む)



準備学習 学習へのアドバイス	<p>・予習: 次回に取り扱う作品を読んで、その深層世界はもちろん、視聴覚的な要素を想像しておく(60分)</p> <p>・復習: 前回の配布資料や、原作の該当箇所を読み返し、他者が内包する「未知」そのものに身をまかせ(60分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業時に解説や批評、助言を行い、配布資料に組み込む。</p>
履修条件	「未知」に対してどのようにふるまうか。われわれの在り方は、それによって決まるといっても過言ではない。未知の世界をさまよいつつも、それを愉しむ「成熟」した受講姿勢が必要となる。

教科書	<p>夏目漱石『こころ』(1914年)</p> <p>村上春樹『レキシントンの幽霊』(文春文庫、1999年)</p> <p>村上春樹『ノルウェイの森(上下巻)』(講談社文庫、2012年)</p> <p>※ 漱石の作品は複数の出版社から刊行されているが、肝心なのは作品に直にふれることであるから、まずは各自が入手できるものでよい(講義時の引用は岩波書店発行の『漱石全集』から行う予定)。</p>
参考書	授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー	<p>前期: 金曜4限、J210 研究室</p> <p>後期: 月曜2限、J210 研究室</p> <p>(ICT 受信キャンパス受講生からの質問等は、授業前後に受けつける)</p>
その他	<p>授業形式や内容・進度等は受講者数や状況に応じて変更されうる。</p> <p>状況が許すならば、対話の時間を組み込む予定。</p> <p>【ICT】</p> <p>大田原キャンパスから、大川・福岡・小田原の各キャンパスへ発信する授業である。</p> <p>初回授業時に ICT 授業ゆえの規定や規範(受信キャンパスの受講定員等)を連絡するので、受講希望者は必ず出席すること。</p> <p>定員の都合上、初回授業へ出席しなかった学生は受講が許可されない場合がある。</p> <p>やむをえない理由によって欠席するときは、初回授業の開始時刻までに shiraiwa@iuhw.ac.jp 宛てにその旨を知らせること。</p> <p>【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当</p>

		大田原キャンパス					
科目名	演劇論《ICT》(前半)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	白岩 英樹	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期前半
曜日時限	月曜 3限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>演劇の始原である「悲劇」の代表作をとりあげ、それらが内包する諸問題を多角的に、そしてアクチュアルに考察していく授業。</p> <p>人類が誕生して以来、この世界から悲惨な出来事や事件が消失した日は一日たりとて存在しない。にもかかわらず、フィクションにおいて、なおも「悲劇」が創り出され、多くの鑑賞者を得ているのはなぜなのか。本講義では、その問いに対する応答を重ねながら、現実世界の前条件を切り崩していく。それによって浮き彫りになるのは、現代社会が置かれた状況であり、われわれ自身の生(ライフ)のありようである。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 悲劇の特性を理解し、筋やプロットのみならず、舞台の水面下の動きを捉えられる。</li> <li>2. 現実の生に対する認識を深められる。</li> <li>3. 観ること(能動的に受容すること)を生きることに結びつけられる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	本講義「演劇論」の目的:演出家の仕事	
第2回	蜷川幸雄演出『オイディプス王』1:国民こそってこの男を、家々よりしりぞけよ。(p.37.)	
第3回	蜷川幸雄演出『オイディプス王』2:気苦勞のいらぬ地位と権力よりも、王位を得ることのほうに、心うごかすわけがあるか。(p.63.)	
第4回	蜷川幸雄演出『オイディプス王』3:そも何ゆえにわれは踊る? 敬神の念地に落ちぬ。(p.85.)	
第5回	蜷川幸雄演出『オイディプス王』4:とがめねばならぬのは、この男の言葉よりもお前のほうだ。(p.105.)	
第6回	蜷川幸雄演出『オイディプス王』5:わし以外にはこの世の何びとも、この禍を堪えて担うことはできぬのだから。(p.124.)	
第7回	蜷川幸雄演出『オイディプス王』6:この世のきわに至るまでは、何びともを幸福とは呼ぶなかれ。(p.133.)	
第8回	総括:「異形の者」としての役者(野村萬斎の闘い)	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、■その他(受講・対話姿勢等)
評価の基準	毎授業時に作成・提出するレポート 100%(授業における対話の姿勢や内容を含む)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習:次回に取り扱う作品を読んで、その深層世界はもちろん、視聴覚的な要素を想像しておく(60分)</li> <li>・復習:前回の配布資料や、原作の該当箇所を読み返し、他者が内包する「未知」そのものに身をまかせ(60分)</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>授業時に解説や批評、助言を行い、配布資料に組み込む。</p>
履修条件	<p>「未知」に対してどのようにふるまうか。われわれの在り方は、それによって決まるといっても過言ではない。未知の世界をさまよいつつも、それを愉しむ「成熟」した受講姿勢が必要となる。</p> <p>2012年度以前入学生:2単位, 30時間 / 2013年度以降入学生:1単位, 15時間</p>

教科書	ソポクレス『オイディプス王』藤沢令夫訳(岩波書店、1999年[改版]) シェイクスピア『ハムレット』 ※『ハムレット』は複数の出版社から刊行されているが、肝心なのは作品に直にふれることであるから、まずは各自が入手できるものでよい。講義時の引用は『新訳 ハムレット』河合祥一郎訳(角川書店、2003年)から行う予定。
参考書	授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー	<p>前期:金曜4限、J210 研究室  後期:月曜2限、J210 研究室  (ICT 受信キャンパス受講生からの質問等は、授業前後に受けつける)</p>
その他	<p>授業形式や内容・進度等は受講者数や状況に応じて変更されうる。  状況が許すならば、対話の時間を組み込む予定。</p> <p>【ICT】  大田原キャンパスから、大川・福岡・小田原の各キャンパスへ発信する授業である。  初回授業時に ICT 授業ゆえの規定や規範(受信キャンパスの受講定員等)を連絡するので、受講希望者は必ず出席すること。  定員の都合上、初回授業へ出席しなかった学生は受講が許可されない場合がある。  やむをえない理由によって欠席するときは、初回授業の開始時刻までに shiraiwa@iuhw.ac.jp 宛てにその旨を知らせること。</p> <p>【関連するディプロマポリシー】  共通ディプロマポリシー1)に該当。</p>

		大田原キャンパス					
科目名	心理学				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	田中 あけ見	科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期
曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	必修または選択 (学科による)	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	「心」という不思議なものについて、これまで心理学は様々な角度から多くの知見や現象を探求してきました。本講義では、これら心理学における様々な考えや概念を広く概観しながら、人間の心について考えていきます。
授業の到達目標	1. 心理学の基礎的な諸理論を理解することができる 2. 「人」「心」「自分」について、様々な視点から考え、感じる力を身につけること

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス (心理学とは)	
第 2 回	心の発達	
第 3 回	心の働き①—学習	
第 4 回	心の働き②—記憶と動機づけ	
第 5 回	心の働き③—感覚・知覚	
第 6 回	心の働き④—思考・感情	
第 7 回	性格	
第 8 回	心の構造	
第 9 回	人間関係とコミュニケーション	
第 10 回	集団の心理	
第 11 回	他者と自己	
第 12 回	青年期の心理・アイデンティティー	
第 13 回	心のつまずき	
第 14 回	正常と異常	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、□レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60分程度)。 正解のない心の問題を扱うため、積極的・主体的な姿勢で臨んでください。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて随時指定する。

オフィスアワー	質問は授業前後に受け付けます。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	心理学 (PS1)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	相澤 裕紀	科目担当者					
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	心理学の研究対象は「心」であるが、その内容は非常に広範である。本講義では心理学の基本的な知見を概説する。また、それらの知見を裏付ける検証手法も併せて紹介する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学における基本的な知見を理解し、説明できる</li> <li>2. 日常生活における出来事と心理学の知見を結びつけ、解釈できる</li> <li>3. 「心」に関する理論や言説を客観的な態度で捉えることができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	心理学とは	
第 2 回	感覚	
第 3 回	知覚	
第 4 回	学習と条件づけ	
第 5 回	記憶	
第 6 回	言語	
第 7 回	思考	
第 8 回	知能	
第 9 回	心の発達	
第 10 回	人格	
第 11 回	社会的影響	
第 12 回	社会的認知	
第 13 回	ストレスとコーピング	
第 14 回	心理的障害と治療	
第 15 回	講義全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験(持込不可)60%、レポート 40%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>講義内容は指定の参考書をベースとし、適宜内容を追加する。追加内容に関する文献は講義内で紹介する。</p> <p>【準備学習】 学習した内容をノート等にまとめ、不明点を参考書などで確認しておくこと(各回 60 分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 レポートについて、興味深いものや共通して認められた誤解などを講義にてコメントする。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない(授業では、投影資料・配布資料を使用します)
参考書	<p>鹿取・杉本・鳥居(編). (2015). 心理学[第 5 版]. 東京大学出版会.</p> <p>Nolen-Hoeksema, S., Fredrickson, B.L., Loftus, G.R. &amp; Lutz, C. (2014). Atkinson &amp; Hilgard's Introduction to Psychology 16th Edition. Cengage.</p>

オフィスアワー	質問などはメールまたは授業の前後に直接対応します。
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	心理学（必修:ORT）			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	田中 あけ見	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年 視機能1学年	期	前期
曜日時限	木曜5限	必修/選択	必修または選択 (学科による)	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	「心」という不思議なものについて、これまで心理学は様々な角度から多くの知見や現象を探求してきました。本講義では、これら心理学における様々な考えや概念を広く概観しながら、人間の心について考えていきます。
授業の到達目標	1. 心理学の基礎的な諸理論を理解することができる 2. 「人」「心」「自分」について、様々な視点から考え、感じる力を身につけること

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	ガイダンス（心理学とは）	
第2回	心の発達	
第3回	心の働き①－学習	
第4回	心の働き②－記憶と動機づけ	
第5回	心の働き③－感覚・知覚	
第6回	心の働き④－思考・感情	
第7回	性格	
第8回	心の構造	
第9回	人間関係とコミュニケーション	
第10回	集団の心理	
第11回	他者と自己	
第12回	青年期の心理・アイデンティティー	
第13回	心のつまずき	
第14回	正常と異常	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、□レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60分程度)。 正解のない心の問題を扱うため、積極的・主体的な姿勢で臨んでください。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	必要に応じて随時指定する。

オフィスアワー	火曜 3限 J-205 研究室
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	哲学				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜 2限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>21世紀初頭に生じた日本と世界を取り巻く主要問題、即ち、民主政治、領土・国境線、憲法改正、靖国参拝、教育、少子化、イスラム等の諸問題は、すべて一つのキーワードに帰結する。それは「西欧近代によって媒介されているか否か」である。未だ民主政治からほど遠い遅れてきた大国や、中世的発想から抜け出ないイスラム原理主義が、西欧近代が画定した国境線の変更を狙う。保守勢力は西欧近代思想の教科書のような日本国憲法の改正を謀り、優柔不断の官僚的軍人が祀られた靖国に詣でる。加えて、最大の危機である少子化に直面しても、家族制度や出産に関する旧態依然たる思考を変えようとする。</p> <p>古代ギリシアに始まる哲学は、西欧近代に媒介されてあらゆる学問の基礎となった。我が国はそれを通過することによって今日の繁栄を手に入れた。現状に不満があるならば、西欧近代を越える、よりましな思想を探せばよい。それがなければ、ポストモダンを語る前に、西欧近代の意味を深く掘り下げるしかない。</p> <p>本講義は西洋哲学の歴史を、時間軸に沿ってたどることによって、西欧近代哲学・思想がいかに生まれたか、そしてその意義を考察する。</p>
授業の到達目標	古代から中世、中世から近世への大転換期に焦点を当て、人類の世界観的な変遷(パラダイム・チェンジ)をたどって理解する

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	哲学とは何かー神話の闇の中から哲学が生まれる	
第2回	世界の始まりとは何かー自然哲学者たち	
第3回	すべては「ある」から始まったーソクラテス以前の哲学者たち	
第4回	「汝自身を知れ」ーソフィストとソクラテス	
第5回	「すべての西洋哲学はプラトンの脚注に過ぎない」ープラトン	
第6回	アレクサンダー大王の家庭教師ーアリストテレス	
第7回	物が先か、名前が先かー普遍論争	
第8回	ヒューマニズムの時代ールネサンスと近代科学の発達	
第9回	「私は考える、それゆえ私は存在する」ーデカルト	
第10回	心の中は白紙ーロックとヒューム	
第11回	先天的なものと物自体ーカント	
第12回	意識の経験の学ーヘーゲル	
第13回	現代哲学へ(1)	
第14回	現代哲学へ(2)	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	基礎知識を問うマークシート方式の試験(予定)
評価の基準	試験の成績に重点を置く
準備学習 学習へのアドバイス	特に予習を必要とするわけではないが、普段から哲学的なものの見方とはどういうものであるかについて意識していると、自然と身につくものである
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	今道友信『西洋哲学史』(講談社学術文庫)、『ソクラテス以前の哲学者』(講談社学術文庫)、プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』(岩波文庫)、デカルト『方法序説』(岩波文庫)、カント『純粹理性批判』(岩波文庫)、『西洋哲学史』(JICC 出版局)

オフィスアワー	木曜午前中
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	哲学				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>21世紀初頭に生じた日本と世界を取り巻く主要問題、即ち、民主政治、領土・国境線、憲法改正、靖国参拝、教育、少子化、イスラム等の諸問題は、すべて一つのキーワードに帰結する。それは「西欧近代によって媒介されているか否か」である。未だ民主政治からほど遠い遅れてきた大国や、中世的発想から抜け出せないイスラム原理主義が、西欧近代が画定した国境線の変更を狙う。保守勢力は西欧近代思想の教科書のような日本国憲法の改正を謀り、優柔不断の官僚的軍人が祀られた靖国に詣でる。加えて、最大の危機である少子化に直面しても、家族制度や出産に関する旧態依然たる思考を変えようとする。</p> <p>古代ギリシアに始まる哲学は、西欧近代に媒介されてあらゆる学問の基礎となった。我が国はそれを通過することによって今日の繁栄を手に入れた。現状に不満があるならば、西欧近代を越える、よりましな思想を探せばよい。それがなければ、ポストモダンを語る前に、西欧近代の意味を深く掘り下げるしかない。</p> <p>本講義は西洋哲学の歴史を、時間軸に沿ってたどることによって、西欧近代哲学・思想がいかに生まれたか、そしてその意義を考察する。</p>
授業の到達目標	古代から中世、中世から近世への大転換期に焦点を当て、人類の世界観的な変遷(パラダイム・チェンジ)をたどって理解する

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	哲学とは何かー神話の闇の中から哲学が生まれる	
第2回	世界の始まりとは何かー自然哲学者たち	
第3回	すべては「ある」から始まったーソクラテス以前の哲学者たち	
第4回	「汝自身を知れ」ーソフィストとソクラテス	
第5回	「すべての西洋哲学はプラトンの脚注に過ぎない」ープラトン	
第6回	アレクサンダー大王の家庭教師ーアリストテレス	
第7回	物が先か、名前が先かー普遍論争	
第8回	ヒューマニズムの時代ールネサンスと近代科学の発達	
第9回	「私は考える、それゆえ私は存在する」ーデカルト	
第10回	心の中は白紙ーロックとヒューム	
第11回	先天的なものと物自体ーカント	
第12回	意識の経験の学ーヘーゲル	
第13回	現代哲学へ(1)	
第14回	現代哲学へ(2)	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	基礎知識を問うマークシート方式の試験(予定)
評価の基準	試験の成績に重点を置く
準備学習 学習へのアドバイス	特に予習を必要とするわけではないが、普段から哲学的なものの方の見方とはどういふものであるかについて意識していると、自然と身につくものである
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	今道友信『西洋哲学史』(講談社学術文庫)、『ソクラテス以前の哲学者』(講談社学術文庫)、プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』(岩波文庫)、デカルト『方法序説』(岩波文庫)、カント『純粹理性批判』(岩波文庫)、『西洋哲学史』(JICC 出版局)

オフィスアワー	木曜午前中
その他	



		大田原キャンパス					
科目名	コミュニケーション概論				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	向後 裕美子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	コミュニケーションは、私たち人間が他者と関わる時に必要なものであると同時に、自分自身を形成していくためのものでもあります。医療・福祉の分野では、特にコミュニケーション力が求められる場面が多くあります。講義を通してコミュニケーションについて学び考えとともに、体験的なワークにより、自己理解を深めたり、医療現場で活用できるスキルを身につけたりすることを目指します。学びを定着させるために、毎回授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらいます。また、5つの単元の最後の回に小テストを実施します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションについての基本を理解できる</li> <li>2. 自己について多面的に理解できる</li> <li>3. 他者の話を共感的かつ正確に聞くことができる</li> <li>4. 自分の感情、感覚、考えなどを率直に表現できる</li> <li>5. 相手を尊重しながら自分を表現することができる</li> <li>6. 相手の特性に合わせて対応することができる</li> <li>7. 組織や集団の中で適切なコミュニケーションができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション: コミュニケーション概論で目指すもの	
第 2 回	自分を知る①自分とは何かー発達とアイデンティティ	
第 3 回	自分を知る②自分の感情に気づく	
第 4 回	自分を知る③自分の性格を知る	
第 5 回	相手の話を聴く①話を聴く姿勢ー聴く・聴かれる体験	
第 6 回	相手の話を聴く②正確に話を理解する	
第 7 回	相手の話を聴く③適切な質問をするーオープン/クローズド・クエスチョン	
第 8 回	相手の話を聴く④共感的に話を聴くー共感技法の総括	
第 9 回	伝え合う①言語と非言語で伝え合う	
第 10 回	伝え合う②アサーティブに伝える	
第 11 回	相手の特性に合わせたコミュニケーション①気分障害・不安障害など	
第 12 回	相手の特性に合わせたコミュニケーション②発達障害・パーソナリティ障害など	
第 13 回	集団におけるコミュニケーション①合意を形成する	
第 14 回	集団におけるコミュニケーション②医療におけるコラボレーション	
第 15 回	授業全体のまとめ レポートの書き方	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	小テスト 60 点(リアクションペーパー30 点+小テスト 30 点)、レポート 40 点
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>各回の授業後に、レジュメを活用して復習すること(120 分程度)</p> <p>各単元の最終回の授業の最後に単元に関する小テストを行うので、準備しておくこと</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>小テストの次の授業でフィードバックを行う</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>「覚える」ことよりも、「自分の頭で考える」と「心で感じる」ことを重視すること</p> <p>体験的ワークでは、自分を守りながら、同時に他者を尊重すること</p> <p>将来、自分の仕事に役立てることを意識しながら学ぶこと</p>
履修条件	積極的に参加する学生であること

教科書	特に指定しない
参考書	下山晴彦(編)『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房(2009 年)

オフィスアワー	質問事項は、授業時に配るリアクションペーパーに記入してください
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	コミュニケーション概論 (PS1)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	向後 裕美子	科目担当者						
学科	薬学科				学年	1 学年	期	前期
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	コミュニケーションは、私たち人間が他者と関わる時に必要なものであると同時に、自分自身を形成していくためのものでもあります。医療・福祉の分野では、特にコミュニケーション力が求められる場面が多くあります。講義を通してコミュニケーションについて学び考えるとともに、体験的なワークにより、自己理解を深めたり、医療現場で活用できるスキルを身につけたりすることを目指します。学びを定着させるために、毎回授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらいます。また、5つの単元の最後の回に小テストを実施します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションについての基本を理解できる</li> <li>2. 自己について多面的に理解できる</li> <li>3. 他者の話を共感的かつ正確に聞くことができる</li> <li>4. 自分の感情、感覚、考えなどを率直に表現できる</li> <li>5. 相手を尊重しながら自分を表現することができる</li> <li>6. 相手の特性に合わせて対応することができる</li> <li>7. 組織や集団の中で適切なコミュニケーションができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション: コミュニケーション概論で目指すもの	
第 2 回	自分を知る①自分とは何かー発達とアイデンティティ	
第 3 回	自分を知る②自分の感情に気づく	
第 4 回	自分を知る③自分の性格を知る	
第 5 回	相手の話を聴く①話を聴く姿勢ー聴く・聴かれる体験	
第 6 回	相手の話を聴く②正確に話を理解する	
第 7 回	相手の話を聴く③適切な質問をするーオープン/クローズド・クエスチョン	
第 8 回	相手の話を聴く④共感的に話を聴くー共感技法の総括	
第 9 回	伝え合う①言語と非言語で伝え合う	
第 10 回	伝え合う②アサーティブに伝える	
第 11 回	相手の特性に合わせたコミュニケーション①気分障害・不安障害など	
第 12 回	相手の特性に合わせたコミュニケーション②発達障害・パーソナリティ障害など	
第 13 回	集団におけるコミュニケーション①合意を形成する	
第 14 回	集団におけるコミュニケーション②医療におけるコラボレーション	
第 15 回	授業全体のまとめ レポートの書き方	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	小テスト 60 点(リアクションペーパー30 点+小テスト 30 点)、レポート 40 点
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>各回の授業後に、レジメを活用して復習すること(120 分程度)</p> <p>各単元の最終回の授業の最後に単元に関する小テストを行うので、準備しておくこと</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>小テストの次の授業でフィードバックを行う</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>「覚える」ことよりも、「自分の頭で考える」と「心で感じる」ことを重視すること</p> <p>体験的ワークでは、自分を守りながら、同時に他者を尊重すること</p> <p>将来、自分の仕事に役立てることを意識しながら学ぶこと</p>
履修条件	積極的に参加する学生であること

教科書	特に指定しない
参考書	下山晴彦(編)『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房(2009 年)

オフィスアワー	質問事項は、授業時に配るリアクションペーパーに記入してください
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	コミュニケーション概論				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	向後 裕美子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	コミュニケーションは、私たち人間が他者と関わる時に必要なものであると同時に、自分自身を形成していくためのものでもあります。医療・福祉の分野では、特にコミュニケーション力が求められる場面が多くあります。講義を通してコミュニケーションについて学び考えとともに、体験的なワークにより、自己理解を深めたり、医療現場で活用できるスキルを身につけたりすることを目指します。学びを定着させるために、毎回授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらいます。また、5つの単元の最後の回に小テストを実施します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションについての基本を理解できる</li> <li>2. 自己について多面的に理解できる</li> <li>3. 他者の話を共感的かつ正確に聞くことができる</li> <li>4. 自分の感情、感覚、考えなどを率直に表現できる</li> <li>5. 相手を尊重しながら自分を表現することができる</li> <li>6. 相手の特性に合わせて対応することができる</li> <li>7. 組織や集団の中で適切なコミュニケーションができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション: コミュニケーション概論で目指すもの	
第 2 回	自分を知る①自分とは何かー発達とアイデンティティ	
第 3 回	自分を知る②自分の感情に気づく	
第 4 回	自分を知る③自分の性格を知る	
第 5 回	相手の話を聴く①話を聴く姿勢ー聴く・聴かれる体験	
第 6 回	相手の話を聴く②正確に話を理解する	
第 7 回	相手の話を聴く③適切な質問をするーオープン/クローズド・クエスチョン	
第 8 回	相手の話を聴く④共感的に話を聴くー共感技法の総括	
第 9 回	伝え合う①言語と非言語で伝え合う	
第 10 回	伝え合う②アサーティブに伝える	
第 11 回	相手の特性に合わせたコミュニケーション①気分障害・不安障害など	
第 12 回	相手の特性に合わせたコミュニケーション②発達障害・パーソナリティ障害など	
第 13 回	集団におけるコミュニケーション①合意を形成する	
第 14 回	集団におけるコミュニケーション②医療におけるコラボレーション	
第 15 回	授業全体のまとめ レポートの書き方	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	小テスト 60 点(リアクションペーパー30 点+小テスト 30 点)、レポート 40 点
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>各回の授業後に、レジュメを活用して復習すること(120 分程度)</p> <p>各単元の最終回の授業の最後に単元に関する小テストを行うので、準備しておくこと</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>小テストの次の授業でフィードバックを行う</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>「覚える」ことよりも、「自分の頭で考える」と「心で感じる」ことを重視すること</p> <p>体験的ワークでは、自分を守りながら、同時に他者を尊重すること</p> <p>将来、自分の仕事に役立てることを意識しながら学ぶこと</p>
履修条件	積極的に参加する学生であること

教科書	特に指定しない
参考書	下山晴彦(編)『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房(2009 年)

オフィスアワー	質問事項は、授業時に配るリアクションペーパーに記入してください
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	コミュニケーション概論				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	山本 栄美子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	月曜 4限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	コミュニケーションは、私たち人間が他者と関わる時に必要であると同時に、自分自身を形成していく能力でもあります。医療・福祉の分野では、特にコミュニケーション力が求められる場面も多くあります。「コミュニケーションとは何か」を、講義を通して学び、日常生活やこれまでの経験と照らし合わせて考えていくことを目的として、参加体験型学習の手法も使って実践的に学習していきます。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションについての基本を理解できる</li> <li>2. 自己・他者を理解できる</li> <li>3. 人の意見を真摯に聞くことができる</li> <li>4. 自己と社会との関わりを理解できる</li> <li>5. 自分の感情、感覚、考えなどを率直に表現できる</li> <li>6. 職業上のコミュニケーションの問題について考えることができる</li> <li>7. 自己の意見を説得的に主張できる</li> <li>8. コミュニケーションに関わる諸問題について考察することができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション: コミュニケーション概論で目指すもの	
第2回	受け手の反応と非言語コミュニケーション	
第3回	伝えることと感じ取ること	
第4回	自己分析とコミュニケーション	
第5回	アイデンティティとレジリエンス	
第6回	欲求と承認のコミュニケーション論	
第7回	インターネットによるコミュニケーション	
第8回	マス・コミュニケーションとジャーナリズム	
第9回	コミュニケーションの文化的な特性	
第10回	組織におけるコミュニケーション	
第11回	情報分析の仕方と論理的・批判的思考	
第12回	説得的コミュニケーション	
第13回	自己意見の伝達と他者意見の傾聴	
第14回	ケアとコミュニケーション	
第15回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	レポート 60点 小テスト 40点
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】&lt;各回共通&gt;  予習: 授業時に伝達したトピックを日常事項と関連させて捉え、情報収集し考察してくること(60分程度)  復習: 予習時の考察と比較して授業を受けた後の意見の変化や、授業で学び考えたこと等を、レポート用紙1枚程度にまとめる(90分程度)</p> <p>【課題時に関するフィードバック】  次回の授業において、課題についての見解や関連事項についてコメントする</p>
履修条件	積極的に参加する学生であること

教科書	プリントを使用する
参考書	授業時間に適宜紹介していく

オフィスアワー	質問等については、授業後に対応する
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	コミュニケーション概論 (NS1)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	山本 栄美子	科目担当者						
学科	看護学科				学年	1 学年	期	後期
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	コミュニケーションは、私たち人間が他者と関わる時に必要であると同時に、自分自身を形成していく能力でもあります。医療・福祉の分野では、特にコミュニケーション力が求められる場面も多くあります。「コミュニケーションとは何か」を、講義を通して学び、日常生活やこれまでの経験と照らし合わせて考えていくことを目的として、参加体験型学習の手法も使って実践的に学習していきます。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションについての基本を理解できる</li> <li>2. 自己・他者を理解できる</li> <li>3. 人の意見を真摯に聞くことができる</li> <li>4. 自己と社会との関わりを理解できる</li> <li>5. 自分の感情、感覚、考えなどを率直に表現できる</li> <li>6. 職業上のコミュニケーションの問題について考えることができる</li> <li>7. 自己の意見を説得的に主張できる</li> <li>8. コミュニケーションに関わる諸問題について考察することができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション: コミュニケーション概論で目指すもの	
第 2 回	受け手の反応と非言語コミュニケーション	
第 3 回	伝えることと感じ取ること	
第 4 回	自己分析とコミュニケーション	
第 5 回	アイデンティティとレジリエンス	
第 6 回	欲求と承認のコミュニケーション論	
第 7 回	インターネットによるコミュニケーション	
第 8 回	マス・コミュニケーションとジャーナリズム	
第 9 回	コミュニケーションの文化的な特性	
第 10 回	組織におけるコミュニケーション	
第 11 回	情報分析の仕方と論理的・批判的思考	
第 12 回	説得的コミュニケーション	
第 13 回	自己意見の伝達と他者意見の傾聴	
第 14 回	ケアとコミュニケーション	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	レポート 60 点 小テスト 40 点
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】&lt;各回共通&gt;  予習: 授業時に伝達したトピックを日常事項と関連させて捉え、情報収集し考察してくる(60 分程度)  復習: 予習時の考察と比較して授業を受けた後の意見の変化や、授業で学び考えたこと等を、レポート用紙 1 枚程度にまとめる(90 分程度)</p> <p>【課題時に関するフィードバック】  次回の授業において、課題についての見解や関連事項についてコメントする</p>
履修条件	積極的に参加する学生であること

教科書	プリントを使用する
参考書	授業時間に適宜紹介していく

オフィスアワー	質問等については、授業後に対応する
その他	

		大田原キャンパス	
科目名	雑談と傾聴 ～話す力と聴く力～ (VOD 授業)	授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	小野寺 敦志	科目担当者	小島 秀吾、波田野 茂幸、亀口 憲治、白井 明美、 山川 誠司、矢口 大雄
学科	全学科	学年	2・3・4 学年
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択
授業の形態	VOD 授業 (対面授業あり)	単位数	2
		時間数	30
		期	前期

授業の概要 (主題)	対人援助職としての技能以前に、社会人として求められるコミュニケーション能力を向上させ来ることを目的とする。患者・利用者・家族・協働する専門職と円滑な関係を築いていくために、相手の話をどのように聞き、会話を成り立たせていくか、その知識と技法を学び、身につけることを主題とする。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションをとる相手の理解、相手と自分との関係の理解ができること。</li> <li>・「コミュニケーション概論」の学習をもとに、生活場面でどの知識を活用できること。</li> <li>・相手の理解、相手と自分の理解にに基づいた会話(聴く力、話す力)が展開できること。</li> <li>・社会人ならびに援助専門職に求められる態度を明確にでき、メンタルヘルスの側面から事故対応ができること。</li> </ul>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	自己理解, 他者理解, 2 者関係・3 者関係の理解	白井 明美
第 2 回	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションから相手を理解する。	矢口 大雄
第 3 回	面接の基本的な技法について	矢口 大雄
第 4 回	対人ストレスを自覚する, 対処する	山川 誠司
第 5 回	アサーション	波田野 茂幸
第 6 回	対面授業・演習 VOD#1~10 の内容を踏まえた講義演習を行う	各担当
第 7 回	対面授業・演習 VOD#1~10 の内容を踏まえた講義演習を行う	各担当
第 8 回	社会的欲求について, 怒りのコントロールの仕方, ストレスによるうつ等の理解	小島 秀吾
第 9 回	同一職場のチーム(集団)の理解と, 集団でのやりとり・話すこと・聴くこと。外部の専門職の理解とやりとり。電話やメール(メディア機器)でのやり取りの注意点の理解と, 聴くこと・読むこと・答えること	山川 誠司
第 10 回	患者・利用者, その家族の理解と, 話すこと聴くこと 1 病院領域(入院病床のある病院)	小野寺 敦志
第 11 回	患者・利用者, その家族の理解と, 話すこと聴くこと 2 病院領域(クリニックを中心に)	波田野 茂幸
第 12 回	患者・利用者, その家族の理解と, 話すこと聴くこと 3 福祉領域	小野寺 敦志
第 13 回	対面授業・演習 VOD#11~20 の内容を踏まえた講義演習を行う	各担当
第 14 回	対面授業・演習 VOD#11~20 の内容を踏まえた講義演習を行う	各担当
第 15 回	社会人・専門職としての倫理観と態度の形成, ハラスメントの理解	亀口 憲治

成績評価の方法	対面授業・演習時のレポート課題の提出結果と内容による
評価の基準	対面授業・演習への出席は必須。レポート課題の提出も必須。出席の上、レポート課題内容によって評価する。
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 VOD を複数回視聴し、日常生活や実習での雑談、傾聴に活用してみる
履修条件	本科目を履修するには、「コミュニケーション概論」を修得済であること。

教科書	なし
参考書	VOD 授業中に提示された書籍 対面授業・演習時に適宜提示する。

オフィスアワー	授業の性質上、メールのみの受付とする。VOD の#によって、その VOD の担当教員にメールにて質問を行うこと。メールアドレスは大学 HP の教員紹介を参照のこと
その他	<p>※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <p>①回答期限までに全ての回を視聴すること</p> <p>②視聴後は確認問題に回答すること</p> <p>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</p> <p>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</p>

		大田原キャンパス	
科目名	人間学	授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	金野 充博	科目担当者	齋藤 智恵、三浦 美恵子、福井 譲、白岩 英樹、 陳 霞芬、宮崎 路子、コータ、佐藤雄介、川上和久
学科	全学科	学年	全学年
曜日時限	水曜 4限	必修/選択	選択
授業の形態	講義	単位数	2
		期	後期
		時間数	30時間

授業の概要 (主題)	人間は「万物の霊長」と言われる他に抜きん出た存在であり、無限の可能性を秘めている。また、神様のような慈愛に満ちた顔を見せるときもあれば、反対に限りなく残酷な顔を見せる時もある。こうした一筋縄ではいかない、摩訶不思議な人間をさまざまな角度から論じ、将来、生身の人間と向き合わなければならない学生に「人間とは何か」を考えるための素材を提供する。
授業の到達目標	1、人間に関心、興味を持ち、人間を愛し、慈しむ心を育てることができる。 2、「人間とは何か」をはじめ、生涯をかけて探求すべき問題があることを認識できる。 3、医療・福祉の専門職を目指すにあたり、人として他人と真摯に向き合うための土台をつくることのできる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「戦中派」の死生観～山田風太郎、吉田満らに学ぶ	金野充博
第2回	虚構と現実～アート作品に見る人間像	白岩英樹
第3回	人と音楽	G. C. コータ
第4回	「人間探求派」の俳人が託したもの～己を凝視する	金野充博
第5回	人と障がい～井深八重の生き方に学ぶ	宮崎路子
第6回	イスラム教&イスラム教徒について知っておくべきこと～医療現場への応用	三浦美恵子
第7回	人間愛を重視した「仁」とは	陳霞芬
第8回	中間総括～人間に関するアフォーリズム散策&小論文作成	金野充博
第9回	ことばに投影された人間観	福井譲
第10回	栃木県に住むラテンアメリカ人のメンタルヘルス	三浦美恵子
第11回	人間を撮る人間、人間に撮られる人間～ポートレート写真に見る人間像	白岩英樹
第12回	人と教育	佐藤雄介
第13回	人と政治	川上和久
第14回	歴史の中の私たち～資料を通してみる近代日本の「支配する者と支配される者」	福井譲
第15回	授業全体のまとめ	金野充博

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、□レポート、■その他(小論文)
評価の基準	定期試験 70% 小論文 30%
準備学習 学習へのアドバイス	準備学習 各回の内容を振り返り、ノートにまとめること(60分程度)。 その他アドバイス 有名、無名を問わず古今東西の人物を取り上げている書籍、新聞、テレビ番組などにできるだけ触れること。
履修条件	なし

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。活字・映像メディア全般。

オフィスアワー	各回の授業後に、質問を受け付ける。
その他	関連するディプロマポリシー 共通ディプロマポリシー1)に該当



						大田原キャンパス	
科目名	人間学（介護コース）				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	絹木 憲司	科目担当者	加藤 尚子				
学科	医療福祉・マネジメント学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義・演習						

授業の概要 (主題)	<p>【介護福祉コース必修】</p> <p>人間とは何かという基本的な視点に立ち、人間の本質を探り、あわせて生活支援の重要な方法として、人間の尊厳と自立がどのように活かされているのかを学んでいく。</p> <p>また、関係作りのために必須であるコミュニケーションについての知識と理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>1. 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解することが出来る。</p> <p>2. 具体的なコミュニケーション技術を学ぶための基礎を理解できる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション 尊厳と自立の意義	絹木 憲司
第 2 回	自立をめぐる歴史	絹木 憲司
第 3 回	人間の尊厳と自立	絹木 憲司
第 4 回	人間の尊厳と自立(演習)	絹木 憲司
第 5 回	人間と動物:火・言葉・鉄	絹木憲司(加藤尚子)
第 6 回	死者と生者:死の発見	絹木憲司(加藤尚子)
第 7 回	暴力の歴史と異文化の理解	絹木憲司(加藤尚子)
第 8 回	介護における尊厳保持と自立支援の考え方	絹木 憲司
第 9 回	介護における尊厳保持と自立支援の実践	絹木 憲司
第 10 回	関係作りのための人間の理解	絹木 憲司
第 11 回	人間関係の形成	絹木 憲司
第 12 回	コミュニケーションの基礎	絹木 憲司
第 13 回	コミュニケーションの技法と実際	絹木 憲司
第 14 回	コミュニケーション演習	絹木 憲司
第 15 回	総括	絹木 憲司

成績評価の方法	■筆記試験 ■レポート
評価の基準	定期試験 90% レポート 10%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】</p> <p>予習:教科書を中心に行うので事前に読んでくること。(120分程度)</p> <p>復習:授業で学習した内容について授業後に振り返りシートにまとめ復習ノートを作成すること(120分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>提出された振り返りシートについてコメントする。</p>
履修条件	介護福祉コースの学生に限る。

教科書	新介護福祉士養成講座 1, 人間の理解 中央法規出版
参考書	その都度提示する。

オフィスアワー	月曜日 16:00~18:00 絹木研究室 F-506
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	歴史学《ICT》				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	本講義では、歴史を学ぶことの意味と方法について、いくつかのテーマに分けて取り上げていきます。「いい国(1192)作ろう鎌倉幕府」というように、個別具体的な事柄への言及は必要最小限に留めるため、皆さんが思い描いているかもしれない「歴史学」とは、かなり異なっているかもしれません。
授業の到達目標	(1)歴史学の持つ学問的意義と特徴を理解する、(2)社会の出来事に対する歴史的な思考力を養う、(3)現代社会に生きる者としての人文社会学的な識見を深める。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション:この講義について	
第2回	「歴史学」とは何かー歴史・歴史叙述・歴史学	
第3回	「歴史」の考察と資料/史料	
第4回	時代と時期区分	
第5回	時間と暦	
第6回	地域と国家	
第7回	人・モノの流れ	
第8回	土地と人間社会の関係	
第9回	自然環境との関わり	
第10回	身分と社会	
第11回	歴史遺産と文化財	
第12回	伝統の創造と再構築	
第13回	社会・共同体・マイノリティ	
第14回	歴史と記憶, 歴史認識	
第15回	まとめー再び「歴史を学ぶ」ことの意味について	

成績評価の方法	定期試験, コメント, レポート
評価の基準	定期試験 60%, コメント 20%, レポート 20%
準備学習 学習へのアドバイス	特定の地域や国の歴史を具体的に取り上げることはしませんが、各テーマに関連する文脈で歴史的対象/出来事に言及することは多々あるかと思えます。基本的な範囲内、少なくとも高校の歴史教科書程度以上の内容は、事前に抑えておいてください。
履修条件	

教科書	福井憲彦『歴史学入門(岩波テキストボックスα)』岩波書店, 2006年。
参考書	手軽に読めるものとして、3つ掲げておきます。 (1)E・H・カー/清水幾太郎訳『歴史とは何か』岩波新書, 1962年。 (2)山本博文『歴史をつかむ技法』新潮新書, 2013年。 (3)入江昭『歴史家が見る現代世界』講談社現代新書, 2014年。

オフィスアワー	F-512 火曜 4 限 (他の時間でも対応可。事前に連絡頂けると助かります)
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	倫理学					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者						
学科	全学科			学年	全学年	期	後期	
曜日時限	木曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	<p>本講義は学生が主体的に参加する〈討論〉を中心とした講義である。教師による壇上からの一方的講義を行わず、履修者が主体的に討論に参加する学生参加型の講義とする。参加者は与えられたテーマについて討論し、その際に司会者、あるいは、討論内容を記録して発表する書記のいずれかを体験する。</p> <p>各テーマに関連する倫理的背景を講義形式で補足し、討論の材料とする。</p> <p>特に職業倫理の立場から、医療倫理について敷衍し、医療従事者に倫理性が求められる理由について考える。</p> <p>下に記したテーマは昨年度のもので、履修者の希望や討論の進行状況に応じて変更することが可能である。討論の参考として、ドキュメンタリーなどの映像資料を積極的に用いる。</p>
授業の到達目標	<p>応用倫理的な側面とともに、思考実験的要素を含むため、履修者は討論に参加して積極的に発言することが求められる。それによって、医療・福祉を含む倫理的問題を主体的に洞察できるようにする。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	倫理学の基本概念・自然法思想－[討論1]救命ボート	
第2回	倫理思想1 自然法思想・自然権・ソクラテス	
第3回	倫理思想2ベンサム・ミル・ロック・カント	
第4回	『医療倫理学の方法』－原則論1	
第5回	『医療倫理学の方法』－原則論2	
第6回	『医療倫理学の方法』－手順論1	
第7回	『医療倫理学の方法』－手順論2	
第8回	『医療倫理学の方法』－ナラティブ1	
第9回	『医療倫理学の方法』－ナラティブ2	
第10回	コンプライアンスとディスクロージャー	
第11回	職業倫理と医療倫理・医療従事者の倫理－職種別倫理綱領－	
第12回	Whistleblowing－エンロン・ワールドコム・FBIの例－	
第13回	Whistleblowing－三菱自動車・雪印乳業・東京電力の例－	
第14回	Whistleblowing－どのような場合に内部告発は許されるか－	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	討論の司会または発表＋レポート
評価の基準	討論を通して、与えられたテーマをどれだけ自分のものとして理解を深めているか
準備学習 学習へのアドバイス	普段からメディアで話題になる倫理的諸問題について意識していることが必要である
履修条件	討論の司会または発表を行うこと

教科書	特に指定しない
参考書	「医療倫理学の方法 第2版－原則・手順・ナラティブ」(宮坂道夫著、医学書院) 他に必要に応じてプリント配布

オフィスアワー	木曜午前中
その他	

						大田原キャンパス		
科目名	宗教学 (VOD 授業)				授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	戸松 義晴		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30	
授業の形態	VOD 講義 (対面講義あり)							

授業の概要 (主題)	<p>宗教は人間の心に深い関わりを持ち、人々の生活様式や文化活動に大きな影響を与えてきました。医療も宗教の思想や精神性の影響を受けながら発展してきました。</p> <p>ホスピタル・ホスピスはキリスト教から生まれた言葉です。宗教は死生観にも大きな影響を与え、終末期医療や生殖補助医療などの医療倫理を考える上でも重要な課題です。</p> <p>この授業では、宗教とは何か、その歴史、現状を理解し、現在行われている医療と宗教の事例から、医療従事者として患者のところに寄り添うということを皆さんと共に考えていきます。</p>
授業の到達目標	<p>宗教の概念、現状、役割を理解する。</p> <p>医療と宗教の関係性を事例より理解し、医療従事者として必要な「共感」、「寄り添うこと」の意味を主体的に考える。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	宗教とは 宗教の概要について(前編)	
第 2 回	宗教とは 宗教の概要について(後編)	
第 3 回	宗教とは 宗教の歴史について(前編)	
第 4 回	宗教とは 宗教の歴史について(後編)	
第 5 回	日本における宗教 日本の宗教の概要と特色(前編)	
第 6 回	日本における宗教 日本の宗教の概要と特色(後編)	
第 7 回	医療と宗教 歴史から考える(前編)	
第 8 回	医療と宗教 歴史から考える(後編)	
第 9 回	宗教と生命倫理の諸問題 医療技術の発展と宗教(前編)	
第 10 回	宗教と生命倫理の諸問題 医療技術の発展と宗教(後編)	
第 11 回	「いのち」と「死」の捉え方について(前編)	
第 12 回	「いのち」と「死」の捉え方について(後編)	
第 13 回	悲嘆と寄り添い—グリーフケア	
第 14 回	悲嘆と寄り添い—遺族外来/精神腫瘍科	
第 15 回	自死の現状と僧侶の取り組みについて(講義)	
第 16 回	仏教者の自死・自殺問題への取り組み(対談)	
第 17 回	海外に見る医療と宗教 台湾・タイにおける仏教の取り組み(前編)	
第 18 回	海外に見る医療と宗教 台湾・タイにおける仏教の取り組み(後編)	
第 19 回	海外に見る医療と宗教 米国・ヨーロッパ・アジアの取り組み(前編)	
第 20 回	海外に見る医療と宗教 米国・ヨーロッパ・アジアの取り組み(後編)	
第 21 回	医療と宗教の架け橋 チャプレン/臨床仏教師/臨床宗教師(前編)	
第 22 回	医療と宗教の架け橋 チャプレン/臨床仏教師/臨床宗教師(後編)	
第 23 回	日本における医療と宗教—キリスト教	
第 24 回	日本における医療と宗教—仏教・新宗教	
第 25 回	災害と被災者のケア 東日本大震災と宗教者の活動(前編)	
第 26 回	災害と被災者のケア 東日本大震災と宗教者の活動(後編)	
第 27 回	仏教者の社会福祉活動 -路上生活者支援- 生きづらさに寄り添う(講義)	
第 28 回	仏教者の社会福祉活動 -路上生活者支援- 生きづらさに寄り添う(対談)	
第 29 回	総括	
第 30 回	総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(視聴状況)
評価の基準	レポート(講義の内容からの課題にA4二枚程度)50%、視聴状況50%

準備学習 学習へのアドバイス	対面講義までに、各動画の視聴を完了し、理解を深めておくこと。 【準備学習(予習復習等)】 予習:事前に資料をプリントアウトし、内容を確認すること(30分) 復習:視聴後に資料をもとに講義内容を振り返ること(60分)
履修条件	特になし

教科書	特になし
参考書	特になし

オフィスアワー	教務窓口にお問い合わせのこと。
その他	※VOD 授業は、単位修得の前提として、以下①～④を必須とする ①回答期限までに全ての回を視聴すること ②視聴後は確認問題に回答すること ③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること ④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)

		大田原キャンパス					
科目名	日本近現代史				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	戦後 70 年を経ても歴史認識をめぐる、日本と近隣諸国との間で軋轢が絶えないのはなぜなのでしょう。本講義は教養課程における歴史科目として、近現代という時代を対象に、日本社会の歩んできた過程を取り上げます。近現代とはいえ、個々の出来事全てを詳細に取り上げることはできないので、受講生の皆さんは、できれば事前に下記参考書などに目を通して、対象時期の流れを掴んでおいてください。
授業の到達目標	幕末から 21 世紀初頭まで日本社会の歩んできた過程を世界、特にアジアとの関わりにおいて把握し、近現代の日本を考えるに当たって必要な知識と視座、思考を養う。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	「歴史」「歴史学」とは何か？：歴史を学ぶことの意味	
第 2 回	19 世紀の世界と日本	
第 3 回	明治維新と近代化	
第 4 回	殖産興業と立憲国家への道	
第 5 回	明治社会と日本人	
第 6 回	日清・日露戦争と世界	
第 7 回	大正デモクラシーと第一次世界大戦	
第 8 回	植民地と日本	
第 9 回	戦争の時代	
第 10 回	1945 年の世界と日本	
第 11 回	二つの世界と日本	
第 12 回	55 年体制と高度経済成長	
第 13 回	バブル経済と新たな「戦後」	
第 14 回	もう一つの歴史－異なる視座から歴史を見ること	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	定期試験、各回に関するコメント・質問
評価の基準	定期試験 75%、コメント・質問 25%
準備学習 学習へのアドバイス	歴史の学習はとかく事物・人物・年代を暗記することと誤解されがちですが、本来重要なのはその時代と「今」との関係に着目することです。と同時に、現在・未来の問題を考えるには、私たちの歩んできた過程を捉え直すことが重要です。現代社会のさまざまな問題・動向に興味と関心を持ってください。そしてその背後に注目するよう、意識してください。
履修条件	

教科書	小風秀雅編『大学の日本史 4 近代』山川出版社、2016 年。
参考書	興味深いものとして、以下の 4 点を掲げておきます。 (1) 鳥海靖『もういちど読む山川日本近現代史』山川出版社、2013 年。 (2) 老川慶喜『もういちど読む山川日本戦後史』山川出版社、2016 年。 (3) 加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版、2009 年。 (4) 井上寿一『教養としての「昭和史」集中講義』SB 新書、2016 年。

オフィスアワー	F-512 火曜 4 限(事前連絡あると助かります)。
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	文化人類学			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	加藤 尚子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	月曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>「文化」を手がかりに、人間の考え方、ものの見方、ふるまい方の多様性と、その根底にある普遍性を理解する。私たちが普段あたり前のこととして受けとめ、判断していることが、時を越え国を超えた人々にとっては異質に受け止められることもある。文化人類学的な発想は、これからの激変する高齢社会を共に生きるためのよすがとなる。</p> <p>本講義は、医療福祉の専門職をめざす学生に対して、「異文化」として「医療・福祉」を問い直すことを求めている。文化人類学的な「ものの見方」を身につけることで、専門職の側の前提やイデオロギーに気づき、ケアを提供する側とケアを受ける側の人々の関係性を問い直すことができるかと期待している。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.文化相対主義の概念を自らの発想と行動に当てはめて説明できる。</li> <li>2.異文化との出会いと違和感を自覚できる。</li> <li>3.自らの死生観を育む準備ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	「文化」の理解	
第 2 回	文化人類学の方法	
第 3 回	交換	
第 4 回	婚姻	
第 5 回	男と女	
第 6 回	親子	
第 7 回	家族・親族	
第 8 回	人の一生・大人と子供	
第 9 回	生老病死	
第 10 回	伝統社会の老い	
第 11 回	現代社会の老い	
第 12 回	伝統社会の死	
第 13 回	現代社会の死	
第 14 回	共に生きる社会・異文化の理解	
第 15 回	講義全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、■講義中に作成するレポート
評価の基準	定期試験 50%、講義中に作成するレポート 50%
準備学習 学習へのアドバイス	授業後の復習を重点的に行うこと。毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60 分程度)。 講義中は発言を求める。積極的な参加と議論を期待する。
履修条件	特になし

教科書	特に指定しない。
参考書	波平恵美子「文化人類学カレッジ版第 3 版」医学書院(2011) 池田光穂「看護人類学入門」文化書房博文社(2010)

オフィスアワー	月曜 6 限、J棟 109 研究室
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	文化人類学《ICT》					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	加藤 尚子	科目担当者						
学科	全学科			学年	全学年	期	前期	
曜日時限	木曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	<p>「文化」を手がかりに、人間の考え方、ものの見方、ふるまい方の多様性と、その根底にある普遍性を理解する。私たちが普段あたり前のこととして受けとめ、判断していることが、時を越え国を超えた人々にとっては異質に受け止められることもある。文化人類学的な発想は、これからの激変する高齢社会を共に生きるためのよすがとなる。</p> <p>本講義は、医療福祉の専門職をめざす学生に対して、「異文化」として「医療・福祉」を問い直すことを求めている。文化人類学的な「ものの見方」を身につけることで、専門職の側の前提やイデオロギーに気づき、ケアを提供する側とケアを受ける側の人々の関係性を問い直すことができるかと期待している。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.文化相対主義の概念を自らの発想と行動に当てはめて説明できる。</li> <li>2.異文化との出会いと違和感を自覚できる。</li> <li>3.自らの死生観を育む準備ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「文化」の理解	
第2回	文化人類学の方法	
第3回	交換	
第4回	婚姻	
第5回	男と女	
第6回	親子	
第7回	家族・親族	
第8回	人の一生・大人と子供	
第9回	生老病死	
第10回	伝統社会の老い	
第11回	現代社会の老い	
第12回	伝統社会の死	
第13回	現代社会の死	
第14回	共に生きる社会・異文化の理解	
第15回	講義全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、■講義中に作成するレポート
評価の基準	定期試験 50%、講義中に作成するレポート 50%
準備学習 学習へのアドバイス	授業後の復習を重点的に行うこと。毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60分程度)。講義中は発言を求める。積極的な参加と議論を期待する。
履修条件	特になし

教科書	特に指定しない。
参考書	波平恵美子「文化人類学カレッジ版第3版」医学書院(2011) 池田光穂「看護人類学入門」文化書房博文社(2010)

オフィスアワー	月曜 6 限、J棟 109 研究室
その他	



		大田原キャンパス					
科目名	教育学				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	小野瀬 善行	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 2限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	この授業では、まず「教育」の基本的意味と関心に基づき、人間にとっての教育とはどのようなものなのかという根本的な問題を考えていく。その上で、「公教育」が整備されてきた過程で獲得されてきた理念を学び、それらの理念と教育改革の現状について、現代のさまざまな教育問題を具体的に取り上げながら受講生とともに考えていく。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教育」の基本的意味と関心について理解できる</li> <li>2. これまでの西洋と日本の教育の歴史的展開と課題について理解できる</li> <li>3. これからの子ども観と形成観の考え方について理解できる</li> <li>4. 教師の資質と役割について理解できる</li> <li>5. 学校の意味と社会的機能について理解できる</li> <li>6. 外国と日本の学校改革の現状と課題について理解できる</li> <li>7. 今後の公教育の課題について理解できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	ガイダンス、「教育」の意味と関心	
第2回	教育の概念	
第3回	発達段階と教育	
第4回	社会化と教育	
第5回	道徳教育の原理	
第6回	学校教育の歴史Ⅰ 西洋における学校の発達	
第7回	学校教育の歴史Ⅱ 明治期以降における日本の学校の発展	
第8回	学校教育の歴史Ⅲ 教師像の変遷	
第9回	教育と中立性Ⅰ 政治的中立性について	
第10回	教育と中立性Ⅱ 宗教的中立性について	
第11回	教育と中立性Ⅲ 政治的中立性について	
第12回	学校改革の現状と課題Ⅰ 欧米の学校改革	
第13回	学校改革の現状と課題Ⅱ 日本の学校改革	
第14回	多文化国家における公教育	
第15回	まとめ 授業全体についてのディスカッション	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(毎時提出ワークシート)
評価の基準	レポート70%、毎時間の質問・感想等のワークシートの記入状況 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】</p> <p>予習:教科書を中心に講義を行うので事前に読み、疑問や感想意見をワークシートにまとめる(90分程度)。</p> <p>復習:講義中疑問に思ったことなどをノート等にまとめておく(60分程度)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>ワークシートなどにコメントを付する。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>講義中、グループワークなどを行うこともあるため、他の受講者のためにも無断欠席は謹んでほしい。</p>
履修条件	特になし

教科書	教育学の試み(中村清著 時事通信社 2016年)
参考書	授業中に紹介する

オフィスアワー	基本的に授業終了後に質問等を受ける。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	教育学 (VOD 授業)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	渡邊 弘	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	VOD 講義 (対面講義あり)						

授業の概要 (主題)	この講義の目標は、さまざまな教育問題を原理的に理解することにある。特に、教育を「学び」を「援助」する活動という視点から、現代の学校教育問題とそれを克服するための方向性を探る。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教育」の意味と関心について理解できる</li> <li>2. これまでの西洋と日本の教育の歴史的発展について理解できる</li> <li>3. 「学び」と「援助」の基本的意味について理解できる</li> <li>4. 教師の役割と資質について理解できる</li> <li>5. 外国と日本の教育改革の現状と課題について理解できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	序. 問題化する現代の学校	
第 2 回	教育の意味と関心	
第 3 回	子ども観と形成観	
第 4 回	日本の学校教育の展開①	
第 5 回	日本の学校教育の展開②	
第 6 回	日本の学校教育の展開③	
第 7 回	限界を克服する視点①	
第 8 回	限界を克服する視点②	
第 9 回	限界を克服する視点③	
第 10 回	「学び」の「援助」を目指した学校①	
第 11 回	「学び」の「援助」を目指した学校②	
第 12 回	「学び」の「援助」を目指した学校③	
第 13 回	「学び」の「援助」を目指した学校④	
第 14 回	外国における学校教育改革	
第 15 回	教育改革の思想①	
第 16 回	教育改革の思想②	
第 17 回	教育改革の思想③	
第 18 回	教育のシステム改革①	
第 19 回	教育のシステム改革②	
第 20 回	教育のシステム改革③	
第 21 回	教育のシステム改革④	
第 22 回	子育てを考える	
第 23 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>下記の衛星放送用に作成された教科書(新訂、1部参考書の内容あり)を必ず購入し、重要と思われる点をチェックしておき、最終の試験に備えてほしい。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>予習: 事前に資料をプリントアウトし、内容を確認すること(30 分)</p> <p>復習: 視聴後に資料をもとに講義内容を振り返ること(60 分)</p>
履修条件	

教科書	渡邊弘『人間教育のすすめ』東洋館出版社、2016 年出版
参考書	渡邊弘『援助』する学校へ』川島書店、2001 年発行

オフィスアワー	別途掲示
---------	------

その他	※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。 ①回答期限までに全ての回を視聴すること ②視聴後は確認問題に回答すること ③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること ④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)
-----	--

		大田原キャンパス						
科目名	死生学-死を通して生を考える-					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 2限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	科学的発見や医療行為の発達によって、従来からの生と死をめぐる概念が動揺している。それは我々の時代が「死の発見」を越えて、「死の発明」とも呼びうる新たな領域に入り込んでしまったことによると考えられる。本講義ではこれまで神話・宗教・哲学等に表れた死生観や、近年公にされたおびただしい数の死に関する著作から新たに生じてきた問題を取り上げ、哲学的・思想的観点から考察する。講義は映像資料の視聴が半分程度を占める予定である。
授業の到達目標	講義や映像資料の視聴を通して自らの生と死について深く洞察する機会となることが目標である。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	死生学(Thanatology)の語源と意味	
第2回	弥生時代以前からの日本人の原「あの世」観	
第3回	仏教と神道の発展にともなう死生観の変遷	
第4回	浄土真宗と親鸞-日本仏教の特徴-	
第5回	『ギルガメシュ叙事詩』と神話に描かれた死生観	
第6回	「チベット死者の書」の世界	
第7回	「エジプト死者の書」の世界	
第8回	『バカの壁』-「九相図絵」とプラスチックネーション-	
第9回	「ヨーロッパ死者の書」の世界	
第10回	ベスト流行と中世ヨーロッパの死生観-「死の舞踏」・「メント・モリ」-	
第11回	ケルト民族の死生観-アーサー王物語と「千の風になって」	
第12回	E・キューブラー・ロス「死ぬ瞬間」	
第13回	アルフォンス・デーケン「死の準備教育」	
第14回	死ぬまでにしたい25のこと	
第15回	「命の授業」	

成績評価の方法	基礎知識を問うマークシート方式の試験(予定)
評価の基準	講義を通して、死生学的テーマをどれだけ自分のものとして理解を深めているか
準備学習 学習へのアドバイス	特別な準備をするよりも、平素から自らの生と死について思いをめぐらせていることが重要である
履修条件	規定の出席条件を満たすこと

教科書	特になし
参考書	講義中に指示する

オフィスアワー	木曜午前中
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	死生学-死を通して生を考える- (VOD 授業)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	小野 充一	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	VOD 講義(対面授業あり)						

授業の概要 (主題)	本講座では、ひとが生きる上で避けることが出来ない大きな課題である「死」について、「生きること」との対比を行うことで、より深く具体的に考える姿勢を獲得することを目標とする。特に、医療や福祉の様々な現場で遭遇する「生と死の課題」にプロフェッショナルとして、どのように立ち向かうのかと言う視点から、具体的な事象やテーマを取り上げて、具体的な行動につなげるための基盤形成を行うための知識とコミュニケーションスキルに焦点を当てる。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床死生学の基礎知識と概念を解説できる。</li> <li>臨床死生学における各課題について多様な視点から捉えることができる。</li> </ul>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	臨床死生学概論の目的と活用方法	
第 2 回	人口管理とリプロダクティブライツ/ヘルスの概念	
第 3 回	人工妊娠中絶の歴史と医療の発達 ①	
第 4 回	人工妊娠中絶の歴史と医療の発達 ②	
第 5 回	生殖医療技術の発達と課題	
第 6 回	周産期医療と障害児の問題	
第 7 回	先天性障害とは何か	
第 8 回	代理判断、事前指示	
第 9 回	子どもの死	
第 10 回	精神障害と社会	
第 11 回	急性ウイルス感染症への対応と社会防衛	
第 12 回	認知症と高齢者医療	
第 13 回	脳死と臓器移植、再生医療の将来	
第 14 回	緩和医療とは何か	
第 15 回	がんの告知を巡る問題	
第 16 回	症状緩和医療の実際	
第 17 回	安楽死・治療停止の問題と現場の選択	
第 18 回	水俣病の医療が教えるもの ①	
第 19 回	公害医療と差別	
第 20 回	DVと医学	
第 21 回	性感染症の医学と若者の意識	
第 22 回	医療リスクコミュニケーション	
第 23 回	優生医学の歴史と将来像 ①	
第 24 回	優生医学の歴史と将来像 ②	
第 25 回	総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	対面講義のレポート
準備学習 学習へのアドバイス	<p>医療の臨床現場における死生に限定せず、幅広い視点で、いのちと生きることを支えるために求められる知識や技術について様々な本や映画・ビデオなどで、学習すること。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>予習:事前に資料をプリントアウトし、内容を確認すること(30分)</p> <p>復習:視聴後に資料をもとに講義内容を振り返ること(60分)</p>
履修条件	

教科書	「テキスト臨床死生学」日本臨床死生学会編、勁草書房
参考書	「死の臨床とコミュニケーション」日本死の臨床研究会教育研修委員会 編 人間と歴史社 版

オフィスアワー	教務窓口にお問い合わせのこと
その他	<p>※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <p>①回答期限までに全ての回を視聴すること</p> <p>②視聴後は確認問題に回答すること</p> <p>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</p> <p>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</p>



総合教育科目  
【社会系】





		大田原キャンパス					
科目名	法学 (PS)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	奥津 康祐	科目担当者					
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	月曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	皆さんは法律の中で生活しています。法律の中、ということは、法律に規制されているということである一方、法律に守られているということでもあります。さらに、場合により皆さんの問題解決のために法律を使うことができるということでもあります。快適に人生を歩んでいくために、その手助けとしての法律について学んでいきましょう。また、患者の権利や医療事故、クレーマー、院内暴力等、医療現場での法的問題も取り上げます。将来、医療者となる人のために、トラブルの解決力向上につながる内容も付け加えます。
授業の到達目標	1. 法学の基礎知識を身につける 2. 法的思考(リーガル・マインド)ができるようになる 3. 法律を通じて社会を把握することができる 4. 社会で起きている出来事について、自分の考えを述べられるようになる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	日本の法制度 1: 憲法と法律、国際法	
第 2 回	日本の法制度 2: 訴訟制度	
第 3 回	家族と法 1: 結婚・離婚	
第 4 回	家族と法 2: 親子	
第 5 回	家族と法 3: 相続	
第 6 回	契約 1: 契約の種類、契約の成立	
第 7 回	契約 2: 契約の終了、不成立	
第 8 回	泣き寝入りしないために、損害賠償等	
第 9 回	ここまでのまとめ	
第 10 回	刑事処罰	
第 11 回	患者の権利・医療側の義務	
第 12 回	医療訴訟(民事)	
第 13 回	医療訴訟(刑事)	
第 14 回	医療現場で危害から身を守る法	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 70%、レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 日ごろから、社会や報道に目を配り、かつ、それと講義とを照らし合わせて理解するよう心がけてください。 【課題等に関するフィードバック】 レポート課題はコメントを付して返却します。 【その他アドバイス】 買い物や DVD レンタル、バスの利用といった日常何気なくしていることも、実は契約に基づき法律の中で行われています。日頃から法律を意識してみてください。法律の理解が深まるはずですよ。
履修条件	特になし

教科書	レジュメ(プリント)を使用します
参考書	『プレステップ法学(第 3 版)』(池田真朗編、弘文堂、2016 年) 『はじめての法律学-HとJの物語(第 4 版)』(松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫、有斐閣、2014 年) e-Gov 法令データ提供システム <a href="http://law.e-gov.go.jp">http://law.e-gov.go.jp</a> (適宜閲覧のこと)

オフィスアワー	授業前後やメールで講師に直接、あるいは、教務課に問い合わせてください
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	法学			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	市村 英彦	科目担当者	福原 竜一、早乙女 宜宏、縣 俊介				
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	必/選は学科により異なる。	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	法が人間社会の生理(法というルールあるいは契約という約束ごとによって日常生活を秩序立てていること)や病理(紛争や犯罪)の現象を扱っているものであることを明らかにする。時事的な問題もなるべく取り入れる。担当者は全員弁護士であり、日々、現実の法律実務や訴訟等に対応している。そこで、実務家の視点も交えながら、それぞれのテーマについて説明する。
授業の到達目標	社会が急速に複雑化しているのに対応して、法律もどんどん複雑になり、ボリュームも多くなっている。将来社会人となった場合に、法律と何らかのかたちで関わることを自覚しつつ、その中で、もっとも重要と思われる法律について、その基本的な考え方・知識を理解できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	憲法(人権)	縣 俊介
第 2 回	憲法(統治機構)	福原 竜一
第 3 回	刑法・刑事訴訟法	市村 英彦
第 4 回	刑法・刑事訴訟法 II	市村 英彦
第 5 回	労働法	縣 俊介
第 6 回	民法(契約法①)	早乙女 宜宏
第 7 回	民法(契約法②)	早乙女 宜宏
第 8 回	民法(家族法)	福原 竜一
第 9 回	民法(損害賠償＝医療過誤問題を含む①)	市村 英彦
第 10 回	民法(損害賠償＝医療過誤問題を含む②)	市村 英彦
第 11 回	民法(クレジット・サラ金問題)	縣 俊介
第 12 回	医療と法	福原 竜一
第 13 回	福祉と法	福原 竜一
第 14 回	消費者保護法	早乙女 宜宏
第 15 回	授業全体のまとめ等	福原 竜一

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験による
準備学習 学習へのアドバイス	毎日のニュースや社会問題の背後に、どんな法律があるのか、考えてみる。 【準備学習(予習復習等)】 講師が作成または準備した資料・文献等に基づき、復習をする。60分程度を目安とします。 【課題等に関するフィードバック】 復習時における疑問点や意見などは書面にて提出すること。担当講師が、口頭または書面にて説明・回答します。 【その他アドバイス】もし興味があれば、各法律に関する基本書の該当部分を参照してみることに。
履修条件	なし

教科書	岩波コンパクト六法、有斐閣ポケット六法などハンディな六法(憲法、民法、刑法、労働基準法、刑事訴訟法などの掲載されているもの。法律の勉強には「六法」が欠かせない)
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	質問は金曜日 4 時限の授業後に受け付ける。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	日本国憲法				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	奥津 康祐	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	なぜ、大学でも憲法を学ぶのでしょうか。理由の一つは、皆さんが近い将来、被選挙権をもつようになり、労働者となり、あるいは、結婚して新たな家族ができていく中で、憲法がより一層具体的で密接な存在となるからです。また、皆さんは医療・福祉の道を志しています。憲法は各種の人権を規定しますが、その考え方は質の高い医療・福祉の提供のため必要です。その上、憲法施行 70 年を迎え、安全保障制度や天皇制といった国の根本制度についても国民的議論が求められ、憲法ががぜん注目されてきました。さあ、日本国憲法を学んでいきましょう。
授業の到達目標	1.日本国憲法の基礎知識を身につける 2.人権について、身の回りで生じ得る出来事と結びつけて議論できる 3.日本の統治機構について、人に説明し、自分の考えを述べられる 4.憲法はどうあるべきかについて、自分の考えを持てるようになる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	憲法の意味と日本国憲法の成立(ガイダンス)	
第 2 回	日本国憲法の全体像	
第 3 回	人権総論	
第 4 回	法の下での平等、家庭生活における両性の平等	
第 5 回	思想・良心の自由、信教の自由	
第 6 回	表現の自由、学問の自由	
第 7 回	社会権	
第 8 回	財産権、納税の義務、刑事手続きの適正、裁判を受ける権利	
第 9 回	人権のまとめ	
第 10 回	国会	
第 11 回	内閣、裁判所	
第 12 回	財政、地方自治	
第 13 回	憲法改正、最高法規	
第 14 回	医療関連の法と憲法	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 70%、レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 日ごろから、自分自身が今まさに日本国憲法が規定されている国で生活していることを意識して社会や報道に目を配り、出来事と日本国憲法との関係を考えるようにして、適宜講義を振り返ってください。 【課題等に関するフィードバック】 レポート課題はコメントを付して返却します。 【その他アドバイス】 積極的・能動的に日本国憲法を考える癖をつけましょう。
履修条件	特になし

教科書	レジュメ(プリント)を使用します
参考書	『18 歳からはじめる憲法(第 2 版)』(水島朝穂、法律文化社、2016 年) 『目で見る憲法(第 4 版)』(初宿正典他編、有斐閣、2011 年) 『憲法(第 6 版)』(芦部信喜著、高橋和之補訂、岩波書店、2015 年)

オフィスアワー	授業前後やメールで講師に直接、あるいは、教務課に問い合わせてください
その他	

						大田原キャンパス	
科目名	日本国憲法《ICT》				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	奥津 康祐	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	なぜ、大学でも憲法を学ぶのでしょうか。理由の一つは、皆さんが近い将来、被選挙権をもつようになり、労働者となり、あるいは、結婚して新たな家族ができていく中で、憲法がより一層具体的で密接な存在となるからです。また、皆さんは医療・福祉の道を志しています。憲法は各種の人権を規定しますが、その考え方は質の高い医療・福祉の提供のため必要です。その上、憲法施行 70 年を迎え、安全保障制度や天皇制といった国の根本制度についても国民的議論が求められ、憲法ががぜん注目されてきました。さあ、日本国憲法を学んでいきましょう。
授業の到達目標	1.日本国憲法の基礎知識を身につける 2.人権について、身の回りで生じ得る出来事と結びつけて議論できる 3.日本の統治機構について、人に説明し、自分の考えを述べられる 4.憲法はどうあるべきかについて、自分の考えを持てるようになる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	憲法の意味と日本国憲法の成立(ガイダンス)	
第 2 回	日本国憲法の全体像	
第 3 回	人権総論	
第 4 回	法の下での平等、家庭生活における両性の平等	
第 5 回	思想・良心の自由、信教の自由	
第 6 回	表現の自由、学問の自由	
第 7 回	社会権	
第 8 回	財産権、納税の義務、刑事手続きの適正、裁判を受ける権利	
第 9 回	人権のまとめ	
第 10 回	国会	
第 11 回	内閣、裁判所	
第 12 回	財政、地方自治	
第 13 回	憲法改正、最高法規	
第 14 回	医療関連の法と憲法	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 70%、レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>日ごろから、自分自身が今まさに日本国憲法が規定されている国で生活していることを意識して社会や報道に目を配り、出来事と日本国憲法との関係を考えるようにして、適宜講義を振り返ってください。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>レポート課題はコメントを付して返却します。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>積極的・能動的に日本国憲法を考える癖をつけましょう。遠隔講義の学生も遠慮することなく、講義中に、あるいは講義外で質問をしてください。</p>
履修条件	特になし

教科書	レジュメ(プリント)を使用します
参考書	『18歳からはじめる憲法(第2版)』(水島朝穂、法律文化社、2016年) 『目で見る憲法(第4版)』(初宿正典他編、有斐閣、2011年) 『憲法(第6版)』(芦部信喜著、高橋和之補訂、岩波書店、2015年)

オフィスアワー	授業前後やメールで講師に直接、あるいは、教務課に問い合わせてください
その他	講義は福岡キャンパスに ICT 授業として送信されます

		大田原キャンパス					
科目名	法と道徳・倫理			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	奥津 康祐	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	法は、人類の長きにわたる歴史の中で、人権の思想や、道徳・倫理的価値も取り入れつつ発展してきた行為規範です。もちろん、法は万能ではなく、法のみでは判断し得ない道徳・倫理的問題もあります。人権の理念や法と道徳・倫理の関係を学習し、医療福祉現場における道徳・倫理問題を考察することで、将来医療福祉の現場に立つ者としてのたくましい道徳感・倫理感を涵養する土台を築いてきましょう。
授業の到達目標	1、人権の基本的理論を理解できる 2、医療福祉現場における道徳・倫理問題に気づけるようになる 3、気づいた道徳・倫理問題に対して、自分なりの考えを説明できるようになる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	法、道徳、倫理とは	
第 2 回	人権、個人の尊厳、公共の福祉	
第 3 回	死刑制度	
第 4 回	患者の身体的自由と身体抑制・閉鎖病棟	
第 5 回	平等、正義	
第 6 回	生存権、生活保護、資源配分問題	
第 7 回	診療契約と道徳。倫理、患者の迷惑行為	
第 8 回	精神的自由、人格権、自己決定権、自己実現	
第 9 回	インフォームドコンセント	
第 10 回	延命治療の中止、積極的安楽死	
第 11 回	臓器移植/生殖医療/墮胎(人工妊娠中絶)	
第 12 回	患者個人情報取り扱い	
第 13 回	医療事故当事者となった医療者	
第 14 回	世界の医療倫理の動向	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 50%、レポート 50%
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 社会や身の回りの出来事、日ごろから関心を持っていることに関し、講義で示された法、道徳、倫理の考え方で「とりあえず考えてみる」を実践して、自分なりの考え方を磨いてください。 【課題等に関するフィードバック】 レポート課題はコメントを付して返却します。 【その他アドバイス】 法、道徳、倫理、いずれも、あなたにとって、社会にとって重要なものです。それらをバランスよく、自分が自分らしくいながら、社会に役立つ形で調和させる方法を探していきましょう。
履修条件	

教科書	レジュメ(プリント)を使用します
参考書	『憲法第 6 版』(芦部信喜著、高橋和之補訂、岩波書店、2015 年) 『もういちど読む山川倫理』(小寺聡編、山川出版社、2011 年)

オフィスアワー	授業前後やメールで講師に直接、あるいは、教務課に問い合わせてください
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	社会学 (SHM)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	押小路 忠昭	科目担当者					
学科	医療福祉・マネジメント学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>【社会福祉コース、精神保健福祉コース、介護コース 必修】</p> <p>社会学が対象とするのは文字通り私達が身を置き、生活し、人々と接する社会そのものです。社会学はそれに対し日常的に経験する方法とは違った独自の視点から理解しようとする試みと言えるでしょう。</p> <p>本講は将来医療のプロフェッション(専門職)として医療現場の最前線に出て行かれる皆さんに社会的なものを見方を会得してもらう事を主眼としています。講義は社会学の概要を紹介するとともに、社会・介護・精神保健福祉士国家試験を視野に入れた対策の内容も組み込みます。</p>
授業の到達目標	<p>1.社会学の基本的な概念を学ぶことで、社会学に対する大まかなイメージを把握できる。</p> <p>2.医療・福祉における具体的な問題に対し社会的な視点で考察できる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	講義の進め方についての説明。「社会的秩序はどのように成立するか」	
第 2 回	社会学の黎明(A.コント,H.スペンサー「社会ダーウィニズム」への展開)	
第 3 回	社会理論と社会システム(1)「現代社会の理解」	
第 4 回	社会理論と社会システム(2)「現代社会の理解」	
第 5 回	社会理論と社会システム(3)「生活の理解」	
第 6 回	社会理論と社会システム(4)「人と社会の関係」	
第 7 回	社会理論と社会システム(5)「社会問題の理解」	
第 8 回	社会学の彫琢 1(E・デュルケム「自殺論」:自殺に関する古典的研究)	
第 9 回	社会調査の基礎(1)「量的調査の方法」	
第 10 回	社会調査の基礎(2)「質的調査の方法」	
第 11 回	社会調査の基礎(3)「調査結果の分析」	
第 12 回	社会学の彫琢 2「M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』」	
第 13 回	「医療社会学概説」「患者役割論、医療専門職研究、リスクの医学とビッグデータ」	
第 14 回	「医療化論(社会構成主義の医療への応用、医療化、脱医療化、臨床のナラティブ)」	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、□レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>講義の進め方、評価方法の詳細については、第一回目の講義で説明する。</p> <p>講義内容については、受講生の学科構成、問題関心等を考慮し若干調整する。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>事前に配布した資料に目を通しておく(30分)。</p> <p>【復習】</p> <p>講義のノートと資料を照合し、要点をまとめる(90分)</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>疑問点や理解が不十分な部分についてはリアクションペーパー、オフィスアワー等を利用して教員に確認すること。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	<p>山本 鎮雄 1992『社会学的世界(増補改訂版)』恒星社厚生閣</p> <p>菊池哲朗 2004『常識の壁』中央公論新社</p> <p>『社会福祉士精神保健福祉士受験ワークブック』中央法規</p> <p>和田秀樹 2009『エビデンス主義---統計数値から常識のウソを見抜く』角川新書</p> <p>佐藤俊哉 2005『宇宙怪人しまりす医療統計を学ぶ』岩波書店</p>

オフィスアワー	授業日の講義の前後
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	社会学			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	押小路 忠昭	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>社会学が対象とするのは文字通り私達が身を置き、生活し、人々と接する社会そのものです。社会学はそれに対し日常的に経験する方法とは違った独自の視点から理解しようとする試みと言えるでしょう。</p> <p>本講は将来医療のプロフェッション(専門職)として医療現場の最前線に行かれる皆さんに社会的なものを見方を会得してもらう事を主眼としています。講義は社会学の概要を紹介するとともに、視聴覚教材(ビデオ)を多用し、具体的な医療に関するテーマを設定しそれに対し考察していきます。</p>
授業の到達目標	<p>1.社会学の基本的な概念を学ぶことで、社会学に対する大まかなイメージを把握できる。</p> <p>2.医療・福祉における具体的な問題に対し社会的な視点で考察できる。</p> <p>3.レポートを書く上での資料を適確に収集し、それに基づき自分の考えを論理的整合性をもって文章において表現できる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	講義の進め方についての説明。「医学の進歩は社会にどのような影響を及ぼすか」	
第 2 回	社会学史・黎明期の社会学(A.コント,H.スペンサー「社会ダーウィニズム」への展開)	
第 3 回	「優生学と医療 1」(欧米編)	
第 4 回	「優生学と医療 2」(日本編)	
第 5 回	「優生学と医療 3」(近現代編)	
第 6 回	社会学史・理論の彫琢と発展 1(E・デュルケーム「自殺論」:自殺に関する古典的研究)	
第 7 回	社会学史・理論の彫琢と発展 2(M・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」)	
第 8 回	レポートの作成の説明、「医療社会学序説 1」(医療に対する社会学のアプローチ、医療社会学の成立と展開)	
第 9 回	「医療社会学概説 2」(病人役割)	
第 10 回	「医療社会学概説 3」(医療専門職論)	
第 11 回	「医療社会学概説 4」(リスクの医学とビッグデータ)	
第 12 回	「医療社会学概説 5」(遺伝子技術と医療)	
第 13 回	「医療化論 1」(医療化、脱医療化)	
第 14 回	「医療化論 2」(臨床のナラティブ、生殖補助医療、リプロダクティブ・ヘルツ)	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>講義の進め方、評価方法の詳細については、第一回目の講義で説明する。</p> <p>講義内容については、受講生の学部構成、問題関心等を考慮し若干調整する。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 事前に配布した資料に目を通しておく(30分)。</p> <p>【復習】 講義のノートと資料を照合し、要点をまとめる(90分)</p> <p>【その他アドバイス】 疑問点や理解が不十分な部分についてはリアクションペーパー、オフィスアワー等を利用して教員に確認すること。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	<p>山本 鎮雄 1992『社会学的世界(増補改訂版)』恒星社厚生閣</p> <p>菊池哲朗 2004『常識の壁』中央公論新社</p> <p>米本 昌平(他) 2000『優生学と人間社会』講談社</p> <p>和田秀樹 2009『エビデンス主義---統計数値から常識のウソを見抜く』角川新書</p> <p>中山健夫 2014『医療ビッグデータがもたらす社会変革』日経 BP</p>



オフィスアワー	授業日の講義の前後
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	社会学			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	押小路 忠昭	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 1限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	社会学が対象とするのは文字通り私達が身を置き、生活し、人々と接する社会そのものです。社会学はそれに対し日常的に経験する方法とは違った独自の視点から理解しようとする試みと言えるでしょう。 本講は将来医療のプロフェッション(専門職)として医療現場の最前線に行かれる皆さんに社会的なものを見方を会得してもらう事を主眼としています。講義は社会学の概要を紹介するとともに、具体的な医療に関するテーマを設定しそれに対し考察していきます。
授業の到達目標	1.社会学の基本的な概念を学ぶことで、社会学に対する大まかなイメージを把握できる。 2.医療・福祉における具体的な問題に対し社会的な視点で考察できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	講義の進め方についての説明。「医学の進歩は社会をどのように変えるか」	
第2回	社会学史・黎明期の社会学(A.コント,H.スペンサー「社会ダーウィニズム」への展開)	
第3回	「優生学と医療 1」(欧米編)	
第4回	「優生学と医療 2」(日本編)	
第5回	「優生学と医療 3」(近現代編)	
第6回	社会学史・理論の彫琢と発展 1(E・デュルケーム「自殺論」:自殺に関する古典的研究)	
第7回	社会学史・理論の彫琢と発展 2(M・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」)	
第8回	「医療社会学序説 1」(医療に対する社会学のアプローチ、医療社会学の成立と展開)	
第9回	「医療社会学概説 2」(病人役割、病氣行動)	
第10回	「医療社会学概説 3」(医療専門職論)	
第11回	「医療社会学概説 4」(リスクの医学とビッグデータ)	
第12回	「医療社会学概説 5」(遺伝子技術と医療)	
第13回	「医療化論 1」(生物医療化、遺伝子化論、薬物化論、脱医療化)	
第14回	「医療化論 2」(臨床のナラティブ、生殖補助医療、リプロダクティブ・ヘルツ)	
第15回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、□レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	講義の進め方、評価方法の詳細については、第一回目の講義で説明する。 講義内容については、受講生の学部構成、問題関心等を考慮し若干調整する。 【準備学習(予習復習等)】 事前に配布した資料に目を通しておく(30分)。 【復習】 講義のノートと資料を照合し、要点をまとめる(90分) 【その他アドバイス】 疑問点や理解が不十分な部分についてはリアクションペーパー、オフィスアワー等を利用して教員に確認すること。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	山本 鎮雄 1992『社会学的世界(増補改訂版)』恒星社厚生閣 菊池哲朗 2004『常識の壁』中央公論新社 米本 昌平(他) 2000『優生学と人間社会』講談社 和田秀樹 2009『エビデンス主義---統計数値から常識のウソを見抜く』角川新書 中山健夫 2014『医療ビッグデータがもたらす社会変革』日経 BP

オフィスアワー	授業日の講義の前後
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	日本政治経済論				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	平田 哲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	バブルの崩壊、失われた20年、そしてデフレからの脱却。今の日本の経済・社会状況はなぜこうなったのか。そしてこれからどうなろうとしているのか。それを知る手がかりを得るため、平成の経済、社会の動きを振り返り、さらに江戸時代から昭和までをおさらいします。また、原発とエネルギー問題、TPP、財政再建と消費税など、これからの日本にとって極めて重要な諸課題について、幅広く学んでいきます。
授業の到達目標	自分が生きてきたのはどういう時代だったのか。なぜそうなったのかを理解する。そして、今起きていることはなぜ起きているのか。これから何が起きようとしているのか。それはなぜなのか。これらの「なぜ」について、自分なりの視点を持ち、論旨を明快に述べるようになること。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	平成元年～3年 バブルのピークから崩壊の序章	
第2回	平成4年～6年 失われた20年の始まり	
第3回	平成7年～9年 金融危機と財政改革	
第4回	平成10年～12年 “不良債権、問題からゼロ金利政策へ	
第5回	平成13年～14年 金融 量的緩和へ	
第6回	平成15年～17年 公的資金の注入・平成の大合併	
第7回	平成18年～20年 サブプライムローン・リーマンショック	
第8回	平成21年～22年 世界的金融危機深刻化	
第9回	平成23年 東日本大震災と原発事故	
第10回	平成24年 貿易収支大幅赤字化	
第11回	平成25年～ デフレからの脱却動き出す	
第12回	江戸時代から第2次世界大戦まで(農産品手工業から機械化そして昭和恐慌)	
第13回	終戦から現在まで(戦後復興から高度成長)	
第14回	TPP・原発事故とエネルギー問題	
第15回	総括	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポートの内容で評価。経済の動きについて自分なりの視点、分析で論じているかを重視する。
準備学習 学習へのアドバイス	日々の動きについて関心を持ち、新聞、テレビなどを通じて情報を収集。自分の考えをまとめる習慣をつける。【準備学習(予習復習等)】 予習:次回講義のキーワード(シラバス参照)について事前に学んでおく。 復習:レジュメ等によりキーワードへの理解を確かなものにしておく(予習・復習それぞれ120分程度) 【課題等に関するフィードバック】 講義の終了前にキーワードについてまとめ、次回キーワードを紹介。 【その他アドバイス】 講義中の疑問はその場で解決すること(講義終了後でも質問に答えます)
履修条件	社会の動きに関心を持ち続けること。

教科書	特に指定しない
参考書	「日本経済はどこで間違えたか」(菊池哲郎著)

オフィスアワー	質問などは授業の前後に対応します
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	日本政治経済論 (ICT)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	平田 哲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	バブルの崩壊、失われた20年、そしてデフレからの脱却。今の日本の経済・社会状況はなぜこうなったのか。そしてこれからどうなるかとしているのか。それを知る手がかりを得るため、平成の経済、社会の動きを振り返り、さらに江戸時代から昭和までをおさらいします。また、原発とエネルギー問題、TPP、財政再建と消費税など、これからの日本にとって極めて重要な諸課題について、幅広く学んでいきます。
授業の到達目標	自分が生きてきたのはどういう時代だったのか。なぜそうなったのかを理解する。そして、今起きていることはなぜ起きているのか。これから何が起きようとしているのか。それはなぜなのか。これらの「なぜ」について、自分なりの視点を持ち、論旨を明快に述べるができるようになること。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	平成元年～3年 バブルのピークから崩壊の序章	
第 2 回	平成4年～6年 失われた20年の始まり	
第 3 回	平成7年～9年 金融危機と財政改革	
第 4 回	平成10年～12年 “不良債権、問題からゼロ金利政策へ	
第 5 回	平成13年～14年 金融 量的緩和へ	
第 6 回	平成15年～17年 公的資金の注入・平成の大合併	
第 7 回	平成18年～20年 サブプライムローン・リーマンショック	
第 8 回	平成21年～22年 世界的金融危機深刻化	
第 9 回	平成23年 東日本大震災と原発事故	
第 10 回	平成24年 貿易収支大幅赤字化	
第 11 回	平成25年～ デフレからの脱却動き出す	
第 12 回	江戸時代から第2次世界大戦まで(農産品手工業から機械化、そして昭和恐慌)	
第 13 回	終戦から現在まで(戦後復興から高度成長)	
第 14 回	TPP・原発事故とエネルギー問題	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポートの内容で評価。経済の動きについて自分なりの視点、分析で論じているかを重視する。
準備学習 学習へのアドバイス	日々の動きについて関心を持ち、新聞、テレビなどを通じて情報を収集。自分の考えをまとめる習慣をつける。 【準備学習(予習復習等)】 予習: 次回講義のキーワード(シラバス参照)について事前に学んでおく。 復習: レジュメ等によりキーワードへの理解を確かなものにする。(予習・復習それぞれ 120 分程度) 【課題等に関するフィードバック】 講義の終了前にキーワードについてまとめ、次回キーワードを紹介。 【その他アドバイス】 講義中の疑問はその場で解決。(講義終了後でも質問に答えます)
履修条件	社会の動きに関心を持ち続けること。

教科書	特に指定しない
参考書	「日本経済はどこで間違えたか」(菊池哲郎著)

オフィスアワー	質問などは授業の前後に対応します
その他	

						大田原キャンパス	
科目名	マスメディア論				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	平田 哲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	真偽とりまぜてあふれかえるような情報。情報過多の時代、我々は何を信じ、何を判断の材料としていけばよいのか。口承からインターネットまで、情報伝達手段の変遷を学び、それぞれのメディアの特徴を知り、情報が持つ重要性、情報を知ることの重要性を学んでいきます。そのうえで、マスメディアの役割を改めて考え、我々はマスメディアにどう接し、どう活用したらよいのかを考えていきます。
授業の到達目標	まず、日々、マスメディアに接触するようにすること。そのうえで社会で起きていること、起きようとしていることが、自分にとって、あるいは国民にとって好ましいことなのか、そうではないのか、考える習慣をつけること。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	インターネットの登場が既存のマスメディア、そして社会にもたらした大変化	
第 2 回	口承、書写の時代から、宗教革命を引き起こした印刷技術の出現	
第 3 回	マスメディアの代表的存在、新聞の歴史	
第 4 回	日本の新聞の歴史と現状	
第 5 回	マスメディアに対する評価を、複数の調査から探る	
第 6 回	日本の新聞の現状を地方紙を例に見ていく	
第 7 回	部数の減少を食い止めるための「NIE」などの新聞の努力	
第 8 回	放送の歴史。ラジオの発明からテレビ時代へ	
第 9 回	テレビは何を伝えて来たのか	
第 10 回	テレビのデジタル化。多チャンネル時代へ。	
第 11 回	公共放送と商業放送。あるべき理想の形は？	
第 12 回	通信社の歴史と役割	
第 13 回	出版社・メディアコングロマリットの出現が意味するもの	
第 14 回	世論調査・記者クラブ・特定秘密保護法	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポートの内容により評価。社会の動きを自分なりの視点で論じているかをポイントにおきます。
準備学習 学習へのアドバイス	日々、マスメディアに接して情報に触れること。新聞を読み、テレビのニュースに触れて、今何が起きているか、何が起きようとしているのか、それはなぜなのかを考えてください。そのうえでマスメディアのありかた、マスメディアへの接し方を考えてください。 【準備学習(予習復習等)】 予習: 次回講義のキーワード(シラバス参照)について事前に学んでおく。 復習: レジュメ等によりキーワードへの理解を確かなものにする。(予習・復習それぞれ 120 分程度) 【課題等に関するフィードバック】 講義の終了前にキーワードについてまとめ、次回キーワードを紹介。 【その他アドバイス】 講義中の疑問はその場で解決。(講義終了後でも質問に答えます)
履修条件	マスメディアに接して情報に触れること

教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	質問などは授業の前後に対応します
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	マスメディア論				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	平田 哲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	真偽とりまぜてあふれかえるような情報。情報過多の時代、我々は何を信じ、何を判断の材料としていけばよいのか。口承からインターネットまで、情報伝達手段の変遷を学び、それぞれのメディアの特徴を知り、情報が持つ重要性、情報を知ることの重要性を学んでいきます。そのうえで、マスメディアの役割を改めて考え、我々はマスメディアにどう接し、どう活用したらよいのかを考えていきます。
授業の到達目標	まず、日々、マスメディアに接触するようにすること。そのうえで社会で起きていること、起きようとしていることが、自分にとって、あるいは国民にとって好ましいことなのか、そうではないのか、考える習慣をつけること。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	インターネットの登場が既存のマスメディア、そして社会にもたらした大変化	
第 2 回	口承、書写の時代から、宗教革命を引き起こした印刷技術の出現	
第 3 回	マスメディアの代表的存在、新聞の歴史	
第 4 回	日本の新聞の歴史と現状	
第 5 回	マスメディアに対する評価を、複数の調査から探る	
第 6 回	日本の新聞の現状を地方紙を例に見ていく	
第 7 回	部数の減少を食い止めるための「NIE」などの新聞の努力	
第 8 回	放送の歴史。ラジオの発明からテレビ時代へ	
第 9 回	テレビは何を伝えて来たのか	
第 10 回	テレビのデジタル化。多チャンネル時代へ。	
第 11 回	公共放送と商業放送。あるべき理想の形は？	
第 12 回	通信社の歴史と役割	
第 13 回	出版社・メディアコングロマリットの出現が意味するもの	
第 14 回	世論調査・記者クラブ・特定秘密保護法	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポートの内容により評価。社会の動きを自分なりの視点で論じているかをポイントにおきます。
準備学習 学習へのアドバイス	日々、マスメディアに接して情報に触れること。新聞を読み、テレビのニュースに触れて、今何が起きているか、何が起きようとしているのか、それはなぜなのかを考えてください。そのうえでマスメディアのありかた、マスメディアへの接し方を考えてください。 【準備学習(予習復習等)】 予習: 次回講義のキーワード(シラバス参照)について事前に学んでおく。 復習: レジュメ等によりキーワードへの理解を確かなものにする。(それぞれ 120 分程度) 【課題等に関するフィードバック】 講義終了前にキーワードについてまとめ、次回キーワードを紹介。 【その他アドバイス】 講義中の疑問はその場で解決。(講義終了後でも質問に答えます)
履修条件	マスメディアに接して情報に触れること

教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	質問などは授業の前後に対応します
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	福祉経済学				授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	児玉 平生		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	少子高齢化と経済の低迷によって日本の社会福祉は大きな課題を抱え、社会保障制度のあり方が問われている。医療、年金、介護、少子化対策など社会保障の仕組みがどのように形成され、現在どのような仕組みとなり、そして、どんな課題を抱えているのかについて解説する。そのうえで、現在論議されている改革の方向についても一緒に考える。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本の福祉の仕組みと課題を学ぶことができる</li> <li>2.経済学と社会福祉、社会保障の関係をを知ることができる</li> <li>3.少子高齢化と経済成長の関係を理解できる</li> <li>4.生活保護と最低賃金</li> <li>5.生活保護と最低賃金制度の関係をを知ることができる</li> <li>6.社会保険制度の仕組みを知ることができる</li> <li>7.高齢者医療費の負担問題を理解できる</li> <li>8.デフレと年金制度の関係を理解できる</li> <li>9.介護保険の仕組みと課題を知ることができる</li> <li>10.税と社会保障の一体改革について理解を深めることができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	社会福祉を巡る近年の動向と財源問題	
第2回	社会福祉制度の歩み	
第3回	少子化対策と経済成長	
第4回	生活保護と最低賃金	
第5回	地域福祉と地方財政の自立の関係	
第6回	社会保険の現状と課題	
第7回	医療保険制度が抱える問題	
第8回	高齢者医療制度について	
第9回	介護保険制度	
第10回	年金制度が抱える問題	
第11回	企業年金の課題	
第12回	労働保険の役割と課題	
第13回	税と社会保障の一体改革	
第14回	保健衛生と医療制度の国際比較	
第15回	授業で扱った事項について意見交換	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>新聞の解説記事を読んだり、テレビのドキュメンタリーや討論番組などを見るなど、社会福祉が抱える問題について関心を持つようにする。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 社会保障制度に関するニュースに関心を持つように</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 【その他アドバイス】</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	質問はメールアドレス(a@press.jp)へ
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	福祉経済学				授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	児玉 平生		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	少子高齢化と経済の低迷によって日本の社会福祉は大きな課題を抱え、社会保障制度のあり方が問われている。医療、年金、介護、少子化対策など社会保障の仕組みがどのように形成され、現在どのような仕組みとなり、そして、どんな課題を抱えているのかについて解説する。そのうえで、現在論議されている改革の方向についても一緒に考える。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本の福祉の仕組みと課題を学ぶことができる</li> <li>2.経済と社会福祉、社会保障の関係を知ることができる</li> <li>3.少子高齢化と経済成長の関係を理解できる</li> <li>4.生活保護と最低賃金</li> <li>5.生活保護と最低賃金制度の関係を学ぶことができる</li> <li>6.社会保険制度の仕組みを知ることができる</li> <li>7.高齢者医療費の負担問題を理解できる</li> <li>8.デフレと年金制度の関係を理解できる</li> <li>9.介護保険の仕組みと課題を知ることができる</li> <li>10.税と社会保障の一体改革について理解を深めることができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	社会福祉を巡る近年の動向と財源問題	
第2回	社会福祉制度の歩み	
第3回	少子化対策と経済成長	
第4回	生活保護と最低賃金	
第5回	地域福祉と地方財政の自立の関係	
第6回	社会保険の現状と課題	
第7回	医療保険制度が抱える問題	
第8回	高齢者医療制度について	
第9回	介護保険制度	
第10回	年金制度が抱える問題	
第11回	企業年金の課題	
第12回	労働保険の役割と課題	
第13回	税と社会保障の一体改革	
第14回	保健衛生と医療制度の国際比較	
第15回	授業で扱った事項について意見交換	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>新聞の解説記事を読んだり、テレビのドキュメンタリーや討論番組などを見るなど、社会福祉が抱える問題について関心を持つようにする。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 社会保障に関するニュースに関心を持つように</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 【その他アドバイス】</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	質問はメールアドレス(a@press.jp)へ
その他	



		大田原キャンパス					
科目名	アジア諸国の経済・社会・文化		授業開始年度	2017 年度			
科目担当責任者	大野 敏明	科目担当者					
学科	全学科	学年	全学年	期	前期		
曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	アジアは近年、急速な発展、変貌を見せており、来日する人々も多いし、日本で働く人も多い。日本とアジアの歴史、各国の政治経済文化を学び、彼らとどう付き合い、向き合っていくといいかを考える。欧米との比較も忘れずに。
授業の到達目標	1、アジア、とりわけ北東、東南アジアの歴史と文化が理解できるようにする。 2、東南アジア、北東アジアの歴史、文化、考え方を学ぶ。 3、今後のアジアとの接触の仕方を考えられるようにする。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	なぜアジアの政治経済社会文化を学ぶのか。日本はアジアか	
第 2 回	韓国について1	
第 3 回	韓国について2	
第 4 回	北朝鮮について	
第 5 回	中国について1	
第 6 回	中国について2	
第 7 回	台湾について	
第 8 回	ASEAN について1	
第 9 回	ASEAN について2	
第 10 回	南アジアについて	
第 11 回	中東について1	
第 12 回	中東について2	
第 13 回	日本について1	
第 14 回	日本について2	
第 15 回	総論、まとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(毎回の感想文)
評価の基準	レポート採点、毎回の感想文
準備学習 学習へのアドバイス	講義前には、講義で対象になる国や地域について、新聞の国際面、特にアジア関係の記事を読み、知識を集めておくこと。講義後は講義で対象となった国や地域についての情報を精査しておくこと。それぞれ 30 分から 1 時間程度の予習、復習が望ましい。 また、日頃から新聞やテレビでアジアに関する情報を入手し、とくに自分の関心のある国については、歴史、宗教、習慣、風俗などについて知っておくとよい。
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	「日本語と韓国語」(大野敏明著、文春新書、2000 年)

オフィスアワー	質問などは授業の前後、あるいは質問ペーパーで対応する
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	アジア諸国の経済・社会・文化			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	大野 敏明	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	アジアは近年、急速な発展、変貌を見せており、来日する人々も多いし、日本で働く人も多い。日本とアジアの歴史、各国の政治経済文化を学び、彼らとどう付き合い、向き合っていくといいかを考える。欧米との比較も忘れずに。
授業の到達目標	1、アジア、とりわけ北東、東南アジアの歴史と文化が理解できるようにする。 2、東南アジア、北東アジアの歴史、文化、考え方を学ぶ。 3、今後のアジアとの接触の仕方を考えられるようにする。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	なぜアジアの政治経済社会文化を学ぶのか。日本はアジアか	
第 2 回	韓国について1	
第 3 回	韓国について2	
第 4 回	北朝鮮について	
第 5 回	中国について1	
第 6 回	中国について2	
第 7 回	台湾について	
第 8 回	ASEAN について1	
第 9 回	ASEAN について2	
第 10 回	南アジアについて	
第 11 回	中東について1	
第 12 回	中東について2	
第 13 回	日本について1	
第 14 回	日本について2	
第 15 回	総論、まとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(毎回の感想文)
評価の基準	レポート採点、毎回の感想文
準備学習 学習へのアドバイス	講義前には、講義で対象になる国や地域について、新聞の国際面、特にアジア関係の記事を読み、知識を集めておくこと。講義後は講義で対象となった国や地域についての情報を精査しておくこと。それぞれ 30 分から 1 時間程度の予習、復習が望ましい。 また、日頃から新聞やテレビでアジアに関する情報を入手し、とくに自分の関心のある国については、歴史、宗教、習慣、風俗などについて知っておくとよい。
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	「日本語と韓国語」(大野敏明著、文春新書、2000 年)

オフィスアワー	質問などは授業の前後、あるいは質問ペーパーで対応する
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	国際関係論《ICT》					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	大野 敏明		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	世界各地でのテロ、イスラム国の台頭、ロシア・ウクライナ紛争、アメリカの求心力の低下、韓国と中国の反日、北朝鮮の核実験、原油暴落など、国際情勢は日々めまぐるしく変化しており、それらは直接・間接にわれわれの生活に影響を及ぼしている。国際関係論を学ぶことで、日本が、われわれが、どのように世界と接していったらいいのかを考える。そこから、よりよい国際人となる道が開ける。
授業の到達目標	1.日米関係のメリットとデメリットを学び、国際関係の峻厳さを理解できるようにする。 2.世界のどこで起こった事件でも、日本に影響のある時代、日本はどのように対応していったらいいかを考えられるようにする。 3.現在の、中国、北朝鮮、韓国との緊張の原因、対策などを考えることができるようにする。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	なぜ国際関係論を学ぶのか。国際関係の対立軸はどこになるのか	
第 2 回	北朝鮮はなぜ崩壊しないのか	
第 3 回	韓国と中国はなぜ反日か。それぞれの反日は同じか	
第 4 回	ロシアはなぜ北方領土を返還しないのか。日本を取り巻く領土問題とは	
第 5 回	ウエストファリア条約以降の国際社会	
第 6 回	第二次世界大戦以降の国際社会。米ソ対立、スターウオーズ計画、ソ連崩壊	
第 7 回	9・11以降の国際社会。テロと紛争の時代。イスラム国	
第 8 回	日米安保条約とは何か。メリットとデメリット	
第 9 回	日本国憲法は国際社会をどう考えているのか。改憲、護憲の考え方	
第 10 回	日本の防衛の問題点	
第 11 回	自衛隊の役割	
第 12 回	集団的自衛権とは何か	
第 13 回	国連の役割、ODA	
第 14 回	エネルギー問題が国際社会の鍵を握る	
第 15 回	総論。まとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(毎回の感想文)
評価の基準	レポート採点、毎回の感想文
準備学習 学習へのアドバイス	講義の前には新聞の国際面を読み、またテレビ、ネットなどから国際関係のニュースをインプットして、今現在の状況を理解しておくこと。また、講義後は、講義内容を精査して、現実の国際社会との関係について整理すること。それぞれ 30 分から 1 時間の予習、復習が望ましい。 自分がアメリカ、ロシア、あるいは中国の指導者であったら、どのような政策をとるか、と常に考えると、国際社会は理解しやすい。また、国と国との関係は決して二国間だけでみてはいけない。
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	「軍事革命(RMA)」(中村好寿著、中公新書、2001年) 「自衛隊史」(佐道明広著、ちくま新書、2015年)

オフィスアワー	質問などは授業の前後、あるいは質問ペーパーで対応する
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	国際関係論			授業開始年度	2017 年度			
科目担当責任者	大野 敏明	科目担当者						
学科	全学科			学年	全学年	期	後期	
曜日時限	金曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	世界各地でのテロ、イスラム国の台頭、ロシア・ウクライナ紛争、アメリカの求心力の低下、韓国と中国の反日、北朝鮮の核実験、原油暴落など、国際情勢は日々めまぐるしく変化しており、それらは直接・間接にわれわれの生活に影響を及ぼしている。国際関係論を学ぶことで、日本が、われわれが、どのように世界と接していったらいいのかを考える。そこから、よりよい国際人となる道が開ける。
授業の到達目標	1.日米関係のメリットとデメリットを学び、国際関係の峻厳さを理解できるようにする。 2.世界のどこで起こった事件でも、日本に影響のある時代、日本はどのように対応していったらいいかを考えられるようにする。 3.現在の、中国、北朝鮮、韓国との緊張の原因、対策などを考えることができるようにする。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	なぜ国際関係論を学ぶのか。国際関係の対立軸はどこになるのか	
第 2 回	北朝鮮はなぜ崩壊しないのか	
第 3 回	韓国と中国はなぜ反日か。それぞれの反日は同じか	
第 4 回	ロシアはなぜ北方領土を返還しないのか。日本を取り巻く領土問題とは	
第 5 回	ウエストファリア条約以降の国際社会	
第 6 回	第二次世界大戦以降の国際社会。米ソ対立、スターウオーズ計画、ソ連崩壊	
第 7 回	9・11以降の国際社会。テロと紛争の時代。イスラム国	
第 8 回	日米安保条約とは何か。メリットとデメリット	
第 9 回	日本国憲法は国際社会をどう考えているのか。改憲、護憲の考え方	
第 10 回	日本の防衛の問題点	
第 11 回	自衛隊の役割	
第 12 回	集団的自衛権とは何か	
第 13 回	国連の役割、ODA	
第 14 回	エネルギー問題が国際社会の鍵を握る	
第 15 回	総論。まとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(毎回の感想文)
評価の基準	レポート採点、毎回の感想文
準備学習 学習へのアドバイス	講義の前には新聞の国際面を読み、またテレビ、ネットなどから国際関係のニュースをインプットして、今現在の状況を理解しておくこと。また、講義後は、講義内容を精査して、現実の国際社会との関係について整理すること。それぞれ 30 分から 1 時間の予習、復習が望ましい。 自分がアメリカ、ロシア、あるいは中国の指導者であったら、どのような政策をとるか、と常に考えると、国際社会は理解しやすい。また、国と国との関係は決して二国間だけでみてはいけない。
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	「軍事革命(RMA)」(中村好寿著、中公新書、2001 年) 「自衛隊史」(佐道明広著、ちくま新書、2015 年)

オフィスアワー	質問などは授業の前後、あるいは質問ペーパーで対応する
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	世界の経済				授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	児玉 平生		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 4限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	世界は一つになりつつある。特に経済的なことでは日常でも身の回りから食料まで世界が身の回りにある。グローバリゼーションと呼ばれ現代社会の最大の特徴だ。その仕組みと課題を、資源や債務などのテーマに分けて学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済のグローバル化が理解できるようにする</li> <li>2 貿易の仕組みと課題を学ぶ</li> <li>3 世界のお金の流れを知る</li> <li>4 基軸通貨システムの不安定化と仮想通貨の関係を理解する</li> <li>5 食糧と農業、資源問題についてその状況と課題をしる</li> <li>6 先進国と途上国の関係を学ぶ</li> <li>7 経済制裁の手順と効果を理解する</li> <li>8 世界経済を覆う公的債務問題が理解できるようにする</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	グローバル化する経済 その課題と問題点	
第2回	貿易の仕組みと、貿易をめぐる世界の枠組み	
第3回	多国籍企業の展開と海外投資の拡大	
第4回	世界のお金の流れはどうなっている	
第5回	通貨システムの不安定化と仮想通貨	
第6回	世界の人口問題 人口爆発と少子高齢化	
第7回	食糧と農業問題 増える食料需要と食料生産が抱える課題	
第8回	資源問題Ⅰ エネルギー エネルギー需要の拡大と資源開発	
第9回	資源問題Ⅱ 魚・森・水 漁業資源と森林資源、水の確保はどうなっている	
第10回	世界の環境問題 途上国の環境破壊と保全の取り組み	
第11回	南北問題とは 新興国の台頭で先進国・途上国問題はどうか	
第12回	経済制裁 その効果と課題	
第13回	債務問題Ⅰ 世界は公的債務問題にどう取り組んできた	
第14回	債務問題Ⅱ 急増する先進国の公的債務はどうか	
第15回	授業で扱ったことについて意見交換	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	100%レポート
準備学習 学習へのアドバイス	<p>新聞の解説記事を読んだり、テレビのドキュメンタリーや討論番組などを見るなど、世界経済が抱えている問題について関心を持つようにする。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 経済に関するニュースに関心を持つように</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 【その他アドバイス】</p>
履修条件	

教科書	特になし
参考書	特になし

オフィスアワー	質問はメールアドレス(a@press.jp)へ
その他	

		大田原キャンパス		
科目名	国際医療福祉論 (VOD 授業)		授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	北村 義浩	科目担当者	今野 広紀、永井 あけみ、高橋 泰、岡村 世里奈、 陳 霞芬、室井 健三	
学科	全学科		学年	全学年
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	前期
授業の形態	VOD 授業 (対面授業あり)		単位数	2
			時間数	30 時間

授業の概要 (主題)	医療福祉に関わる制度やサービスの提供方法は国によって大きく異なる。諸外国の事情を知ることは、わが国の医療福祉制度やサービス提供方法の長所や課題をよりよく知ることもつながる。本授業では、欧米先進国とアジア諸国等について具体的に各国の状況を紹介していく。 また、「海外保健福祉事情」の海外研修先となる諸国の医療福祉に関する諸事情についても概説する。
授業の到達目標	諸外国の医療福祉制度の事情とその違いについて理解できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション～国際性を目指す意義	北村義浩
第 2 回	日本の医療福祉制度	岩尾總一郎
第 3 回	アメリカの医療福祉制度 1	岡村世里奈
第 4 回	アメリカの医療福祉制度 2	岡村世里奈
第 5 回	アメリカの医療福祉制度 3	岡村世里奈
第 6 回	アメリカの医療福祉制度 4	岡村世里奈
第 7 回	イギリスの医療福祉制度 1	岡村世里奈
第 8 回	イギリスの医療福祉制度 2	岡村世里奈
第 9 回	イギリスの医療福祉制度 3	岡村世里奈
第 10 回	フランスの医療福祉制度 1	高橋 泰
第 11 回	フランスの医療福祉制度 2	高橋 泰
第 12 回	スウェーデンの医療・高齢者福祉制度 1	中西三春
第 13 回	スウェーデンの医療・高齢者福祉制度 2	中西三春
第 14 回	ドイツの医療福祉制度 1	今野広紀
第 15 回	ドイツの医療福祉制度 2	今野広紀
第 16 回	中国の医療福祉制度 1	陳 霞芬
第 17 回	中国の医療福祉制度 2	陳 霞芬
第 18 回	韓国の医療福祉制度 1	南 商堯
第 19 回	韓国の医療福祉制度 2	南 商堯
第 20 回	韓国の医療福祉制度 3	南 商堯
第 21 回	海外患者の獲得を通じたタイの医療戦略 1	山下 護
第 22 回	海外患者の獲得を通じたタイの医療戦略 2	山下 護
第 23 回	タイの介護サービスの現状と今後	山下 護
第 24 回	台湾の医療福祉事情	室井健三
第 25 回	ベトナムの医療福祉事情	谷合信一
第 26 回	ハワイの医療福祉事情	古川秀敏
第 27 回	オーストラリアの医療福祉事情	永井あけみ
第 28 回	医療福祉の国際協力	岩尾總一郎

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 諸外国の医療福祉制度について、平素から関心を持ち、資料を準備して講義に臨むこと。
履修条件	特になし

教科書	講義内にて配布する。
参考書	世界の社会福祉年鑑 2014 (2015 年版・第 14 集) (旬報社) 国際保健医療学: 第 3 版(杏林書院) 国際看護・国際保健(弘文堂)

オフィスアワー	質問はメールにて応える。送付先アドレスは次の通り。assignment@iuhw.ac.jp 「iuhw メールアカウント」からのメールのみ受け付ける。 標題に「質問: 国際医療福祉論」と必ず記入して下さい。 本文には第何回の授業の何という名前の先生にどのような質問があるのか、簡潔に記載して下さい。ご自身の名前と学籍番号も明記のこと。1 メールにつき 1 質問が望ましい。
その他	※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。 ①回答期限までに全ての回を視聴すること ②視聴後は確認問題に回答すること ③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること ④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)

							大田原キャンパス	
科目名	国際医療福祉論 (VOD 授業)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	北村 義浩		科目担当者	今野 広紀、永井 あけみ、高橋 泰、岡村 世里奈、 陳 霞芬、室井 健三				
学科	全学科			学年	全学年	期	後期	
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	VOD 授業 (対面授業あり)							

授業の概要 (主題)	医療福祉に関わる制度やサービスの提供方法は国によって大きく異なる。諸外国の事情を知ることは、わが国の医療福祉制度やサービス提供方法の長所や課題をよりよく知ることにもつながる。本授業では、欧米先進国とアジア諸国等について具体的に各国の状況を紹介していく。 また、「海外保健福祉事情」の海外研修先となる諸国の医療福祉に関する諸事情についても概説する。
授業の到達目標	諸外国の医療福祉制度の事情とその違いについて理解できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション～国際性を目指す意義	北村義浩
第 2 回	日本の医療福祉制度	岩尾總一郎
第 3 回	アメリカの医療福祉制度 1	岡村世里奈
第 4 回	アメリカの医療福祉制度 2	岡村世里奈
第 5 回	アメリカの医療福祉制度 3	岡村世里奈
第 6 回	アメリカの医療福祉制度 4	岡村世里奈
第 7 回	イギリスの医療福祉制度 1	岡村世里奈
第 8 回	イギリスの医療福祉制度 2	岡村世里奈
第 9 回	イギリスの医療福祉制度 3	岡村世里奈
第 10 回	フランスの医療福祉制度 1	高橋 泰
第 11 回	フランスの医療福祉制度 2	高橋 泰
第 12 回	スウェーデンの医療・高齢者福祉制度 1	中西三春
第 13 回	スウェーデンの医療・高齢者福祉制度 2	中西三春
第 14 回	ドイツの医療福祉制度 1	今野広紀
第 15 回	ドイツの医療福祉制度 2	今野広紀
第 16 回	中国の医療福祉制度 1	陳 霞芬
第 17 回	中国の医療福祉制度 2	陳 霞芬
第 18 回	韓国の医療福祉制度 1	南 商堯
第 19 回	韓国の医療福祉制度 2	南 商堯
第 20 回	韓国の医療福祉制度 3	南 商堯
第 21 回	海外患者の獲得を通じたタイの医療戦略 1	山下 護
第 22 回	海外患者の獲得を通じたタイの医療戦略 2	山下 護
第 23 回	タイの介護サービスの現状と今後	山下 護
第 24 回	台湾の医療福祉事情	室井健三
第 25 回	ベトナムの医療福祉事情	谷合信一
第 26 回	ハワイの医療福祉事情	古川秀敏
第 27 回	オーストラリアの医療福祉事情	永井あけみ
第 28 回	医療福祉の国際協力	岩尾總一郎

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 諸外国の医療福祉制度について、平素から関心を持ち、資料を準備して講義に臨むこと。
履修条件	特になし



教科書	講義内にて配布する。
参考書	世界の社会福祉年鑑 2014 (2015 年版・第 14 集) (旬報社) 国際保健医療学: 第 3 版(杏林書院) 国際看護・国際保健(弘文堂)

オフィスアワー	質問はメールにて応える。送付先アドレスは次の通り。assignment@iuhw.ac.jp 「iuhw メールアカウント」からのメールのみ受け付ける。 標題に「質問: 国際医療福祉論」と必ず記入して下さい。 本文には第何回の授業の何という名前の先生にどのような質問があるのか、簡潔に記載して下さい。ご自身の名前と学籍番号も明記のこと。1 メールにつき 1 質問が望ましい。
その他	※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。 ①回答期限までに全ての回を視聴すること ②視聴後は確認問題に回答すること ③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること ④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)

		大田原キャンパス					
科目名	組織運営管理論				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	埴岡 健一	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	良い組織をつくり良い経営をして良い業績を上げるには、どのように組織をマネジメントすればいいか。組織一般に関して考察したうえで、ヘルスケア分野の組織にどのように適用されるかを検討する。組織はどのような目的や使命をもち、どのように組織構造や人材活用を設計し、環境に適応したりときには環境そのものを変えながら、発展・成長していくのか。その全体像を、概観する。
授業の到達目標	1.経営と組織に関する基本的で重要なポイントを理解する。 2.経営論と組織論の基本を、周辺の人にポイントを押さえて分かりやすく説明できるようになる。 3.将来、ヘルスケア組織のマネジャーやリーダーになったときのための素養を養っておける。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	戦略と競争	
第 3 回	組織の構造	
第 4 回	組織の統治(ガバナンス)	
第 5 回	リーダーシップ(とフォロワーシップ)	
第 6 回	組織の運営と業績の評価	
第 7 回	財務と収益	
第 8 回	人材育成とモチベーション生成	
第 9 回	マーケティングとサービス開発	
第 10 回	組織の学習と知恵の共創(組織文化)	
第 11 回	組織の改革と成長	
第 12 回	組織環境(規制等)の改革	
第 13 回	ヘルスケア組織の特色	
第 14 回	優れた組織の研究(ケーススタディ)	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	小テスト(70%)、レポート(30%)
準備学習 学習へのアドバイス	いま身近な 5 人のチームに参加することになった場合、将来 500 人の組織をまとめることになったとき、自分にどんな貢献ができるかを考えながら、マネジメントへの興味を高めていきましょう。日頃から、経営に関する新聞記事などに目を通すようにしてください。
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	「ゼミナール 経営学入門 第 3 版」(伊丹敬之、加護野忠男著。日本経済新聞社)

オフィスアワー	各回の授業の後に質問を受け付けます。また、質問・面会希望があれば、メールで予約してください。
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	海外保健福祉事情			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者	三浦 美恵子				
学科	全学科			学年	全学年	期	通年
曜日時限	前期(集中講義)、 後期(集中講義)	必修/ 選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義・実習						

授業の概要 (主題)	<p>&lt;渡航前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の保健・医療事情や外国語、異文化に対する知識を深める。</li> <li>・研修実施国に関する情報や研修について予習を進める。</li> <li>・「Japan Day」を準備・練習する。</li> </ul> <p>&lt;渡航中&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修実施国の社会や文化、歴史、医療・福祉事情を学ぶ。</li> <li>・現地での講義や指導、施設見学、文化交流等を通して、各国の現状を学ぶ。</li> <li>・「Japan Day」を実施する。</li> </ul> <p>&lt;渡航後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート／報告書を作成する。</li> </ul>
授業の到達目標	<p>(1) 研修実施国の医療・福祉事情について知識を深め、説明できるようになる。</p> <p>(2) 研修実施国の社会や文化、歴史、地理等を説明できるようになる。</p> <p>(3) 外国語(英語、現地語)によるコミュニケーションができるようになる。</p> <p>(4) 現地の人々と積極的な交流ができるようになる。</p> <p>(5) グローバル人材とは何か説明できるようになる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
渡航前	1. 事前講義 下記6回の講義に出席すること。	
	<第1回目> オリエンテーション	福井譲
	<第2回目> 「海外保健福祉事情」を理解する	三浦美恵子
	<第3回目> 海外研修英語(1)	三浦美恵子
	<第4回目>	福井譲
	・国際保健・異文化理解・危機管理(グループワーク)	
	・国際保健・異文化理解・危機管理(総括)	
	<第5回目> 海外研修英語(2)	三浦美恵子
	<第6回目> 海外研修英語(3)	三浦美恵子
	<第7回目> 海外研修・渡航について(事前説明会)	福井譲
渡航中	1. 各国受入機関の作成した研修プログラムに基づき、講義・見学・実習等を実施。	
	2. 外国語(英語もしくは現地語)の学習とコミュニケーションの充実化。 (オーストラリアではホームステイによる滞在)	
	3. Japan Day による日本文化の紹介、現地関係者との交流。 (Japan Day の企画・運営は各キャンパスごとで実施)	
渡航後	1. 提出物	
	①レポート作成(全員)	
	②活動報告書作成(グループごと)	
	2. 発表	
	①海外保健福祉事情報告会での発表	
	・夏季参加者: 日程別途連絡	
	・冬季参加者: 日程別途連絡	

成績評価の方法	レポート、授業態度(渡航前事前講義、現地での研修)、海外保健福祉事情報告会での発表
評価の基準	<p>渡航前事前講義への積極的参加: 20%</p> <p>現地での授業態度等: 50%</p> <p>帰国後のレポート、海外保健福祉事情報告会での発表等: 30%</p>

準備学習 学習へのアドバイス	「英語会話」や「中国語」、「韓国語」などの外国語学習や、研修希望国に関する学習・情報収集を事前に進めておくことが望ましい。
履修条件	特になし。ただし上記のように、事前に英語(もしくは外国語)の学習に努めることが望ましい。

教科書	特になし。必要に応じて適宜配付する。
参考書	前年度までの『海外研修活動報告書』

オフィスアワー	国際交流室 福井謙 火曜日 4 限(14 時 40 分～16 時 10 分)F512 研究室 国際交流室 三浦美恵子 火曜日(15 時 00 分～18 時 00 分) L 棟国際交流室 国際交流室 海外研修担当スタッフ(月～金曜日 9 時 00 分～17 時 00 分) L 棟国際交流室
その他	【研修実施後】下記の点について、別途依頼することがある。 ・学内広報誌『IUHW』への投稿。 ・研修紹介用の動画(大学ホームページにて公開)への出演。 ・次年度オリエンテーションもしくは授業での紹介。

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください。

							大田原キャンパス	
科目名	社会保障制度論（共通、必修:介護）					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	丸木 一成	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜 3限	必修/選択	必修/選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	我が国の社会保障制度の誕生からの変遷をたどり、21世紀の社会保障制度のあるべき姿をさぐる。急速な少子高齢社会の到来で、団塊の世代が後期高齢者となり2025年以降は、我が国が経験したことがない高齢者の多死時代を迎える。課題が山積みの年金、医療、介護、福祉の制度を概観し、現在国が進めている社会保障と税の一体改革はじめ持続可能な社会保障のあり方を考える。
授業の到達目標	医療福祉の専門職にふさわしい、社会保障制度の基本的な知識が習得できる。 社会保障関連の新聞記事の内容が理解できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	社会保障入門	
第2回	少子化と人口減社会	
第3回	世界とわが国の社会保障の歴史	
第4回	医療保険制度の沿革	
第5回	医療保険制度の仕組み	
第6回	医療法と医療保険制度改革の流れ	
第7回	障害者・社会福祉政策	
第8回	介護保険制度の導入と仕組み	
第9回	介護保険制度改革の流れ	
第10回	年金制度の仕組み	
第11回	年金制度の歴史と改革の流れ	
第12回	労働保険制度の仕組みと改革の流れ	
第13回	薬事行政	
第14回	増え続けると生活保護世帯対策。現代の貧困問題を考える。	
第15回	団塊の世代が75歳の後期高齢者となる2025年問題を考える	

成績評価の方法	定期試験(筆記)を実施する。レポート、普段の復習テストも加味する。
評価の基準	定期試験(90%)、復習テスト、レポート(10%)
準備学習 学習へのアドバイス	子育て、就職から失業、高齢者医療、年金など、社会保障制度に関することが新聞記事として扱われることが多い。普段から時事問題に関心を持ち、記事の内容が理解できるようにしてほしい。
履修条件	

教科書	特に定めない。
参考書	「はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ」(椋野美智子・田中耕太郎、有斐閣アルマ)

オフィスアワー	水曜日午後3時～5時、研究室、定例会議がある第2、第3は不可)。 メールで事前に申し込むこと。
その他	

						大田原キャンパス	
科目名	社会保障制度論（必修:NS）				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	埴岡 健一		科目担当者				
学科	全学科			学年	全学年 看護2学年	期	後期
曜日時限	水曜2限	必修/選択	必修/選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	社会保障制度の全体像を概観する。また、病気になったとき、身体が弱ったとき、高齢になったとき、失業したとき、ケガをしたとき、障がいをもったときなど、どのような制度がどのように運用されているか、各制度の基本設計と運用および利用法を理解する。また、生活に関する相談を受けたときに関連する社会保障制度に何があるか、思い浮かぶようにする。社会保障制度が現在どのような問題に直面し、どのような改革が模索されているかを理解し、関心をもって議論に参加できるようになることも目指す。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度の全体像と、各制度の基礎を理解する。</li> <li>・患者さんや家族等の生活支援に関する悩みや相談に対し、どのような関連する社会保障制度や支援制度があるか、糸口がつかめるようになる。</li> <li>・20年後の社会保障制度のあるべき姿に関する議論に参加する意欲をもつ。</li> </ul>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション(社会保障の鳥瞰図)	
第2回	医療保険①	
第3回	医療保険②	
第4回	介護保険①	
第5回	介護保険②	
第6回	年金(老齢)	
第7回	生活保護(貧困)	
第8回	雇用保険(失業)と労災保険	
第9回	障害	
第10回	子育て支援(育児)	
第11回	総合的な生活支援	
第12回	財政(負担と分配)	
第13回	格差とリスク	
第14回	2035年の社会保障(20年後を展望する)	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	小テストとレポート
評価の基準	小テスト(70%)、レポート(30%)
準備学習 学習へのアドバイス	医療・福祉の一端を担うものとして、社会保障制度の概要は知っておきたい。日頃から社会保障に関する新聞記事などに関心をもちましょう。また、医療・介護等の現場では、患者さん・家族は心身の状況のみならず、社会的生活上の悩みを多く抱え、たくさんの支援ニーズを持っています。医療や介護などの技術の高さはもちろんのこと、生活支援まで理解のある幅の広いプロフェッショナルになるという目標をもって、取り組んでほしい。
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	「はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ」(椋野美智子・田中耕太郎、有斐閣アルマ)

オフィスアワー	各回の授業の後に質問を受け付けます。また、質問・面会希望があれば、メールで予約してください。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	地球環境論				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	大河 喜彦	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	地球環境問題の特徴及び地球環境問題の歴史を踏まえ、温暖化、オゾン層破壊、生物多様性等の地球規模の問題について解説しながら、先進国、中進国、途上国の利害が衝突する中での最新の国際対応状況等についても理解を深め、知識の習得だけでなく実践的な視点から、美しい地球を守るための教養を身につける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地球環境問題の特徴が理解できる</li> <li>2.地球環境問題の歴史が理解できる</li> <li>3.温暖化の将来予測と対策について考えることができる</li> <li>4.オゾン層破壊の理解と対策について考えることができる</li> <li>5.生物多様性の理解と対策について考えることができる</li> <li>6.その他の地球環境問題が理解できる</li> <li>7.地球環境をめぐる考え方を整理できる</li> <li>8.地球規模で考え、足元から行動しよう(Think Globally, Act Locally)を実践できる</li> <li>9.医療福祉関係者として、社会人として、一歩前進環境配慮行動を取ることができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	地球環境問題の特徴	
第2回	地球環境問題の歴史	
第3回	地球環境と資源	
第4回	温暖化(1)メカニズム・過去と現状	
第5回	温暖化(2)将来予測	
第6回	温暖化対策	
第7回	オゾン層破壊	
第8回	酸性雨・越境大気汚染	
第9回	廃棄物	
第10回	生物多様性	
第11回	放射能汚染	
第12回	砂漠化・熱帯林減少	
第13回	化学物質汚染	
第14回	地球環境をめぐる考え方	
第15回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	地球環境に関する情報の総合判断能力
準備学習 学習へのアドバイス	<p>地球環境の危機、地球資源の有限性を認識し、持続可能な社会構築のための対策を考える。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 指定した教科書の該当箇所の予習に60分程度、当日配布のレジメでの復習に60分程度</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 社会人としての能力を育むため、インターネットでの検索を通じて正しい情報を判断する習慣の獲得</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	授業出席

教科書	現代地球環境論 持続可能な社会をめざして 和田武・小堀洋美 創元社 2011年
参考書	<p>(1)地球環境がわかる 西岡秀三・宮崎忠國・村野健太郎 技術評論社 2009年</p> <p>(2)環境問題再入門 解決をめざす人類の歩みに学ぶ 岩淵孝 地歴社 2005年</p>

オフィスアワー	メールによる質疑応答
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	地球環境論				授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	大河 喜彦		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	地球環境問題の特徴及び地球環境問題の歴史を踏まえ、温暖化、オゾン層破壊、生物多様性等の地球規模の問題について解説しながら、先進国、中進国、途上国の利害が衝突する中での最新の国際対応状況等についても理解を深め、知識の習得だけでなく実践的な視点から、美しい地球を守るための教養を身につける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地球環境問題の特徴が理解できる</li> <li>2.地球環境問題の歴史が理解できる</li> <li>3.温暖化の将来予測と対策について考えることができる</li> <li>4.オゾン層破壊の理解と対策について考えることができる</li> <li>5.生物多様性の理解と対策について考えることができる</li> <li>6.その他の地球環境問題が理解できる</li> <li>7.地球環境をめぐる考え方を整理できる</li> <li>8.地球規模で考え、足元から行動しよう(Think Globally, Act Locally)を実践できる</li> <li>9.医療福祉関係者として、社会人として、一歩前進環境配慮行動を取ることができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	地球環境問題の特徴	
第2回	地球環境問題の歴史	
第3回	地球環境と資源	
第4回	温暖化(1)メカニズム・過去と現状	
第5回	温暖化(2)将来予測	
第6回	温暖化対策	
第7回	オゾン層破壊	
第8回	酸性雨・越境大気汚染	
第9回	廃棄物	
第10回	生物多様性	
第11回	放射能汚染	
第12回	砂漠化・熱帯林減少	
第13回	化学物質汚染	
第14回	地球環境をめぐる考え方	
第15回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	地球環境に関する情報の総合判断能力
準備学習 学習へのアドバイス	<p>地球環境の危機、地球資源の有限性を認識し、持続可能な社会構築のための対策を考える。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 指定した教科書の該当箇所の予習に60分程度、当日配布のレジメでの復習に60分程度</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 社会人としての能力を育むため、インターネットでの検索を通じて正しい情報を判断する習慣の獲得</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	授業出席

教科書	現代地球環境論 持続可能な社会をめざして 和田武・小堀洋美 創元社 2011年
参考書	<p>(1)地球環境がわかる 西岡秀三・宮崎忠國・村野健太郎 技術評論社 2009年</p> <p>(2)環境問題再入門 解決をめざす人類の歩みに学ぶ 岩淵孝 地歴社 2005年</p>

オフィスアワー	メールによる質疑応答
その他	



		大田原キャンパス					
科目名	ボランティア論			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	大石 剛史	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	21 世紀はボランティアの時代といわれるように、近年、ボランティアに対する関心が急速に高まっており、様々な分野、様々な場面で実践が広がっている。本科目は、①講義によってボランティアについての理念や社会的意義等の基礎的な知識を理解するとともに、②受講生の主体的な学習および受講生同士の討議を通して、受講生一人ひとりのボランティア観を形成する。③ボランティア活動の実際を学び、ボランティア活動についての理解を深める。④市民社会や新しい公共を創造するためのボランティア・NPOの役割と意義について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの理念、現代社会における意義について説明できる</li> <li>2. 議論を通じて自分なりのボランティア観を形成できる</li> <li>3. ボランティアにおける主体性の意味を理解できる</li> <li>4. 市民社会や新しい公共のあり方について理解できる</li> <li>5. 様々なボランティアのあり方を学び、これからの社会づくりにおけるボランティアの可能性を理解する</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	現代社会とボランティア	
第 2 回	ボランティアとは？① 主体性の意味	
第 3 回	ボランティアとは？② 主体性の意味②	
第 4 回	ボランティアとは？③ 公共性の意義と課題	
第 5 回	ボランティアとは④ 公共性の意義と課題②	
第 6 回	ボランティアの論点① ボランティアの選択 ～何が良いボランティアか？	
第 7 回	ボランティアの論点② ボランティアの選択 ～何が良いボランティアか？②～	
第 8 回	ボランティアの論点③ ボランティアの促進はどうあるべきか？	
第 9 回	ボランティアの論点④ ボランティアの促進はどうあるべきか？	
第 10 回	ボランティアの可能性① 時代を切り開くボランティア	
第 11 回	ボランティアの可能性② 新しい価値を創造するボランティア	
第 12 回	ボランティア活動を考える1 グループワーク等	
第 13 回	ボランティア活動を考える2 グループワーク等	
第 14 回	ボランティア活動を考える3 グループワーク等	
第 15 回	ボランティア論総括レポート	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(グループ演習)
評価の基準	期末レポート 70% グループ演習 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>この講義は、ただ講義を聴くだけでなく、これからの社会をどのように自分たちの力で主体的に創っていくことができるかを考える、学習者一人ひとりの主体的な意志と参加を求めています。講義形式の授業ではありますが、グループでの討論や発表の機会を多く設けようと思います。ボランティアは他者とのコミュニケーションがとても重要です。授業に積極的に参加し、他者と関わることをいとわない学生の履修を望みます。</p> <p>&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習: 毎回、次回の授業に向けた課題を出すので、その課題についての学習を進める(90分)</p> <p>復習: 授業の内容を自分なりにノートに整理して復習する(90分)</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	適宜紹介する。

オフィスアワー	月曜日2限 水曜日3限 木曜日4限 大石研究室(F-513)もしくは IUHW ボランティアセンター
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	ボランティア論 (VOD 授業)					授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	大石 剛史	科目担当者	興梠 寛、安藤 雄太、大熊 由紀子				
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	VOD 授業(対面授業あり)						

授業の概要 (主題)	21 世紀はボランティアの時代といわれるように、近年、ボランティアに対する関心が急速に高まっており、様々な分野、様々な場面で実践が広がっている。本科目では、ボランティアの理念及び沿革、ボランティア推進施策の現状等を講義によって理解するとともに、ボランティア活動の実際を様々な事例から学び、ボランティアの現状と課題、今後の展開の可能性等について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの理念、現代社会における意義について説明できる</li> <li>2. ボランティアの歴史を体系的に理解できる</li> <li>3. ボランティアコーディネートのあり方について理解できる</li> <li>4. 自分なりのボランティア観を形成できる</li> <li>5. 他者のボランティア観を理解し、他者と協働して活動することの基本的な理解ができる</li> <li>6. ボランティア、NPO団体の運営のあり方について理解できる</li> <li>7. ボランティア関連の諸制度について理解できる</li> <li>8. 様々なボランティアのあり方から、ボランティアの意義、課題を理解できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ボランティアの理念と歴史①	興梠 寛
第 2 回	ボランティアの理念と歴史②	
第 3 回	ボランティアの理念と歴史③	
第 4 回	ボランティアの理念と歴史④	
第 5 回	様々なボランティア活動①	大熊由紀子
第 6 回	様々なボランティア活動②	
第 7 回	ボランティアを支える制度・組織①	安藤雄太
第 8 回	ボランティアを支える制度・組織②	
第 9 回	ボランティアを支える制度・組織③	安藤雄太
第 10 回	ボランティアを支える制度・組織④	
第 11 回	ボランティア活動の促進方法①	大石剛史
第 12 回	ボランティア活動の促進方法②	
第 13 回	ボランティア活動の実際①(医療現場におけるボランティア①)	大石剛史
第 14 回	ボランティア活動の実際②(医療現場におけるボランティア②)	
第 15 回	ボランティア活動の実際③(海外支援のボランティア①)	大石剛史
第 16 回	ボランティア活動の実際④(海外支援のボランティア②)	
第 17 回	ボランティア活動の実際⑤(災害支援のボランティア)	大石剛史
第 18 回	ボランティア活動の実際⑥(地域におけるボランティア活動①)	
第 19 回	ボランティア活動の実際⑦(地域におけるボランティア活動②)	大石剛史
第 20 回	ボランティア活動の実際⑧(地域におけるボランティア活動③)	
第 21 回	ボランティア活動の実際⑨(ボランティアを支える組織①)	大石剛史
第 22 回	ボランティア活動の実際⑩(ボランティアを支える組織②)	
第 23 回	ボランティア活動の実際⑪(学生によるボランティア活動①)	大石剛史
第 24 回	ボランティア活動の実際⑫(学生によるボランティア活動②)	
第 25 回	ボランティア活動の課題と展望①	大石剛史・大熊由紀子
第 26 回	ボランティア活動の課題と展望②	
第 27 回	ボランティア論総括	大石剛史

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	レポート 100%

準備学習 学習へのアドバイス	<p>期末レポートは、全部の回の放送を見ていることを前提とした出題をしますので、放送は欠かさず見る こと</p> <p>&lt;講義回の場合&gt;</p> <p>予習:事前に配布される資料の該当箇所を熟読し、重要語句でわからないところを調べておく(90分程度)</p> <p>復習:授業で話された内容を自分なりにノートに整理する(90分程度)</p> <p>&lt;実践紹介回の場合&gt;</p> <p>復習:紹介された実践の感想をノート等に記載する(180分程度)</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	<p>月曜日2限、水曜日3限、木曜日4限</p> <p>大石研究室(F-513)もしくはIUHWボランティアセンター</p>
その他	<p>※VOD授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <p>①回答期限までに全ての回を視聴すること</p> <p>②視聴後は確認問題に回答すること</p> <p>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</p> <p>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</p> <p>【関連するディプロマポリシー】</p> <p>共通ディプロマポリシー①に該当する。</p>

		大田原キャンパス						
科目名	ボランティアコーディネート論					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	大石 剛史	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	ボランティア活動は、医療・福祉分野をはじめ、環境分野、教育分野、災害支援分野など、多様な分野でその意義が高まっている。そのような中、ボランティア活動をより効果的なものにするための方法として、ボランティアコーディネートが注目されている。人々の主体的な活動を引出し、社会のニーズに適切に結び付け、ボランティアの力を最大化させるボランティアコーディネートの理論と手法について、演習、実践などを通して学ぶことが本講義の目的である。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動の本質を理解し、それを最大限引き出すボランティアコーディネートの理論について説明できる。</li> <li>2. ボランティアの相談にのり、側面的に支援する相談援助技術を用いることができる。</li> <li>3. ボランティアグループのダイナミクスを理解し、ボランティアグループの適切なマネジメントができる。</li> <li>4. 地域の課題に対して必要なボランティアプログラムを企画することができる。</li> <li>5. ボランティアを必要としている人とボランティアしたい人を適切に結び付けるボランティアコーディネートが実践できる。</li> <li>6. ボランティアに適切にアドバイスし、ボランティアとしての成長を促す教育的アプローチを展開することができる。</li> <li>7. ボランティア活動から得られた知見をもとに、新しいサービスの構築に向けた、適切な社会的提言をすることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	ボランティアコーディネートの理論① ボランティアの本質の理解	
第2回	ボランティアコーディネートの理論② コーディネートとは何か	
第3回	ボランティアコーディネートの理論③ なぜ人はボランティアするか？ ボランティアの動機の理解	
第4回	ボランティアコーディネート演習① ボランティアしたくなる広報戦略を考えよう！	
第5回	ボランティアコーディネートの理論④ ボランティアする人の心理 ボランティアをなぜ続ける？なぜやめる？	
第6回	ボランティアコーディネート演習② ボランティアの悩み相談にのろう！	
第7回	ボランティアコーディネートの理論⑤ ボランティアグループのダイナミクス	
第8回	ボランティアコーディネート演習③ ボランティアグループの危機を救え！ボランティアグループの活発化を促進するには？	
第9回	ボランティアコーディネートの理論⑥ ボランティア活動を促進する対話術	
第10回	ボランティアコーディネート演習④対話術を用いた、ボランティア活動の促進演習	
第11回	ボランティアコーディネートの理論⑦ ボランティア活動計画の立て方 ボランティアコーディネート演習⑤ ボランティア計画を立てよう1(テーマ決定)	
第12回	ボランティアコーディネート演習⑥ ボランティア計画を立てよう2 (目標決定、方法論検討)	
第13回	ボランティアコーディネート演習⑦ ボランティア計画を立てよう3 (財源、リスクマネジメント等)	
第14回	ボランティアコーディネート演習⑧ ボランティア計画を立てよう4 計画発表会	
第15回	まとめ ボランティアコーディネートの今後の展望と課題 (レポート提出)	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(グループ演習)
評価の基準	レポート 50% グループ演習 50%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>ボランティアコーディネートは、市民の力を用いて社会をよりよく変えていくための専門的な方法論です。その醍醐味に触れていただき、ボランティアを適切にコーディネートできるスキルを身に付けて欲しいです。</p> <p>&lt;各回共通&gt;          予習:毎回、次回の授業に向けた課題を出すので、その課題についての学習を進める(90分)          復習:授業の内容を自分なりにノートに整理して復習する(90分)</p>
履修条件	本科目の履修要件として、ボランティア論(対面式もしくは、VOD)の単位を修得していること。また、定員を先着 50名とする。

教科書	特に指定しない
参考書	適宜紹介する

オフィスアワー	月曜日2限 水曜日3限 木曜日4限 大石研究室(F-513)もしくは IUHW ボランティアセンター
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー①に該当する。

							大田原キャンパス	
科目名	手話入門					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	宮田 和実	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義(簡単な実技・実習を含む)							

授業の概要 (主題)	手話に関する様々な知識・言語としての手話・手話のコミュニケーション手段としての特異性・手話をコミュニケーション手段としている人たち・手話の基本の理解・手話の表現方法・・・などについて、実技や実習を交えながら学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手話の基本(手話とは何か)が理解できる。</li> <li>2. 手話がコミュニケーション・ツールであることが理解できる。</li> <li>3. 聴覚障害者を取り巻く環境および問題点について理解できる。</li> <li>4. 手話の言語としての特異性(視覚言語であることなど)が理解できる。</li> <li>5. 手話独特の表現方法などが理解できる。</li> <li>6. 手話で簡単な会話(コミュニケーション)ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	これからの学習心得／手話とは／挨拶に関する手話表現	
第2回	聴覚障害者とそのコミュニケーション手段としての手話／日常よく使う手話表現	
第3回	日本における手話の実態と現状／指文字の理解と学習	
第4回	手話と日本語の関係／人物に関する手話表現	
第5回	手話表現のルール／数の手話表現	
第6回	手話の歴史と語源・由来／時に関する手話表現	
第7回	手話の写像性／趣味・職業に関する手話表現／色に関する手話表現	
第8回	手話の共通性と地域特性／地名に関する手話表現	
第9回	手話の言語としての特異性／自己紹介に関する手話表現	
第10回	日本手話について／疑問に関する手話表現	
第11回	非手指動作／慣用的手話表現	
第12回	手話の言語としての文法／感情・心理に関する手話表現	
第13回	手話と読話の関係／読話の基礎知識	
第14回	手話の文化的特性／自然に関する手話表現	
第15回	まとめ、および今後の手話との取り組みについて	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他
評価の基準	レポート 100% (但し、講義時間中に随時行なう実習および実技テストの結果を加味する)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>手話表現については、学習した次の講義時間には、自ら表現および読み取りができるようにしておくこと。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	特になし・日本語が理解できればよい

教科書	特に使用せず(必要に応じてプリントを配布する)
参考書	各種手話辞典など

オフィスアワー	質問は、講義終了時に文書にて提出する。回答は必要に応じて、講義時間内に随時行う
その他	手話理論に関しては、他の講義日に分散して跨る、或いは重複して、繰り返し説明することがある。履修者が多い場合は履修制限をかけることがある。

							大田原キャンパス	
科目名	手話入門					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	宮田 和実		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義(簡単な実技・実習を含む)							

授業の概要 (主題)	手話に関する様々な知識・言語としての手話・手話のコミュニケーション手段としての特異性・手話をコミュニケーション手段としている人たち・手話の基本の理解・手話の表現方法・・・などについて、実技や実習を交えながら学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手話の基本(手話とは何か)が理解できる。</li> <li>2. 手話がコミュニケーション・ツールであることが理解できる。</li> <li>3. 聴覚障害者を取り巻く環境および問題点について理解できる。</li> <li>4. 手話の言語としての特異性(視覚言語であることなど)が理解できる。</li> <li>5. 手話独特の表現方法などが理解できる。</li> <li>6. 手話で簡単な会話(コミュニケーション)ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	これからの学習心得／手話とは／挨拶に関する手話表現	
第2回	聴覚障害者とそのコミュニケーション手段としての手話／日常よく使う手話表現	
第3回	日本における手話の実態と現状／指文字の理解と学習	
第4回	手話と日本語の関係／人物に関する手話表現	
第5回	手話表現のルール／数の手話表現	
第6回	手話の歴史と語源・由来／時に関する手話表現	
第7回	手話の写像性／趣味・職業に関する手話表現／色に関する手話表現	
第8回	手話の共通性と地域特性／地名に関する手話表現	
第9回	手話の言語としての特異性／自己紹介に関する手話表現	
第10回	日本手話について／疑問に関する手話表現	
第11回	非手指動作／慣用的手話表現	
第12回	手話の言語としての文法／感情・心理に関する手話表現	
第13回	手話と読話の関係／読話の基礎知識	
第14回	手話の文化的特性／自然に関する手話表現	
第15回	まとめ、および今後の手話との取り組みについて	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他
評価の基準	レポート 100%(但し、講義時間中に随時行なう実習および実技テストの結果を加味する)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>手話表現については、学習した次の講義時間には、自ら表現および読み取りができるようにしておくこと。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	特になし・日本語が理解できればよい

教科書	特に使用せず(必要に応じてプリントを配布する)
参考書	各種手話辞典など

オフィスアワー	質問は、講義終了時に文書にて提出する。回答は必要に応じて、講義時間内に随時行う
その他	手話理論に関しては、他の講義日に分散して跨る、或いは重複して、繰り返し説明することがある。履修者が多い場合は履修制限をかけることがある。



							大田原キャンパス	
科目名	手話入門					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	宮田 和実		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜 5限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義(簡単な実技・実習を含む)							

授業の概要 (主題)	手話に関する様々な知識・言語としての手話・手話のコミュニケーション手段としての特異性・手話をコミュニケーション手段としている人たち・手話の基本の理解・手話の表現方法・・・などについて、実技や実習を交えながら学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手話の基本(手話とは何か)が理解できる。</li> <li>2. 手話がコミュニケーション・ツールであることが理解できる。</li> <li>3. 聴覚障害者を取り巻く環境および問題点について理解できる。</li> <li>4. 手話の言語としての特異性(視覚言語であることなど)が理解できる。</li> <li>5. 手話独特の表現方法などが理解できる。</li> <li>6. 手話で簡単な会話(コミュニケーション)ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	これからの学習心得／手話とは／挨拶に関する手話表現	
第2回	聴覚障害者とそのコミュニケーション手段としての手話／日常よく使う手話表現	
第3回	日本における手話の実態と現状／指文字の理解と学習	
第4回	手話と日本語の関係／人物に関する手話表現	
第5回	手話表現のルール／数の手話表現	
第6回	手話の歴史と語源・由来／時に関する手話表現	
第7回	手話の写像性／趣味・職業に関する手話表現／色に関する手話表現	
第8回	手話の共通性と地域特性／地名に関する手話表現	
第9回	手話の言語としての特異性／自己紹介に関する手話表現	
第10回	日本手話について／疑問に関する手話表現	
第11回	非手指動作／慣用的手話表現	
第12回	手話の言語としての文法／感情・心理に関する手話表現	
第13回	手話と読話の関係／読話の基礎知識	
第14回	手話の文化的特性／自然に関する手話表現	
第15回	まとめ、および今後の手話との取り組みについて	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他
評価の基準	レポート 100%(但し、講義時間中に随時行なう実習および実技テストの結果を加味する)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】 手話表現については、学習した次の講義時間には、自ら表現および読み取りができるようにしておくこと。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	特になし・日本語が理解できればよい

教科書	特に使用せず(必要に応じてプリントを配布する)
参考書	各種手話辞典など

オフィスアワー	質問は、講義終了時に文書にて提出する。回答は必要に応じて、講義時間内に随時行う
その他	手話理論に関しては、他の講義日に分散して跨る、或いは重複して、繰り返し説明することがある。 履修者が多い場合は履修制限をかけることがある。

							大田原キャンパス	
科目名	手話入門					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	宮田 和実		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜 5限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義(簡単な実技・実習を含む)							

授業の概要 (主題)	手話に関する様々な知識・言語としての手話・手話のコミュニケーション手段としての特異性・手話をコミュニケーション手段としている人たち・手話の基本の理解・手話の表現方法・・・などについて、実技や実習を交えながら学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手話の基本(手話とは何か)が理解できる。</li> <li>2. 手話がコミュニケーション・ツールであることが理解できる。</li> <li>3. 聴覚障害者を取り巻く環境および問題点について理解できる。</li> <li>4. 手話の言語としての特異性(視覚言語であることなど)が理解できる。</li> <li>5. 手話独特の表現方法などが理解できる。</li> <li>6. 手話で簡単な会話(コミュニケーション)ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	これからの学習心得／手話とは／挨拶に関する手話表現	
第2回	聴覚障害者とそのコミュニケーション手段としての手話／日常よく使う手話表現	
第3回	日本における手話の実態と現状／指文字の理解と学習	
第4回	手話と日本語の関係／人物に関する手話表現	
第5回	手話表現のルール／数の手話表現	
第6回	手話の歴史と語源・由来／時に関する手話表現	
第7回	手話の写像性／趣味・職業に関する手話表現／色に関する手話表現	
第8回	手話の共通性と地域特性／地名に関する手話表現	
第9回	手話の言語としての特異性／自己紹介に関する手話表現	
第10回	日本手話について／疑問に関する手話表現	
第11回	非手指動作／慣用的手話表現	
第12回	手話の言語としての文法／感情・心理に関する手話表現	
第13回	手話と読話の関係／読話の基礎知識	
第14回	手話の文化的特性／自然に関する手話表現	
第15回	まとめ、および今後の手話との取り組みについて	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他
評価の基準	レポート 100% (但し、講義時間中に随時行なう実習および実技テストの結果を加味する)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>手話表現については、学習した次の講義時間には、自ら表現および読み取りができるようにしておくこと。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	特になし・日本語が理解できればよい

教科書	特に使用せず(必要に応じてプリントを配布する)
参考書	各種手話辞典など

オフィスアワー	質問は、講義終了時に文書にて提出する。回答は必要に応じて、講義時間内に随時行う
その他	手話理論に関しては、他の講義日に分散して跨る、或いは重複して、繰り返し説明することがある。履修者が多い場合は履修制限をかけることがある。

		大田原キャンパス					
科目名	将棋で養う社会力				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	北村 義浩	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	将棋のルールを学び、お互いの実戦を通じて、社会力を身につける。併せて、判断力、分析力、洞察力、集中力などを養う。 将棋は囲碁と並んで日本の文化の一部である。高度な頭脳力が要求されるし、楽しんで良い人間関係を築ける。
授業の到達目標	将棋のルールを理解して、記憶し、将棋を指せるようになる。 将棋を楽しめるようになる。礼儀正しさを身につける。 社会力とは何か説明できるようになる。社会力を身につけられるように実践できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス：将棋と講座概要の説明。社会力の重要性。(講義だけ)	北村 義浩
第 2 回	駒の動かし方 と棋譜。(講義だけ)	北村 義浩
第 3 回	「詰み」を理解する	北村 義浩
第 4 回	ルールの復習	北村 義浩
第 5 回	ルールの復習。 千日手と持将棋。	北村 義浩
第 6 回	初歩技術(1)：盤上の駒を動かす	北村 義浩
第 7 回	初歩技術(2)：相手の駒をとる	北村 義浩
第 8 回	初歩技術(3)：持ち駒を使う	北村 義浩
第 9 回	「王手」と「合駒」を理解する。	北村 義浩
第 10 回	歩の技術解説と実践	北村 義浩
第 11 回	金銀の技術解説と実践	北村 義浩
第 12 回	桂香の技術解説と実践	北村 義浩
第 13 回	飛角の技術解説と実践	北村 義浩
第 14 回	総復習。 棋譜鑑賞。	北村 義浩
第 15 回	指導対局。リレー将棋。	北村 義浩

成績評価の方法	定期試験 40% 授業への積極的な取り組み 60% 定期テストでは、主に教科書の理解を問う。 毎回の授業への取り組みは、適時行う小テストの成績、試合の成績等を総合的に評価する。 定期試験に、教科書を含め紙媒体のものは何を持ち込んでも良い。
評価の基準	ルールと駒の動かし方を理解して暗記することは必須である。 その上で、出席して将棋を楽しむことが最も大切である。 楽しんでいる者に高い評価が与えられる。
準備学習 学習へのアドバイス	準備・予習は不要。 教科書をよく読んで、復習を充分に行って欲しい。 ルールを憶えたら試合をたくさんやりましょう。負けても勝っても必ずその1局を省みて、相手に指されて感心した手を憶えましょう。詰め将棋に挑戦しましょう。
履修条件	将棋のルールを知らない初心者を対象とする。女子学生も男子学生も大歓迎である。従来は、4割程度が女子学生で、6割が男子学生であった。段位を持つ者(初段以上)、それに準ずる者は、授業内容が能力に見合わないので遠慮して欲しい。初心者に準ずる者(例:昔将棋を習ったことがあるが忘れかけている者、など)は履修可能である。受講者数の上限は66名である。これを超えて受講希望者がいる場合には抽選する。なお、受講決定後であっても将棋初心者でないことが判明した場合には受講を遠慮してもらうことがある。

教科書	佐藤康光の将棋を始めよう NHK出版 ISBN 978-4140161654 2008年
参考書	将棋入門ドリルステップ1～3(出版社: くもん出版 );推奨する。 将棋1手詰入門ドリル(池田書店) 将棋3手詰入門ドリル(池田書店) 羽生善治のみるみる強くなる 将棋 終盤の勝ち方 入門(池田書店) 羽生善治のみるみる強くなる 将棋序盤の指し方入門(池田書店) 羽生善治のこども将棋 序盤の指し方 入門(池田書店) 羽生善治のこども将棋 中盤の戦い方入門(池田書店) 羽生善治のこども将棋 終盤の勝ち方入門(池田書店) 羽生善治の将棋入門: 確認テストでステップアップを実感!(誠文堂新光社) 決断力 (角川 one テーマ 21) 勝負心 (文春新書 950) 覆す力 (小学館新書) 大局観 (角川 one テーマ 21) 社会力を育てる——新しい「学び」の構想 (岩波新書) <PC ゲーム> 将棋レボリューション 激指 13 (マイナビ) <DS ゲーム> 東大将棋 名人戦道場 DS マイナビ (2011) <PS ゲーム> マイナビ BEST 新 東大将棋 マイナビ (2013)

オフィスアワー	質問は出来るだけ授業中か授業前後の時間を利用して行って下さい。 メールでの質問にも応えます。 アドレスは assignment@iuhw.ac.jp です。学生自身の iuhw メールアカウントからのメールのみ受け付けます。 標題に「質問」とか「コメント」とか、「依頼」等、必ず記入して下さい。
その他	担当教員、北村義浩は 公益社団法人日本将棋連盟認定 アマチュア将棋七段で、 公益社団法人日本将棋連盟公認 将棋普及指導員 である。 それゆえ、本講義は、日本将棋連盟公認の教室である。したがって、講義修了時に一定の成績を 修めた者の中で希望者は、日本将棋連盟公認の段級位を申請できる(講義教員が推薦する)。 授業は、前半の講義(30分)と後半の試合(60分)から構成される。 講義の順番、内容、担当教員は、やむを得ず予告なく変更することがある。 本科目は「選択」科目ですから、原則的には、再試験は行われません。

		大田原キャンパス					
科目名	将棋で養う社会力				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	北村 義浩	科目担当者					
学科	全学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	将棋のルールを学び、お互いの実戦を通じて、社会力を身につける。併せて、判断力、分析力、洞察力、集中力などを養う。 将棋は囲碁と並んで日本の文化の一部である。高度な頭脳力が要求されるし、楽しんで良い人間関係を築ける。
授業の到達目標	将棋のルールを理解して、記憶し、将棋を指せるようになる。 将棋を楽しめるようになる。礼儀正しさを身につける。 社会力とは何か説明できるようになる。社会力を身につけられるように実践できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス：将棋と講座概要の説明。社会力の重要性。(講義だけ)	
第 2 回	駒の動かし方 と棋譜。(講義だけ)	
第 3 回	ルール説明と読み	
第 4 回	ルールの復習。 必至(必死)	
第 5 回	ルールの復習。 千日手と持将棋。	
第 6 回	初歩技術(1)：盤上の駒を動かす	
第 7 回	初歩技術(2)：相手の駒をとる	
第 8 回	初歩技術(3)：持ち駒を使う	
第 9 回	歩の技術解説と実践	
第 10 回	復習と指導対局/棋譜鑑賞	
第 11 回	金銀の技術解説と実践	
第 12 回	桂香の技術解説と実践	
第 13 回	飛角の技術解説と実践	
第 14 回	指導対局。 棋譜鑑賞。	
第 15 回	総復習	

成績評価の方法	定期試験 40% 授業への積極的な取り組み 60% 定期テストでは、主に教科書の理解を問う。 毎回の授業への取り組みは、適時行う小テストの成績、試合の成績等を総合的に評価する。 定期試験に、教科書を含め紙媒体のものは何を持ち込んでも良い。
評価の基準	ルールと駒の動かし方を理解して暗記することは必須である。 その上で、出席して将棋を楽しむことが最も大切である。 楽しんでいる者に高い評価が与えられる。
準備学習 学習へのアドバイス	準備・予習は不要。 教科書をよく読んで、復習を充分に行って欲しい。 ルールを憶えたら試合をたくさんやりましょう。負けても勝っても必ずその1局を省みて、相手に指されて感心した手を憶えましょう。詰め将棋に挑戦しましょう。
履修条件	将棋ルールを知らない初心者を対象とする。女子学生も男子学生も大歓迎である。従来は、4割程度が女子学生で、6割が男子学生であった。段位を持つ者(初段以上)、それに準ずる者は、授業内容が能力に見合わないので遠慮して欲しい。初心者に準ずる者(例:昔将棋を習ったことがあるが忘れかけている者、など)は履修可能である。受講者数の上限は 66 名である。これを超えて受講希望者がいる場合には第 2 回の授業で抽選する。受講決定後であっても将棋初心者でないことが判明した場合には受講を遠慮してもらうことがある。

教科書	佐藤康光の将棋を始めよう NHK出版 ISBN 978-4140161654 2008年
参考書	将棋入門ドリルステップ1～3(出版社: くもん出版 );推奨する。 将棋1手詰入門ドリル(池田書店) 将棋3手詰入門ドリル(池田書店) 羽生善治のみるみる強くなる 将棋 終盤の勝ち方 入門(池田書店) 羽生善治のみるみる強くなる 将棋序盤の指し方入門(池田書店) 羽生善治のこども将棋 序盤の指し方 入門(池田書店) 羽生善治のこども将棋 中盤の戦い方入門(池田書店) 羽生善治のこども将棋 終盤の勝ち方入門(池田書店) 羽生善治の将棋入門: 確認テストでステップアップを実感!(誠文堂新光社) 決断力 (角川 one テーマ 21) 勝負心 (文春新書 950) 覆す力 (小学館新書) 大局観 (角川 one テーマ 21) 社会力を育てる——新しい「学び」の構想 (岩波新書) <PC ゲーム> 将棋レポリビューション 激指 13 (マイナビ) <DS ゲーム> 東大将棋 名人戦道場 DS マイナビ (2011) <PS ゲーム> マイナビ BEST 新 東大将棋 マイナビ (2013)

オフィスアワー	質問は出来るだけ授業中か授業前後の時間を利用して行って下さい。 メールでの質問にも応えます。 アドレスは assignment@iuhw.ac.jp です。学生自身の iuhw メールアカウントからのメールのみ受け付けます。 標題に「質問」とか「コメント」とか、「依頼」等、必ず記入して下さい。
その他	担当教員、北村義浩は 公益社団法人日本将棋連盟認定 アマチュア将棋七段で、 公益社団法人日本将棋連盟公認 将棋普及指導員 である。 それゆえ、本講義は、日本将棋連盟公認の教室である。したがって、講義修了時に一定の成績を 修めた者の中で希望者は、日本将棋連盟公認の段級位を申請できる(講義教員が推薦する)。 授業は、講義(30分)と試合(60分)から構成される。 講義の順番、内容、担当教員は、やむを得ず予告なく変更することがある。

		大田原キャンパス					
科目名	経済の仕組み				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	児玉 平生	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 2限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	経済問題を理解するうえで必要となる基礎的な知識の習得を目指す。経済学を専攻するための学生が対象ではなく、一般教養の授業でもあることから、経済学専攻の学生にとって必修となっている理論経済学のような抽象的な経済モデルをベースにしたものではなく、身近な出来事や、最近の政治・経済の動きをもとに経済の仕組みを学ぶことができるよう授業を進める。経済的な視点から分析したり、新たな方策を考えられるようにすることを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.経済学とは</li> <li>2.デフレとインフレの理由と日本経済の現状について理解できる</li> <li>3.お金の流れが理解できる</li> <li>4.市場の役割が理解できる</li> <li>5.国民経済計算の基礎が理解できる</li> <li>6.貿易の仕組みを理解できる</li> <li>7.政府の役割を知ることができる</li> <li>8.景気の変動とバブルの関係を理解できる</li> <li>9.経済の発展段階について理解できる</li> <li>10.規制緩和と成長戦略の関係が理解できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	安倍首相の「3本の矢」と経済学	
第2回	日本の経済の失われた20年	
第3回	お金の流れと金融市場	
第4回	企業、人、そして市場	
第5回	景気変動とインフレとデフレ	
第6回	成長率、国民所得とは	
第7回	金融政策と財政政策	
第8回	貿易の利益 WTO の役割	
第9回	経済統合が進むわけ	
第10回	円高と産業空洞化	
第11回	日本のバブル崩壊とリーマンショック	
第12回	税と社会保障の一体改革	
第13回	エネルギー問題	
第14回	マルクス、ケインズ、フリードマン	
第15回	授業で扱った事項について意見交換	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>新聞の解説記事を読んだり、テレビのドキュメンタリー番組などを見るなど、日常的に時事問題について関心を持てるようにする。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>日頃から、経済に関するニュースに関心を持つように</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	質問はメールアドレス(a@press.jp)へ
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	経済の歴史			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	児玉 平生	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 2限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	現在に至る経済の歴史を、日本経済史を軸に学ぶ。明治維新後の日本経済の発展、そして、バブル崩壊後の停滞に至った要因を解き明かす。明治初期の松方デフレ、昭和金融恐慌、そして平成不況といった日本が経験したデフレについても、その特徴を解説し、経済状況の変化と社会に与える影響について考察する。こうした日本の経済の動きの背景にある世界の経済の動きや、経済にまつわる思想潮流の変遷も踏まえて、わかりやすく解説する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本の経済がたどった過程を知ることができる</li> <li>2.西欧以外で日本だけが工業化した要因が理解できる</li> <li>3.世界の通貨体制の変遷が理解できる</li> <li>4.高度成長が終り低成長に入った理由を知ることができる</li> <li>5.バブルは何故起こり、そして潰れたかを理解できる</li> <li>6.終身雇用制度が崩れ、不正規労働が増えた理由を知ることができる</li> <li>7.財政と社会保障の改革の必要性を知ることができる</li> <li>8.産業構造の移り変わりを知ることができる</li> <li>9.世界金融危機に至った理由と、危機克服策を検証できる</li> <li>10.中国を中心に新興国の台頭について学ぶことができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	明治維新後の日本の経済発展についての基本的視点	
第2回	第二次世界大戦までの日本の経済	
第3回	ポンドからドル本位へ、そしてブレトンウッズ体制の成立	
第4回	占領から高度経済成長へ	
第5回	ニクソンショックと石油危機、高度成長から低成長へ	
第6回	日米経済摩擦からバブル経済へ	
第7回	バブル崩壊と経済の停滞	
第8回	経済のグローバル化と東アジア・中国の台頭	
第9回	ドル、ユーロ、円、人民元	
第10回	産業と市場構造の変化	
第11回	雇用の仕組み	
第12回	財政と社会保障	
第13回	金融システムの変化	
第14回	マネー資本主義の暴走と世界金融危機	
第15回	授業で扱った事項について意見交換	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>新聞の解説記事を読んだり、テレビのドキュメンタリー番組などを見るなど、日常的に時事問題について関心を持つようにする。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 経済に関するニュースに関心を持つようにする。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 【その他アドバイス】</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	質問はメールアドレス(a@press.jp)へ
その他	





総合教育科目  
【自然・情報系】



		大田原キャンパス					
科目名	統計学 (必修: NS2)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者					
学科	看護学科			学年	2 学年	期	後期
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	保健・医療・福祉の分野における統計学は、EBM(Evidence-based Medicine: 根拠に基づく医療)に必要なエビデンスを得る上で不可欠な実用的学問である。医療福祉関連職にとって必須であることから、統計学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>データの種類、集め方について説明できる。</li> <li>1変数についての解析が正しく行える。</li> <li>2変数についての解析が正しく行える。</li> <li>分散分析および多変量解析について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	データ、データの集め方	
第 2 回	1変数についての解析(1)変数とは、分布を描く	
第 3 回	1変数についての解析(2)分布の代表値、分布の散布度(1)	
第 4 回	1変数についての解析(3)分布の散布度(2)、母集団での平均値(母平均)の推定	
第 5 回	1変数についての解析(4)割合について	
第 6 回	1変数についての解析(5)2グループの母割合(母比率)の差の検定、2グループの母平均値の差の検定(1)	
第 7 回	1変数についての解析(6)2グループの母平均値の差の検定(2)、両側検定と片側検定 統計解析のためのソフト	
第 8 回	2変数についての解析(1)相関図、回帰直線と相関係数、相関係数の検定と推定(1)	
第 9 回	2変数についての解析(2)相関係数の検定と推定(2)、順位データの相関係数、相関係数の注意	
第 10 回	2変数についての解析(3)クロス集計、クロス表の検定、クロス表からの関連係数	
第 11 回	2変数についての解析(4)2×2のクロス表について 量的と質的	
第 12 回	分散分析(1)実験計画法の考え方、一元配置法	
第 13 回	分散分析(2)二元配置法	
第 14 回	その他の分析法	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>準備学習: 高校までに学んだ数学を復習しておくこと。計算能力も養っておくこと。</p> <p>講義: 主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。</p> <p>その他: 日常生活でも統計学が使われている場面は多いので、それを意識して探してみる。</p>
履修条件	

教科書	高木廣文. ナースのための統計学 第2版第9刷. 東京: 医学書院, 2016.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>市原清志. バイオサイエンスの統計学 正しく活用するための実践理論. 東京: 南江堂, 1990.</li> <li>対馬英輝. SPSS で学ぶ医療系データ解析. 東京: 東京図書, 2007.</li> </ol> <p>その他、講義中に紹介します。</p>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

		大田原キャンパス					
科目名	統計学 (ST1, ORT1)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者					
学科	言語聴覚学科、視機能療法学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	金曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	保健・医療・福祉の分野における統計学は、EBM(Evidence-based Medicine: 根拠に基づく医療)に必要なエビデンスを得る上で不可欠な実用的学問である。医療福祉関連職にとって必須であることから、統計学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>データの種類、集め方について説明できる。</li> <li>1変数についての解析が正しく行える。</li> <li>2変数についての解析が正しく行える。</li> <li>分散分析および多変量解析について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	データ、データの集め方	
第 2 回	1変数についての解析(1)変数とは、分布を描く	
第 3 回	1変数についての解析(2)分布の代表値、分布の散布度(1)	
第 4 回	1変数についての解析(3)分布の散布度(2)、母集団での平均値(母平均)の推定	
第 5 回	1変数についての解析(4)割合について	
第 6 回	1変数についての解析(5)2グループの母割合(母比率)の差の検定、2グループの母平均値の差の検定(1)	
第 7 回	1変数についての解析(6)2グループの母平均値の差の検定(2)、両側検定と片側検定 統計解析のためのソフト	
第 8 回	2変数についての解析(1)相関図、回帰直線と相関係数、相関係数の検定と推定(1)	
第 9 回	2変数についての解析(2)相関係数の検定と推定(2)、順位データの相関係数、相関係数の注意	
第 10 回	2変数についての解析(3)クロス集計、クロス表の検定、クロス表からの関連係数	
第 11 回	2変数についての解析(4)2×2のクロス表について 量的と質的	
第 12 回	分散分析(1)実験計画法の考え方、一元配置法	
第 13 回	分散分析(2)二元配置法	
第 14 回	その他の分析法	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>準備学習: 高校までに学んだ数学を復習しておくこと。計算能力も養っておくこと。</p> <p>講義: 主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。</p> <p>その他: 日常生活でも統計学が使われている場面は多いので、それを意識して探してみる。</p>
履修条件	

教科書	高木廣文. ナースのための統計学 第2版第9刷. 東京: 医学書院, 2016.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>市原清志. バイオサイエンスの統計学 正しく活用するための実践理論. 東京: 南江堂, 1990.</li> <li>対馬英輝. SPSS で学ぶ医療系データ解析. 東京: 東京図書, 2007.</li> </ol> <p>その他、講義中に紹介します。</p>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

				大田原キャンパス			
科目名	統計学 (PS1)			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者					
学科	薬学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	金曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	保健・医療・福祉の分野における統計学は、EBM(Evidence-based Medicine: 根拠に基づく医療)に必要なエビデンスを得る上で不可欠な実用的学問である。医療福祉関連職にとって必須であることから、統計学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>データの種類、集め方について説明できる。</li> <li>1変数についての解析が正しく行える。</li> <li>2変数についての解析が正しく行える。</li> <li>分散分析および多変量解析について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	データ、データの集め方	
第 2 回	1変数についての解析(1)変数とは、分布を描く	
第 3 回	1変数についての解析(2)分布の代表値、分布の散布度(1)	
第 4 回	1変数についての解析(3)分布の散布度(2)、母集団での平均値(母平均)の推定	
第 5 回	1変数についての解析(4)割合について	
第 6 回	1変数についての解析(5)2グループの母割合(母比率)の差の検定、2グループの母平均値の差の検定(1)	
第 7 回	1変数についての解析(6)2グループの母平均値の差の検定(2)、両側検定と片側検定 統計解析のためのソフト	
第 8 回	2変数についての解析(1)相関図、回帰直線と相関係数、相関係数の検定と推定(1)	
第 9 回	2変数についての解析(2)相関係数の検定と推定(2)、順位データの相関係数、相関係数の注意	
第 10 回	2変数についての解析(3)クロス集計、クロス表の検定、クロス表からの関連係数	
第 11 回	2変数についての解析(4)2×2のクロス表について 量的と質的	
第 12 回	分散分析(1)実験計画法の考え方、一元配置法	
第 13 回	分散分析(2)二元配置法	
第 14 回	その他の分析法	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>準備学習: 高校までに学んだ数学を復習しておくこと。計算能力も養っておくこと。</p> <p>講義: 主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。</p> <p>その他: 日常生活でも統計学が使われている場面は多いので、それを意識して探してみる。</p>
履修条件	

教科書	高木廣文. ナースのための統計学 第2版第9刷. 東京: 医学書院, 2016.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>市原清志. バイオサイエンスの統計学 正しく活用するための実践理論. 東京: 南江堂, 1990.</li> <li>対馬英輝. SPSS で学ぶ医療系データ解析. 東京: 東京図書, 2007.</li> </ol> <p>その他、講義中に紹介します。</p>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

		大田原キャンパス	
科目名	統計学 (介護)	授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	縣 俊彦	科目担当者	
学科	医療福祉・マネジメント学科(介護コース選択必修) 全学科	学年	全学年 期 後期
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	選択・必修
授業の形態	講義	単位数	2 時間数 30 時間

授業の概要 (主題)	保健医療統計学とは、保健医療分野における科学的根拠を新しく創造する、あるいは、統合整理するための調査研究を行う学問である。目的に応じた「適切なプロトコール」をたて、「必要最小限のデータを収集」し、「最適な統計解析」を行い、結果を「簡潔にまとめる」ことが重要である。授業では、この一連のプロセスに必要な基礎知識を獲得することを目的とする。
授業の到達目標	1. 統計学の基本となる概念や用語が理解できる 2. 平均値の比較と頻度の比較の基本が分かって実際に仮説検定ができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	保健統計の必要	
第 2 回	尺度と度数分布	
第 3 回	代表値	
第 4 回	散布度	
第 5 回	相関と回帰	
第 6 回	確率・順列・組み合わせ	
第 7 回	確率分布	
第 8 回	母集団統計値の推定	
第 9 回	仮説検定(1)	
第 10 回	仮説検定(2)	
第 11 回	仮説検定(3)	
第 12 回	分散分析法	
第 13 回	国民保健の現状	
第 14 回	統計図表の作成と分類、情報処理	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 ■授業への参加態度 ■レポート
評価の基準	定期試験 50%、授業への参加態度 20%、レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	基本的な学習方針として、まず教科書をよく読む。つぎに、それぞれの章で解説されている基礎事項の理解を深めるために演習を行う。 (1)教科書は統計学の考え方を理解するために基本を読み終える。理解できるまで何度も読み返すことが大切です。 (2)重要な推計法・検定法を具体的に学ぶ。
履修条件	

教科書	やさしい保健統計学 5 版 縣俊彦著 南江堂
参考書	縣俊彦. やさしい栄養・生活統計学, 南江堂, 縣俊彦編著. EBM(Evidence-Based Medicine): 臨床医学研究の方法論. 中外医学 縣俊彦編著. BM のための新GCPと臨床研究, 中外医学社, 縣俊彦編著. EBM(Evidence-Based Medicine): 医学研究、診療の方法論, 中外医学社, 縣俊彦編著. EBM のための PubMed, Impact Factor. , 中外医学社, 縣俊彦編著. EBM のためのクリティカルパス. 中外医学社, 縣俊彦編著. EBM, FAQ で学ぶ理論と実際, 中外医学社, 縣俊彦編著. 上手な情報検索のための PubMed 活用マニュアル, 第2版, 南江堂, 縣俊彦編著. 基本医学統計学5版—EBM・医学研究・SAS への応用(中外医学社) 縣俊彦(分担) 町田和彦, 岩井秀明編 21世紀の予防医学・公衆衛生. 杏林書院 2008. 縣俊彦(分担). 松村康弘, 伊達ちぐさ編 公衆衛生学、難病.、建帛社、2003

オフィスアワー	講義日 随時
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	統計学 (OT)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	岸 浩一郎	科目担当者					
学科	作業療法学科			学年	3 学年	期	前期
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	医療分野における統計学の役割、研究デザインの重要性および統計解析の各手法の特徴を学ぶ。前半では、様々なデータに対して統計学が適用される背景と、統計学の基本的な考え方と解析手法を学ぶ。後半では、医療分野で用いられるより高度な統計解析手法の原理と特徴を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療分野における統計学の役割を説明できる。</li> <li>2. 医療分野における研究デザインの重要性を説明できる。</li> <li>3. 記述統計と推測統計の特徴を説明できる。</li> <li>4. 統計学的仮説検定の原理を説明できる。</li> <li>5. 医療分野で使われる主な統計解析手法の特徴を説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	データと統計学	
第 2 回	データの集め方、母集団と標本	
第 3 回	1 変数についての解析、記述統計と推測統計	
第 4 回	母集団での平均値の推定	
第 5 回	母集団での比率の推定	
第 6 回	2 グループの母比率の差の検定	
第 7 回	2 グループの母平均値の差の検定	
第 8 回	2 変数についての解析	
第 9 回	相関係数と検定	
第 10 回	クロス集計表とカイ 2 乗検定	
第 11 回	実験計画法	
第 12 回	分散分析と多重比較	
第 13 回	分布を仮定しない検定法	
第 14 回	多変量解析	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】</p> <p>&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習: 授業前にテキストの該当箇所を丁寧に読んでおくこと(120 分程度)。</p> <p>復習: 授業内容を振り返り、ノートを整理し、まとめを完成させること(120 分程度)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>毎回小テストを実施し、授業内容との関連をフィードバックする。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>各回の授業内容は関係しているの、極力欠席しないこと。</p>
履修条件	なし

教科書	ナースのための統計学 第 2 版 (高木廣文 著、医学書院、2009)
参考書	統計学入門(東京大学教養学部統計学教室 編、東京大学出版会、1991)

オフィスアワー	金曜日・6 限・岸研究室(J 棟 1 階 J101)
その他	【関連するディプロマポリシー】 作業療法学科ディプロマポリシー3)に該当



							大田原キャンパス	
科目名	疫学・保健医療統計学 (ORT)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者						
学科	視機能療法学科			学年	1 学年	期	後期	
曜日時限	火曜 1 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	疫学・保健医療統計学は、特定の人間集団において出現する健康関連の様々な事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てるための学問である。医療福祉関連職にとって必須であることから、その基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学の定義および疫学指標について説明できる。</li> <li>2. 疫学研究方法について説明できる。</li> <li>3. 偏りと交絡、因果関係について説明できる。</li> <li>4. 保健医療統計について説明できる。</li> <li>5. 疫学に必要な統計について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	疫学とは、疾病頻度の測定 (1)	
第 2 回	疾病頻度の測定 (2)	
第 3 回	既存のデータ (保健医療統計)、疫学研究方法 (1)	
第 4 回	疫学研究方法 (2)	
第 5 回	疫学研究方法 (3)	
第 6 回	偏りと交絡 (1)	
第 7 回	偏りと交絡 (2)	
第 8 回	偏りと交絡 (3)、因果関係	
第 9 回	スクリーニング	
第 10 回	サーベイランスと疾病登録、臨床疫学	
第 11 回	疫学に必要な統計 (1)	
第 12 回	疫学に必要な統計 (2)	
第 13 回	疫学に必要な統計 (3)	
第 14 回	疫学と倫理、疫学の社会への応用	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	講義は、主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。 テレビ、インターネットなどで取り上げられている医学知識について、うのみにせず自分の頭で批判的に考えるクセを付けること。
履修条件	

教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中村好一. 基礎から学ぶ楽しい疫学 第 3 版. 東京: 医学書院, 2013.</li> <li>2. 日本疫学会 (監修). はじめて学ぶやさしい疫学 ~疫学への招待~ 改訂第 2 版. 東京: 南江堂, 2010.</li> </ol>
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民衛生の動向 2016/2017 厚生指標 増刊. 東京: 厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>2. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 東京: 厚生労働統計協会, 2016.</li> </ol>

オフィスアワー	教員研究室 (L 棟 4 階 403 号室) に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

		大田原キャンパス					
科目名	疫学・保健医療統計学				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	縣 俊彦	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 4限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	疫学・保健医療統計学は、特定の人間集団において出現する健康関連の様々な事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立つための学問である。医療福祉関連職にとって必須であることから、その基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	1. 疫学の基本となる概念や用語が正しく解釈できる 2. 疫学的エビデンスを得るための一連の研究方法が理解できる 3. エビデンスを使って、専門職としての実践に役立てることができる

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	臨床疫学、定義、歴史、現状、未来	
第2回	臨床疫学総論	
第3回	正常か異常か	
第4回	診断用検査	
第5回	研究計画—個人情報保護を中心として—	
第6回	N-of-1 トライアル、頻度、疫学指標	
第7回	統計	
第8回	医学判断学	
第9回	1次研究の批判的吟味、総括研究の批判的吟味	
第10回	メタアナリシス、リスク	
第11回	予後	
第12回	治療	
第13回	原因、コホート研究と慢性疾患	
第14回	narrative based medicine (NBM)	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 ■授業への参加態度 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 50% 授業への参加態度 20% レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	予習、復習を確実に実施
履修条件	

教科書	EBMのための臨床疫学 第2版 (縣俊彦編) 中外医学社
参考書	縣俊彦. やさしい栄養・生活統計学, 南江堂, 縣俊彦編著. EBM(Evidence-Based Medicine): 臨床医学研究の方法論, 中外医学社 縣俊彦編著. BMのための新GCPと臨床研究, 中外医学社, 縣俊彦編著. EBM(Evidence-Based Medicine): 医学研究、診療の方法論, 中外医学社, 縣俊彦編著. EBMのためのPubMed, Impact Factor. , 中外医学社, 縣俊彦編著. EBMのためのクリティカルパス, 中外医学社, 縣俊彦編著. EBM, FAQ で学ぶ理論と実際, 中外医学社, 縣俊彦編著. 上手な情報検索のためのPubMed活用マニュアル, 第2版, 南江堂, 縣俊彦編著. 基本医学統計学5版—EBM・医学研究・SASへの応用(中外医学社, 縣俊彦. やさしい保健統計学: 改訂5版, 南江堂, 縣俊彦(分担) 町田, 岩井編. 21世紀の予防医学・公衆衛生. 杏林書院 2008. 縣俊彦(分担). 松村, 伊達編. 公衆衛生学、難病、建帛社、2003

オフィスアワー	講義日 随時
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	疫学・保健医療統計学 (NS3)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者					
学科	看護学科			学年	3 学年	期	前期
曜日時限	水曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	疫学・保健医療統計学は、特定の人間集団において出現する健康関連の様々な事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立つための学問である。医療福祉関連職にとって必須であることから、その基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学の定義および疫学指標について説明できる。</li> <li>2. 疫学研究方法について説明できる。</li> <li>3. 偏りと交絡、因果関係について説明できる。</li> <li>4. 保健医療統計について説明できる。</li> <li>5. 疫学に必要な統計について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	疫学とは、疾病頻度の測定(1)	
第 2 回	疾病頻度の測定(2)	
第 3 回	既存のデータ(保健医療統計)、疫学研究方法(1)	
第 4 回	疫学研究方法(2)	
第 5 回	疫学研究方法(3)	
第 6 回	偏りと交絡(1)	
第 7 回	偏りと交絡(2)	
第 8 回	偏りと交絡(3)、因果関係	
第 9 回	スクリーニング	
第 10 回	サーベイランスと疾病登録、臨床疫学	
第 11 回	疫学に必要な統計(1)	
第 12 回	疫学に必要な統計(2)	
第 13 回	疫学に必要な統計(3)	
第 14 回	疫学と倫理、疫学の社会への応用	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>講義は、主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。</p> <p>保健師国家試験対策を念頭に、既出問題の提示と解説も適宜行うので、教科書3が発行され次第、購入して講義に持参すること。</p> <p>テレビ、インターネットなどで取り上げられている医学知識について、うのみにせず自分の頭で批判的に考えるクセを付けること。</p>
履修条件	

教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中村好一. 基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版. 東京:医学書院, 2013.</li> <li>2. 日本疫学会(監修). はじめて学ぶやさしい疫学 ~疫学への招待~ 改訂第2版. 東京:南江堂, 2010.</li> <li>3. 2018年版 保健師国家試験問題 解答と解説. 東京:医学書院, 2017(4月発行予定).</li> </ol>
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民衛生の動向 2016/2017 厚生指標 増刊. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>2. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> </ol>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

		大田原キャンパス					
科目名	数学（必修:ORT1）				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	岸 浩一郎	科目担当者					
学科	視機能療法学科（必修）、全学科（選択）				学年	全学年	期
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	ORT(必修)/ その他(選択)	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	数学の基礎的内容を確認することから授業を始め、初等関数の諸性質を理解するとともに、それら初等関数の微分および積分の方法とそれらの意味を理解できるよう学習を進める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学の基礎を理解できる</li> <li>2. 初等関数の諸性質を理解できる</li> <li>3. 基本的な関数の微分ができる</li> <li>4. 基本的な関数の積分ができる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	数学の歴史と意義、単位と有効数字	
第 2 回	数と式の計算、分散と標準偏差の計算	
第 3 回	関数とグラフ	
第 4 回	三角関数	
第 5 回	指数関数	
第 6 回	対数関数	
第 7 回	関数の極限	
第 8 回	微分係数	
第 9 回	導関数	
第 10 回	微分法の応用	
第 11 回	不定積分	
第 12 回	定積分	
第 13 回	積分法の応用	
第 14 回	複素平面、ベクトル	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】</p> <p>&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習:授業前にテキストの該当箇所を丁寧に読んでおくこと(120分程度)。</p> <p>復習:授業内容を振り返り、ノート内容を整理し、テキストの練習問題をすべて解くこと(120分程度)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>毎回小テストを実施し、授業内容との関連をフィードバックする。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>各回の授業内容は連係しているもので、極力欠席しないこと。</p>
履修条件	なし

教科書	大学新入生のための 数学入門 増補版 (石村園子 著、共立出版、2004)
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	金曜日・6 限・岸研究室(J 棟 1 階 J101)
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー2)に該当

							大田原キャンパス	
科目名	数学 (PS1-A)				授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	岸 浩一郎	科目担当者						
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	水曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	薬学で扱う数学を理解し自在に使える能力を修得するために、数学の基礎から始めて、級数および関数の極限值、関数の微分、積分の計算ができるように学習し、化学反応速度論などの微分方程式が解けるように学習を進める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 級数および関数の極限值を求めることができる。</li> <li>2. 関数の導関数を求めることができる。</li> <li>3. 合成関数の導関数を求めることができる。</li> <li>4. 関数の不定積分を求めることができる。</li> <li>5. 関数の定積分を求めることができる。</li> <li>6. 基本的な微分方程式を解くことができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	数学の基礎概念、数列と級数、等比級数	
第 2 回	初等関数	
第 3 回	関数の極限值	
第 4 回	微分係数、導関数	
第 5 回	導関数の計算法、各種関数の導関数	
第 6 回	合成関数の導関数	
第 7 回	導関数の応用	
第 8 回	不定積分の計算法	
第 9 回	不定積分の応用	
第 10 回	定積分の計算法	
第 11 回	定積分の応用	
第 12 回	微分方程式の計算法	
第 13 回	微分方程式の応用、化学反応速度論	
第 14 回	微分方程式の応用、薬物動態	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】</p> <p>&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習: 授業前にテキストの該当箇所を丁寧に読んでおくこと(120 分程度)。</p> <p>復習: 授業内容を振り返り、ノート内容を整理し、テキストの練習問題をすべて解くこと(120 分程度)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>毎回小テストを実施し、授業内容との関連をフィードバックする。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>各回の授業内容は関係しているので、極力欠席しないこと。</p>
履修条件	なし

教科書	薬学系学生のための微分積分(中川弘一、松林哲夫著、共立出版、2005)
参考書	わかりやすい薬学系の数学演習(小林賢、熊倉隆二編、講談社、2016) 大学新入生のための微分積分入門(石村園子著、共立出版、2004)

オフィスアワー	金曜日・6 限・岸研究室(J 棟 1 階 J101)
その他	【関連するディプロマポリシー】 薬学科ディプロマポリシー2)に該当

						大田原キャンパス	
科目名	数学 (PS1-B)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	岸 浩一郎		科目担当者				
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	水曜 1 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	薬学で扱う数学を理解し、自在に使える能力を修得するために、数学の基礎から始めて、級数および関数の極限值、関数の微分、積分の計算ができるように学習し、化学反応速度論などの微分方程式が解けるように学習を進める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 級数および関数の極限值を求めることができる。</li> <li>2. 関数の導関数を求めることができる。</li> <li>3. 合成関数の導関数を求めることができる。</li> <li>4. 関数の不定積分を求めることができる。</li> <li>5. 関数の定積分を求めることができる。</li> <li>6. 基本的な微分方程式を解くことができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	数学の基礎概念、数列と級数、等比級数	
第 2 回	初等関数	
第 3 回	関数の極限值	
第 4 回	微分係数、導関数	
第 5 回	導関数の計算法、各種関数の導関数	
第 6 回	合成関数の導関数	
第 7 回	導関数の応用	
第 8 回	不定積分の計算法	
第 9 回	不定積分の応用	
第 10 回	定積分の計算法	
第 11 回	定積分の応用	
第 12 回	微分方程式の計算法	
第 13 回	微分方程式の応用、化学反応速度論	
第 14 回	微分方程式の応用、薬物動態	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】</p> <p>&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習: 授業前にテキストの該当箇所を丁寧に読んでおくこと(120 分程度)。</p> <p>復習: 授業内容を振り返り、ノート内容を整理し、テキストの練習問題をすべて解くこと(120 分程度)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>毎回小テストを実施し、授業内容との関連をフィードバックする。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>各回の授業内容は関係しているので、極力欠席しないこと。</p>
履修条件	なし

教科書	薬学系学生のための微分積分(中川弘一、松林哲夫著、共立出版、2005)
参考書	わかりやすい薬学系の数学演習(小林賢、熊倉隆二編、講談社、2016) 大学新入生のための微分積分入門(石村園子著、共立出版、2004)

オフィスアワー	金曜日・6 限・岸研究室(J 棟 1 階 J101)
その他	【関連するディプロマポリシー】 薬学科ディプロマポリシー2)に該当

							大田原キャンパス	
科目名	物理学 (PS)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	荒川 哲	科目担当者						
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	医療機器やそれらを扱う医療現場で経験する様々な物理現象を理解するために必要となる物理学の基礎理論を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本単位とそれらを組み合わせることができる単位と有効数字の概念を理解できる。</li> <li>2. 運動の法則、運動量と力積、力学的エネルギーを理解できる。</li> <li>3. 熱、温度、気体法則を理解できる。</li> <li>4. 波、光の基礎を理解できる。</li> <li>5. 原子の構造と原子核の基礎を理解できる。</li> <li>6. 放射線と放射能の基礎及びその測定法を理解できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	イントロダクション、有効数字、単位、誤差	
第 2 回	力と運動(1) 力と運動	
第 3 回	力と運動(2) 運動方程式	
第 4 回	力と運動(3) 保存則	
第 5 回	温度と熱(1) 温度と熱膨張、熱量、熱と仕事	
第 6 回	温度と熱(2) 気体法則、気体の分子運動	
第 7 回	波と光(1) 波、波の重ね合わせ、波の伝わり方	
第 8 回	波と光(2) 反射と屈折、回折・干渉、偏光	
第 9 回	原子と原子核(1) 原子の構造、量子と相対性原理	
第 10 回	原子と原子核(2) X 線と各種放射線	
第 11 回	放射線と放射能(1) 光子(X 線/ $\gamma$ 線)と物質の相互作用	
第 12 回	放射線と放射能(2) 各種放射線とその性質	
第 13 回	放射線と放射能(3) 原子核反応と放射平衡	
第 14 回	放射線と放射能(4) 放射線の測定	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>身の回りの出来事は物理現象から成り立っている。身近な現象に疑問を持ち「なぜ？」を追求しようとする気持ちが大切である。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習: 関連する内容について教科書等を事前に読んでくること。(60 分程度)</p> <p>復習: 授業で学習した内容について復習し、わからないことがあれば、質問に来ること。</p> <p>講義中に疑問点を質問することに心掛けること。</p>
履修条件	

教科書	やさしく学べる基礎物理新装版(基礎物理教育研究会編、森北出版)
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	オフィスアワーは水曜日 6 時限とするが、質問は随時受け付ける。 積極的に質問に来ること。(研究室 J104)
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	物理学（光学）(ORT1)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	菊地 義信	科目担当者						
学科	視機能療法学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	視機能療法学科向けの物理学であり、光の性質や光学素子の特性、光学機器の基礎的な原理について学んでいく。初めに物理初学者向けに物理の基礎的な項目、幾何光学を理解するために必要な数学知識を学修する。その後、光の性質である反射・屈折・干渉・回折について理解し、光学素子の特性とそれらを応用した光学機器について基礎的なことを学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理の基礎概念、特に光学について修得する。</li> <li>2. 2 年次以降に必要な数学力を獲得する。</li> <li>3. 波動光学の立場から、光特有の性質やその応用技術について説明できる。</li> <li>4. 幾何光学の立場から、光学素子の原理やそれらの応用について説明できる。</li> <li>5. 光学機器についてその原理を説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス、物理の基礎(単位系、単位の接頭語、有効数字の桁数、誤差)	
第 2 回	数学の基礎(平面幾何、三角比、三角関数、単振動)	
第 3 回	光とは(波動光学、幾何光学、光や速さ、電磁波、光源の分光特性)	
第 4 回	波としての光、伝搬、波長、周期	
第 5 回	光波としての反射と屈折、分光	
第 6 回	粒子としての光	
第 7 回	光学系による結像	
第 8 回	レンズの組み合わせ	
第 9 回	収差、光の干渉	
第 10 回	光の回折	
第 11 回	光の偏光	
第 12 回	色と明るさ	
第 13 回	光学機器	
第 14 回	自然界の光	
第 15 回	総括、練習問題	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他
評価の基準	定期試験を評価基準とするが小テストの結果も考慮する。
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備】</p> <p>最初の2回は高校の物理学、数学に関連する内容の復習が主である。3回目以降は1回あたり1章のペースで進む。それに合わせ予習1時間、復習と出題された問題の解答1時間を行う。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>計算力を身につけ、また、日常的に見られる物理現象の何故について自ら調べるように努める。</p>
履修条件	特になし

教科書	絵とき 光学 基礎のきそ(齋藤晴司、日刊工業新聞社)
参考書	屈折異常とその矯正改定第 6 版(所敬金原出版) 新しい眼光学の基礎(西信元嗣・岩田耕一・魚里博金原出版) 光学の知識(山田幸五郎東京電機大学出版局) 光学機器入門(曾田軍太夫・他東海大学出版会) 図解レンズがわかる本(永田信一日本実業出版社)

オフィスアワー	講義終了後、もしくは E メールで対応。連絡先等は最初の講義で紹介する。
その他	<p>【関連するディプロマポリシー】</p> <p>視機能療法学科ディプロマポリシー 1)に該当。</p>



		大田原キャンパス					
科目名	物理学				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	荒川 哲	科目担当者					
学科	全学科(薬学科以外)			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	医療機器やそれらを扱う医療現場で経験する様々な物理現象を理解するために必要となる物理学の基礎理論を学習する。
授業の到達目標	1. 基本単位とそれらを組み合わせることができる単位と有効数字の概念を理解できる 2. 基礎的な物理概念を理解し、物理的な考え方ができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	講義概要説明 有効数字/単位	
第 2 回	物体の運動	
第 3 回	仕事とエネルギー	
第 4 回	保存則	
第 5 回	流体の性質	
第 6 回	熱と温度	
第 7 回	原子の構造	
第 8 回	量子と相対論	
第 9 回	光子の性質	
第 10 回	光子の利用	
第 11 回	放射線の性質	
第 12 回	放射線の利用	
第 13 回	半導体とその性質	
第 14 回	蛍光体とその性質	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	身の回りの出来事は物理現象から成り立っている。身近な現象に疑問を持ち「なぜ？」を追求し、物理的考え方をすることを心がける。 【準備学習】<各回共通> 予習: 関連する内容について教科書等を事前に読んでくること。(60 分程度) 復習: 授業で学習した内容についてプリント冊子を中心に復習し、わからないことがあれば、質問に来ること。 講義中に疑問点を質問することに心掛けること。
履修条件	

教科書	看護と医療技術者のためのぶつり学 第2版(横田俊昭、共立出版)
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	オフィスアワーは水曜日 6 時限とするが、質問は随時受け付ける。積極的に質問に来ること。(研究室 J104)
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	化学				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	金谷 貴行	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	月曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	我々の生活には、さまざまな形で「化学」が溶け込んでいる。しかし、普段の生活を「化学」的に特別な意識や興味を持つことは少ない。本講義では、身近な日常生活の中に潜む「化学」を明らかにし、様々な視点で「化学」について考えていく。
授業の到達目標	医療従事者を指すものとして、知っておきたい身近な化学について説明できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	化学の基礎 1	金谷 貴行
第 2 回	化学の基礎 2	金谷 貴行
第 3 回	生活の中の化学	金谷 貴行
第 4 回	食品化学	金谷 貴行
第 5 回	毒性学	金谷 貴行
第 6 回	医薬品化学	金谷 貴行
第 7 回	環境衛生化学	金谷 貴行
第 8 回	生体と化学	金谷 貴行
第 9 回	植物学	金谷 貴行
第 10 回	菌類の化学	金谷 貴行
第 11 回	麻薬・覚せい剤の化学	金谷 貴行
第 12 回	分析化学	金谷 貴行
第 13 回	化粧品化学	金谷 貴行
第 14 回	放射化学	金谷 貴行
第 15 回	総括	金谷 貴行

成績評価の方法	小テスト、レポート
評価の基準	小テスト 30%、レポート 70%
準備学習 学習へのアドバイス	高校時代の化学を復習しておくことが望ましいが、未履修でも対応できるような授業内容とする予定である。 毎回レポートを提出。
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	金谷: N 棟 6 階共同研究室 1, 月曜 3 限 (その他在室時であれば対応する)
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	化学 (PS1-A)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	渡邊 敏子		科目担当者				
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 1 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>1. モルの概念を理解した後、化学反応を定量的に探り、モル濃度や反応の化学量論についての演習を行うことにより化学計算ができる。酸-塩基平衡の概念を説明できる。</p> <p>2. 原子、分子、イオンの基本構造を学び、原子の電子配置を周期表に関連付けることができる。</p> <p>3. 化学結合の一般的な概念を理解し、イオン結合と共有結合についてその特徴が説明できる。</p> <p>4. 混成軌道と共鳴について理論を学び、それらを有機化合物の性質に応用できる。</p> <p>※授業計画各項目の括弧内に記載されている番号は、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の到達目標に対応している。1~8 回目までは「薬学準備教育ガイドライン」の(5)薬学の基礎としての化学の到達目標にも対応している。</p>
授業の到達目標	<p>1.薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力のひとつとして、モルなどの化学計算の演習をする。</p> <p>2.周期表と対比しながら原子の性質を学び、化学結合に関して基本的知識を習得する。</p> <p>3.有機化学への導入として混成軌道、共鳴などについて習得する。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	序論:薬学における化学の役割、測定単位	
第 2 回	化学における計算-1(モル)	
第 3 回	化学における計算-2(水溶液中の酸-塩基平衡)(C2-(2)-①酸・塩基平衡 1,2)	
第 4 回	原子、分子、イオンの基本的構造	
第 5 回	原子の電子配置	
第 6 回	周期表に基づいた原子の諸性質(C3-(5)-①無機化合物・錯体 1,5)	
第 7 回	1~6 回目までのまとめ	
第 8 回	化学結合の一般的概念とルイス構造式(C1-(1)-①化学結合 1;C3-(1)-①基本事項 3) 活性酸素と一酸化窒素の構造(C4-(1)-②生体内で機能する小分子 3)	
第 9 回	原子価結合法と混成軌道(sp3)(C1-(1)-①化学結合 2)	
第 10 回	混成軌道(sp2, sp)(C1-(1)-①化学結合 2)	
第 11 回	極性共有結合:双極子モーメントと形式電荷)(C1-(1)-②分子間相互作用 3)	
第 12 回	共鳴-1(共鳴形の規則)(C1-(1)-①化学結合 3)	
第 13 回	共鳴-2(共鳴形の表し方)(C3-(1)-①基本事項 4)	
第 14 回	混成軌道と共鳴についての演習	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100% (授業時間内に理解度確認試験を数回実施し、その点数も参考にする)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】(各回共通)</p> <p>予習:教科書や事前に渡されたレジュメプリントの該当する箇所を読んでくること(60分)。</p> <p>復習:高校までに学んだ化学を復習しておく。ミニテストなどが返却されたら必ず見直し、自分の弱点を見つけて補強する(120分)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】(各回共通)</p> <p>ミニテストの終了直後に、解答の提示と解説を行う。次の講義でテストの結果を講評し、正答率などを提示する。</p> <p>【学修へのアドバイス】</p> <p>授業形態は PowerPoint は使用せず、教科書・プリントを中心として板書で行う。医療現場を意識して基本的な計算能力も養っておくこと。有機化合物の構造式を重視するので、正しかけるまで練習を続けること。</p>
履修条件	なし

教科書	「有機化学(上)」(マクマリー、東京化学同人、第9版) 「完全図解周期表第2版(Newton別冊)」(ニュートンプレス、2010年) 教材:分子モデル(モルタロウ)
参考書	「一般化学(上)(下)」(ブラディ、東京化学同人) 「有機化学(中)(下)」(マクマリー、東京化学同人、第9版) 「薬学大辞典」(廣川書店、第4版)、「第17改正日本薬局方解説書」(廣川書店)
オフィスアワー	金曜日・5限・教員研究室(N棟6階N602) 他の曜日・時限でも在室時であれば対応する。
その他	【関連するディプロマポリシー】 薬学科ディプロマポリシー②および③に該当

				大田原キャンパス			
科目名	化学 (PS1-B)			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	渡邊 敏子	科目担当者					
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>1. モルの概念を理解した後、化学反応を定量的に探り、モル濃度や反応の化学量論についての演習を行うことにより化学計算ができる。酸-塩基平衡の概念を説明できる。</p> <p>2. 原子、分子、イオンの基本構造を学び、原子の電子配置を周期表に関連付けることができる。</p> <p>3. 化学結合の一般的な概念を理解し、イオン結合と共有結合についてその特徴が説明できる。</p> <p>4. 混成軌道と共鳴について理論を学び、それらを有機化合物の性質に応用できる。</p> <p>※授業計画各項目の括弧内に記載されている番号は、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の到達目標に対応している。1~8 回目までは「薬学準備教育ガイドライン」の(5)薬学の基礎としての化学の到達目標にも対応している。</p>
授業の到達目標	<p>1.薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力のひとつとして、モルなどの化学計算の演習をする。</p> <p>2.周期表と対比しながら原子の性質を学び、化学結合に関して基本的知識を習得する。</p> <p>3.有機化学への導入として混成軌道、共鳴などについて習得する。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	序論:薬学における化学の役割、測定単位	
第 2 回	化学における計算-1(モル)	
第 3 回	化学における計算-2(水溶液中の酸-塩基平衡)(C2-(2)-①酸・塩基平衡 1,2)	
第 4 回	原子、分子、イオンの基本的構造	
第 5 回	原子の電子配置	
第 6 回	周期表に基づいた原子の諸性質(C3-(5)-①無機化合物・錯体 1,5)	
第 7 回	1~6 回目までのまとめ	
第 8 回	化学結合の一般的な概念とルイス構造式(C1-(1)-①化学結合 1;C3-(1)-①基本事項 3) 活性酸素と一酸化窒素の構造(C4-(1)-②生体内で機能する小分子 3)	
第 9 回	原子価結合法と混成軌道(sp3)(C1-(1)-①化学結合 2)	
第 10 回	混成軌道(sp2, sp)(C1-(1)-①化学結合 2)	
第 11 回	極性共有結合:双極子モーメントと形式電荷)(C1-(1)-②分子間相互作用 3)	
第 12 回	共鳴-1(共鳴形の規則)(C1-(1)-①化学結合 3)	
第 13 回	共鳴-2(共鳴形の表し方)(C3-(1)-①基本事項 4)	
第 14 回	混成軌道と共鳴についての演習	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100% (授業時間内に理解度確認試験を数回実施し、その点数も参考にする)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習】(各回共通)</p> <p>予習:教科書や事前に渡されたレジュメプリントの該当する箇所を読んでくること(60分)。</p> <p>復習:高校までに学んだ化学を復習しておく。ミニテストなどが返却されたら必ず見直し、自分の弱点を見つけて補強する(120分)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】(各回共通)</p> <p>ミニテストの終了直後に、解答の提示と解説を行う。次の講義でテストの結果を講評し、正答率などを提示する。</p> <p>【学修へのアドバイス】</p> <p>授業形態は PowerPoint は使用せず、教科書・プリントを中心として板書で行う。医療現場を意識して基本的な計算能力も養っておくこと。有機化合物の構造式を重視するので、正しかけるまで練習を続けること。</p>
履修条件	なし

教科書	「有機化学(上)」(マクマリー、東京化学同人、第9版) 「完全図解周期表第2版(Newton別冊)」(ニュートンプレス、2010年) 教材:分子モデル(モルタロウ)
参考書	「一般化学(上)(下)」(ブラディ、東京化学同人) 「有機化学(中)(下)」(マクマリー、東京化学同人、第9版) 「薬科学大辞典」(廣川書店、第4版)、「第17改正日本薬局方解説書」(廣川書店)
オフィスアワー	金曜日・5限・教員研究室(N棟6階N602) 他の曜日・時限でも在室時であれば対応する。
その他	【関連するディプロマポリシー】 薬学科ディプロマポリシー②および③に該当

					大田原キャンパス			
科目名	生物学（必修:ORT1）				授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	---		科目担当者					
学科	視機能療法学科（必修）、その他学科（選択）			学年	視機能1学年、 その他学科全学年	期	前期	
曜日時限	月曜5限	必修/ 選択	必修（視機能）、 選択（その他）		単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義							

授業の概要 （主題）	<p>1.ヒトが地球上で古代より進化してきた生物の一つであることを理解する。</p> <p>2.食品や健康の話題を通して、人体を構成する諸器官の構造と機能を知る。</p> <p>3.人体を構成する諸器官の構造と機能を勉強することで、人体を構成する臓器には特有の疾患があることを知る。</p>
授業の到達目標	<p>1. 科学的な思考を身につける。</p> <p>2. 生命を構成する分子を説明できる。</p> <p>3. 細胞の構造と機能、組織と臓器を説明できる。</p> <p>4. 生殖細胞と生殖機構、脊椎動物の発生について説明できる。</p> <p>5. 神経系と骨格筋を説明できる。</p> <p>6. 体液循環と免疫機能を説明できる。</p> <p>7. 消化器系と栄養を説明できる。</p> <p>8. 現代の感染症を説明できる。</p> <p>9. 消化器系と栄養、泌尿器系を説明できる。</p> <p>10. 血糖値の調節、体温調節機能を説明できる。</p> <p>11. 感染症と生体防御機能について説明できる。</p> <p>12. 呼吸機構とエネルギー代謝の仕組みを説明できる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	細胞と人体の組織 ①細胞の構造・細胞膜の働き、②ヒトの組織・器官	
第2回	遺伝子発現①DNA・RNAの構造と役割②遺伝子の転写・翻訳③蛋白質と酵素	
第3回	生殖 ①体細胞分裂 ②生殖	
第4回	発生と遺伝 ①脊椎動物の発生・性染色体、 人体の器官(1) ②受容器(1)	
第5回	人体の器官(2) ①受容器(2) 人体の器官(3) ②ニューロンの性質	
第6回	人体の器官(4) ①ヒトの神経系 ②効果器(筋肉)	
第7回	恒常性(1) ①体液の循環 ②免疫機構	
第8回	恒常性(2) ①腎臓・肝臓の働き ②内分泌系器官の働き(ホルモン)	
第9回	恒常性(3) ①自律神経系・血糖値の調節	
第10回	恒常性(4) ①体温調節・ヒトの性周期	
第11回	恒常性(5) ①赤血球の役割、ヘモグロビンの酸素解離曲線 生体防御(1) ②血液凝集反応、血液凝固	
第12回	生体防御(2) ①自然免疫、獲得性免疫 ②細胞性免疫、液性免疫	
第13回	生体防御(3) ①感染症と免疫応答	
第14回	生体防御(4) ①悪性腫瘍細胞の発生・増殖機構②悪性腫瘍細胞に対する生体防御機構	
第15回	代謝①呼吸機構②エネルギー産生のしくみ	

成績評価の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	<p>毎回授業の終わりにミニテストが行われる。また、期末試験も行われる。総括的評価の配分は、毎回のミニテストの総計20%、期末試験80%とし、総計の60%以上の得点を合格とする。</p> <p>90-100点:秀 80-89点:優 70-79点:良 60-69点:可 必要とした際、レポート提出を求め、評価の参考とする。</p>

準備学習 学習へのアドバイス	ミニテストは教科書を予習しておけば容易に解ける問題とするので、予習は必ずしておくこと。 この授業では、看護学部、保健医療学部入学生がこれから学ぶ専門科目を理解するため、人体を構成する諸器官の構造と機能を中心とした医学生物の基礎知識を得る。
履修条件	講義は全部で15回行われる。講義への欠席が6回以上の学生に対しては、期末試験の受験資格が失われる。
教科書	大学教養基礎講座 基礎生物学①、医療・看護系のための生物学(田村隆明著) 裳華房
参考書	特に指定しない。
オフィスアワー	質問は授業後に受け付けます。
その他	この授業では、これから学ぶ医療の専門科目を理解するための医学生物の基礎知識を得る。

※最新版のシラバスについては、UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。



		大田原キャンパス					
科目名	生物学				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	---	科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期
曜日時限	月曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>1.ヒトが地球上で古代より進化してきた生物の一つであることを理解する。</p> <p>2.食品や健康の話題を通して、人体を構成する諸器官の構造と機能を知る。</p> <p>3.人体を構成する諸器官の構造と機能を勉強することで、人体を構成する臓器には特有の疾患があることを知る。</p>
授業の到達目標	<p>1. 科学的な思考を身につける。</p> <p>2. 生命を構成する分子を説明できる。</p> <p>3. 細胞の構造と機能、組織と臓器を説明できる。</p> <p>4. 生殖細胞と生殖機構、脊椎動物の発生について説明できる。</p> <p>5. 神経系と骨格筋を説明できる。</p> <p>6. 体液循環と免疫機能を説明できる。</p> <p>7. 消化器系と栄養を説明できる。</p> <p>8. 現代の感染症を説明できる。</p> <p>9. 消化器系と栄養、泌尿器系を説明できる。</p> <p>10.血糖値の調節、体温調節機能を説明できる。</p> <p>11.感染症と生体防御機能について説明できる。</p> <p>12.呼吸機構とエネルギー代謝の仕組みを説明できる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	細胞と人体の組織 ①細胞の構造・細胞膜の働き、②ヒトの組織・器官	
第2回	遺伝子発現①DNA・RNAの構造と役割②遺伝子の転写・翻訳③蛋白質と酵素	
第3回	生殖 ①体細胞分裂 ②生殖	
第4回	発生と遺伝 ①脊椎動物の発生・性染色体、 人体の器官(1) ②受容器(1)	
第5回	人体の器官(2) ①受容器(2) 人体の器官(3) ②ニューロンの性質	
第6回	人体の器官(4) ①ヒトの神経系 ②効果器(筋肉)	
第7回	恒常性(1) ①体液の循環 ②免疫機構	
第8回	恒常性(2) ①腎臓・肝臓の働き ②内分泌器の働き(ホルモン)	
第9回	恒常性(3) ①自律神経系・血糖値の調節	
第10回	恒常性(4) ①体温調節・ヒトの性周期	
第11回	恒常性(5) ①赤血球の役割、ヘモグロビンの酸素解離曲線 生体防御(1) ②血液凝集反応、血液凝固	
第12回	生体防御(2) ①自然免疫、獲得性免疫 ②細胞性免疫、液性免疫	
第13回	生体防御(3) ①感染症と免疫応答	
第14回	生体防御(4) ①悪性腫瘍細胞の発生・増殖機構②悪性腫瘍細胞に対する生体防御機構	
第15回	代謝①呼吸機構②エネルギー産生のしくみ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	<p>毎回授業の終わりにミニテストが行われる。また、期末試験も行われる。総括的評価の配分は、毎回のミニテストの総計 20%、期末試験80%とし、総計の60%以上の得点を合格とする。</p> <p>90-100点:秀 80-89点:優 70-79点:良 60-69点:可 必要とした際、レポート提出を求め、評価の参考とする。</p>
準備学習 学習へのアドバイス	<p>ミニテストは教科書を予習しておけば容易に解ける問題とするので、予習は必ずしておくこと。</p> <p>この授業では、看護学部、保健医療学部入学生がこれから学ぶ専門科目を理解するため、人体を構成する諸器官の構造と機能を中心とした医学生物の基礎知識を得る。</p>
履修条件	講義は全部で15回行われる。講義への欠席が6回以上の学生に対しては、期末試験の受験資格が失われる。

教科書	大学教養基礎講座 基礎生物学①、医療・看護系のための生物学(田村隆明著) 裳華房
参考書	特に指定しない。
オフィスアワー	質問は授業後に受け付けます。
その他	この授業では、これから学ぶ医療の専門科目を理解するための医学生物の基礎知識を得る。

※最新版のシラバスについては、UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

						大田原キャンパス	
科目名	生物学 (PS1-A)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	多田納 豊		科目担当者				
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	薬学を学ぶ上で必要な生物学、生命科学の基礎知識を習得する。生命現象の概略を分子、細胞、組織、器官、個体レベルで理解する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する細胞と物質について説明できる。</li> <li>2. 遺伝と遺伝子の複製、発現について説明できる。</li> <li>3. 多細胞生物である高等動物の成り立ちを説明できる。</li> <li>4. 生体の調節機構について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	細胞 【C6 生命現象の基礎、(1)細胞の構造と機能、①細胞膜-1, 2】	
第 2 回	細胞小器官 【C6 生命現象の基礎、(1)細胞の構造と機能、②細胞小器官-1, ③細胞骨格-1】	
第 3 回	生体内物質(1): 糖、脂質 【C6 生命現象の基礎、(2)生命現象を担う分子、①脂質-1, ②糖質-1, 2】	
第 4 回	生体内物質(2): タンパク質、核酸 【C6 生命現象の基礎、(2)生命現象を担う分子、③アミノ酸-1, ④タンパク質-1, ⑤ヌクレオチドと核酸-1】	
第 5 回	遺伝と遺伝情報(1): 細胞分裂と遺伝(1) 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、①概論-1, 2, ②遺伝情報を担う分子-1, (7)細胞の分裂と死、①細胞分裂-1, 2】	
第 6 回	遺伝と遺伝情報(2): DNA、RNA 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、②遺伝情報を担う分子-2, 3】	
第 7 回	遺伝と遺伝情報(3): 遺伝子と遺伝情報の流れ、遺伝子の転写 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、②遺伝情報を担う分子-2, 3, ④転写・翻訳の過程と調節-1~4】	
第 8 回	遺伝と遺伝情報(4): 遺伝子の翻訳 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、②遺伝情報を担う分子-3, ④転写・翻訳の過程と調節-5】	
第 9 回	小テスト、 遺伝と遺伝情報(5): DNA の複製 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、③遺伝子の複製-1, ⑤遺伝子の変異・修復-1】	
第 10 回	微生物学入門 【C8 生体防御と微生物、(3)微生物の基本、①総論-1, ②細菌-1,2,4】	
第 11 回	組織と器官(1) 【C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、③器官系概論-1, 2】	
第 12 回	組織と器官(2) 【C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、③器官系概論-1, 2】	
第 13 回	発生、分化(1) 【C6 生命現象の基礎、(7)細胞の分裂と死、①細胞分裂-1, 2, ②細胞死-1、 C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、②発生-1, 2】	
第 14 回	発生、分化(2) 【C6 生命現象の基礎、(7)細胞の分裂と死、①細胞分裂-1, 2, ②細胞死-1、 C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、②発生-1, 2】	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験、小テスト
評価の基準	定期試験 90%、小テスト 10%

準備学習 学習へのアドバイス	<b>【準備学習】</b> 予習:教科書の該当箇所を事前に読み学習する(60分) 復習:授業内容を見直し、ノートのまとめなどを行い、理解に努めること。(120分) <b>【課題等に関するフィードバック】</b> 適宜、確認テストを行い、その終了後には解答の提示と解説を行う。
履修条件	なし

教科書	コア講義 生物学 第4版 (田村隆明 著、裳華房、2015)
参考書	大学で学ぶ身近な生物学 (羊土社、2016) まるわかり! 基礎生物 (南山堂、2014) プライマリー薬学シリーズ4 薬学の基礎としての生物学(日本薬学会 編、東京化学同人、2011) illustrated 基礎生命科学 第2版 (竹島 浩 他著、京都廣川書店) 分子から見た生物学(石川 統 著、裳華房、改訂版) 分子細胞生物学(Lodish 他著、石浦章一 他訳、東京化学同人、第6版) Essential 細胞生物学 原書4版 (南江堂、2016) コンパス分子生物学(荒牧弘範 水戸茂弘 編集、南江堂、改訂第2版) コンパス生化学(前田正知 浅野真司 編集、南江堂) カラー図解アメリカ版・大学生物学の教科書 第1巻～3巻(D.サダヴァ 他著、石崎泰樹 丸山敬 監訳・翻訳、講談社、ブルーバックス) 医学・薬学系のための基礎生物学(八杉貞夫 編著、中村和生 他著、講談社、2009)

オフィスアワー	金曜日・1限・L407 (他の曜日・時間であっても、在室時であれば原則何時でも対応する)
その他	<b>【関連するディプロマポリシー】</b> 薬学科ディプロマポリシー②および③に該当

						大田原キャンパス	
科目名	生物学 (PS1-B)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	多田納 豊		科目担当者				
学科	薬学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 1 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	薬学を学ぶ上で必要な生物学、生命科学の基礎知識を習得する。生命現象の概略を分子、細胞、組織、器官、個体レベルで理解する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する細胞と物質について説明できる。</li> <li>2. 遺伝と遺伝子の複製、発現について説明できる。</li> <li>3. 多細胞生物である高等動物の成り立ちを説明できる。</li> <li>4. 生体の調節機構について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	細胞 【C6 生命現象の基礎、(1)細胞の構造と機能、①細胞膜-1, 2】	
第 2 回	細胞小器官 【C6 生命現象の基礎、(1)細胞の構造と機能、②細胞小器官-1, ③細胞骨格-1】	
第 3 回	生体内物質(1): 糖、脂質 【C6 生命現象の基礎、(2)生命現象を担う分子、①脂質-1, ②糖質-1, 2】	
第 4 回	生体内物質(2): タンパク質、核酸 【C6 生命現象の基礎、(2)生命現象を担う分子、③アミノ酸-1, ④タンパク質-1, ⑤ヌクレオチドと核酸-1】	
第 5 回	遺伝と遺伝情報(1): 細胞分裂と遺伝(1) 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、①概論-1, 2, ②遺伝情報を担う分子-1, (7)細胞の分裂と死、①細胞分裂-1, 2】	
第 6 回	遺伝と遺伝情報(2): DNA、RNA 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、②遺伝情報を担う分子-2, 3】	
第 7 回	遺伝と遺伝情報(3): 遺伝子と遺伝情報の流れ、遺伝子の転写 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、②遺伝情報を担う分子-2, 3, ④転写・翻訳の過程と調節-1~4】	
第 8 回	遺伝と遺伝情報(4): 遺伝子の翻訳 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、②遺伝情報を担う分子-3, ④転写・翻訳の過程と調節-5】	
第 9 回	小テスト、 遺伝と遺伝情報(5): DNA の複製 【C6 生命現象の基礎、(4)生命情報を担う分子、③遺伝子の複製-1, ⑤遺伝子の変異・修復-1】	
第 10 回	微生物学入門 【C8 生体防御と微生物、(3)微生物の基本、①総論-1, ②細菌-1,2,4】	
第 11 回	組織と器官(1) 【C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、③器官系概論-1, 2】	
第 12 回	組織と器官(2) 【C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、③器官系概論-1, 2】	
第 13 回	発生、分化(1) 【C6 生命現象の基礎、(7)細胞の分裂と死、①細胞分裂-1, 2, ②細胞死-1、 C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、②発生-1, 2】	
第 14 回	発生、分化(2) 【C6 生命現象の基礎、(7)細胞の分裂と死、①細胞分裂-1,2, ②細胞死-1、 C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、(1)人体の成り立ち、②発生-1, 2】	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験、小テスト
評価の基準	定期試験 90%、小テスト 10%

準備学習 学習へのアドバイス	<b>【準備学習】</b> 予習:教科書の該当箇所を事前に読み学習する(60分) 復習:授業内容を見直し、ノートのまとめなどを行い、理解に努めること。(120分) <b>【課題等に関するフィードバック】</b> 適宜、確認テストを行い、その終了後には解答の提示と解説を行う。
履修条件	なし

教科書	コア講義 生物学 第4版 (田村隆明 著、裳華房、2015)
参考書	大学で学ぶ身近な生物学 (羊土社、2016) まるわかり! 基礎生物 (南山堂、2014) プライマリー薬学シリーズ4 薬学の基礎としての生物学(日本薬学会 編、東京化学同人、2011) illustrated 基礎生命科学 第2版 (竹島 浩 他著、京都廣川書店) 分子から見た生物学(石川 統 著、裳華房、改訂版) 分子細胞生物学(Lodish 他著、石浦章一 他訳、東京化学同人、第6版) Essential 細胞生物学 原書4版 (南江堂、2016) コンパス分子生物学(荒牧弘範 水戸茂弘 編集、南江堂、改訂第2版) コンパス生化学(前田正知 浅野真司 編集、南江堂) カラー図解アメリカ版・大学生物学の教科書 第1巻～3巻(D.サダヴァ 他著、石崎泰樹 丸山敬 監訳・翻訳、講談社、ブルーバックス) 医学・薬学系のための基礎生物学(八杉貞夫 編著、中村和生 他著、講談社、2009)

オフィスアワー	金曜日・1限・L407 (他の曜日・時間であっても、在室時であれば原則何時でも対応する)
その他	<b>【関連するディプロマポリシー】</b> 薬学科ディプロマポリシー②および③に該当

					大田原キャンパス		
科目名	コンピュータの基礎				授業開始年度	2017年度	
学年	1学年	期	後期	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

看護学科	曜日時限	木曜 2 限	必修／選択	必修
	科目担当責任者	江田 哲也	オフィスアワー	水曜日 14:40～16:10 J107 研究室
理学療法学科	曜日時限	火曜 2 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	江田 哲也	オフィスアワー	水曜日 14:40～16:10 J107 研究室
作業療法学科	曜日時限	火曜 4 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	石川 徹	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室
言語聴覚学科	曜日時限	火曜 5 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	石川 徹	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室
視機能情報学科	曜日時限	木曜 3 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	斎藤 恵一	オフィスアワー	木曜 3 限、J 棟 211 研究室
医療福祉・マネジメント学科	曜日時限	金曜 4 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	江田 哲也	オフィスアワー	水曜日 14:40～16:10 J107 研究室
薬学科	曜日時限	金曜 1 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	石川 徹	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室
共通	曜日時限	木曜 3 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	斎藤 恵一	オフィスアワー	木曜 3 限、J 棟 211 研究室
共通	曜日時限	金曜 1 限	必修／選択	選択
	科目担当責任者	石川 徹	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室

授業の概要 (主題)	<p>企業や組織の情報 (ICT) 化の進展に伴い、コンピュータを活用するための能力は増々重要になっている。本講義は、コンピュータを利用する立場からその処理の仕組みに関する基礎的事項について学習する。</p> <p>授業内容は、情報理論による情報量の理解から始まり、情報を表現するための 2 進数の計算、コンピュータ内部処理の基本となる論理回路、コンピュータを構成する各種ハードウェアの働き、ソフトウェアの種類とその役割、インターネットの仕組み、情報セキュリティと暗号化の仕組み等を学習する。また、最終回では、電子カルテ等の医療分野で利用されている情報システムについて学習する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の概念を理解し情報量の計算ができる。</li> <li>2. 2 進数と 10 進数の関係を理解しその計算や変換ができる。</li> <li>3. 論理回路の働きを理解し内部処理の原理を概観できる。</li> <li>4. コンピュータ内部のハードウェア各部の働きを理解する。</li> <li>5. ソフトウェアの種類とその役割を理解する。</li> <li>6. インターネットの各種プロトコルを知り、インターネットの仕組みを概観できる。</li> <li>7. 情報セキュリティの重要性を理解する。</li> <li>8. 医療の分野に応用される情報システムを知る。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	情報の概念と情報量 (ガイダンス、情報の概念、情報量の計算)	
第 2 回	2 進数について (2 進数とは、2 進数から 10 進数への変換、10 進数から 2 進数への変換、2 進数の加減算)	
第 3 回	論理回路と演算 (論理判断とは、AND 回路、OR 回路、NOT 回路、加算回路、フリップフロップ回路)	
第 4 回	内部データの表現 1 (数値データの表現 (固定小数点数、浮動小数点数)、文字データの表現 (各種文字コード))	
第 5 回	内部データの表現 2 (画像、動画データの表現 (ピクセル、RGB、各種のファイル圧縮形式))、音の表現 (標本化と量子化、標本化定理))	
第 6 回	ハードウェアの構造とその働き 1 (CPU、メモリ)	
第 7 回	ハードウェアの構造とその働き 2 (ハードディスク、補助記憶装置、その他のハードウェア)	
第 8 回	ソフトウェア 1 (オペレーティングシステムの役割とその働き)	

第9回	ソフトウェア2(アプリケーションソフトウェア、プログラミング言語の種類と特徴、アルゴリズム)	
第10回	インターネット1(WWWの仕組み、TCP/IPの各種プロトコル、IPアドレス)	
第11回	インターネット2(DNS、DHCP、プロキシサーバ、電子メールの仕組み)	
第12回	情報セキュリティ(情報セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス、セキュリティ対策)	
第13回	暗号の仕組み(共通鍵暗号方式と秘密鍵暗号方式、RSA暗号のしくみ)	
第14回	病院情報システムと電子カルテ(病院情報システムの各種システム、電子カルテの機能)	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 70%、小テスト 20%、レポート 10%

準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】(60分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配付資料があるので事前に読んでくること。</li> <li>・学習した内容は再度確認し、分からない所は質問すること。</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>小テストについて解説を行うので、メモなどを取ることを。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>小テストの解答説明は次回の授業で行う。極力欠席しないこと。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	<p>国際医療福祉大学 情報グループ 編「医療・福祉系学生のための情報リテラシー」共立出版</p> <p>「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト」FOM出版</p> <p>「医療情報 医療情報システム編」篠原出版新社</p>

オフィスアワー	水曜日 4限(14:40~16:10) 江田研究室(J107)
その他	<p>【関連するディプロマポリシー】</p> <p>共通ディプロマポリシー2)に該当</p>



		大田原キャンパス					
科目名	コンピュータの基礎 (RT)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	平間 信	科目担当者					
学科	放射線・情報科学科			学年	放射 1 学年	期	後期
曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	コンピュータは様々な種類のデータを扱うことができるが、その内部での表現形式、コンピュータシステムとしての動作原理などについて講義する。また、ハードウェアの設計で重要となる代数学や論理素子について講義する。応用プログラムのところでは実技演習を行い、報告書の作成における留意点を学ぶ。同じ名前の科目が他にあるが、この講義は放射線・情報科学科に特化して行う。特に、診療放射線技師の国家試験での出題問題を取り上げながら解説を行う。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータ関連の用語が理解できる。</li> <li>2. 様々なデータの表現について理解できる。</li> <li>3. ブール代数・論理回路の構成について理解できる。</li> <li>4. 病院でのコンピュータの使われ方が理解できる。</li> <li>5. コンピュータを使つての報告書の作成が正しくできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	コンピュータの歴史	
第 2 回	情報の単位、基数変換	
第 3 回	整数の符号化(有限語長、2の補数)、8進数、16進数、 実数の符号化(符号、指数部、仮数部)、精度と有効桁数	
第 4 回	文字の符号化、一次元信号の符号化(標準化定理、標準化、量子化)、AD変換、DA変換	
第 5 回	二次元信号の符号化(画素、JPEG)、動画の符号化(MPEG)、圧縮	
第 6 回	ブール代数、真理値表、最小項展開、カルノー図	
第 7 回	論理素子、組合せ回路、半加算器、全加算器	
第 8 回	組み合わせ回路の復習	
第 9 回	5大装置(制御装置、演算装置)	
第 10 回	5大装置(記憶装置、入力装置、出力装置)	
第 11 回	標準インターフェース、OS、プログラミング言語、アルゴリズム、フローチャート	
第 12 回	ネットワークシステム、通信回線、転送方式、病院情報システム	
第 13 回	応用プログラム:Excelを使ったデータ処理(オートフィル、関数、対数グラフの作成)	
第 14 回	応用プログラム:Wordによる報告書作成(図や表のタイトル、作図、数式)	
第 15 回	応用プログラム:PowerPointによる電子紙芝居、総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他
評価の基準	定期試験/小テストを総合的に評価する。
準備学習 学習へのアドバイス	<p>工学系の科目であり知識の積み重ねが基本となる。欠席しないこと、わからないところは放置しないことが大切である。</p> <p>【準備学修(予習・復習等)】</p> <p>事前に教科書を良く読み予習(1時間)する。</p> <p>授業終りに確認小テスト・解説・自己採点を行なうので、教科書を元に各自復習(2時間)を行なう。</p> <p>PCを用いた演習課題を元に各自復習(1時間)を行なう。</p>
履修条件	

教科書	医科系学生のためのコンピュータ入門(樺沢他、共立出版、2011年)
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	金曜日 6 限目 D507
その他	<p>【関連するディプロマポリシー】</p> <p>診療放射線技師の専門知識・技能の修得に加え、真理や本質を追究するものの考え方、学び方の基本を修得することができる。</p> <p>情報技術に関する体系化された基礎知識を修得し、医療情報システム化の推進役となることができる。</p>

		大田原キャンパス						
科目名	情報処理 I (初歩) (PT)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	江田 哲也	科目担当者						
学科	理学療法学科				学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	<p>企業や組織の情報(ICT)化の進展に伴い、コンピュータを活用するための能力は増々重要になっている。本講義では、コンピュータの活用技術(リテラシー)の修得および向上を目的としてコンピュータの操作演習を行う。</p> <p>授業内容は、コンピュータの基本操作やオペレーティングシステム(OS)の操作から始まり、インターネットや電子メールの利用法、そして、アプリケーションソフトウェア(Microsoft Office)を用いてワープロ(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の各種操作について演習する。授業は、解説と演習を繰り返し、多くの演習を通してコンピュータの活用に関する実践的技術を修得する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本的操作を理解し効率的に利用することができる。</li> <li>2. 情報倫理を理解し情報検索、電子メール等インターネットの適切な利用ができる。</li> <li>3. ワープロ(Word)を用いてレポートや報告書などの文章が効率的に作成できる。</li> <li>4. プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を用いて発表資料が作成できる。</li> <li>5. 表計算ソフト(Excel)を用いて計算処理やグラフ作成などのデータ処理、分析ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	コンピュータの基本操作(ガイダンス、Windows の基本操作、情報量の単位)	
第 2 回	インターネット(Web ブラウザ、メールの利用法(Gmail)、学術情報検索)	
第 3 回	Word の操作 1 (MS-IME による文字の入力と変換、数式エディタ)	
第 4 回	Word の操作 2 (ページ設定、範囲選択、ショートカットキー、書式設定とコピー)	
第 5 回	Word の操作 3 (インデント設定、タブとリーダー設定)	
第 6 回	Word の操作 4 (図表の挿入、ヘッダーとフッターの挿入、段落番号と箇条書き)	
第 7 回	PowerPoint の操作 1 (PowerPoint2010 の機能説明、スライドの作成、図表の挿入)	
第 8 回	PowerPoint の操作 2 (図の作成、アニメーション設定、課題作成)	
第 9 回	Excel の操作 1 (Excel2010 の機能説明、データと計算式の入力、オートフィル機能、セルの書式設定)	
第 10 回	Excel の操作 2 (関数の利用 1 (SUM、AVERAGE、MAX、MIN、STDEV.S)、相対参照と絶対参照)	
第 11 回	Excel の操作 3 (グラフの作成(棒、折れ線、円、散布図)、グラフの編集)	
第 12 回	Excel の操作 4 (関数の利用 2 (RANK、IF、COUNTA、COUNT、COUNTBLANK))	
第 13 回	Excel の操作 5 (データベース機能(並べ替え、フィルター))	
第 14 回	Excel の操作 6 (関数の利用 3 (SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF、ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN))	
第 15 回	Excel の操作 7 (総合演習)	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 70%、レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】(60分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を基に授業を行う。事前に読んでくること。</li> <li>・課題として、基本ファイルの作成および演習を行う。</li> <li>・学習した内容は再度確認し、分からない所は質問すること。</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>基本ファイルを用いて授業を行い、内容の確認を行う。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>パソコンを用いて操作主体の授業となる。極力欠席しないこと。</p>
履修条件	

教科書	医療・福祉系学生のための情報リテラシー(情報教育グループ 編、共立出版)
参考書	特になし

オフィスアワー	水曜日 4 限(14:40~16:10) 江田研究室(J107)
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー2)に該当

		大田原キャンパス						
科目名	情報処理 I (初歩) (OT・ORT・SHM)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	江田 哲也	科目担当者						
学科	作業療法学科、視機能療法学科、 医療福祉マネジメント学科				学年	1 学年	期	前期
曜日時限	金曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	<p>企業や組織の情報 (ICT) 化の進展に伴い、コンピュータを活用するための能力は増々重要になっている。本講義では、コンピュータの活用技術 (リテラシー) の修得および向上を目的としてコンピュータの操作演習を行う。</p> <p>授業内容は、コンピュータの基本操作やオペレーティングシステム (OS) の操作から始まり、インターネットや電子メールの利用法、そして、アプリケーションソフトウェア (Microsoft Office) を用いてワープロ (Word)、表計算 (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の各種操作について演習する。授業は、解説と演習を繰り返し、多くの演習を通してコンピュータの活用に関する実践的技術を修得する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本的操作を理解し効率的に利用することができる。</li> <li>2. 情報倫理を理解し情報検索、電子メール等インターネットの適切な利用ができる。</li> <li>3. ワープロ (Word) を用いてレポートや報告書などの文章が効率的に作成できる。</li> <li>4. プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を用いて発表資料が作成できる。</li> <li>5. 表計算ソフト (Excel) を用いて計算処理やグラフ作成などのデータ処理、分析ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	コンピュータの基本操作 (ガイダンス、Windows の基本操作、情報量の単位)	
第 2 回	インターネット (Web ブラウザ、メールの利用法 (Gmail)、学術情報検索)	
第 3 回	Word の操作 1 (MS-IME による文字の入力と変換、数式エディタ)	
第 4 回	Word の操作 2 (ページ設定、範囲選択、ショートカットキー、書式設定とコピー)	
第 5 回	Word の操作 3 (インデント設定、タブとリーダー設定)	
第 6 回	Word の操作 4 (図表の挿入、ヘッダーとフッターの挿入、段落番号と箇条書き)	
第 7 回	PowerPoint の操作 1 (PowerPoint2010 の機能説明、スライドの作成、図表の挿入)	
第 8 回	PowerPoint の操作 2 (図の作成、アニメーション設定、課題作成)	
第 9 回	Excel の操作 1 (Excel2010 の機能説明、データと計算式の入力、オートフィル機能、セルの書式設定)	
第 10 回	Excel の操作 2 (関数の利用 1 (SUM、AVERAGE、MAX、MIN、STDEV.S)、相対参照と絶対参照)	
第 11 回	Excel の操作 3 (グラフの作成 (棒、折れ線、円、散布図)、グラフの編集)	
第 12 回	Excel の操作 4 (関数の利用 2 (RANK、IF、COUNTA、COUNT、COUNTBLANK))	
第 13 回	Excel の操作 5 (データベース機能 (並べ替え、フィルター))	
第 14 回	Excel の操作 6 (関数の利用 3 (SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF、ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN))	
第 15 回	Excel の操作 7 (総合演習)	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 70%、レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習 (予習復習等)】(60 分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を基に授業を行う。事前に読んでくること。</li> <li>・課題として、基本ファイルの作成および演習を行う。</li> <li>・学習した内容は再度確認し、分からない所は質問すること。</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>基本ファイルを用いて授業を行い、内容の確認を行う。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>パソコンを用いて操作主体の授業となる。極力欠席しないこと。</p>
履修条件	

教科書	医療・福祉系学生のための情報リテラシー(情報教育グループ 編、共立出版)
参考書	特になし
オフィスアワー	水曜日 4 限(14:40~16:10) 江田研究室(J107)
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー2)に該当

						大田原キャンパス	
科目名	情報処理Ⅱ(基礎)					授業開始年度	2017年度
学年	1学年	期	前期	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

看護学科	曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	必修
	科目担当責任者	江田 哲也 斎藤 恵一	オフィスアワー	水曜日 14:40~16:10 J107 研究室 木曜 3 限、J 棟 211 研究室
理学療法学科	曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択
	科目担当責任者	石川 徹	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室
作業療法学科	曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	選択
	科目担当責任者	石川 徹	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室
言語聴覚学科	曜日時限	木曜 5 限	必修/選択	必修
	科目担当責任者	石川 徹 斎藤 恵一	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室 木曜 3 限、J 棟 211 研究室
放射線・情報科学科	曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	必修
	科目担当責任者	石川 徹 斎藤 恵一	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室 木曜 3 限、J 棟 211 研究室
視機能情報学科	曜日時限	木曜 4 限	必修/選択	選択
	科目担当責任者	石川 徹	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室
医療福祉・ マネジメント学科	曜日時限	木曜 4 限	必修/選択	選択
	科目担当責任者	江田 哲也 斎藤 恵一	オフィスアワー	水曜日 14:40~16:10 J107 研究室 木曜 3 限、J 棟 211 研究室
薬学科	曜日時限	水曜 1 限	必修/選択	必修
	科目担当責任者	石川 徹 江田 哲也	オフィスアワー	水曜 3 限、J 棟 209 研究室 水曜日 14:40~16:10 J107 研究室

授業の概要 (主題)	<p>企業や組織の情報(ICT)化の進展に伴い、コンピュータを活用するための能力は増々重要になっている。本講義では、コンピュータの活用技術(リテラシー)の修得および向上を目的としてコンピュータの操作演習を行う。</p> <p>授業内容は、コンピュータの基本操作やオペレーティングシステム(OS)の操作から始まり、インターネットや電子メールの利用法、そして、アプリケーションソフトウェア(Microsoft Office)を用いてワープロ(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の各種操作について演習する。授業は、解説と演習を繰り返し、多くの演習を通してコンピュータの活用に関する実践的技術を修得する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本的操作を理解し効率的に利用することができる。</li> <li>2. 情報倫理を理解し情報検索、電子メール等インターネットの適切な利用ができる。</li> <li>3. ワープロ(Word)を用いてレポートや報告書などの文章が効率的に作成できる。</li> <li>4. プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を用いて発表資料が作成できる。</li> <li>5. 表計算ソフト(Excel)を用いて計算処理やグラフ作成などのデータ処理、分析ができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	コンピュータの基本操作(ガイダンス、Windows の基本操作、情報量の単位)	
第 2 回	インターネット(Web ブラウザ、メールの利用法(Gmail)、学術情報検索)	
第 3 回	Word の操作 1 (MS-IME による文字の入力と変換、数式エディタ)	
第 4 回	Word の操作 2 (ページ設定、範囲選択、ショートカットキー、書式設定とコピー)	
第 5 回	Word の操作 3 (インデント設定、タブとリーダー設定)	
第 6 回	Word の操作 4 (図表の挿入、ヘッダーとフッターの挿入、段落番号と箇条書き)	
第 7 回	PowerPoint の操作 1 (PowerPoint2010 の機能説明、スライドの作成、図表の挿入)	
第 8 回	PowerPoint の操作 2 (図の作成、アニメーション設定、課題作成)	
第 9 回	Excel の操作 1 (Excel2010 の機能説明、データと計算式の入力、オートフィル機能、セルの書式設定)	
第 10 回	Excel の操作 2 (関数の利用 1 (SUM、AVERAGE、MAX、MIN、STDEV.S)、相対参照と絶対参照)	
第 11 回	Excel の操作 3 (グラフの作成(棒、折れ線、円、散布図)、グラフの編集)	
第 12 回	Excel の操作 4 (関数の利用 2 (RANK、IF、COUNTA、COUNT、COUNTBLANK))	

第 13 回	Excel の操作 5(データベース機能(並べ替え、フィルター))	
第 14 回	Excel の操作 6(関数の利用 3(SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF、ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN))	
第 15 回	Excel の操作 7(総合演習)	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 70%、レポート 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】(60分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を基に授業を行う。事前に読んでくること。</li> <li>・課題として、基本ファイルの作成および演習を行う。</li> <li>・学習した内容は再度確認し、分からない所は質問すること。</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>基本ファイルを用いて授業を行い、内容の確認を行う。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <p>パソコンを用いて操作主体の授業となる。極力欠席しないこと。</p>
履修条件	

教科書	医療・福祉系学生のための情報リテラシー(情報教育グループ 編、共立出版)
参考書	特になし

オフィスアワー	水曜日 4 限(14:40~16:10) 江田研究室(J107)
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー2)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	情報処理Ⅲ(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	江田 哲也	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	<p>コンピュータを利用して、Office(ビジネス用アプリケーションソフト)の操作を学習したい学生を対象とする。文章作成ソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーション用ソフト(PowerPoint)を用いた応用的な操作方法を学習する。さらに操作を通じてリテラシーを理解し、自らが得たデータを用いた演習も行う。主として Excel に関して行う。データ分析では分析の流れを自身で行う場合とツールを利用する場合で行い、単にツールを利用するだけでなく計算の流れを学習する。PowerPoint では、資料を基に自身で考え作成し聴講者を意識した作成を学習する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理 I または II で習得した知識を再確認し、より深く学習できる。</li> <li>・Word の校閲や表紙作成など様々な機能を用いた文書作成ができる。</li> <li>・PowerPoint の様々な機能を用いたプレゼンテーション資料を作成できる。</li> <li>・例題を基にプレゼンテーション資料を聴講者を意識して作成できる。</li> <li>・Excel を用いて複雑な計算式が必要となる処理項目を関数を用いて対応できることを理解できる。</li> <li>・Excel を用いてデータ解析、統計処理の基本的操作方法を理解できる。</li> <li>・Excel を用いてピボットテーブルを利用し多数のデータから様々な表を作成できることを理解できる。</li> </ul>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	授業ガイダンス、Word の操作(基本操作(IME パッド、文字列の配置、インデント、タブ)及びオプションの確認、図表を用いた文書の作成)	
第 2 回	Word の操作(様々な機能(セクション区切り、段組み、脚注の設定、タブとリーダー、文書の校正)を用いた文書の作成)	
第 3 回	Word の操作(レポート等の文書作成における表紙および目次の作成、目次と見出しの連結) PowerPoint の操作(基本機能およびオプション、発表資料作成方法)	
第 4 回	PowerPoint の操作(画像及び図形を用いた資料作成、SmartArt および図形を用いたフローチャート作成)、発表用資料に関する説明および注意点	
第 5 回	PowerPoint の操作(プレゼンテーション資料の作成演習) Excel の操作(基本機能およびオプション、基本関数の理解)	
第 6 回	Excel の操作(SUM 関数などの基本関数、IF 関数の復習、条件付き書式) グラフ作成時の詳細設定について	
第 7 回	Excel の操作(条件付き関数(COUNTIF・SUMIF・AVERAGEIF)、 端数処理関数(ROUND・ROUNDDOWN・ROUNDUP・INT・MOD))	
第 8 回	Excel の操作(文字列操作(LEFT、MID、RIGHT、CONCATENATE)・ 検索関数(FIND、HLOOKUP、VLOOKUP))	
第 9 回	Excel の操作(同じデータを基にした計算の実施、学習した関数を利用したシートの作成、 複数のシート、ブックにわたる新たな表の作成)	
第 10 回	Excel の操作(データ分析と基本統計:分析ツールのオプション設定、平均値・中央値・最頻値、 偏差平方和・標本分散・標準偏差)	
第 11 回	Excel の操作(データ分析と基本統計:分析ツールのヒストグラムを用いた計算)	
第 12 回	Excel の操作(ピボットテーブルの利用 1:基本操作、フィールドリストの利用)	
第 13 回	Excel の操作(ピボットテーブルの利用 2:レポートフィルタの利用、分布の標準化と標準正規分布の説明)	
第 14 回	Excel の操作(統計処理:平均値の推定、リスク比、オッズ比、正規分布)	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 ■実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート ■その他(演習評価)
評価の基準	定期試験 30%、実技試験 60%、演習評価 10%



準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】(60分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回目以降は配布資料及び作業ファイル基に授業を行う。事前に内容を確認すること。</li> <li>・学習した内容は再度確認し、分からない所は質問すること。</li> </ul> <p>【その他アドバイス】</p> <p>パソコンを用いた操作主体の授業となる。極力欠席しないこと。</p>
履修条件	情報処理ⅠもしくはⅡを受講していることが望ましい。
教科書	特に指定しない。
参考書	医療・福祉系学生のための情報リテラシー(情報教育グループ 編、共立出版)
オフィスアワー	水曜日 4限(14:40~16:10) 江田研究室(J107)
その他	<p>【関連するディプロマポリシー】</p> <p>共通ディプロマポリシー2)に該当</p>

		大田原キャンパス					
科目名	生命倫理（必修:PS1）		授業開始年度	2017年度			
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	江口 光興、篠澤 洋太郎、天野 隆弘、寺岡 慧、 笠原 忠、福崎 篤、赤居 正美、加藤 宏之、 下泉 秀夫、橋本 雅章				
学科	全学科		学年	全学年			
曜日時限	木曜 5 限	必修/選択	PS1 年必修 他選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	オムニバス講義形式						

授業の概要 (主題)	生命倫理、生命科学倫理、医学の倫理、医療の倫理など、医学・医療をめぐる生命倫理について、多面的に学習することで、医療職として理解し身に着けるべき倫理観を育成することを目的とする。 医学の進歩に伴い、生命倫理の各論も常に変化する側面もあるため、新たな考え方、問題点および対応などをも学習し、医療プロフェッショナルとして築くべき倫理観の基礎知識を得る講義である。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理とは何かを理解し、将来のキャリアに生かせる。</li> <li>2. 生命倫理にはどのような側面があるかを理解する。</li> <li>3. 生命倫理がどのように決定されているのかを理解する。</li> <li>4. 医療倫理にはどのような側面があり、何が問題であるかを理解する。</li> <li>5. 医学研究における倫理とは何かを理解する。</li> <li>6. 生命倫理、医療倫理について常に考える姿勢の重要性を理解する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	「人間を考える」ことから学ぶ倫理観: 初代学長大谷藤郎先生の言葉から学ぶその思想と本学の学生教育を通して現代の若者に願う思い	谷口敬道
第 2 回	障がい児・者の生命倫理: 障がいを持つ者の生命をどのように考え、その人権と倫理との関係を学ぶ	下泉秀夫
第 3 回	救急医療と倫理: 救急医療の現場では平時とは異なる生命倫理に基づく行動が存在することを学ぶ	篠澤洋太郎
第 4 回	病名告知: 重篤疾患、予後不良疾患の病名告知は何に基づいてなされるのかを学ぶ	江口光興
第 5 回	医療方針の決定における倫理: インフォームドコンセントが成立しない状況等での方針決定の問題点を学ぶ	
第 6 回	法的脳死判定と倫理: 脳死に関する生命倫理上の問題点や法的脳死判定について学ぶ	加藤宏之
第 7 回	臨床研究の倫理: 医療行為(検査、治療)を進歩させるための臨床研究に伴うべき倫理の基本を学ぶ	赤居正美
第 8 回	生きる権利と死ぬ権利: 人には生存権と同時に死ぬ権利も有するか、という生命倫理の根幹課題を学ぶ	橋本雅章
第 9 回	生殖医療と倫理: 生殖医療という生命を生み出す医療における倫理の基本知識と問題点を学ぶ	福崎篤
第 10 回	臨床試験(治験)と生命倫理: 治験とは何か、医薬品開発における治験の重要性と現状、治験を実施する際のルール、治験における倫理的な問題などについて学ぶ	笠原忠
第 11 回	薬害と医薬品副作用被害の救済: 医薬品の有効性と安全性や医薬品の適正使用を学び、医薬品の副作用と薬害の事例を知り、医薬品の副作用被害にはどのような救済制度があるかを学ぶ	笠原忠
第 12 回	医学史からみた生命倫理: 生命倫理は時代とともに変化してきており、現在の生命倫理が確立してきた歴史的背景を学ぶ	寺岡慧
第 13 回	麻酔と倫理: 麻酔という医療行為に関係する医療倫理上の問題等を学ぶ	白石尚基
第 14 回	医の倫理を学ぶ: 医学の倫理、医療の倫理、医療の倫理の基本概念、考え方、を学ぶ	天野隆弘
第 15 回	総括	谷口敬道

成績評価の方法	<p>1 講義を選択し、レポートを作成する。レポートは以下の通りに作成する。</p> <p>① 講義課題名、教員名、学籍番号、学生所属科、学年、学生氏名を明記</p> <p>② 講義概要：何を学習したかを 200 字前後でまとめる</p> <p>③ 講義で提示された生命倫理に関する課題は何かを記載する</p> <p>④ 考察：それらの課題に関してどう考えたかを記載する</p> <p>A4用紙 1 枚に以上を記載する。 ※詳細は定期試験時の掲示を確認すること。</p>
評価の基準	<p>レポートの体裁が支持された通りであること。</p> <p>講義の内容を誤りなく理解していること。</p> <p>十分に考察ができていること。</p>
準備学習 学習へのアドバイス	web や成書で生命倫理、医療倫理、について基本的な知識を入れておくことが望ましい。
履修条件	

教科書	各講義で示される
参考書	<p>はじめて学ぶ生命倫理：いのちは誰が決めるのか(ちくまプリマー新書)小林亜津子著</p> <p>はじめて出会う生命倫理(有斐閣アルマ)玉井真理子、大谷いづみ著</p> <p>バイオエシックス入門—生命倫理入門 東信堂 今井道夫、香川知晶</p>

オフィスアワー	各回の授業後に、質問を受け付ける。
その他	

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください

		大田原キャンパス						
科目名	生命倫理 (VOD 授業)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	青木 清	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	VOD 講義(対面講義あり)							

授業の概要 (主題)	現代は科学技術と医療技術の進歩が人間の生存に関してさまざまな倫理的問題を提起している。これらの諸問題に対して生命倫理「バイオエシックス」の果たす役割は大きい。それは生命科学の時代にあつて、人間の尊厳や生命の尊厳を守りつつ、生命科学や医学・医療の健全な発展を願望するからである。ここでは、脳死、臓器移植、ヒトゲノム研究、遺伝子治療、再生医学などの生命倫理的な問題を解説し皆で考えることを目的とする。
授業の到達目標	人間を対象とする研究や医療業務の実務において、対象とする人間の尊厳を守り個人情報の守秘義務や医療業務者としての基本的責務等を理解して、倫理観を身に着けることを期待する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	生命進化	
第 2 回	ヒトの生物学	
第 3 回	DNA 生物学	
第 4 回	バイオテクノロジーの進歩	
第 5 回	遺伝子操作とガイドライン	
第 6 回	人間の尊厳と生命倫理	
第 7 回	ヒトの発生といのちの始まり	
第 8 回	体外受精と人工授精	
第 9 回	染色体と遺伝子診断	
第 10 回	インフォームドコンセントと EBM	
第 11 回	クローン羊の誕生	
第 12 回	ヒトクローン個体作製と法律	
第 13 回	ES 細胞	
第 14 回	クローン胚	
第 15 回	再生医学・医療	
第 16 回	ヒトゲノム研究	
第 17 回	遺伝子治療	
第 18 回	安楽死と尊厳死	
第 19 回	終末期医療	
第 20 回	脳・神経科学の進歩	
第 21 回	脳と心と倫理	
第 22 回	BSE 問題	
第 23 回	人間の生存を考える	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験、レポート
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 生命科学や医学・医療の科学的知見を理解すること。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	坂本・青木・山田編「生命倫理」北樹出版

オフィスアワー	別途掲示
その他	<p>※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <p>①回答期限までに全ての回を視聴すること</p> <p>②視聴後は確認問題に回答すること</p> <p>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</p> <p>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</p>

							大田原キャンパス	
科目名	医学／医療史（VOD 授業）					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	黒澤 和生	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	VOD 授業および対面授業							

授業の概要 (主題)	医療は医学の社会的適用とされているように、医学と医療は表裏一体のものである。その医療と医学の起源から今日までの歴史を、社会的・文化的な考察を交えながら、先人たちのあとをたどることを目的とする。
授業の到達目標	今日までの歴史を、社会的・文化的な考察し、おおむね説明できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガヒポクラテスの医学	坂井建雄
第 2 回	ラノスによる古代医学の集大成	
第 3 回	アラビア医学とヨーロッパの復興	坂井建雄
第 4 回	ヴェサリウスから始まる人体解剖	
第 5 回	血液循環論と機械的自然観	坂井建雄
第 6 回	ブールハーフェと疾患の博物学	
第 7 回	解剖学と外科学の発展	坂井建雄
第 8 回	病院医学と病理学の始まり	
第 9 回	研究室医学と細胞説	坂井建雄
第 10 回	打診、聴診、体温測定	
第 11 回	麻酔と消毒法による外科手術の近代化	坂井建雄
第 12 回	病原菌の発見	
第 13 回	ビタミンとホルモンの発見	坂井建雄
第 14 回	X 線、心電図、内視鏡、画像診断	
第 15 回	免疫と医療技術	坂井建雄
第 16 回	脳と心の医学？	
第 17 回	長寿と生活習慣病	坂井建雄、酒井シヅ
第 18 回	西洋医学の日本登場・蘭学の時代	
第 19 回	明治以後の日本の医学・西洋医学への転換	酒井シヅ
第 20 回	第二次世界大戦後の日本の医学	
第 21 回	漢方医学の歴史（江戸期以前の形）	安井廣迪
第 22 回	漢方医学の歴史（明治の漢方復興期から現代にいたる道）	
第 23 回	看護の歴史 1	村松由紀
第 24 回	看護の歴史 2	
第 25 回	看護の歴史 3	樋本まゆみ、黒澤和生
第 26 回	リハビリテーションの歴史 1（理学療法）	
第 27 回	リハビリテーションの歴史 2（作業療法）	藤田亘、藤田郁代
第 28 回	リハビリテーションの歴史 3（言語聴覚療法）	
第 29 回	リハビリテーションの歴史 4（視機能療法）	三柴恵美子

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート ■その他(対面授業)
評価の基準	定期試験、対面授業(必ず参加すること)
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 今日までの歴史について、問題提起できるよう事前学習して臨むこと(60 分)。
履修条件	

教科書	資料配布
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	教務窓口にお問い合わせのこと
その他	<p>大学全体のディプロマポリシー(1)に該当</p> <p>※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <p>①回答期限までに全ての回を視聴すること</p> <p>②視聴後は確認問題に回答すること</p> <p>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</p> <p>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</p>

		大田原キャンパス					
科目名	人間工学			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	山本 澄子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	人間工学とは人間を取り囲むさまざまなものについて、人間が'快適に'かつ'効率的に'使えるようにすることを目的とした学問である。履修者を対象とした簡単な実習を通して人間の特性を知り、人間工学の基礎を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の感覚を客観的に計測する意味について説明できる。</li> <li>2. 官能検査の意味と実施方法について説明できる。</li> <li>3. 人間の反応時間に影響する因子を説明できる。</li> <li>4. 操作器の種類と人間の特性に合わせた操作方法について説明できる。</li> <li>5. 人間の判断に影響する因子を説明できる。</li> <li>6. 人間を対象としたデータの統計処理について説明できる。</li> <li>7. 姿勢、動作の計測について説明できる。</li> <li>8. 作業負担の評価について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	人間工学とは	
第 2 回	感覚	
第 3 回	官能検査-1	
第 4 回	官能検査-2	
第 5 回	反応時間	
第 6 回	判断に要する時間	
第 7 回	手で使う道具、足で使う道具	
第 8 回	計測と誤差	
第 9 回	身体計測	
第 10 回	座位と姿勢	
第 11 回	片脚立位の計測	
第 12 回	動作計測	
第 13 回	身体負担の評価	
第 14 回	作業負担の評価	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	工学的な考え方に興味があれば、誰でも履修可能 毎回の授業を振り返り、復習を重点的に行う(60分)
履修条件	

教科書	資料を配布
参考書	特になし

オフィスアワー	講義の前後やメールでの質問はいつでも受け付ける
その他	

総合教育科目  
【総合系】





		大田原キャンパス			
科目名	大学入門講座 I (基礎) (前半: NS, ORT, RT, PS)		授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	谷口 敬道、金子 純一郎、内山 仁志		
学科	NS、ORT、RT、PS		学年	1 学年	
曜日時限	水曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	1
授業の形態	講義				

授業の概要 (主題)	新入生を対象に、高校までの「受け身の勉強」から大学での「自主的な学び」へと学習スタイルを転換する重要性について学習する。また、大学で学ぶことの意義、学修スキル、学生生活の自己管理の方法などを学び、新しい学生生活に円滑に適応していく能力を高める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学の教育理念を理解して、学修意欲を高めることができる。</li> <li>2. スタディスキルを修得して、今後の学修に活用することができる。</li> <li>3. 学生生活全体を主体的に自己管理することができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	①「国際医療福祉大学を知る」 ・建学の精神と3つの方針・7つの教育理念、本学の特長について	谷口 敬道
第 2 回	②大学で学ぶ1 聞く力 (学修習慣/スタディスキル・アカデミックスキ/思考方法/能動的学習への転換)	谷口 敬道
第 3 回	③大学で学ぶ2 情報収集力・整理力 (学修習慣/スタディスキル・アカデミックスキル/思考方法/能動的学習への転換)	金子 純一郎
第 4 回	④大学で学ぶ3 読む力・書く力 (学修習慣/スタディスキル・アカデミックスキル/思考方法/能動的学習への転換)	内山 仁志
第 5 回	⑤「大学で学ぶ4」 大田原市を知る～特色・文化・歴史と大学誘致によるまちづくり～ (地域理解)	細小路 岳史
第 6 回	⑥「大学で学ぶ5」 関連職種連携教育入門～他職種理解1 (医師・看護師・保健師・診療放射線技師・薬剤師)	
第 7 回	⑦「大学で学ぶ6」 関連職種連携教育入門～他職種理解2 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士)	
第 8 回	⑧「大学で学ぶ7」 関連職種連携教育入門～他職種理解1 (社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士・診療情報管理士)	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	課題レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	学修ポートフォリオを今後 4 年間の成長記録として活用すること。4 年間の学業および学生生活の到達目標(長期・短期)を明確にし、その目標に関する計画を立て、活動実績をファイルとしてまとめること。そして、自分は成長した点の確認と改善点を明らかにして、次の短期目標と計画作成に継続していくこと。この学習ポートフォリオは、各学科のアドバイザー担当教員との面談で助言を受けるときにも、有効活用することができる。(予習復習各 30 分目標)
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	大学生のためのリサーチリテラシー入門 - 研究のための 8 つのカー 山田剛史・林創 ミネルヴァ書房

オフィスアワー	各回の授業後に、質問を受け付ける
その他	

		大田原キャンパス			
科目名	大学入門講座 I (基礎) (前半:PT,OT,ST,SHM)		授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	谷口 敬道、金子 純一郎、内山 仁志		
学科	PT,OT,ST,SHM		学年	1 学年	
曜日時限	水曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	1
授業の形態	講義				

授業の概要 (主題)	<p>新入生を対象に、高校までの「受け身の勉強」から大学での「自主的な学び」へと学習スタイルを転換する重要性について学習する。また、大学で学ぶことの意義、学修スキル、学生生活の自己管理の方法などを学び、新しい学生生活に円滑に適応していく能力を高める。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学の教育理念を理解して、学修意欲を高めることができる。</li> <li>2. スタディスキルを修得して、今後の学修に活用することができる。</li> <li>3. 学生生活全体を主体的に自己管理することができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	①「国際医療福祉大学を知る」 ・建学の精神と3つの方針・7つの教育理念、本学の特長について	谷口 敬道
第 2 回	②大学で学ぶ1 聞く力 (学修習慣/スタディスキル・アカデミックスキ/思考方法/能動的学習への転換)	谷口 敬道
第 3 回	③大学で学ぶ2 情報収集力・整理力 (学修習慣/スタディスキル・アカデミックスキル/思考方法/能動的学習への転換)	金子 純一郎
第 4 回	④大学で学ぶ3 読む力・書く力 (学修習慣/スタディスキル・アカデミックスキル/思考方法/能動的学習への転換)	内山 仁志
第 5 回	⑤「大学で学ぶ4」 大田原市を知る～特色・文化・歴史と大学誘致によるまちづくり～ (地域理解)	細小路 岳史
第 6 回	⑥「大学で学ぶ5」 関連職種連携教育入門～他職種理解1 (医師・看護師・保健師・診療放射線技師・薬剤師)	
第 7 回	⑦「大学で学ぶ6」 関連職種連携教育入門～他職種理解2 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士)	
第 8 回	⑧「大学で学ぶ7」 関連職種連携教育入門～他職種理解1 (社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士・診療情報管理士)	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	課題レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>学修ポートフォリオを今後 4 年間の成長記録として活用すること。4 年間の学業および学生生活の到達目標(長期・短期)を明確にし、その目標に関する計画を立て、活動実績をファイルとしてまとめること。そして、自分は成長した点の確認と改善点を明らかにして、次の短期目標と計画作成に継続していくこと。この学習ポートフォリオは、各学科のアドバイザー担当教員との面談で助言を受けるときにも、有効活用することができる。(予習復習各 30 分目標)</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	大学生のためのリサーチリテラシー入門 - 研究のための 8 つのカー - 山田剛史・林創 ミネルヴァ書房

オフィスアワー	各回の授業後に、質問を受け付ける
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	大学入門講座Ⅱ(展開)(後半)(NS,ORT,RT,PS)					授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	斎藤 恵一、福井 譲、丸山 仁司、畦上 恭彦				
学科	NS,ORT,RT,PS			学年	1学年	期	前期後半
曜日時限	水曜 3限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	本学の三つの基本理念に基づく、七つの教育理念を理解することで、在学中の勉強や実習、学生生活、卒業後の職業人・社会人としての生き方に一貫した道が見えてくる。そのことの本質をそれぞれの分野のトップの具体的な話の中から理解していく。そうした鳥瞰図を理解して初めて自分が今何を学んでいるかがわかるようになる。人格形成、専門性、学際性、情報科学技術、国際性、自由な発想、新しい大学運営、の七つの教育理念それぞれが持つ意味を理解する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 七つの教育理念が持つそれぞれの意味を理解することができる。</li> <li>2 七つの教育理念がなぜ重要なのかを理解することができる。</li> <li>3 七つの教育理念が持つそれぞれの意味、重要性を理解したうえで、自分が将来進むであろう専門分野においてなぜ専門以外の知識や学習が必要で最も大事な人間形成に通じるのか、感じ取ることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	(人格形成) これからの医療人としての君たち-挑戦と応戦-	VOD 矢崎 義雄 (谷口 敬道)
第2回	(専門性) 脳の話 -不思議で大切な宝物-	VOD 糸山 泰人 (畦上 恭彦)
第3回	(学際性)テーマは後日お知らせします	丸山 仁司
第4回	(新しい大学運営) 国際医療福祉大学の歩み	VOD 杉原 素子 (丸山 仁司)
第5回	(情報科学技術) 情報社会の進展と医療・福祉専門職	斎藤 恵一
第6回	(国際性) —世界を学ぶ、世界に学ぶ—	福井 譲
第7回	(自由な発想) 私の歩んだ道	VOD 北島 政樹 (谷口 敬道)
第8回	総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	課題レポート100%
準備学習 学習へのアドバイス	本学のパンフレットやホームページで三つの基本理念と、七つの教育理念が何であるか、よく読んで事前に概要を理解しておくこと。自分が選択した学科以外でも本学でどのような授業がなされているのか、項目だけでも全体を一度は眺めておくこと。七回それぞれ別々の授業だが、その道を極めた末での話なので、一生懸命聞くこと。聞く耳を持つかどうかが一番重要で、その時はよくわからなくとも、後々大学を卒業した後でもああそういうことだったのかと、思い当たることがたくさんあるはずだ。
履修条件	

教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	各回の授業後に、質問を受け付ける
その他	

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください

		大田原キャンパス					
科目名	大学入門講座Ⅱ(展開)(後半)(PT,OT,ST,SHM)					授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	齋藤 恵一、福井 謙、丸山 仁司、畦上 恭彦				
学科	PT,OT,ST,SHM			学年	1学年	期	前期後半
曜日時限	水曜 4限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	本学の三つの基本理念に基づく、七つの教育理念を理解することで、在学中の勉強や実習、学生生活、卒業後の職業人・社会人としての生き方に一貫した道が見えてくる。そのことの本質をそれぞれの分野のトップの具体的な話の中から理解していく。そうした鳥瞰図を理解して初めて自分が今何を学んでいるかがわかるようになる。人格形成、専門性、学際性、情報科学技術、国際性、自由な発想、新しい大学運営、の七つの教育理念それぞれが持つ意味を理解する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 七つの教育理念が持つそれぞれの意味を理解することができる。</li> <li>2 七つの教育理念がなぜ重要なのかを理解することができる。</li> <li>3 七つの教育理念が持つそれぞれの意味、重要性を理解したうえで、自分が将来進むであろう専門分野においてなぜ専門以外の知識や学習が必要で最も大事な人間形成に通じるのか、感じ取ることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	(人格形成) これからの医療人としての君たち-挑戦と応戦-	VOD 矢崎 義雄 (谷口 敬道)
第2回	(専門性) 脳の話 -不思議で大切な宝物-	VOD 糸山 泰人 (畦上 恭彦)
第3回	(学際性) テーマは後日お知らせします	丸山 仁司
第4回	(新しい大学運営) 国際医療福祉大学の歩み	VOD 杉原 素子 (丸山 仁司)
第5回	(情報科学技術) 情報社会の進展と医療・福祉専門職	齋藤 恵一
第6回	(国際性) -世界を学ぶ、世界に学ぶ-	福井 謙
第7回	(自由な発想) 私の歩んだ道	VOD 北島 政樹 (谷口 敬道)
第8回		

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	課題レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	本学のパンフレットやホームページで三つの基本理念と、七つの教育理念が何であるか、よく読んで事前に概要を理解しておくこと。自分が選択した学科以外でも本学でどのような授業がなされているのか、項目だけでも全体を一度は眺めておくこと。七回それぞれ別々の授業だが、その道を極めた末での話なので、一生懸命聞くこと。聞く耳を持つかどうかが一番重要で、その時はよくわからなくとも、後々大学を卒業した後でもああそういうことだったのかと、思い当たることがたくさんあるはずだ。
履修条件	

教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	各回の授業後に、質問を受け付ける
その他	

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください

		大田原キャンパス						
科目名	郷土論 ～栃木学～ (前半)《市民開放授業》					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	金野 充博	科目担当者						
学科	全学科				学年	1 学年	期	前期前半
曜日時限	木曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	栃木県、とりわけ県北地域の文化や歴史、産業にスポットを当て、これから学び、生活をしていく「第二のふるさと」への理解を深めていく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県の歴史や文化、産業の豊かさを理解することができる。</li> <li>・県北地域の医療、福祉の一大拠点となっている国際医療福祉大学で学ぶ意義を認識することができる。</li> <li>・過去から現在に至る歴史を踏まえながら、現在抱えている問題や課題を認識し、社会人に求められる基礎的な知見や視点を身につけることができる。</li> </ul>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	大田原市 NOW～健康と福祉のまちづくり	大田原市保健福祉部 健康政策課長 植竹 剛 氏 同・高齢者幸福課長 齋藤 雅徳 氏
第 2 回	アジア学院と栃木－農村指導者養成と国際協力	アジア学院理事 佐藤範明氏
第 3 回	俳句から見た県北の自然と文化	俳人 蓮實 淳夫 氏
第 4 回	栃木県北の医療風土－種痘に取り組んだ藩医	栃木県立宇都宮商業 高等学校教諭 大沼美雄氏
第 5 回	産業の国際化と地場振興	東芝メディカルシステム ズ株式会社 常務執行役員 立崎寿 氏
第 6 回	東野鉄道 51 年のあゆみ	東野交通株式会社 総務部長 大山 房夫 氏
第 7 回	ものづくりへの挑戦～伝統から創造へ	竹工藝家 磯飛 節子 氏 渡邊酒造社長 渡邊 英憲 氏
第 8 回	国際医療福祉大学の新生に求めること－政治・行政の視点から	大田原市長 津久井富雄氏

成績評価の方法	期末レポート
評価の基準	期末レポートと授業への取り組み姿勢を見て総合的に判断する。
準備学習 学習へのアドバイス	準備学習 各回の内容を振り返り、ノートにまとめること(60 分程度) その他アドバイス ・第一線で活躍している専門家による密度の濃い授業であるため、積極的に参加すること。 ・授業で取り上げた自然や歴史を知ることができる場所を探訪するなど、「第二のふるさと」への理解を深めるよう心がけること。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	各回の授業後に、質問時間を設ける。
その他	関連するディプロマポリシー 共通ディプロマポリシー1)に該当

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください

		大田原キャンパス					
科目名	医療福祉教養講義 (VOD 授業)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15 時間
授業の形態	VOD 授業 (対面授業あり)						

授業の概要 (主題)	医療福祉の道を志す学生に必要な基礎的素養として、 (1) 社会の発展の歴史に即して医療・福祉の発達との関連を学ぶ。 (2) 医療・福祉に関連する国際的な基準を学び、その決定過程の概要を知る。 (3) 医療人口の変動を巡る諸問題を探り、医療・福祉の世界との関わりを考える。 また、有限な資源についての現状や、利害の調整などについて理解する。 (4) 医療・福祉に関連した芸術作品を鑑賞し、医療・福祉に対する様々な見方を知る。
授業の到達目標	社会の発展の歴史に即して医療・福祉の発達とその変遷について理解する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	①社会の発展と医療福祉の展開 1	
第 2 回	②社会の発展と医療福祉の展開 2	
第 3 回	③社会の発展と医療福祉の展開 3	
第 4 回	④社会の発展と医療福祉の展開 4	
第 5 回	⑤医療福祉の国際基準成立と発展 1	
第 6 回	⑥医療福祉の国際基準成立と発展 2	
第 7 回	⑦医療福祉の国際基準成立と発展 3	
第 8 回	⑧医療福祉の国際基準成立と発展 4	
第 9 回	⑨人口・資源と医療福祉 1	
第 10 回	⑩人口・資源と医療福祉 2	
第 11 回	⑪人口・資源と医療福祉 3	
第 12 回	⑫人口・資源と医療福祉 4	
第 13 回	⑬芸術と医療福祉 1	
第 14 回	⑭芸術と医療福祉 2	
第 15 回	⑮芸術と医療福祉 3	
第 16 回	⑯芸術と医療福祉 4	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	レポート
準備学習 学習へのアドバイス	対面授業実施までに、各回の動画視聴を完了すること。 【準備学習(予習復習等)】 予習: 事前に資料をプリントアウトし、内容を確認すること(20 分) 復習: 視聴後に資料をもとに講義内容を振り返ること(40 分)
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	教務窓口にお問い合わせのこと
その他	※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。 ①回答期限までに全ての回を視聴すること ②視聴後は確認問題に回答すること ③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること ④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)



		大田原キャンパス		
科目名	メディカルマナー入門 (VOD 授業)		授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	別府 美知子	
学科	全学科		学年	全学年
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数
授業の形態	VOD 授業 (対面授業あり)			

授業の概要 (主題)	医療機関における基本的な接遇に加え、さらに患者様に好印象を与える対応とクレームの対応を学習していく。
授業の到達目標	医療福祉の専門職として、患者様、利用者様、及び関連職種やスタッフと円滑にコミュニケーションを行い、適切な医療を提供するための基本的なビジネスマナーやビジネス文書等のスキルを修得する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	講義目的、ビジネスマナーの必要性(1) 講義目的、ビジネスマナーの必要性(2)	
第 2 回	敬語・言葉遣い(1) 敬語・言葉遣い(2)	
第 3 回	電話対応のマナー(1) 電話対応のマナー(2)	
第 4 回	接遇のマナー① 名刺交換、席次のマナー、来客対応(ご案内の仕方、湯茶サービス)	
第 5 回	接遇のマナー② 訪問のマナー(アポイントメントの取り方、訪問の流れ)	
第 6 回	ビジネス文書・メールの書き方(1) ビジネス文書・メールの書き方(2)	
第 7 回	慶事・弔事のマナー(1) 通過儀礼 慶事・弔事のマナー(2) 「祭」のしきたり 慶事・弔事のマナー(3) 「婚」のしきたり 慶事・弔事のマナー(4) 「葬」のしきたり	
第 8 回	テーブルマナー(1) 洋食でのマナー テーブルマナー(2) 和食、酒席でのマナー、ドレスコード	
第 9 回	医療機関で働くための心構え (医療機関での対応マナー) (1) 医療機関で働くための心構え (医療機関での対応マナー) (2)	
第 10 回	クレーム対応(1) クレーム対応(2)	
第 11 回	言葉遣い・敬語の応用	
第 12 回	話し方・聞き方の基本 (感じの良い話し方、聴き方)	
第 13 回	演習①(対面授業)	
第 14 回	演習②(対面授業)	
第 15 回	演習③、総括(対面授業) 筆記テスト	

成績評価の方法	視聴状況、VOD 上での設問回答内容、対面による演習、筆記テストをを総合的に判断する。
評価の基準	動画の視聴が終わっていること、設問にすべて回答していること、動画内容を十分理解し、積極的に演習に参加すること。
準備学習 学習へのアドバイス	授業の総括として対面授業を実施するが、対面授業実施までに各動画の内容を十分理解し、身に付けた上で参加すること。また、対面授業の際には実技も実施するが積極的に参加すること。 【準備学習(予習復習等)】 予習: 事前に資料をプリントアウトし、内容を確認すること(30 分) 復習: 視聴後に資料をもとに講義内容を振り返ること(60 分)
履修条件	

教科書	「マナー&プロトコルの基礎知識」 (就職後のマナー本としても十分に利用価値のあるものである。)
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	質問については、対面授業実施時にまとめて対応を行う。
---------	----------------------------

その他	<p>※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①回答期限までに全ての回を視聴すること</li><li>②視聴後は確認問題に回答すること</li><li>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</li><li>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</li></ul> <p>※授業の履修および模擬講座を受講により、マナー・プロトコール検定 3 級受験をすることが可能である。</p> <p>※検定受験時期および模擬講座については別途掲示する。</p>
-----	---

				大田原キャンパス			
科目名	総合講義「超高齢社会とジェロントロジー」《市民開放授業》			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	佐藤 妙子、小林 薫、関 優樹、藤江 慎二、松本 明美、原 直人、辻 稔				
学科	全学科			学年	全学年	期	後期前半
曜日時限	水曜 6限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>超高齢社会とジェロントロジー ～ 認知症の方が積極的に役割を持って地域の中で生きる～</p> <p>万国博覧会の開かれた1970年、日本の総人口は1億人、65歳以上人口の割合は7%だった。現在は25%、そして総人口が1970年と同じ1億人に減少すると予測される2050年、65歳以上人口は38%に増加すると見込まれている。</p> <p>このように、超ハイペースで高齢化が進んでいるにもかかわらず、それに伴って生じる社会の変化や新たな課題に対応すべき各種の社会システムの整備や変革は追いついていない。</p> <p>超高齢化にともなって今何が起きているのか？将来何が起ころのか？</p> <p>それに対応する社会システムはいかにあるべきか？</p> <p>誰もが真に長生きを喜べる「長寿社会」の在るべき姿について、市民の方々と共に学び考える。</p>
授業の到達目標	<p>①超高齢社会の現状と将来像をデータをもとに理解する。</p> <p>②超高齢社会を支える社会システムの概要を理解する。</p> <p>③超高齢社会において自分(達)はどんな役割が発揮できるかを考えてまとめる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション	谷口 敬道
第2回	認知症を理解する 認知症に使用される薬	谷口 敬道 辻 稔(PS)
第3回	認知症の評価	佐藤 妙子(ST)
第4回	認知症と視機能 認知症になっても元気に生きる	原 直人(ORT) 関 優樹(OT)
第5回	認知症(予防)と運動	小林 薫(PT)
第6回	認知症予防のポイントと実践	松本 明美(NS)
第7回	認知症の人とその家族に対するケア	藤江 慎二(SHM)
第8回	認知症に関する制度について 認知症のひとと家族の会	行政関係者 家族会代表

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	課題レポート100%
準備学習 学習へのアドバイス	市民開放授業として市民の方々の参加がある。 認知症に関する理解を深め、認知症の方が積極的に役割を持って地域の中で生きる方法を市民とともに学び、考える。(予習復習各30分目標)
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	適宜紹介する。

オフィスアワー	各回の授業後に、質問を受け付ける
その他	

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください

		大田原キャンパス		
科目名	食と人間（後半）		授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	門脇 弘子	科目担当者		
学科	全学科		学年	全学年
曜日時限	木曜4限	必修/選択	選択	後期後半
授業の形態	講義		単位数	1
			時間数	15時間

授業の概要 (主題)	食育とは何か、人生における各ライフステージの食育を考える。さらに生活習慣病や、心身症の食育を考える。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代における食に関する現状と課題について理解できる。</li> <li>2. 自らの食生活・習慣を振り返り、さらに対象者に応じた食育について意識することができる。</li> <li>3. 子どもをめぐる今日的な食の課題について理解できる。</li> <li>4. 妊娠・出産における食の大切さとそのための食育について理解できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	現代における食生活を考える	
第2回	妊娠、出産、授乳期の栄養について	
第3回	乳幼児の栄養について	
第4回	学童期の栄養について—メディア漬けの子どもたちなど	
第5回	思春期の栄養について—神経性食思不振症など	
第6回	生活習慣病と食育について	
第7回	食物アレルギーについて	
第8回	レポート課題とまとめ	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	レポート100%(十分に論文として成り立っていること)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>普段の生活の中から興味のある食生活を考えて、授業にてさらに知識を得るために臨むこと</p> <p>【準備学習(予習復習等)】 授業課題を意識し、現代社会のニュースをよく考え、疑問点を解決できるように準備してくること(60分程度)。</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 生活環境改善のための解決法をレポートしてもらう。</p> <p>【その他アドバイス】 出席、レポート提出は必須</p>
履修条件	

教科書	授業で配布資料があります
参考書	最新小児栄養(学健書院)

オフィスアワー	各会の授業後に質問を受け付ける
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1

		大田原キャンパス					
科目名	人間と性（前半）			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	宮崎 路子	科目担当者	加藤 尚子、戸田 榮輔、佐藤 寛子、大熊 由紀子、下泉 秀夫				
学科	全学科			学年	全学年	期	前期前半
曜日時限	月曜 3限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15時間
授業の形態	講義						

授業の概要 （主題）	生物そして人間の世界はオスとメス、男性と女性、つまり男と女によって成り立っています。この講義では、さまざまな分野から、男性と女性、男と女、性差といった切り口で、それぞれの専門テーマについて、自由にお話をさせていただこうと考えています。受講生の皆さんにこのテーマについて、あらためてじっくり考えていただく機会を提供したいと思えます。						
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸分野の講師による講義を聴き、内容を理解することができる。</li> <li>・性についての知識を増やすことができる。</li> <li>・自分の専門分野以外のさまざまな分野の講師陣から、専門的知識を学び、医療・福祉の専門職である前に、一人の人間としてどう生きていくべきなのかを考えることができる。</li> </ul>						

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	(4月10日) 授業ガイダンス/ 男と女のコミュニケーションスタイル (社会言語学)	総合教育センター 宮崎 路子
第2回	(4月17日) 男と女の境界線をひく儀礼 (文化人類学)	医療福祉・マネジメント学科 加藤 尚子
第3回	(4月24日) 経済社会の中の男と女 (経済学)	総合教育センター 戸田 榮輔
第4回	(5月1日) 聖書の中の男と女 (聖書)	総合教育センター 宮崎 路子
第5回	(5月8日) フェミニズムとジェンダー学 (ジェンダー)	総合教育センター 佐藤 寛子 成田 C から ICT 発信
第6回	(5月15日) メディアと福祉と女と男 (ジャーナリズム)	大学院 大熊 由紀子 青山 C から ICT 発信
第7回	(5月22日) 子ども虐待とDV (家庭内暴力) (精神医学)	リハセンターなす療育園 下泉 秀夫
第8回	(5月29日) 定期試験	総合教育センター 宮崎 路子

成績評価の方法	ミニレポートと定期試験
評価の基準	ミニレポートと定期試験結果に基づき、総合的に判定します。
準備学習 学習へのアドバイス	<p>受講に際しては静聴すること。</p> <p>【予習】次週の講義分野での性の話題を調べておくこと。(30分程度)</p> <p>【復習】講義の内容に関して、配布資料を整理し、自分の考えをまとめておくこと。(30分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	毎週の講義前後に各講師の先生方に質問できます。 また水曜4限、木曜4限（C棟5階502）で宮崎が受け付けます。
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	持続可能な発展				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	大河 喜彦	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	持続可能な発展(sustainable development)に向けて、環境と経済の両立のための社会的責任経営について解説するとともに、国際規格、エコビジネス、再生可能エネルギー等についても言及し、医療福祉関係機関等における将来の経営の参考に資する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.持続可能な発展の意義が理解できる</li> <li>2.環境経営及び CSR(企業の社会的責任)について理解できる</li> <li>3.関連の国際規格について理解できる</li> <li>4.エコビジネスについて理解できる</li> <li>5.再生可能エネルギーについて理解できる</li> <li>6.暮らしの中の環境保全について理解し、実践できる</li> <li>7.幸福論や「もったいない思想」について理解し、実践できる</li> <li>8.医療福祉関係者として、社会人として、持続可能な社会構築のために、考え、判断できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	持続可能な発展の意義と経緯	
第 2 回	環境経営の概念	
第 3 回	CSR	
第 4 回	SR の国際規格 ISO26000	
第 5 回	環境マネジメントの国際規格 ISO14001	
第 6 回	バルディーズ原則・国連グローバルコンパクト	
第 7 回	環境にやさしい企業行動・環境憲章	
第 8 回	エコビジネス	
第 9 回	暮らしの中の環境保全	
第 10 回	ライフサイクルアセスメント・環境アセスメント	
第 11 回	再生可能エネルギー	
第 12 回	PRTR・環境会計・SRI	
第 13 回	幸福論・もったいない思想	
第 14 回	サステイナブル経営診断・環境教育	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	持続可能な社会構築のための社会的責任経営に関する判断能力
準備学習 学習へのアドバイス	<p>1987 年、国連「環境と開発に関する委員会」が発表した「地球の未来を守るために」の中の「持続可能な発展」の意義を事前に理解しよう。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>指定した教科書の該当箇所の予習に 60 分程度、授業当日に配布するレジメの復習に 60 分程度</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>社会人としての能力を育むため、インターネットでの検索を通じて、正しい情報を判断する習慣の獲得</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	授業出席

教科書	環境経営入門—理論と実践— 金原達夫 創成社 2012 年
参考書	<p>(1)持続可能な発展:リーディングス環境第 5 巻 淡路剛久他 有斐閣 2006 年</p> <p>(2)地球の未来を守るために 環境と開発に関する世界委員会編 大来佐武郎監修 福武書店 1987 年</p>

オフィスアワー	メールによる質疑応答
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	持続可能な発展				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	大河 喜彦	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	持続可能な発展(sustainable development)に向けて、環境と経済の両立のための社会的責任経営について解説するとともに、国際規格、エコビジネス、再生可能エネルギー等についても言及し、医療福祉関係機関等における将来の経営の参考に資する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.持続可能な発展の意義が理解できる</li> <li>2.環境経営及び CSR(企業の社会的責任)について理解できる</li> <li>3.関連の国際規格について理解できる</li> <li>4.エコビジネスについて理解できる</li> <li>5.再生可能エネルギーについて理解できる</li> <li>6.暮らしの中の環境保全について理解し、実践できる</li> <li>7.幸福論や「もったいない思想」について理解し、実践できる</li> <li>8.医療福祉関係者として、社会人として、持続可能な社会構築のために、考え、判断できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	持続可能な発展の意義と経緯	
第 2 回	環境経営の概念	
第 3 回	CSR	
第 4 回	SR の国際規格 ISO26000	
第 5 回	環境マネジメントの国際規格 ISO14001	
第 6 回	バルディーズ原則・国連グローバルコンパクト	
第 7 回	環境にやさしい企業行動・環境憲章	
第 8 回	エコビジネス	
第 9 回	暮らしの中の環境保全	
第 10 回	ライフサイクルアセスメント・環境アセスメント	
第 11 回	再生可能エネルギー	
第 12 回	PRTR・環境会計・SRI	
第 13 回	幸福論・もったいない思想	
第 14 回	サステイナブル経営診断・環境教育	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	持続可能な社会構築のための社会的責任経営に関する判断能力
準備学習 学習へのアドバイス	<p>1987 年、国連「環境と開発に関する委員会」が発表した「地球の未来を守るために」の中の「持続可能な発展」の意義を事前に理解しよう。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>指定した教科書の該当箇所の予習に 60 分程度、授業当日に配布するレジメの復習に 60 分程度</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>社会人としての能力を育むため、インターネットでの検索を通じて、正しい情報を判断する習慣の獲得</p> <p>【その他アドバイス】</p>
履修条件	授業出席

教科書	環境経営入門—理論と実践— 金原達夫 創成社 2012 年
参考書	<p>(1)持続可能な発展:リーディングス環境第 5 巻 淡路剛久他 有斐閣 2006 年</p> <p>(2)地球の未来を守るために 環境と開発に関する世界委員会編 大来佐武郎監修 福武書店 1987 年</p>

オフィスパワー	メールによる質疑応答
その他	

						大田原キャンパス		
科目名	読書ゼミナール（後半・変則）				授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	内山 仁志		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期後半
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	<p>担当教員が水先案内人となり、課題図書を精読する。          これまでの読書習慣の有無にかかわらず、読書に興味のある人を対象とする。          毎回、内容についてディスカッションし、様々な角度からその本や関連事項について考察を行う。          最終的に各自が書評としてまとめる。          上記を通じて多面的に物事を捉える力を養い、医療、福祉を学ぶ上で必要となる読解力や論理的思考力を育む。          ※履修者数の上限は20名とし、それを8名程度の小人数に班分けする。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題図書を読み、自分自身の頭で考えるという習慣を身につける。</li> <li>2. 読書とディスカッションを通じ、様々な意見を持つ学生同士で意見を交換することで、多面的に物事を捉える力を養う。</li> <li>3. 課題図書について書評を書くことができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション	
第2回	図書1の概要説明 内容とディスカッション1	
第3回	図書1の内容とディスカッション2	
第4回	図書1の内容とディスカッション3 およびまとめ	
第5回	図書2の概要説明 内容とディスカッション1	
第6回	図書2の内容とディスカッション2	
第7回	図書2の内容とディスカッション3	
第8回	総括	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、■その他(ディスカッション内容)
評価の基準	各本に関する書評(レポート)と毎回のディスカッション、授業態度によって評価を行う。
準備学習 学習へのアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予習に関する指針: 指定箇所を事前に読んでおくこと。わからない言葉を調べておく。(30分)</li> <li>2) 講義に関する指針: 内容について積極的に発言し、グループディスカッションを盛り上げること。</li> <li>3) 復習に関する指針: どのような学びがあったか、自分と他の人の観点を整理しておくこと。(30分)</li> </ol>
履修条件	

教科書	受講が決まった段階で各教員が指定する。
参考書	<p>課題図書候補リスト(下記以外はオリエンテーション時に紹介)</p> <p>「生きがいについて」: 神谷美恵子、みすず書房</p> <p>「大発見」の思考法: 山中伸弥、益川敏英、文春新書</p> <p>生存する脳 心と脳と身体的神秘: アントニオ.R.ダマジオ、講談社</p> <p>エリカ 奇跡のいのち: ルース・バンダー・ジー、講談社</p> <p>きよしこ: 重松清、新潮文庫</p> <p>賢者の書: 喜多川 泰、ディスカヴァー・トゥエンティワン</p> <p>深呼吸の必要: 長田 弘、晶文社</p> <p>学問のすすめ (いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ 1): 福沢諭吉(著)、奥野宣之(翻訳)、致知出版社</p> <p>武士道 (いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ 2): 新渡戸稲造(著)、夏川賀央(翻訳)、致知出版社</p> <p>など</p>



オフィスアワー	内山:水曜日 5 限(16:20~17:50) 内山研究室(F501) 谷口:月曜日 3 限(13:30~14:30) OT 共同研究室(A203) 佐藤:火曜日 2 限(10:40~12:10) ST 共同研究室(A405) 落合:月曜日 2 限(10:40~12:10) ST 共同研究室(A405) 望月:月曜日 2 限(10:40~12:10) 望月研究室(C514)
その他	履修登録期間中にオリエンテーションを行う。日程はその時に決定する。 受講人数により、2~3 グループに分かれて開講する。 なお、受講者が少ない場合は開講しない。

		大田原キャンパス		
科目名	現代医療福祉事情（後半）		授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	石井清志、牧原由紀子、城間将江、工藤芳子、浅野哲、宮本圭	
学科	全学科		学年	全学年
曜日時限	水曜 5限	必修/選択	選択	単位数
授業の形態	講義		1	時間数
			15	後期後半

授業の概要 (主題)	この講義は、保健医療福祉に関する内容を、英語で学生のみなさんに講義します。 これまで学んだ英語の知識により、講義内容の理解に努めたり、英語で質問してみたり、従来の講義にない経験を通して知識の修得を目指します。 なお、本講義は英語で行いますが、高い英語の能力を求めてはいません。得意な学生も不得意な学生も1回から7回までの授業計画を参考に履修してください。
授業の到達目標	1. 各回で説明された内容の論旨を日本語でまとめることができる。 2. 本講義を通じて自分自身の今後の課題を明確にすることができる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	リハビリテーション分野における作業療法士の役割 Role of the Occupational Therapist in Rehabilitation	成田保健医療学部 作業療法学科 石井清志 Kiyoshi Ishii
第2回	アメリカにおける理学療法/理学療法士 Physical therapy / Physical therapist in US	成田保健医療学部 理学療法学科 牧原由紀子 Yukiko Makihara
第3回	リハビリ分野における言語聴覚士の役割 Roles of the Speech, Language and Hearing Therapist in Rehabilitation (上記の内容についての講義・質疑応答)	成田保健医療学部 言語聴覚学科 城間将江 Masae Shiroma
第4回	臨床検査技師の役割と国際協力 The role of Medical Technologist and the way of an international cooperation in the world	成田保健医療学部 医学検査学科 工藤芳子 Yoshiko Kudo
第5回	生活習慣病の変遷と予防～特にがんの原因と予防について～ Transition and its prevention of Lifestyle-related disease - Especially for the cause and prevention of cancer - (上記についての講義・質疑応答)	浅野哲 Satoshi Asano
第6回	グローバルヘルスのために看護職は何ができるか The Role and Responsibility of Nursing Professions for Global Health	成田看護学部 看護学科 宮本圭 Kei Miyamoto
第7回	世界の関連職種連携教育 Global Interprofessional Education (グローバルな視点から関連職種連携教育の歴史をたどり、本学の取り組みについて学ぶ)	---
第8回	総括 Summary	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他
評価の基準	講義の到達目標に示された内容を主題としたレポート(100%)により採点します。なお、レポートの記述は、日本語とします。
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の講義の内容を深く理解するために、各先生方と議論を通して学ぶ意欲を持ちましょう。講義の中で質問できない場合には、翌週までの間に質問する習慣を身につけましょう。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	各回において、担当教員より伝えます。専任の先生方なので、オフィスアワーに限らず積極的に質問に行きましょう。
その他	英語の辞書を持参することが望ましい。

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください。

総合教育科目  
【外国語系】



				大田原キャンパス			
科目名	英語講読1(Primary) (NS1)			授業開始年度		2017年度	
学科	看護学科			学年	1学年	期	前期
曜日時限	水曜1限	必修/選択	必須	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	白岩 英樹	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	渡部 文子	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第3回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第4回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第5回	Unit 18: Face Blindness	
第6回	Unit 18: Face Blindness	
第7回	Unit 18: Face Blindness	
第8回	Unit 22: Food Allergies	
第9回	Unit 22: Food Allergies	
第10回	Unit 22: Food Allergies	
第11回	1 Unit from Part II	
第12回	1 Unit from Part II	
第13回	1 Unit from Part II	
第14回	Review	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>”積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介します。
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

					大田原キャンパス		
科目名	英語講読1 (Primary) (PT1)				授業開始年度		2017 年度
学科	理学療法学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 1 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 3 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 4 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 5 回	Unit 18: Face Blindness	
第 6 回	Unit 18: Face Blindness	
第 7 回	Unit 18: Face Blindness	
第 8 回	Unit 22: Food Allergies	
第 9 回	Unit 22: Food Allergies	
第 10 回	Unit 22: Food Allergies	
第 11 回	1 Unit from Part II	
第 12 回	1 Unit from Part II	
第 13 回	1 Unit from Part II	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】          予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)          復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】          授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介します
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読1 (Primary) (OT1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	火曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	北村 豊	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 3 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 4 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 5 回	Unit 18: Face Blindness	
第 6 回	Unit 18: Face Blindness	
第 7 回	Unit 18: Face Blindness	
第 8 回	Unit 22: Food Allergies	
第 9 回	Unit 22: Food Allergies	
第 10 回	Unit 22: Food Allergies	
第 11 回	1 Unit from Part II	
第 12 回	1 Unit from Part II	
第 13 回	1 Unit from Part II	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学習】 予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介します
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当



				大田原キャンパス			
科目名	英語講読1(Primary) (ST1)			授業開始年度	2017年度		
学科	言語聴覚学科	学年	1 学年	期	前期		
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	北村 豊	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 3 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 4 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 5 回	Unit 18: Face Blindness	
第 6 回	Unit 18: Face Blindness	
第 7 回	Unit 18: Face Blindness	
第 8 回	Unit 22: Food Allergies	
第 9 回	Unit 22: Food Allergies	
第 10 回	Unit 22: Food Allergies	
第 11 回	1 Unit from Part II	
第 12 回	1 Unit from Part II	
第 13 回	1 Unit from Part II	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介します
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	英語講読1 (Primary) (ORT1)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	三浦 美恵子	科目担当者					
学科	視機能療法学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	水曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 3 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 4 回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第 5 回	Unit 18: Face Blindness	
第 6 回	Unit 18: Face Blindness	
第 7 回	Unit 18: Face Blindness	
第 8 回	Unit 22: Food Allergies	
第 9 回	Unit 22: Food Allergies	
第 10 回	Unit 22: Food Allergies	
第 11 回	1 Unit from Part II	
第 12 回	1 Unit from Part II	
第 13 回	1 Unit from Part II	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介します

オフィスアワー	授業初回時に指示する
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読1(Primary) (RT1)			授業開始年度		2017年度	
学科	放射線・情報科学科			学年	1学年	期	前期
曜日時限	水曜2限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	宮崎 路子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	白岩 英樹	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	渡部 文子	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第3回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第4回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第5回	Unit 18: Face Blindness	
第6回	Unit 18: Face Blindness	
第7回	Unit 18: Face Blindness	
第8回	Unit 22: Food Allergies	
第9回	Unit 22: Food Allergies	
第10回	Unit 22: Food Allergies	
第11回	1 Unit from Part II	
第12回	1 Unit from Part II	
第13回	1 Unit from Part II	
第14回	Review	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】          予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)          復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】          授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介します。
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読1(Primary) (SHM)			授業開始年度		2017年度	
学科	医療福祉・マネジメント学科			学年	1学年	期	前期
曜日時限	木曜1限/2限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	宮崎 路子	授業曜日時限	木曜1限・木曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	渡部 文子	授業曜日時限	木曜1限・木曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	授業曜日時限	木曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく、英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために、医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的かつ分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第3回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第4回	Unit 1: Core Spirit of IUHW	
第5回	Unit 18: Face Blindness	
第6回	Unit 18: Face Blindness	
第7回	Unit 18: Face Blindness	
第8回	Unit 18: Volunteer Vacations	
第9回	Unit 18: Volunteer Vacations	
第10回	Unit 18: Volunteer Vacations	
第11回	1 Unit from Part II	
第12回	1 Unit from Part II	
第13回	1 Unit from Part II	
第14回	Review	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】          予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)          復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】          授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
-----	--

参考書	授業時に適宜紹介します。
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読1 (Primary) (PS1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	薬学科		学年	1 学年	期	後期	
曜日時限	金曜 2 限/4 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	宮崎 路子	授業曜日時限	金曜 2 限・金曜 4 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	河内 健志	授業曜日時限	金曜 2 限・金曜 4 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	授業曜日時限	金曜 2 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 3 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 4 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 5 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 6 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 7 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 8 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 9 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 10 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 11 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 12 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 13 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等チェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Core Spirit of IUHW, Third Edition (CENGAGE Learning, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読2(Basic) (NS1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	看護学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	水曜 1 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	白岩 英樹	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	渡部 文子	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 3 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 4 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 5 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 6 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 7 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 8 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 9 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 10 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 11 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 12 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 13 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW (Third Edition)』(CENGAGE Learning、2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明



その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

					大田原キャンパス		
科目名	英語講読2(Basic) (PT1)				授業開始年度		2017年度
学科	理学療法学科			学年	1学年	期	後期
曜日時限	火曜1限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第3回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第4回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第5回	Unit 17: Memory and Learning	
第6回	Unit 17: Memory and Learning	
第7回	Unit 17: Memory and Learning	
第8回	Unit 23: Traditional Medicine	
第9回	Unit 23: Traditional Medicine	
第10回	Unit 23: Traditional Medicine	
第11回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第12回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第13回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第14回	Review	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW (Third Edition)』(CENGAGE Learning、2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読2(Basic) (OT1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	作業療法学科		学年	1 学年	期	後期	
曜日時限	火曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	北村 豊	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 3 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 4 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 5 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 6 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 7 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 8 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 9 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 10 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 11 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 12 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 13 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW (Third Edition)』(CENGAGE Learning、2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読2(Basic) (ST1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	言語聴覚学科		学年	1 学年	期	後期	
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する
	北村 豊	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 3 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 4 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 5 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 6 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 7 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 8 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 9 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 10 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 11 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 12 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 13 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学習】 予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW (Third Edition)』( CENGAGE Learning、2017 ) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

		大田原キャンパス			
科目名	英語講読2(Basic) (ORT1)			授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	三浦 美恵子	科目担当者			
学科	視機能療法学科			学年	1 学年 期 後期
曜日時限	水曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	1 時間数 30 時間
授業の形態	演習				

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 3 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 4 回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第 5 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 6 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 7 回	Unit 17: Memory and Learning	
第 8 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 9 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 10 回	Unit 23: Traditional Medicine	
第 11 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 12 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 13 回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第 14 回	Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習:テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)  復習:担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW (Third Edition)』(CENGAGE Learning、2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明

オフィスアワー	授業初回時に指示する
その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。



	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
--	-------------------------------------

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読2(Basic) (RT1)			授業開始年度		2017年度	
学科	放射線・情報科学科		学年	1学年	期	後期	
曜日時限	水曜2限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	宮崎 路子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	白岩 英樹	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	渡部 文子	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第3回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第4回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第5回	Unit 17: Memory and Learning	
第6回	Unit 17: Memory and Learning	
第7回	Unit 17: Memory and Learning	
第8回	Unit 23: Traditional Medicine	
第9回	Unit 23: Traditional Medicine	
第10回	Unit 23: Traditional Medicine	
第11回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第12回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第13回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第14回	Review	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】          予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)          復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】          授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW ( Third Edition ) 』( CENGAGE Learning 、 2017 ) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読2(Basic) (SHM)			授業開始年度		2017年度	
学科	医療福祉・マネジメント学科		学年	1学年	期	後期	
曜日時限	木曜1限/2限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	宮崎 路子	授業曜日時限	木曜1限・木曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	渡部 文子	授業曜日時限	木曜1限・木曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	授業曜日時限	木曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく、英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために、医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的かつ分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第3回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第4回	Unit 2: WHO Constitution-Preamble	
第5回	Unit 17: Memory and Learning	
第6回	Unit 17: Memory and Learning	
第7回	Unit 17: Memory and Learning	
第8回	Unit 23: Traditional Medicine	
第9回	Unit 23: Traditional Medicine	
第10回	Unit 23: Traditional Medicine	
第11回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第12回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第13回	1 Unit from Part II, III or APPENDIXES	
第14回	Review	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW ( Third Edition ) 』( CENGAGE Learning 、 2017 ) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	初回授業で説明

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読2(Basic) (PS2)			授業開始年度	2017年度		
学科	薬学科	学年	2年	期	前期		
曜日時限	金曜1限/2限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	前期
授業の形態	演習						

科目担当責任者	宮崎 路子	授業曜日時限	金曜1限・金曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	三浦 美恵子	授業曜日時限	金曜1限・金曜2限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	授業曜日時限	金曜1限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	英文テキストを日本語に訳すのではなく英語のまま理解するためのストラテジーを習得する。また、内容理解を深めるために医療用語を中心とした語彙や高度な文法知識を学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読むことができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. まとまった英文を要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 2: WHO Constitution	
第3回	Unit 2: WHO Constitution	
第4回	Unit 2: WHO Constitution	
第5回	Unit 12: Antibiotics	
第6回	Unit 12: Antibiotics	
第7回	Unit 12: Antibiotics	
第8回	Unit 14: You are Amazing: You are Human!	
第9回	Unit 14: You are Amazing: You are Human!	
第10回	Unit 14: You are Amazing: You are Human!	
第11回	Unit 16: Color Symbolism	
第12回	Unit 16: Color Symbolism	
第13回	Unit 16: Color Symbolism	
第14回	Review	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】 予習: テキスト・音源・配布資料等チェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部『Core Spirit of IUHW (Second Edition)』(CENGAGE Learning、2012)
参考書	授業時に適宜紹介します
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	英語講読3 (Intermediate) (ST2)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	宮崎 路子		科目担当者				
学科	言語聴覚学科			学年	2 学年	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	英語講読1・2で身につけた英文読解のスキルや知識を土台に、英語の文献から正確に情報を読み取る力を養う。テーマは国連を中心に世界経済、社会問題、言語、福祉などを取り上げ、読解力のみならず語彙力と論理的思考力を鍛えることも目標とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読みエッセイなどのアウトプットに発展させることができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. アカデミックな文献を理解し、要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	General introduction to the course	
第2回	What is the United Nations? (1)	
第3回	What is the United Nations? (2)	
第4回	What is the United Nations? (3)	
第5回	Structure of the United Nations (1)	
第6回	Structure of the United Nations (2)	
第7回	Structure of the United Nations (3)	
第8回	Major issues of the United Nations (1)	
第9回	Major issues of the United Nations (2)	
第10回	Major issues of the United Nations (3)	
第11回	Major issues of the United Nations (4)	
第12回	Major issues of the United Nations (5)	
第13回	On the impact of the United Nations policies (1)	
第14回	On the impact of the United Nations policies (2)	
第15回	Overall summary	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(受講姿勢、課題など)
評価の基準	レポート 40%、その他 60%
準備学習 学習へのアドバイス	やや難解な英語の文章を読みます。予習等大変ですが、世界平和と世界経済、地球上の人々の健康そして福祉、これらに多大な影響力を持つ国連という強大な組織について学ぶことは、今後の global 社会で生き抜いていくヒントを与えてくれるでしょう。
履修条件	自らの意思でこの授業を選択して出席しているという意識を持っている事。

教科書	適宜ハンドアウトをお渡しします。
参考書	Web 辞書(初回の授業で一緒に使い方を学びます)

オフィスアワー	質問は授業の前後で受け付けます。
その他	初回授業に必ず出席すること。



		大田原キャンパス					
科目名	英語講読3 (Intermediate) (ST2)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	三浦 美恵子		科目担当者				
学科	全学科			学年	2 年生以上	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	<p>精読や翻訳、感性の醸成にまつわる諸々のアクティビティをおこなうワークショップ的な授業。</p> <p>人間は感受できないものを発信することはできない。言語にかかわる技(種)を磨きつつ、感性(花)をこまやかに働かせていくこと。他者のこころの奥から発せられた言葉を内に取りこみ、自己のもっとも深い場所に沈潜している想いを言語化するには、そのような営みが欠かせない。</p> <p>本授業では、主としてアメリカ文学(短篇)の精読や翻訳、ジャンルの異なる作品の鑑賞を通して、各々の感性のひだを形成しつつ、英語のみならず日本語自体がもつ潜在的な力を活用していくことを狙いとする。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世代を超えて継承されてきた「表現」を通して、英日両語の活用能力を向上させる。</li> <li>2. 受信・発信行為そのものに対して意識的になる。</li> <li>3. 他者(異文化)理解に対する洞察力を深めることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction、本授業「英語講読3」の構想・目的	
第 2 回	elaboration: 社会、世界に向けて自分をつきつけることで、内面に根ざす表現の言葉を現実的なものに鍛えること(大江、p.7.)	
第 3 回	serious reader: 真面目(シリアス)な読者とは、「読みなおすこと」(リリーディング)をする読者のことだ…本の持つ構造のパースペクティブのなかで読むこと(大江、p.118.)	
第 4 回	healing: 人が癒されるのは、決して受身の出来事ではない(大江、p.142.)	
第 5 回	keep trying: 戦いをつづけるように、同僚たちとのつまらない個人的なすれちがいを乗り越えて、書いたり演技したりしなさい。それも終ることなしに続けて続けてゆくように。それがきみのできることだ。(大江、p.149.)	
第 6 回	imagination: 一冊の小説を読むと、自分の想像力に勢いがついて、いまいるここ、いまある自分から一歩前へ進み出るように感じる(大江、p.169.)	
第 7 回	past, now, future: 過去と未来に向けて、そこへ行き来するように、心を開いて考えたり感じたりする訓練は、なにより私たちのいま・ここで生きる力を豊かにするものなんです(大江、p.172.)	
第 8 回	prayer: 注意力をやしなう・きたえることが、本当に祈ることができるようになるためにいちばん大切な訓練だ、ということなんです(大江、p.195.)	
第 9 回	pain: 想像力だけが、ほかの人間の痛みを感じとらせる(大江、p.207.)	
第 10 回	struggling: 私は三島のニュースを聞き、シンガポールに二葉亭四迷のお墓まいりをした後、ホテルのプールで長ながと泳ぎながら、ともかく自分は華々しい死というようなことより、二葉亭四迷のように、現実の側で働きたい、傷つくなら傷つこう、そのようにして生きられるまで生き延びよう。そう考えたものでした(大江、pp.228-229.)	
第 11 回	real: 自殺した若い眼科医・渡辺一夫先生からの手紙(大江、pp.230-231.)	
第 12 回	think-talk, think-wright: グループと個(大江、p.257.)	
第 13 回	nationalism, patriotism: 攻撃的に外へ向かうのか、自分の住む土地への愛着を基盤にするのか(大江、p.287.)	
第 14 回	style: 法律と文学作品とを同じ見方で検討することのできる「文体」の重要性(大江、p.293.)	
第 15 回	総括: われわれはなにを失い、なにを得てきたのか	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、■その他(受講姿勢・対話状況など)
評価の基準	毎回の課題として出される英日翻訳・小レポート(受講姿勢・対話状況等を含む)100%
準備学習	予習: 不明箇所や問題点を明らかにしながら、与えられた翻訳課題に取り組む(45分)
学習へのアドバイス	復習: ノートやメモ等を整理しながら、授業時に学んだことをひとつひとつ再確認しておく(15分)

	【課題等に関するフィードバック】 授業時に解説や批評、助言を行う。
履修条件	言葉や文化、さらにはその大本にある生(ライフ)そのものへの視座を深化させたい、思考をあれこれめぐらせたいという受講生を歓迎する。

教科書	授業初回時に指示する(辞書は必須)
参考書	内田樹『街場の文体論』(ミシマ社、2012年) 大江健三郎『「話して考える」と「書いて考える」』(集英社文庫、2007年)

オフィスアワー	前期:金曜4限、J210 白岩研究室
その他	<p>初回授業時に受講の規定や規範を連絡するので、受講希望者は必ず出席すること。 初回授業へ出席しなかった学生は受講が許可されない場合がある。 やむをえない理由によって欠席するときは、初回授業の開始時刻までに shiraiwa@iuhw.ac.jp 宛てにその旨を知らせること。</p> <p>授業形式や内容・進度等は受講者数やクラス状況に応じて変更されうる。</p> <p>【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当。</p>

				大田原キャンパス			
科目名	英語講読3(Intermediate) (共通)			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	白岩 英樹	科目担当者					
学科	全学科			学年	2年生以上	期	前期
曜日時限	金曜3限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	<p>精読や翻訳、感性の醸成にまつわる諸々のアクティビティをおこなうワークショップ的な授業。</p> <p>人間は感受できないものを発信することはできない。言語にかかわる技(種)を磨きつつ、感性(花)をこまやかに働かせていくこと。他者のこころの奥から発せられた言葉を内に取りこみ、自己のもっとも深い場所に沈潜している想いを言語化するには、そのような営みが欠かせない。</p> <p>本授業では、主としてアメリカ文学(短篇)の精読や翻訳、ジャンルの異なる作品の鑑賞を通して、各々の感性のひだを形成しつつ、英語のみならず日本語自体がもつ潜在的な力を活用していくことを狙いとする。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世代を超えて継承されてきた「表現」を通して、英日両語の活用能力を向上させる。</li> <li>2. 受信・発信行為そのものに対して意識的になる。</li> <li>3. 他者(異文化)理解に対する洞察力を深めることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction、本授業「英語講読3」の構想・目的	
第2回	elaboration: 社会、世界に向けて自分をつきつけることで、内面に根ざす表現の言葉を現実的なものに鍛えること(大江、p.7.)	
第3回	serious reader: 真面目(シリアス)な読者とは、「読みなおすこと」(リリーディング)をする読者のことだ…本の持つ構造のパースペクティブのなかで読むこと(大江、p.118.)	
第4回	healing: 人が癒されるのは、決して受身の出来事ではない(大江、p.142.)	
第5回	keep trying: 戦いをつづけるように、同僚たちとのつまらない個人的なすれちがいを乗り越えて、書いたり演技したりしなさい。それも終ることなしに続けて続けてゆくように。それがきみのできることだ。(大江、p.149.)	
第6回	imagination: 一冊の小説を読むと、自分の想像力に勢いがついて、いまいるここ、いまある自分から一歩前へ進み出るように感じる(大江、p.169.)	
第7回	past, now, future: 過去と未来に向けて、そこへ行き来するように、心を開いて考えたり感じたりする訓練は、なにより私たちのいま・ここで生きる力を豊かにするものなんです(大江、p.172.)	
第8回	prayer: 注意力をやしなう・きたえることが、本当に祈ることができるようになるためにいちばん大切な訓練だ、ということなんです(大江、p.195.)	
第9回	pain: 想像力だけが、ほかの人間の痛みを感じとらせる(大江、p.207.)	
第10回	struggling: 私は三島のニュースを聞き、シンガポールに二葉亭四迷のお墓まいりをした後、ホテルのプールで長ながと泳ぎながら、ともかく自分は華々しい死というようなことより、二葉亭四迷のように、現実の側で働きたい、傷つくなら傷つこう、そのようにして生きられるまで生き延びよう。そう考えたものでした(大江、pp.228-229.)	
第11回	real: 自殺した若い眼科医・渡辺一夫先生からの手紙(大江、pp.230-231.)	
第12回	think, talk, think-wright: グループと個(大江、p.257.)	
第13回	nationalism, patriotism: 攻撃的に外へ向かうのか、自分の住む土地への愛着を基盤にするのか(大江、p.287.)	
第14回	style: 法律と文学作品とを同じ見方で検討することのできる「文体」の重要性(大江、p.293.)	
第15回	総括	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、■その他(受講姿勢・対話状況など)
評価の基準	毎回の課題として出される英日翻訳・小レポート(受講姿勢・対話状況等を含む)100%
準備学習	予習: 不明箇所や問題点を明らかにしながら、与えられた翻訳課題に取り組む(45分)
学習へのアドバイス	復習: ノートやメモ等を整理しながら、授業時に学んだことをひとつひとつ再確認しておく(15分)

	【課題等に関するフィードバック】 授業時に解説や批評、助言を行う。
履修条件	言葉や文化、さらにはその大本にある生(ライフ)そのものへの視座を深化させたい、思考をあれこれめぐらせたいという受講生を歓迎する。

教科書	授業初回時に指示する(辞書 は必須)
参考書	内田樹『街場の文体論』(ミシマ社、2012年) 大江健三郎『「話して考える」と「書いて考える」』(集英社文庫、2007年)

オフィスアワー	前期:金曜4限、J210 研究室 後期:月曜2限、J210 研究室
その他	初回授業時に受講の規定や規範を連絡するので、受講希望者は必ず出席すること。 定員の都合上、初回授業へ出席しなかった学生は受講が許可されない場合がある。 やむをえない理由によって欠席するときは、初回授業の開始時刻までに shiraiwa@iuhw.ac.jp 宛てにその旨を知らせること。  【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス						
科目名	英語講読4(Advanced)(ST2)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	宮崎 路子	科目担当者						
学科	言語聴覚学科				学年	2 学年	期	後期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択必修	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	英語講読1・2・3で身につけた英文読解のスキルや知識を土台に、英語の文献に書かれた内容を要約できる力を養う。神経科医 Oliver W. Sacks の著作物その他の文献を通して、言語、福祉、障がい、対人コミュニケーション(障がい者とのコミュニケーション)、社会問題などのテーマを扱い、読解力のみならず語彙力と論理的思考力を鍛えることも目標とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. 様々なタイプの英文を読みエッセイなどのアウトプットに発展させることができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. アカデミックな文献を理解し、要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	General introduction to the course	
第2回	Seven paradoxical tales: the first story (1)	
第3回	Seven paradoxical tales: the first story (2)	
第4回	Seven paradoxical tales: the second story (1)	
第5回	Seven paradoxical tales: the second story (2)	
第6回	Seven paradoxical tales: the third story (1)	
第7回	Seven paradoxical tales: the third story (2)	
第8回	Seven paradoxical tales: the fourth story (1)	
第9回	Seven paradoxical tales: the fourth story (2)	
第10回	Seven paradoxical tales: the fifth story (1)	
第11回	Seven paradoxical tales: the fifth story (2)	
第12回	Seven paradoxical tales: the sixth story (1)	
第13回	Seven paradoxical tales: the sixth story (2)	
第14回	Seven paradoxical tales: the seventh story (1)	
第15回	Seven paradoxical tales: the seventh story (2)、総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(受講姿勢、課題など)
評価の基準	レポート 40%、その他 60%
準備学習 学習へのアドバイス	やや難解な英語の文章を読みます。予習等大変ですが、言語、福祉、障がい、対人コミュニケーション(障がい者とのコミュニケーション)、社会問題などのテーマについて学ぶことは、今後医療・福祉の現場で働いていく者にとって、非常に有益であるといえるでしょう。
履修条件	自らの意思でこの授業を選択しているという意識を持っている事。

教科書	適宜ハンドアウトをお渡しします。
参考書	Web 辞書(初回の授業で一緒に使い方を学びます)

オフィスアワー	質問は授業の前後で受け付けます。
その他	初回授業に必ず出席すること。

		大田原キャンパス					
科目名	英語講読4(Advanced)(ST2)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	三浦 美恵子		科目担当者				
学科	全学科			学年	2年生以上	期	後期
曜日時限	火曜2限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	<p>精読や翻訳、感性の醸成にまつわる諸々のアクティビティをおこなうワークショップ的な授業。</p> <p>人間は感受できないものを発信することはできない。言語にかかわる技(種)を磨きつつ、感性(花)をこまやかに働かせていくこと。他者のこころの奥から発せられた言葉を内に取りこみ、自己のもっとも深い場所に沈潜している想いを言語化するには、そのような営みが欠かせない。</p> <p>本授業では、主としてアメリカ文学(短篇)の精読や翻訳、ジャンルの異なる作品の鑑賞を通して、各々の感性のひだを形成しつつ、英語のみならず日本語自体がもつ潜在的な力を活用していくことを狙いとする。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世代を超えて継承されてきた「表現」を通して、英日両語の活用能力を向上させる。</li> <li>2. 受信・発信行為そのものに対して意識的になる。</li> <li>3. 他者(異文化)理解に対する洞察力を深めることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction、本授業「英語講読4」の構想・目的	
第2回	zoom in & out: 説明のうまい作家に共通するのは、遠くから、巨視的・一望俯瞰的に見たかと思うと、一気に微視的に、顕微鏡的な距離にまでカメラ・アイが接近する、この焦点距離の行き来の自在さ(内田、p.11.)	
第3回	fear & respect: 「お願いします。私の言いたいことをわかってください」と「お願いします。私を通してください」(内田、p.15.)	
第4回	writing: 文章を書くということは、いつだって「限界に挑戦する」ということ(内田、p.34.)	
第5回	reading: 一頁めくるごとに僕たちは解釈のしかたを変えている(内田、p.57.)	
第6回	literacy: 自分では自分が何をしているのかわからないままに行使されている能力(内田、p.59.)	
第7回	words to be written: 「これから書かれるはずの文字」が「今書かれている文字」を呼び起こしている(内田、p.93.)	
第8回	cultivation: 文化に対する関係…「すべてを忘れた後にさらに残るもの」(内田、p.132.)	
第9回	expression: リーダブルでありながら、前代未聞のことを語る(内田、p.151.)	
第10回	sending messages: 「万人向きのメッセージ」なるものは実は誰にも届かないメッセージ(内田、p.167.)	
第11回	long view: 広めの射程で自分をとらえる(内田、p.184.)	
第12回	generation: テキストは終わることのない絡み合いを通じて、自らを生成し、自らを織り上げてゆく…この織物——このテクスチュア——のうちに呑み込まれて、主体は解体する(内田、p.197.)	
第13回	creation against the real world: 実際にストレスを解決する手段を行使しなくても、そういう手段を持っていると思うだけで、ストレスはネガティブな効果を及ぼすことができなくなる(内田、p.214.)	
第14回	foreign-language learning: 外国語の学習というのは、本来、自分の種族には理解できない概念や、存在しない感情、知らない世界の見方を、他の言語集団から学ぶこと(内田、p.244.)	
第15回	総括: われわれはなにを失い、なにを得てきたのか	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、■その他(受講姿勢・対話状況など)
評価の基準	毎回の課題として出される英日翻訳・小レポート(受講姿勢・対話状況等を含む)100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>予習: 不明箇所や問題点を明らかにしながら、与えられた翻訳課題に取り組む(45分)</p> <p>復習: ノートやメモ等を整理しながら、授業時に学んだことをひとつおとり再確認しておく(15分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p>

	授業時に解説や批評、助言を行う。
履修条件	言葉や文化、さらにはその大本にある生(ライフ)そのものへの視座を深化させたい、思考をあれこれめぐらせたいという受講生を歓迎する。
教科書	授業初回時に指示する(辞書 は必須)
参考書	内田樹『街場の文体論』(ミシマ社、2012年) 大江健三郎『「話して考える」と「書いて考える」』(集英社文庫、2007年)
オフィスアワー	後期:月曜2限、J210 白岩研究室
その他	初回授業時に受講の規定や規範を連絡するので、受講希望者は必ず出席すること。 定員の都合上、初回授業へ出席しなかった学生は受講が許可されない場合がある。 やむをえない理由によって欠席するときは、初回授業の開始時刻までに shiraiwa@iuhw.ac.jp 宛てにその旨を知らせること。  【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当。

		大田原キャンパス					
科目名	英語講読4(Advanced)(共通)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	白岩 英樹	科目担当者					
学科	言語聴覚学科			学年	2 学年	期	前期
曜日時限	金曜 3 限	必修/選択	選択必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	英語講読 1・2 で身につけた英文読解のスキルや知識を土台に、英語の文献から正確に情報を読み取る力を養う。テーマは医療、科学、経済、社会問題などを取り上げ、読解力のみならず語彙力と論理的思考力を鍛えることも目標とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未知の単語を文脈から推測できる。</li> <li>2. 専門分野に関連する用語を理解できる。</li> <li>3. 背景知識やスキーマを活用し内容を理解できる。</li> <li>4. 事実と著者の意見を区別できる。</li> <li>5. さまざまなタイプの英文を読み、ディスカッションやエッセイなどのアウトプットに発展させることができる。</li> <li>6. クリティカルシンキング(客観的に分析的に読むこと)ができる。</li> <li>7. 語彙力・文法力を養うことができる。</li> <li>8. アカデミックな文献を理解し、要約できる。</li> <li>9. 段落の構造を知り、段落の主題を理解できる。</li> <li>10. 自分の理解を客観的に評価できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	1. Introduction	
第 2 回	2. 教材①	
第 3 回	3. 教材①	
第 4 回	4. 教材②	
第 5 回	5. 教材②	
第 6 回	6. 教材①②の Review Test	
第 7 回	7. 教材③	
第 8 回	8. 教材③	
第 9 回	9. 教材④	
第 10 回	10. 教材④	
第 11 回	11. 教材③④の Review Test	
第 12 回	12. 教材⑤	
第 13 回	13. 教材⑤	
第 14 回	14. 教材⑤の Review Test	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験、小テスト、その他(受講態度や課題)
評価の基準	定期試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【予習】 次回の授業内容の教材を読んで、内容を把握しておくこと。 未知の語彙を調べておくこと。(30 分程度)</p> <p>【復習】 授業内容が理解できたかどうか確認すること。(30 分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	特になし

教科書	初回授業で説明
参考書	特になし

オフィスアワー	【通年】 水曜 4 限、木曜 4 限 (C502)
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当



				大田原キャンパス			
科目名	英語CALL1 (Primary) (NS1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	看護学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	月曜 3 限/4 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	河内 健志	授業曜日時限	月曜 3 限・月曜 4 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	白岩 英樹	授業曜日時限	月曜 4 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学修】          予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)          復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】          授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』 (IBC、2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	-------------------------------------

		大田原キャンパス			
科目名	英語CALL1 (Primary) (PT1)	授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	河内 健志	科目担当者			
学科	理学療法学科	学年	1 学年	期	前期
曜日時限	水曜 2 限/3 限	必修/選択	必修	単位数	1
授業の形態	演習	時間数	30 時間		

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学修】</p> <p>予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)</p> <p>復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』(IIBC、2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー	授業初回時に指示する
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス			
科目名	英語CALL1 (Primary) (OT1)			授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	三浦 美恵子	科目担当者			
学科	作業療法学科			学年	1 学年 期 前期
曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	1 時間数 30 時間
授業の形態	演習				

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学修】 予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー	初回授業時に通知する
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

				大田原キャンパス			
科目名	英語CALL1 (Primary) (ST1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	言語聴覚学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	白岩 英樹	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学修】 予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』 (IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	-------------------------------------

		大田原キャンパス	
科目名	英語CALL1 (Primary) (ORT1)	授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	---	科目担当者	
学科	視機能療法学科	学年	1 学年 期 前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	必修
授業の形態	演習	単位数	1 時間数 30 時間

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学修】 予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』 (IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー	授業初回時に指示する
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当



				大田原キャンパス			
科目名	英語CALL1 (Primary) (RT1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	放射線・情報科学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	木曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学修】 予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』 (IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	-------------------------------------

					大田原キャンパス		
科目名	英語CALL1 (Primary) (SHM1)				授業開始年度	2017 年度	
学科	医療福祉・マネジメント学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	火曜 5 限 金曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	佐藤 雄介	授業曜日時限	火曜 5 限・金曜 3 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	河内 健志	授業曜日時限	金曜 3 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学修】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』 (IBC、2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

				大田原キャンパス			
科目名	英語CALL1 (Primary) (PS1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	薬学科		学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	金曜 1 限/2 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	白岩 英樹	授業曜日時限	金曜 1 限・金曜 2 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	河内 健志	授業曜日時限	金曜 2 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 1: A University Student	
第 3 回	Unit 1: A University Student	
第 4 回	Unit 1: A University Student	
第 5 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 6 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 7 回	Unit 2: What's Your Major?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 10 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 11 回	Unit 10: In the Outpatient Department	
第 12 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 13 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 14 回	Unit 13: At the Reception Desk	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業に参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学修】          予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)          復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】          授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition ( MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集1』 (IIBC、2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

				大田原キャンパス			
科目名	英語CALL2(Basic) (NS1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	看護学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	月曜 2 限/4 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	河内 健志	授業曜日時限	月曜 2 限・月曜 4 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	白岩 英樹	授業曜日時限	月曜 4 限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 3 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 4 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 5 回	Unit 7: International Activities	
第 6 回	Unit 7: International Activities	
第 7 回	Unit 7: International Activities	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 10 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 11 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 12 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 13 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 14 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(筆記および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】 予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) 復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--



		大田原キャンパス	
科目名	英語CALL2(Basic) (PT1)	授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	河内 健志	科目担当者	
学科	理学療法学科	学年	1 学年 期 後期
曜日時限	水曜 2 限/3 限 必修/選択 必修	単位数	1 時間数 30 時間
授業の形態	演習		

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 3 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 4 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 5 回	Unit 9: At the ADL Laboratory	
第 6 回	Unit 9: At the ADL Laboratory	
第 7 回	Unit 9: At the ADL Laboratory	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第 10 回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第 11 回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第 12 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 13 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 14 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(筆記および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学習】 予習:テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分) 復習:担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー	授業初回時に指示する
---------	------------

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

		大田原キャンパス					
科目名	英語CALL2(Basic) (OT1)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	三浦 美恵子	科目担当者					
学科	作業療法学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 3 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 4 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 5 回	Unit 9: At the ADL Laboratory	
第 6 回	Unit 9: At the ADL Laboratory	
第 7 回	Unit 9: At the ADL Laboratory	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第 10 回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第 11 回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第 12 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 13 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 14 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学習】 予習:テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) 復習:担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー	授業初回時に指示する
---------	------------

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

				大田原キャンパス			
科目名	英語CALL2(Basic) (ST1)			授業開始年度		2017 年度	
学科	言語聴覚学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	白岩 英樹	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 3 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 4 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 5 回	Unit 6: What is Speech-Language Therapy?	
第 6 回	Unit 6: What is Speech-Language Therapy?	
第 7 回	Unit 6: What is Speech-Language Therapy?	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 10 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 11 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 12 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 13 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 14 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	--

					大田原キャンパス		
科目名	英語CALL2(Basic) (RT1)				授業開始年度		2017年度
学科	放射線・情報科学科			学年	1学年	期	後期
曜日時限	木曜 4限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	三浦 美恵子	オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	佐藤 雄介	オフィスアワー	授業初回時に指示する

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 4: Radiological Technologists	
第3回	Unit 4: Radiological Technologists	
第4回	Unit 4: Radiological Technologists	
第5回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第6回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第7回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第8回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第9回	Unit 11: Medical Tests	
第10回	Unit 11: Medical Tests	
第11回	Unit 11: Medical Tests	
第12回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第13回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第14回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学習】 予習:テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分) 復習:担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IBC, 2016)
-----	---

参 考 書	授業時に適宜紹介する。
その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当



		大田原キャンパス						
科目名	英語CALL2(Basic) (ORT1)				授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	---	科目担当者						
学科	視機能療法学科				学年	1 学年	期	後期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 3 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 4 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 5 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 6 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 7 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 12: Refraction Test for a Child	
第 10 回	Unit 12: Refraction Test for a Child	
第 11 回	Unit 12: Refraction Test for a Child	
第 12 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 13 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 14 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC, 2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー	初回授業にて連絡する。
その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

					大田原キャンパス		
科目名	英語CALL2(Basic) (SHM1)				授業開始年度		2017年度
学科	医療福祉・マネジメント学科			学年	1学年	期	後期
曜日時限	火曜 5限 金曜 3限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

科目担当責任者	佐藤 雄介	授業曜日時限	火曜 5限・金曜 3限
		オフィスアワー	授業初回時に指示する
科目担当責任者	河内 健志	授業曜日時限	金曜 3限
		オフィスアワー	授業初回時に指示

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第3回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第4回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第5回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第6回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第7回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第8回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第9回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第10回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第11回	Unit 14: In the Rehabilitation Room	
第12回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第13回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第14回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(筆記および実技)70%、その他30%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に授業へ参加し、期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。 【準備学習】 予習:テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分) 復習:担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	

教科書	本学語学教育部 Clinical Scenes, Second Enlarged Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2017) ETS『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1』(IIBC、2016)
参考書	授業時に適宜紹介する。
その他	TOEIC IP において 550 点以上の取得を目指す。 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス			
科目名	英語CALL2(Basic) (PS2)	授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	白岩 英樹	科目担当者			
学科	薬学科	学年	2 学年	期	後期
曜日時限	金曜 1 限/2 限	必修/選択	必修	単位数	1
授業の形態	演習	時間数	30 時間		

授業の概要 (主題)	医療福祉の現場で用いられる会話を中心に使用頻度の高い医療用語やフレーズを学習する。内容理解に加えてディクテーションやシャドウイングを行い聞く・話す中心のスキルを身につける。さらに、視聴覚教材を用いて、リスニング力の強化をはかる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メインアイデアを聞きとることができる。</li> <li>2. 特定の情報を聞き分け、英語で記述できる。</li> <li>3. 会話の内容を推測できる。</li> <li>4. 会話の内容を要約できる。</li> <li>5. 文脈から単語の意味を推測することができる。</li> <li>6. 医療現場で用いられるフレーズを用いて会話ができる。</li> <li>7. 自分の経験や既存の知識に結び付けて理解できる。</li> <li>8. 単語単位やチャンク単位で音を把握し理解できる。</li> <li>9. 正しい発音でアウトプットできる。</li> <li>10. 英文をパラフレーズできる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 3 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 4 回	Unit 5: What is Non-verbal Communication?	
第 5 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 6 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 7 回	Unit 8: Deaf Culture Awareness	
第 8 回	Listening & Vocabulary test (ALC Network Academy 2)	
第 9 回	Unit 11: Medical Tests	
第 10 回	Unit 11: Medical Tests	
第 11 回	Unit 11: Medical Tests	
第 12 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 13 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 14 回	Unit 15: At the Pharmacy Counter	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験、■実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、 ■その他(授業態度、課題など)
評価の基準	試験(各筆記試験および実技)70%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>積極的に授業へ参加し、学期末に実施される TOEIC IP および期末試験を受験していることが単位認定のための最低条件となる。</p> <p>【準備学習】  予習: テキスト・音源・配布資料等をチェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	本学語学教育部編纂 Clinical Scenes, Second Edition (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2015)
参考書	授業時に適宜紹介する。

その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当
-----	----------------------------------

						大田原キャンパス	
科目名	英語会話1 (Primary)					授業開始年度	2017 年度
学科	All 学科	学年	1 学年		期	1st 期	
必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	授業の形態	演習

科目担当責任者	コータ	授業曜日時限	月曜 3 限・月曜 5 限 火曜 3 限・火曜 5 限 水曜 4 限・水曜 5 限 木曜 1 限・木曜 3 限
		オフィスアワー	Wednesday lunchtime & Friday 5th period
科目担当責任者	コーリー・ネルソン	授業曜日時限	木曜 4 限・木曜 5 限
		オフィスアワー	授業の前後に対応します。
科目担当責任者	ワーバートン	授業曜日時限	金曜 5 限
		オフィスアワー	授業の前後に対応します。

授業の概要 (主題)	Classes focus on spoken English grammar and functions and consist of explanations, exercises, and conversation activities. この授業は基本的に英語で行われますが、必要に応じて日本語でも説明されます。
授業の到達目標	This is a Primary English conversation class that aims to improve Students' basic conversation skills. By the end of this course each student should be able to: 1. Ask & Give Personal Information 2. Describe People 3. Discuss Daily Activities 4. Describe

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Meeting New People	
第 3 回	Meeting New People	
第 4 回	Describing People	
第 5 回	Describing People	
第 6 回	Daily Activities	
第 7 回	Daily Activities	
第 8 回	Describing Locations	
第 9 回	Giving Directions	
第 10 回	Talking About the Past	
第 11 回	Talking About the Past	
第 12 回	Test Review	
第 13 回	Speaking Tests	
第 14 回	Speaking Tests	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	Grades will be based on class participation (50%) & 1 speaking test (50%).
準備学習 学習へのアドバイス	Because class participation is such an important part of the grade, regular attendance is very important. This class is limited to 35 students (35 人以下).
履修条件	なし

教科書	English Firsthand 1, New Series, (Pearson Longman Asia ELT)
参考書	Japanese/English and English/Japanese Dictionaries of student's choice

その他	
-----	--

						大田原キャンパス	
科目名	英語会話2 (Primary)					授業開始年度	2017 年度
学科	All 学科	学年	1 学年		期	2nd 期	
必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	授業の形態	演習

科目担当責任者	コータ	授業曜日時限	月曜 3 限・月曜 5 限 火曜 3 限・火曜 5 限 水曜 5 限 木曜 1 限・木曜 3 限
		オフィスアワー	Wednesday lunchtime & Friday 5th period
科目担当責任者	コーリー・ネルソン	授業曜日時限	木曜 4 限・木曜 5 限
		オフィスアワー	授業の前後に対応します。
科目担当責任者	ワーバートン	授業曜日時限	金曜 5 限
		オフィスアワー	授業の前後に対応します。

授業の概要 (主題)	Classes focus on spoken English grammar and functions and consist of explanations, exercises, and conversation activities. この授業は基本的に英語で行われますが、必要に応じて日本語でも説明されます。
授業の到達目標	This is a Primary English conversation class that aims to improve Students' basic conversation skills. By the end of this course each student should be able to: 1. Ask & Give Personal Information 2. Describe People 3. Discuss Daily Activities 4. Describe

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Talking About Interests	
第 3 回	Talking About Interests	
第 4 回	Getting Information	
第 5 回	Getting Information	
第 6 回	Talking About Plans	
第 7 回	Talking About Plans	
第 8 回	Talking About Shopping	
第 9 回	Following Instructions	
第 10 回	Talking About Music	
第 11 回	Talking About Music	
第 12 回	Test Review	
第 13 回	Speaking Tests	
第 14 回	Speaking Tests	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	Grades will be based on class participation (50%) & 1 speaking test (50%).
準備学習 学習へのアドバイス	Because class participation is such an important part of the grade, regular attendance is very important. This class is limited to 35 students (35 人以下).
履修条件	なし

教科書	English Firsthand 1, New Series, (Pearson Longman Asia ELT)
参考書	Japanese/English and English/Japanese Dictionaries of student's choice

その他	
-----	--

		大田原キャンパス					
科目名	英語会話3 (Intermediate)		授業開始年度	2017 年度			
科目担当責任者	コータ	科目担当者					
学科	All 学科		学年	2+学年	期	1st 期	
曜日時限	月曜 1 限 水曜 1 限 金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	<p>Classes focus on spoken English grammar and functions and consist of explanations, exercises, and conversation activities. この授業は基本的に英語で行われますが、必要に応じて日本語でも説明されます。</p> <p>This class is for students ① who want to take part in IUHW's overseas training program, ② who want to study abroad in the future, or ③ who want to improve their level of spoken healthcare/hospital English. この授業は次の①②③の学生のために開講します。 ①海外保健福祉事情に参加する学生 ②将来、海外留学を考えている学生 ③医療・病院内での英会話力を伸ばしたい学生</p>
授業の到達目標	<p>This is an intermediate English conversation class that aims to improve Students' knowledge of healthcare/hospital English and basic conversation skills in these settings. By the end of this course, each student should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discuss patients and symptoms</li> <li>2. Discuss ward duties and patient diet</li> <li>3. Discuss the body and medication</li> <li>4. Communicate with hospital team members</li> <li>5. Discuss patient care, recovery, and aging</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Meeting your team & patients	
第 3 回	Patient details & symptoms	
第 4 回	The patient ward	
第 5 回	Food & measurements	
第 6 回	The body & movement (limbs, torso, & head)	
第 7 回	The body & movement (setting goals & ROM exercises)	
第 8 回	Medication (forms, dosages, & frequency)	
第 9 回	Medication (management & side effects)	
第 10 回	The hospital team (handling patients & communicating by phone)	
第 11 回	The hospital team (giving simple safety instructions)	
第 12 回	Recovery & elderly patients (in the recovery room)	
第 13 回	Recovery & elderly patients (assessing elderly patients)	
第 14 回	Test Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	Grades will be based on class participation (50%) & 1 speaking test (50%).
準備学習 学習へのアドバイス	<p>Because class participation is such an important part of the grade, regular attendance is required. This class is limited to 35 students (35 人以下).</p> <p>Class Preparation (予習): Study and translate vocabulary lists as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p> <p>Class Review (復習): Complete textbook exercises as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p>



履修条件	なし
教科書	English for Nursing 1, Vocational English Course Book (Pearson Longman ELT) Clinical Scenes, Second Edition (Macmillan Language House)
参考書	Japanese/English and English/Japanese dictionaries (including appropriate medical terminology) 医学用語を調べるための英和・和英辞書を必ず持ってくること。
オフィスアワー	Wednesday lunchtime & Friday 5th period
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	英語会話4 (Advanced)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	コータ	科目担当者					
学科	All 学科			学年	2+学年	期	2nd 期
曜日時限	月曜 1 限 水曜 1 限 金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	<p>Classes focus on spoken English grammar and functions for hospital &amp; healthcare settings and usage including vocabulary, exercises, listening and conversation activities. この授業は基本的に英語で行われますが、必要に応じて日本語でも説明されます。</p> <p>This class is for students ① who want to take part in IUHW's overseas training program, ② who want to study abroad in the future, or ③ who want to improve their level of spoken healthcare/hospital English. この授業は次の①②③の学生のために開講します。 ①海外保健福祉事情に参加する学生 ②将来、海外留学を考えている学生 ③医療・病院内での英会話力を伸ばしたい学生</p>
授業の到達目標	<p>This is an advanced English conversation class that aims to improve Students' knowledge of healthcare/hospital English and basic conversation skills in these settings. By the end of this course, each student should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discuss hospital admissions, patient interviews, and pain assessments</li> <li>2. Discuss injuries and vital signs</li> <li>3. Discuss patient hygiene and ADL</li> <li>4. Discuss patient elimination of bodily waste</li> <li>5. Discuss discharge from the hospital</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Discussing hospital admissions	
第 3 回	Talking about pain	
第 4 回	Talking about pain	
第 5 回	Talking about vital signs	
第 6 回	Talking about vital signs	
第 7 回	Talking about symptoms	
第 8 回	Talking about symptoms	
第 9 回	Discussing food, nutrition, & allergies	
第 10 回	Talking about patients' personal care	
第 11 回	Discussing hygiene	
第 12 回	Talking about bodily waste and elimination	
第 13 回	Discussing patient discharge from the hospital	
第 14 回	Test Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	Grades will be based on class participation (50%) & 1 written test (50%).
準備学習 学習へのアドバイス	<p>Because class participation is such an important part of the grade, regular attendance is required. This class is limited to 35 students (35 人以下).</p> <p>Class Preparation (予習): Study and translate vocabulary lists as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p> <p>Class Review (復習): Complete textbook exercises as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p>

履修条件	なし
教科書	English for Nursing 1, Vocational English Course Book (Pearson Longman ELT) Clinical Scenes, Second Edition (Macmillan Language House)
参考書	Japanese/English and English/Japanese dictionaries (including appropriate medical terminology) 医学用語を調べるための英和・和英辞書を必ず持ってくること。
オフィスアワー	Wednesday lunchtime & Friday 5th period
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	聖書英語1 (Primary)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	宮崎 路子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	<p>聖書ほど多くの言語に訳され、多くの人に読まれている書物はないでしょう。また多くの人々の人生に多大な影響も残しています。マハトマ・ガンジーも「私の生涯に最も深い影響を与えた書物は聖書である」と言っています。</p> <p>聖書は、西欧の歴史や文化を理解するための書物としても、また優れた文学書としても、名言・格言集としても読むことができますが、この授業では、身につけておくべき教養の一つとして聖書の中の有名なエピソードを中心にして、1 年間で流れが大体分かるように読んでいきます。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖書の中の有名なエピソードを英語で読み、内容を理解できる。</li> <li>2. 英文読解力を高め、語彙力を増強することができる。</li> <li>3. 聖書に由来する海外のさまざまな文化的側面を知り、教養を深めることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	聖書とは？ 旧約聖書と新約聖書はどう違うのか？	
第 2 回	天地創造	
第 3 回	アダムとイブ	
第 4 回	カインとアベルー弟殺し	
第 5 回	ノアの箱舟	
第 6 回	バベルの塔	
第 7 回	善きサマリア人のたとえ	
第 8 回	3 人の召使いのたとえ話	
第 9 回	アブラハムとサラ	
第 10 回	出エジプト	
第 11 回	モーセの十戒	
第 12 回	ダビデとゴリアト	
第 13 回	放蕩息子のたとえ	
第 14 回	山上の垂訓	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験(筆記)、中間テストとしての暗誦
評価の基準	定期試験(筆記)と中間テストとしての英語暗誦
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【予習】 次回の授業で学修する内容を下調べしておき、配布資料の空欄に書き込んでおく。(30 分程度) 日本語の聖書を読んでおくと内容が理解しやすいでしょう。</p> <p>【復習】 授業の内容が理解できたかどうかを各自確認しておくこと。(30 分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	なし

教科書	Good News Bible (Today's English Version) American Bible Society 刊
参考書	『旧約聖書入門』『新約聖書入門』 三浦綾子著 その他プリントを適宜配布する。

オフィスアワー	【通年】 水曜 4 限、木曜 4 限(C 棟 502)
その他	<p>定員は 45 名とする。</p> <p>【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当</p>

		大田原キャンパス	
科目名	聖書英語2(Basic)	授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	宮崎 路子	科目担当者	
学科	全学科	学年	全学年
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	選択
授業の形態	演習	単位数	1
		期	後期
		時間数	30 時間

授業の概要 (主題)	<p>聖書ほど多くの言語に訳され、多くの人に読まれている書物はないでしょう。また多くの人々の人生に多大な影響も残しています。マハトマ・ガンジーも「私の生涯に最も深い影響を与えた書物は聖書である」と言っています。</p> <p>聖書は、西欧の歴史や文化を理解するための書物としても、また優れた文学書としても、名言・格言集としても読むことができますが、この授業では、身につけておくべき教養の一つとして聖書の中の有名なエピソードを中心にして、1年間で流れが大体分かるように読んでいきます。</p> <p>できれば前期の授業を履修していることが望ましいです。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖書の中の有名なエピソードを英語で読み、内容を理解できる。</li> <li>2. 英文読解力を高め、語彙力を増強することができる。</li> <li>3. 聖書に由来する海外のさまざまな文化的側面を知り、教養を深めることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	聖書とは？ 旧約聖書と新約聖書はどう違うのか？前期の復習	
第2回	ダビデとゴリアテの戦い	
第3回	ダビデとヨナタンの友情物語	
第4回	ダビデと人妻バテシエバ	
第5回	ソロモン王の知恵	
第6回	詩編 23 編	
第7回	悲運の巨人サムソン	
第8回	ルツ物語	
第9回	出エジプト 10 の災い	
第10回	弟子の足を洗うイエス	
第11回	黄金律	
第12回	第一コリント 13 章	
第13回	主の祈り	
第14回	初めてのクリスマス	
第15回	総括	

成績評価の方法	定期試験(筆記)、中間テストとしての暗誦
評価の基準	定期試験(筆記)と中間テストとしての英語暗誦
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【予習】 次回の授業で学修する内容を下調べしておき、配布資料の空欄に書き込んでおく。(30分程度)</p> <p>日本語の聖書を読んでおくことと内容が理解しやすいでしょう。</p> <p>【復習】 授業の内容が理解できたかどうかを各自確認しておくこと。(30分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	なし

教科書	Good News Bible (Today's English Version) American Bible Society 刊
参考書	『旧約聖書入門』『新約聖書入門』 三浦綾子著 その他プリントを適宜配布する。

オフィスアワー	【通年】水曜 4 限、木曜 4 限(C 棟 502)
その他	<p>定員は 45 名とする。</p> <p>【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当</p>

		大田原キャンパス					
科目名	医学英語1 (Primary)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	宮崎 路子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	医療系の英文を読み解くには、Grammar や Structure, Vocabulary といった基本が非常に大切である。この授業では、身につけているようで曖昧な文法の知識や構造上の主語の把握、文の論理的な展開に必要な語句などを確認しつつ、医療系英文の読解力向上を目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書で扱う医学用語や略語を理解し、習得できる。</li> <li>2. 本文を読み、内容を把握できる。</li> <li>3. 英文の構造を理解して、正確に読むことができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	Unit 2: Sugar in Danger	
第 3 回	Unit 2: Sugar in Danger	
第 4 回	Unit 2: Sugar in Danger	
第 5 回	Unit 6: How Emergency Rooms Work	
第 6 回	Unit 6: How Emergency Rooms Work	
第 7 回	Unit 6: How Emergency Rooms Work	
第 8 回	Review Test	
第 9 回	Unit 9: Curing Peanut Allergies	
第 10 回	Unit 9: Curing Peanut Allergies	
第 11 回	Unit 9: Curing Peanut Allergies	
第 12 回	Unit 11: AED	
第 13 回	Unit 11: AED	
第 14 回	Unit 11: AED	
第 15 回	Review Test	

成績評価の方法	定期試験、Review Test、その他
評価の基準	定期試験 40%、Review Test 30%、その他課題等 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【予習】 次回の学修内容を自分で一度読んで内容を把握しておくこと。 未知の語彙は調べておくこと。(30 分程度)</p> <p>【復習】 授業内容を理解できたかどうか確認しておくこと。(30 分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や助言等を行う。</p>
履修条件	なし

教科書	Caregiver--New Edition--Reading the Current Medical World (朝日出版社、2015 年)
参考書	ALC Net Academy2 の「医学英語」から課題を出すので積極的に取り組むこと。

オフィスアワー	【通年】 水曜 4 限、木曜 4 限、(C 棟 502)
その他	<p>定員は 45 名とする。(受講希望者は初回授業に必ず出席すること)</p> <p>【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当</p>

		大田原キャンパス					
科目名	医学英語2(Basic)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	宮崎 路子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜3限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	医療系の英文を読み解くには、Grammar や Structure, Vocabulary といった基本が非常に大切である。この授業では、身につけているようで曖昧な文法の知識や構造上の主語の把握、文の論理的な展開に必要な語句などを確認しつつ、医療系英文の読解力向上を目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書で扱う医学用語や略語を理解し、習得できる。</li> <li>2. 本文を読み、内容を把握できる。</li> <li>3. 英文の構造を理解して、正確に読むことができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Introduction	
第2回	Unit 3: Adult Diapers Outsell Baby Diapers	
第3回	Unit 3: Adult Diapers Outsell Baby Diapers	
第4回	Unit 3: Adult Diapers Outsell Baby Diapers	
第5回	Unit 1: Summer Weight Gain	
第6回	Unit 1: Summer Weight Gain	
第7回	Unit 1: Summer Weight Gain	
第8回	Review Test	
第9回	Unit 7: Keep Your Heart Moving	
第10回	Unit 7: Keep Your Heart Moving	
第11回	Unit 7: Keep Your Heart Moving	
第12回	Unit 10: Cancer and Poverty	
第13回	Unit 10: Cancer and Poverty	
第14回	Unit 10: Cancer and Poverty	
第15回	Review Test	

成績評価の方法	定期試験、Review Test、その他
評価の基準	定期試験 40%、Review Test 30%、その他課題等 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【予習】 次回の学修内容を自分で一度読んで内容を把握しておくこと。 未知の語彙は調べておくこと。(30分程度)</p> <p>【復習】 授業内容を理解できたかどうか確認しておくこと。(30分程度)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や助言等を行う。</p>
履修条件	なし

教科書	Caregiver--New Edition--Reading the Current Medical World (朝日出版社、2015年)
参考書	ALC Net Academy2 の「医学英語」から課題を出すので積極的に取り組むこと。

オフィスアワー	【通年】 水曜4限、木曜4限、(C棟502)
その他	<p>定員は45名とする。(受講希望者は初回授業に必ず出席すること)</p> <p>【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当</p>

		大田原キャンパス	
科目名	英語ライティング1 (Primary)	授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	三浦 美恵子	科目担当者	
学科	全学科	学年	全学年
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	選択
授業の形態	演習	単位数	1
		期	後期
		時間数	30 時間

授業の概要 (主題)	1. 幅広いテーマ(ニュース、政治、社会問題など)に対する自分の考えを、日本語&英語で論理的に書く訓練をする。 2. ライティング能力の育成と同時に、プレゼンテーション技術の向上を目指す。
授業の到達目標	1. 自分の考えを日本語&英語で論理的に書くことができる。 2. 効果的なスライドを作成し、日本語&英語でプレゼンテーションすることができる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	エッセイライティングで留意すべきこと&日本語でエッセイを書いてみよう	
第 3 回	エッセイについてフィードバック、You Tube の映像から Q & A 、プレゼンテーションのテーマ提示	
第 4 回	プレゼンテーションの発表準備	
第 5 回	プレゼンテーション発表①(日本語)	
第 6 回	CNN English Express から選んだ記事と映像からQ&A、ディスカッション	
第 7 回	エッセイのテーマ提示&英語でエッセイを書いてみよう	
第 8 回	エッセイのフィードバック、You Tube の映像から Q & A 、プレゼンテーションのテーマ提示	
第 9 回	プレゼンテーションの発表準備	
第 10 回	本番前の発表練習&フィードバック	
第 11 回	プレゼンテーション発表②(英語)	
第 12 回	興味のあるテーマを1つ自由選択&クラスメイトに紹介しよう(ペア or グループ活動)	
第 13 回	選択したテーマについてエッセイライティング(英語)	
第 14 回	エッセイについてフィードバック他	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■エッセイライティング、■プレゼンテーション、■その他
評価の基準	■エッセイライティング 35%、■プレゼンテーション 35%、その他 30%(ディスカッション、ペア・グループ活動への貢献度、出席、授業態度など)
準備学習 学習へのアドバイス	エッセイライティングとプレゼンテーションに意欲的かつ主体的に取り組む学生を歓迎する。 【準備学習】 ■予習:エッセイやプレゼンテーションのテーマを理解し、十分な調べ学習や発表準備をしておく必要がある。(60分~90分) ■復習:学生間の話し合いや担当教員からのフィードバックを通して、エッセイやプレゼンテーションの内容に関する考察を深める必要がある(60分~90分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	なし

教科書	なし
参考書	なし

オフィスアワー	月曜 3 時限、J 棟 205(学部共同研究室)
その他	定員 15 名、【関連するディプロマポリシー】共通ディプロマポリシー1)に該当



		大田原キャンパス						
科目名	英語医療通訳入門1 (Primary)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	三浦 美恵子	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	1. 体の部位と臓器の名称、問診や薬剤投与など、実際の医療現場で役立つ英語表現を幅広く学習する。 2. 8 つの診療科(授業計画参照)について、医療従事者・患者・通訳者の役に扮したロールプレイを行う。
授業の到達目標	外国人患者に英語で対応できる医療人の育成を目指す。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	医療通訳とは、医療通訳の心構え、人体図	
第 2 回	受付、診察室でのあいさつ、病歴の聞き方	
第 3 回	循環器科	
第 4 回	呼吸器科	
第 5 回	消化器科	
第 6 回	第 2-5 回のまとめ、バーチャル解剖学実習室にて調べ学習	
第 7 回	代謝・内分泌科	
第 8 回	救急・整形外科	
第 9 回	泌尿器・腎臓内科	
第 10 回	第 7-9 回のまとめ	
第 11 回	乳腺外科、癌	
第 12 回	脳神経科	
第 13 回	第 11-12 回のまとめ	
第 14 回	定期試験(筆記)	
第 15 回	定期試験(ロールプレイ)	

成績評価の方法	定期試験(筆記&ロールプレイ)、その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験(筆記&ロールプレイ各)40%、その他(授業態度、課題など)20%
準備学習 学習へのアドバイス	全授業回数の 3 分の 2 以上の出席と定期試験(筆記&ロールプレイ)を受験していることが、単位認定の最低条件となる。課題やロールプレイに意欲的に取り組む態度が必要となる。 【準備学習】 ■予習: テキスト・音源・配布資料等チェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30 分) ■復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30 分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	特になし。

教科書	「そのまま使える医療英会話」(仁木久恵、森島祐子、F. Miyamasu、医学書院)
参考書	随時紹介する。

オフィスアワー	月曜 3 時限、J 棟 205(学部共同研究室)
その他	定員 15 名、【関連するディプロマポリシー】共通ディプロマポリシー 1) に該当

							大田原キャンパス	
科目名	英語医療通訳入門2(Basic)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	三浦 美恵子	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 5限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	1. 体の部位と臓器の名称、問診や薬剤投与など、実際の医療現場で役立つ英語表現を幅広く学習する。 2. 8つの診療科(授業計画参照)について、医療従事者・患者・通訳者の役に扮したロールプレイを行う。
授業の到達目標	外国人患者に英語で対応できる医療人の育成を目指す。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	在日外国人のメンタルヘルス1	
第2回	在日外国人のメンタルヘルス2	
第3回	心療内科・精神科	
第4回	皮膚科	
第5回	眼科	
第6回	第3-5回のまとめ	
第7回	産婦人科	
第8回	小児科	
第9回	耳鼻咽喉科	
第10回	歯科	
第11回	第7-10回のまとめ	
第12回	バーチャル解剖学実習室にて調べ学習	
第13回	定期試験(筆記)	
第14回	定期試験(ロールプレイ)	
第15回	総括	

成績評価の方法	定期試験(筆記&ロールプレイ)、その他(授業態度、課題など)
評価の基準	定期試験(筆記&ロールプレイ各)40%、その他(授業態度、課題など)20%
準備学習 学習へのアドバイス	全授業回数の3分の2以上の出席と定期試験(筆記&ロールプレイ)を受験していることが、単位認定の最低条件となる。課題やロールプレイに意欲的に取り組む態度が必要となる。 【準備学習】 ■予習:テキスト・音源・配布資料等チェックし、事前に学習内容を確認しておく必要がある。(30分) ■復習:担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(30分) 【課題等に関するフィードバック】 授業のなかで解説や批評、助言等を行う。
履修条件	特になし。

教科書	「そのまま使える医療英会話」(仁木久恵、森島祐子、F. Miyamasu、医学書院)
参考書	随時紹介する。

オフィスアワー	月曜 3時限、J棟 205 学部共同研究室
その他	定員 15 名、【関連するディプロマポリシー】共通ディプロマポリシー1)に該当

							大田原キャンパス	
科目名	資格英語1 (Primary)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	北村 豊		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	Test of English for International Communication (TOEIC) で少しでも高い得点を獲得するための授業。受験未経験者をも受講対象としつつ、TOEIC 公開テスト、もしくは本学で実施される TOEICIP (Institutional Program) で中級以上のスコア獲得を目指すクラスである。さらには、TOEIC 特有の問題形式にふれながら、語彙や文法・構文、リスニング等の基礎的な力を身につけていく。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な語彙や文法・構文を理解できる。</li> <li>2. 一定の長さの英文を聴き取って、発声することができる。</li> <li>3. 各設問の着眼点が押さえられる。</li> <li>4. 持続的な自学習を習慣化する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction、本授業「資格英語1」の目的	
第 2 回	Listening (PART 1) & Reading (PART 5)	
第 3 回	Listening (PART 1・2) & Reading (PART 5・6) 単語試験1	
第 4 回	Listening (PART 2) & Reading (PART 5・6) 単語試験2	
第 5 回	Listening (PART 2) & Reading (PART 6) 単語試験3	
第 6 回	Listening (PART 2・3) & Reading (PART 6) 単語試験4	
第 7 回	Listening (PART 3) & Reading (PART 7) 単語試験5	
第 8 回	Mid-term review	
第 9 回	Mid-term review & Feedback 単語試験6	
第 10 回	Listening (PART 3・4) & Reading (PART 7) 単語試験7	
第 11 回	Listening (PART 4) & Reading (PART 7) 単語試験8	
第 12 回	Listening (PART 4 + $\alpha$ ) & Reading (PART 5・7) 単語試験9	
第 13 回	Listening (PART 1-4) & Reading (PART 6・7) 単語試験10	
第 14 回	Final review 単語試験 11	
第 15 回	Review & Feedback	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験、 <input type="checkbox"/> 実技試験、 <input type="checkbox"/> 実習評価、 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(受講姿勢、課題など)
評価の基準	小テスト 70%、その他 30% (詳細は初回授業時に説明する)
準備学習 学習へのアドバイス	語学学習という授業の性質上、平常の受講姿勢が極めて重要である。授業内容を根気よく反復したうえで実践問題に取り組み、定期的実施される小テストにしっかり備えること。
履修条件	

教科書	早川幸治 『TOEIC テスト 500 点 ココが狙い目!』 (アルク、2014 年) 神崎正哉 『新 TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990 (CD 付き)』 (講談社、2009 年)
参考書	辞書 (電子辞書でも可) 橋本勝也 『TOEIC テスト 600 点 ココが狙い目!』 (アルク、2014 年)

オフィスアワー	J210 研究室で随時受容するが、アポイントメントをとっておくと確実である。
その他	受講定員 50 名: 受講希望者は初回授業に必ず出席すること(定員を超過した場合は履修に制限を設ける予定)。 授業形式や内容・進度等は受講者の状況に応じて変更される。

		大田原キャンパス					
科目名	資格英語1 (Primary)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	北村 豊	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	この授業は Test of English for International Communication (TOEIC) の受験対策として、TOEIC 公開テスト、または TOEICIP で高いスコアを取得することを目的とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEIC 頻出単語・語句の意味を理解し正しく発音できる。</li> <li>2. 基本文法(第 5 文型)や、その他の文構造を理解できる。</li> <li>3. 各 PART の長・短期戦略を学び、実践する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	TOEIC の全体的な説明 模擬試験の実施	
第 2 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 1	
第 3 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 2	
第 4 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 3	
第 5 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 4	
第 6 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 5	
第 7 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 6	
第 8 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 7 (1)	
第 9 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 7 (2)	
第 10 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Listening Part 1-2	
第 11 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Listening Part 3-4	
第 12 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Reading Part 5-6	
第 13 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Reading Part 7	
第 14 回	総仕上げ(1)Listening	
第 15 回	総仕上げ(2)Reading	

成績評価の方法	■期末試験 □実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業内のパフォーマンス、課題提出など)
評価の基準	期末試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日最低 1 時間の自習を行うこと。自ら主体的に復習・トレーニングする事が大切です。</li> <li>・自習時間が少ない人(授業中しか勉強しない人)の得点伸び率は期待できません。</li> </ul>
履修条件	必修ではなく選択科目にあえて自らの意思で出席しているという自覚を持っている事。

教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEIC テスト公式問題集 Vol. 3</li> <li>2. 適宜配布されるハンドアウト</li> </ol>
参考書	TOEIC テスト公式プラクティス リーディング編 TOEIC テスト公式プラクティス リスニング編

オフィスアワー	質問等は授業前後に受け付けます。火曜以外は C510(白岩研究室)にて随時。
その他	TOEIC は主にビジネス英語の世界です。最初は難解に思えても、慣れてくればきっと楽しくなるはずです。 受講定員: 50 名(受講希望者は初回授業に必ず出席すること)

		大田原キャンパス					
科目名	資格英語2(Basic)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	北村 豊	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	この授業は Test of English for International Communication (TOEIC) の受験対策として、TOEIC 公開テスト、または TOEICIP で高いスコアを取得することを目的とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEIC 頻出単語・語句の意味を理解し正しく発音できる。</li> <li>2. 基本文法(第 5 文型)や、その他の文構造を理解できる。</li> <li>3. 各 PART の長・短期戦略を学び、実践する。</li> <li>4. 自分自身の TOEIC ベストスコアを更新する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	TOEIC の全体的な説明 模擬試験の実施	
第 2 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 1	
第 3 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 2	
第 4 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 3	
第 5 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Listening Part 4	
第 6 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 5	
第 7 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 6	
第 8 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 7 (1)	
第 9 回	問題演習と解説・攻略法の説明 Reading Part 7 (2)	
第 10 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Listening Part 1-2	
第 11 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Listening Part 3-4	
第 12 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Reading Part 5-6	
第 13 回	小テストと解説・攻略法とトレーニング方法の説明 Reading Part 7	
第 14 回	総仕上げ(1)Listening	
第 15 回	総仕上げ(2)Reading	

成績評価の方法	■期末試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(授業内のパフォーマンス、課題提出など)
評価の基準	期末試験 40%、小テスト 30%、その他 30%
準備学習 学習へのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日最低 1 時間の自習を行うこと。自ら主体的に復習・トレーニングする事が大切です。</li> <li>・自習時間が少ない人(授業中しか勉強しない人)の得点伸び率は期待できません。</li> </ul>
履修条件	必修ではなく選択科目にあえて自らの意思で出席しているという自覚を持っている事。

教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEIC テスト公式問題集 Vol. 6</li> <li>2. 適宜配布されるハンドアウト</li> </ol>
参考書	TOEIC テスト公式プラクティス リーディング編 TOEIC テスト公式プラクティス リスニング編

オフィスアワー	質問等は授業前後に受け付けます。火曜以外は C510(白岩研究室)にて随時。
その他	TOEIC は主にビジネス英語の世界です。最初は難解に思えても、慣れてくればきっと楽しくなるはずです。 受講定員:50 名(受講希望者は初回授業に必ず出席すること)

		大田原キャンパス					
科目名	資格英語2(Basic)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	佐藤 雄介	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	Test of English for International Communication(TOEIC)で少しでも高い得点を獲得するための授業。受験未経験者をも受講対象としつつ、TOEIC 公開テスト、もしくは本学で実施される TOEICIP (Institutional Program)で中級以上のスコア獲得を目指すクラスである。さらには、TOEIC 特有の問題形式にふれながら、語彙や文法・構文、リスニング等の基礎的な力を身につけていく。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な語彙や文法・構文を理解できる。</li> <li>2. 一定の長さの英文を聴き取って、発声することができる。</li> <li>3. 各設問の着眼点が押さえられる。</li> <li>4. 持続的な自学習を習慣化する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction、本授業「資格英語2」の目的	
第 2 回	Unit 1 Travel	
第 3 回	Unit 2 Dining Out 単語試験1	
第 4 回	Unit 3 Media 単語試験2	
第 5 回	Unit 4 Entertainment 単語試験3	
第 6 回	Unit 5 Purchasing 単語試験4	
第 7 回	Unit 6 Clients 単語試験5	
第 8 回	Mid-term review	
第 9 回	Unit 7 Recruiting 単語試験6	
第 10 回	Unit 8 Personnel 単語試験7	
第 11 回	Unit 9 Advertising 単語試験8	
第 12 回	Unit 10 Meetings 単語試験9	
第 13 回	Unit 11 Finance 単語試験10	
第 14 回	Unit 12 Offices 単語試験11	
第 15 回	Review & Feedback	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、■その他(受講姿勢、課題など)
評価の基準	小テスト 70%、その他 30% (詳細は初回授業時に説明する)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>語学学習という授業の性質上、平常の受講姿勢が極めて重要である。授業内容を根気よく反復したうえで実践問題に取り組み、定期的実施される小テストにしっかり備えること。</p> <p>【準備学習】  予習: 単語テストに出題される単語の発音を確認し、声に出して覚える。(40 分)  復習: 担当教員の指示に従って学習内容の考察を進めることが求められる。(20 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】  授業のなかで解説や批評、助言等を行う。</p>
履修条件	

教科書	早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC? LISTENING AND READING TEST』 (金星堂、2017 年) 神崎正哉 『新 TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990 (CD 付き)』 (講談社、2009 年)
参考書	辞書 (電子辞書でも可) 橋本勝也『TOEIC テスト 600 点 ココが狙い目!』(アルク、2014 年)

オフィスアワー	水曜 4 時限、J 棟 205 研究室
その他	<p>受講定員 50 名: 受講希望者は初回授業に必ず出席すること(定員を超過した場合は履修に制限を設ける予定)。</p> <p>授業形式や内容・進度等は受講者の状況に応じて変更されうる。</p> <p>【関連するディプロマポリシー】  共通ディプロマポリシー1)に該当</p>

		大田原キャンパス					
科目名	基礎英文法1 (Primary)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	河内 健志	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水/金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	何かを誰かに伝えようとする場合、伝えたいことを正確に伝えるための道具、それが文法です。日本語母語話者の場合、日本語を運用するときこの道具を意識的に用いることはほとんどなく、自在に操ることができます。しかし、英語を母語としない人の場合、この道具が足りなかったり、道具の使い方がわからなく、伝えたいことが正確に伝えることができないこともあります。この授業では、英語の重要な道具の種類、数を増やしていき、実際にどうやって道具を操るのかを学んでいきます。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な語彙・文法の理解を深められる。</li> <li>2. コロケーションを意識して語彙・文法の理解が深められる。</li> <li>3. 習得した知識を実践に活かすことができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	時制 (現在)	
第 3 回	時制 (過去)	
第 4 回	受動態	
第 5 回	時制 (未来)	
第 6 回	虚辞	
第 7 回	Review 1	
第 8 回	法助動詞 (1)	
第 9 回	法助動詞 (2)	
第 10 回	疑問文	
第 11 回	限定詞	
第 12 回	前置詞	
第 13 回	形容詞と副詞	
第 14 回	語順	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、 ■小テスト、□レポート、■その他(課題、授業態度など)
評価の基準	各種テスト(小テスト、中間試験、最終試験)90%、その他10%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【学習へのアドバイス】 英語、特に文法に苦手意識があったり、もう一度最初から文法を学習したい、確認したい人を対象としたクラスです。授業時、復習時に生じた疑問は、積極的に質問してください。</p> <p>【準備学習】 予習: 当該ユニットの解説(テキストの見開き左側)を読み、理解できるところ、できないところを明確にすること。(20分) 復習: 疑問点が残っていないか確認しながら、課題問題に取り組む。(40分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 授業時に解説を加える。</p>
履修条件	特にありません。

教科書	Raymond Murphy 他 (2010) Basic Grammar in Use (Third edition) (Cambridge University Press) ISBN: 978-0-521-13337-1 TEX加藤 (2017) 『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ)』 朝日新聞出版 ISBN-13: 978-4023315686
参考書	ALC Net Academy 2 ( <a href="https://alc.iuhw.ac.jp/anet2/">https://alc.iuhw.ac.jp/anet2/</a> )

オフィスアワー	初回授業において指示する。
その他	受講定員:50名 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当



		大田原キャンパス					
科目名	基礎英文法1 (Primary)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	佐藤 雄介	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	みなさんは日本語で「普段何をして休日を過ごしていますか」と聞かれたら、「スポーツをしています。」 「買い物をしています。」などと答えられるでしょう。では英語で同じ質問を聞かれたらどう答えますか。 おそらく、「ええ一つとスポーツは sports、買い物はショッピング……、主語は私だから I で」と考えはじめ るでしょう。ではこの単語をどう並べますか？動詞は何を使いますか？時勢は現在形？現在進行形？ この授業では皆さんが日本語なら簡単に言える文章を英語にする場合どうするのか。 そのシンプルな題材を出発点にします。自分の考えを正しく英語で表現するルールを少しずつ 身につけることを目標とします。
授業の到達目標	1. be 動詞と一般動詞の違いを理解できる。 2. シンプルな文が作れる。 3. 疑問文とその答えを作れる。 4. 時制の違いを理解し、正しく自分の意見を伝えられる。 5. 助動詞を用いて自分の意見を伝えられる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	be 動詞	
第 3 回	一般動詞	
第 4 回	代名詞	
第 5 回	場所を表す前置詞	
第 6 回	Yes・No で答える疑問文	
第 7 回	Review 1	
第 8 回	進行形	
第 9 回	一般動詞の過去形	
第 10 回	助動詞 1	
第 11 回	助動詞 2	
第 12 回	WH 疑問文	
第 13 回	不定詞・動名詞	
第 14 回	Review 2	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	実習評価、小テスト、その他(課題、授業態度など)
評価の基準	試験 50%、実技 40%、その他 10%
準備学習 学習へのアドバイス	英語・英文法がきわめて苦手な人、中 1 で英語が嫌いになった人を対象にしたクラスです。1 からやり直 ししたい人、一緒に1つ1つステップアップしてきましょう。 授業後に復習し、理解できるポイントとできないポイントを把握すること。 わからないことは積極的に質問してください。
履修条件	特にありません。

教科書	Hickling, Robert 他 (2014) English First Starter 大学英語の総合的アプローチ: 入門編, 金星堂
参考書	Bennett, Andrew 他(2013) Grammar Plus, 南雲堂, Grammar Level 1 Student Book with Audio CD 3rd Edition (by Jennifer Seidl, Oxford University Press 2010) 他

オフィスアワー	【通年】水曜 4 限(J 棟 205 学部共同研究室)
その他	受講定員: 45 名

		大田原キャンパス					
科目名	基礎英文法2 (Basic)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	河内 健志	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	月 3/水 4 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	誤解を招かない円滑なコミュニケーションを実現しようとする場合、日本語であれ、英語であれ少なくとも①「表現が文法的であること」と②「自然な表現であること」、この2点が満たされない限り、目的とするコミュニケーションを完遂することができない。①が②を、②が①を保証するものではないが、どちらもコミュニケーション欠くことができない要素である。この授業では、これまでの英語学習を初歩段階から確認しながら基礎を築き、コロケーションなどを意識した表現を実践しながらより自然な表現を習得していくことを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な語彙・文法の理解を深められる。</li> <li>2. コロケーションを意識して語彙・文法の理解が深められる。</li> <li>3. 習得した知識を実践に活かすことができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction	
第 2 回	時制 (現在)	
第 3 回	時制 (過去)	
第 4 回	完了形	
第 5 回	法助動詞 (1)	
第 6 回	法助動詞 (2)	
第 7 回	受動態	
第 8 回	Review 1	
第 9 回	仮定法 (1)	
第 10 回	仮定法 (2)	
第 11 回	動名詞と不定詞 (1)	
第 12 回	動名詞と不定詞 (2)	
第 13 回	関係節	
第 14 回	比較級	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	小テスト、その他(課題、授業態度など)
評価の基準	各種テスト (小テスト、中間試験、最終試験) 90%、その他 10%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【学習へのアドバイス】</p> <p>英語、特に文法に苦手意識があったり、もう一度最初から文法を学習したい、確認したい人を対象としたクラスです。授業時、復習時に生じた疑問は、積極的に質問してください。</p> <p>【準備学習】</p> <p>予習: 当該ユニットの解説 (テキストの見開き左側) を読み、理解できるところ、できないところを明確にすること。(20 分)</p> <p>復習: 疑問点が残っていないか確認しながら、課題問題に取り組む。(40 分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>授業時に解説を加える。</p>
履修条件	特にありません。

教科書	Raymond Murphy 他 (2009) Grammar in Use Intermediate (Third edition) (Cambridge University Press) ISBN: 978-0-521-75936-6 TEX加藤 (2017) 『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ)』 朝日新聞出版 ISBN-13: 978-4023315686
参考書	ALC Net Academy 2 ( <a href="https://alc.uhw.ac.jp/anet2/">https://alc.uhw.ac.jp/anet2/</a> )

オフィスアワー	初回授業において指示する。
その他	受講定員:50名 【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー 1)に該当。

							大田原キャンパス	
科目名	上級英語会話1(発展)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	コータ	科目担当者						
学科	All 学科				学年	All 年	期	1st 期
曜日時限	金曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	Classes focus on spoken English grammar and functions and consist of explanations, exercises, and conversation activities.
授業の到達目標	<p>This is an Advanced English conversation class that aims to improve Students' advanced conversation skills. By the end of this course each student should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ask &amp; answer questions about people</li> <li>2. Ask about and explain reasons</li> <li>3. Discuss interesting places</li> <li>4. Discuss foreign cultures</li> <li>5. Discuss famous people and events in history</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction / Question Review	
第 2 回	Interesting Customs	
第 3 回	Interesting Customs	
第 4 回	Explaining Reasons	
第 5 回	Explaining Reasons	
第 6 回	Describing Places	
第 7 回	Describing Places	
第 8 回	Discussing Foreign Lands & People	
第 9 回	Discussing Foreign Lands & People	
第 10 回	Discussing Foreign Lands & People	
第 11 回	People in History	
第 12 回	Events in History	
第 13 回	Cultural Practices	
第 14 回	Test Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	Grades will be based on class participation (50%) & 1 speaking test (50%).
準備学習 学習へのアドバイス	<p>Because class participation is such an important part of the grade, regular attendance and pre-reading/preparation are very important. This class is limited to 15 students (15 人以下).</p> <p>Class Preparation (予習): Study and translate vocabulary lists as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p> <p>Class Review (復習): Complete textbook exercises as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p>
履修条件	TOEIC 550+ or Teacher's approval

教科書	What A World ? Reading 1, Second Edition, (Pearson Longman Asia ELT)
参考書	Japanese/English and English/Japanese Dictionaries of student's choice

オフィスアワー	Wednesday lunchtime & Friday 5th period
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

							大田原キャンパス	
科目名	上級英語会話2(総合)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	コータ		科目担当者					
学科	All 学科				学年	All 年	期	2nd 期
曜日時限	金曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	演習							

授業の概要 (主題)	Classes focus on spoken English grammar and functions and consist of explanations, exercises, and conversation activities.
授業の到達目標	<p>This is an Advanced English conversation class that aims to improve Students' advanced conversation skills. By the end of this course each student should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ask &amp; Answer questions about people</li> <li>2. Ask about and explain reasons</li> <li>3. Discuss interesting places</li> <li>4. Discuss foreign cultures</li> <li>5. Discuss famous people and events in history</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	Introduction / Question Review	
第 2 回	History & Culture	
第 3 回	History & Culture	
第 4 回	Scientific Advancements	
第 5 回	Scientific Advancements	
第 6 回	Societal Development	
第 7 回	Societal Development	
第 8 回	Questions of History	
第 9 回	Questions of History	
第 10 回	Questions of History	
第 11 回	Famous People	
第 12 回	Famous People	
第 13 回	Famous Places	
第 14 回	Test Review	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他( )
評価の基準	Grades will be based on class participation (50%) & 1 speaking test (50%).
準備学習 学習へのアドバイス	<p>Because class participation is such an important part of the grade, regular attendance is required. This class is limited to 15 students (15 人以下).</p> <p>Class Preparation (予習): Study and translate vocabulary lists as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p> <p>Class Review (復習): Complete textbook exercises as instructed by the teacher (30+ minutes). We will check this together in class every week.</p>
履修条件	TOEIC 550+ or Teacher's approval

教科書	What A World ? Reading 2, Second Edition, (Pearson Longman Asia ELT)
参考書	Japanese/English and English/Japanese Dictionaries of student's choice

オフィスアワー	Wednesday lunchtime & Friday 5th period
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー1)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	ドイツ語初級1(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜4限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	ドイツ語の初級文法と簡単な日常・旅行会話を学ぶとともに、ドイツやオーストリア、さらにヨーロッパの歴史・文化・自然などについて、映像資料を用いて紹介する
授業の到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、簡単な日常・旅行会話が話せるようになること ドイツ・オーストリアの歴史や文化を通して、ヨーロッパ世界についての理解を深め、国際性を養う

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	ドイツとドイツ語について入門講座・アルファベット	
第2回	アルファベット・発音(母音)	
第3回	アルファベット・発音(子音)	
第4回	挨拶・自己紹介・動詞の現在人称変化	
第5回	自己紹介・特殊な動詞の現在人称変化・動詞の位置	
第6回	名詞の性・数・格	
第7回	冠詞・疑問代名詞	
第8回	不規則動詞の現在人称変化・人称代名詞の格	
第9回	非人称主語・命令形	
第10回	名詞の複数形	
第11回	定冠詞類・不定冠詞類	
第12回	前置詞	
第13回	前置詞の融合形	
第14回	数の数え方・曜日・月・年号の読み方	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	試験(マークシート)
評価の基準	試験の成績のみで評価する
準備学習 学習へのアドバイス	毎回10分程度の復習をすることが望ましい
履修条件	辞書(古いものでもかまわない)を用意すること

教科書	担当教員が作成したものを使用する
参考書	[参考書]『携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	ドイツ語初級1(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	ドイツ語の初級文法と簡単な日常・旅行会話を学ぶとともに、ドイツやオーストリア、さらにヨーロッパの歴史・文化・自然などについて、映像資料を用いて紹介する
授業の到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、簡単な日常・旅行会話が話せるようになること ドイツ・オーストリアの歴史や文化を通して、ヨーロッパ世界についての理解を深め、国際性を養う

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ドイツとドイツ語について入門講座・アルファベット	
第 2 回	アルファベット・発音(母音)	
第 3 回	アルファベット・発音(子音)	
第 4 回	挨拶・自己紹介・動詞の現在人称変化	
第 5 回	自己紹介・特殊な動詞の現在人称変化・動詞の位置	
第 6 回	名詞の性・数・格	
第 7 回	冠詞・疑問代名詞	
第 8 回	不規則動詞の現在人称変化・人称代名詞の格	
第 9 回	非人称主語・命令形	
第 10 回	名詞の複数形	
第 11 回	定冠詞類・不定冠詞類	
第 12 回	前置詞	
第 13 回	前置詞の融合形	
第 14 回	数の数え方・曜日・月・年号の読み方	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	試験(マークシート)
評価の基準	試験の成績のみで評価する
準備学習 学習へのアドバイス	毎回10分程度の復習をすることが望ましい
履修条件	辞書(古いものでもかまわない)を用意すること

教科書	担当教員が作成したものを使用する
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中
その他	

		大田原キャンパス		
科目名	ドイツ語初級2(基礎)		授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者		
学科	全学科		学年	全学年
曜日時限	水曜 4限	必修/選択	選択	後期
授業の形態	講義		単位数	1
			時間数	30時間

授業の概要 (主題)	ドイツ語の初級文法と簡単な日常・旅行会話を学ぶとともに、ドイツやオーストリア、さらにヨーロッパの歴史・文化・自然などについて、映像資料を用いて紹介する
授業の到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、簡単な日常・旅行会話が話せるようになること ドイツ・オーストリアの歴史や文化を通して、ヨーロッパ世界についての理解を深め、国際性を養う

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	話法の助動詞	
第2回	未来の助動詞・従属接続詞と副文	
第3回	形容詞の格変化(1)	
第4回	形容詞の格変化(2)	
第5回	zu 不定詞	
第6回	動詞の三基本形	
第7回	動詞の過去人称変化	
第8回	現在完了	
第9回	分離動詞	
第10回	形容詞と副詞の比較	
第11回	関係代名詞	
第12回	補足・名詞の性	
第13回	補足・語順	
第14回	補足・受動態	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	試験(マークシート)
評価の基準	試験の成績のみで評価する
準備学習 学習へのアドバイス	毎回10分程度の復習をすることが望ましい
履修条件	辞書(古いものでもかまわない)を用意すること

教科書	担当教員が作成したものを使用する
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中
その他	



		大田原キャンパス			
科目名	ドイツ語初級2(基礎)		授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者			
学科	全学科		学年	全学年	
曜日時限	金曜1限	必修/選択	選択	後期	
授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30時間

授業の概要 (主題)	ドイツ語の初級文法と簡単な日常・旅行会話を学ぶとともに、ドイツやオーストリア、さらにヨーロッパの歴史・文化・自然などについて、映像資料を用いて紹介する
授業の到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、簡単な日常・旅行会話が話せるようになること ドイツ・オーストリアの歴史や文化を通して、ヨーロッパ世界についての理解を深め、国際性を養う

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	話法の助動詞	
第2回	未来の助動詞・従属接続詞と副文	
第3回	形容詞の格変化(1)	
第4回	形容詞の格変化(2)	
第5回	zu不定詞	
第6回	動詞の三基本形	
第7回	動詞の過去人称変化	
第8回	現在完了	
第9回	分離動詞	
第10回	形容詞と副詞の比較	
第11回	関係代名詞	
第12回	補足・名詞の性	
第13回	補足・語順	
第14回	補足・受動態	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	試験(マークシート)
評価の基準	試験の成績のみで評価する
準備学習 学習へのアドバイス	毎回10分程度の復習をすることが望ましい
履修条件	辞書(古いものでもかまわない)を用意すること

教科書	担当教員が作成したものを使用する
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	ドイツ語中級1(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜 6限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	ゼミ						

授業の概要 (主題)	ドイツ語初級で学んだ初級文法を復習し、初級の教科書でやり残した文法事項や長文の読解を行う。簡単な旅行会話の復習を行う。ドイツ・オーストリア関連の映像資料を鑑賞する。
授業の到達目標	簡単なドイツ語の文章が理解できるようになること。 映像資料等を利用してドイツ・オーストリアについて学び、ヨーロッパ世界の歴史や文化の理解を通して国際性を身につける。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	初級ドイツ語文法の復習	
第2回	初級ドイツ語文法の復習	
第3回	初級ドイツ語文法の復習	
第4回	初級ドイツ語文法の復習	
第5回	初級ドイツ語文法の復習	
第6回	初級ドイツ語文法の復習	
第7回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第8回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第9回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第10回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第11回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第12回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第13回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第14回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第15回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	

成績評価の方法	試験は行わず、授業中の発表をもって代える。
評価の基準	発表を数回行っているかどうか。
準備学習 学習へのアドバイス	履修者に割り当てられた課題のうち、自分に与えられた個所を事前に調べておく。
履修条件	初級程度の文法を習得していること。

教科書	特に指定せず、履修者の希望に合わせてテキストを用意して配布する。
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	ドイツ語中級1(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜 6限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	ゼミ						

授業の概要 (主題)	ドイツ語初級で学んだ初級文法を復習し、初級の教科書でやり残した文法事項や長文の読解を行う。簡単な旅行会話の復習を行う。ドイツ・オーストリア関連の映像資料を鑑賞する。
授業の到達目標	簡単なドイツ語の文章が理解できるようになること。 映像資料等を利用してドイツ・オーストリアについて学び、ヨーロッパ世界の歴史や文化の理解を通して国際性を身につける。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	初級ドイツ語文法の復習	
第2回	初級ドイツ語文法の復習	
第3回	初級ドイツ語文法の復習	
第4回	初級ドイツ語文法の復習	
第5回	初級ドイツ語文法の復習	
第6回	初級ドイツ語文法の復習	
第7回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第8回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第9回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第10回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第11回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第12回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第13回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第14回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	
第15回	初級ドイツ語文法の復習と簡単な文章の読解	

成績評価の方法	試験は行わず、授業中の発表をもって代える。
評価の基準	発表を数回行っているかどうか。
準備学習 学習へのアドバイス	履修者に割り当てられた課題のうち、自分に与えられた個所を事前に調べておく。
履修条件	初級程度の文法を習得していること。

教科書	特に指定せず、履修者の希望に合わせてテキストを用意して配布する。
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	ドイツ語中級2(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 6限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	ゼミ						

授業の概要 (主題)	初級で学んだ文法知識をもとに、簡単なドイツ語の文章を読んでいく。 映像資料によって、ドイツ・オーストリアの歴史や文化を学ぶ。
授業の到達目標	初級で学んだ文法知識をもとに、簡単なドイツ語の文章を読解できるようにする。 映像資料を通して、ドイツ・オーストリアの歴史や文化を学ぶことによって、ヨーロッパや世界についての理解を深め、国際性を身につける。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	履修者と相談して決定するため、これまで使用した題材を例として示す。	
第2回	『灰かぶり(シンデレラ)』	
第3回	『灰かぶり(シンデレラ)』	
第4回	『本物のパンのお話』(プレッツェルの由来)	
第5回	『本物のパンのお話』(プレッツェルの由来)	
第6回	『白雪姫』	
第7回	『白雪姫』	
第8回	『エーリカ あるいは生きることの隠れた意味』	
第9回	『エーリカ あるいは生きることの隠れた意味』	
第10回	「花の名前の由来・歴史」に関するテキスト	
第11回	「花の名前の由来・歴史」に関するテキスト	
第12回	『ヘンゼルとグレーテル』	
第13回	『ヘンゼルとグレーテル』	
第14回	『青髭』	
第15回	『青髭』	

成績評価の方法	試験は行わず、授業中の発表をもって代える。
評価の基準	発表を数回行っているかどうか。
準備学習 学習へのアドバイス	履修者に割り当てられた課題のうち、自分に与えられた個所を事前に調べておく。
履修条件	初級程度の文法を習得していること。

教科書	特に指定せず、履修者の希望に合わせてテキストを用意して配布する。
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	ドイツ語中級2(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜 6限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	ゼミ						

授業の概要 (主題)	初級で学んだ文法知識をもとに、簡単なドイツ語の文章を読んでいく。 映像資料によって、ドイツ・オーストリアの歴史や文化を学ぶ。
授業の到達目標	初級で学んだ文法知識をもとに、簡単なドイツ語の文章を読解できるようにする。 映像資料を通して、ドイツ・オーストリアの歴史や文化を学ぶことによって、ヨーロッパや世界についての理解を深め、国際性を身につける。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	履修者と相談して決定するため、これまで使用した題材を例として示す。	
第2回	『灰かぶり(シンデレラ)』	
第3回	『灰かぶり(シンデレラ)』	
第4回	『本物のパンのお話』(プレッツェルの由来)	
第5回	『本物のパンのお話』(プレッツェルの由来)	
第6回	『白雪姫』	
第7回	『白雪姫』	
第8回	『エーリカ あるいは生きることの隠れた意味』	
第9回	『エーリカ あるいは生きることの隠れた意味』	
第10回	「花の名前の由来・歴史」に関するテキスト	
第11回	「花の名前の由来・歴史」に関するテキスト	
第12回	『ヘンゼルとグレーテル』	
第13回	『ヘンゼルとグレーテル』	
第14回	『青髭』	
第15回	『青髭』	

成績評価の方法	試験は行わず、授業中の発表をもって代える。
評価の基準	発表を数回行っているかどうか。
準備学習 学習へのアドバイス	履修者に割り当てられた課題のうち、自分に与えられた個所を事前に調べておく。
履修条件	初級程度の文法を習得していること。

教科書	特に指定せず、履修者の希望に合わせてテキストを用意して配布する。
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜午前中。
その他	

					大田原キャンパス		
科目名	ドイツ語上級1(発展)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜5限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	ゼミ						

授業の概要 (主題)	ドイツ語初級・中級で学んだ知識を基に、よりレベルの高い文章の講読や、ドイツ語圏の政治・文化・歴史・自然の理解を深める。 テキストや講義内容は履修者の興味や関心にあわせて選択するため、講義開始後に相談する。						
授業の到達目標	ドイツ語初級・中級で学んだ内容をさらに発展させる。						

授業計画		
回数	内容	担当
	講義内容については履修者と相談して決める。	

成績評価の方法	講義中の発表をもってかえる。
評価の基準	講義中の発表内容から判断する。
準備学習 学習へのアドバイス	発表当番に当たっている個所を調べておく。
履修条件	ドイツ語初級程度の知識を身につけていること。辞書(古いものでもかまわない)を用意すること。

教科書	テキストや講義内容は履修者の興味や関心にあわせて選択するため、講義開始後に相談する。
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜5時限
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	ドイツ語上級2(発展)			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	森田 耕喜	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	ゼミ						

授業の概要 (主題)	ドイツ語初級・中級で学んだ知識を基に、よりレベルの高い文章の講読や、ドイツ語圏の政治・文化・歴史・自然の理解を深める。 テキストや講義内容は履修者の興味や関心にあわせて選択するため、講義開始後に相談する。						
授業の到達目標	ドイツ語初級・中級で学んだ内容をさらに発展させる。						

授業計画		
回数	内容	担当
	講義内容については履修者と相談して決める。	

成績評価の方法	講義中の発表をもってかえる。
評価の基準	講義中の発表内容から判断する。
準備学習 学習へのアドバイス	発表当番に当たっている個所を調べておく。
履修条件	ドイツ語初級程度の知識を身につけていること。辞書(古いものでもかまわない)を用意すること。

教科書	テキストや講義内容は履修者の興味や関心にあわせて選択するため、講義開始後に相談する。
参考書	[参考書]『必携ドイツ文法総まとめ』[中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著]、『やさしい!ドイツ語の学習辞典』(同学社) [辞書]初級者にやさしい独和辞典(朝日出版社)、新アクセス独和辞典(三修社)、エクセル独和辞典(郁文堂)、新アポロン独和辞典(同学社)、フロイデ独和辞典(白水社)、新現代独和辞典(三修社)、新アルファ独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)、プリーマ独和辞典(三修社)、独和辞典(郁文堂)

オフィスアワー	木曜5時限
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	スペイン語初級1(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	瀬上 マレーナ	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	ダイアログを中心に日常会話の基礎を学びます。実際に耳で触れることにより、日本語や英語との違いを感じることができるでしょう。オーラルを中心としていますので、語学教育で欠かすことのできない、発音・会話を中心に行います。本授業は聞く・話すなど「使える言語取得」をめざしています。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語や他の外国語との違いを発見できる。</li> <li>2. 通じるスペイン語の発音を身に付けることができる。</li> <li>3. 聞く・話すに重点を置いて簡単な読み書きも習得できる。</li> <li>4. 語学習得だけでなく、その国の文化・慣習を感じることができる。</li> <li>5. 外国人とのコミュニケーションに緊張感がなくなる。</li> <li>6. 緊急時の簡単な医療用語を習得できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	あいさつ Saludos	
第2回	発音・早口言葉・数字 Pronunciacion	
第3回	代名詞 Pronombres	
第4回	動詞 ① Verbo	
第5回	動詞 ②	
第6回	名詞 ① Sustantivo	
第7回	名詞 ②	
第8回	動詞 (Be) Ser / Estar	
第9回	動詞 (Have) Tener	
第10回	疑問詞 いつ/どこで/何/誰/どう/何時/いくら/なぜ	
第11回	病院での会話	
第12回	駅での会話	
第13回	お店での会話	
第14回	レストランでの会話	
第15回	授業のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 80%、その他授業内容により指示します。
準備学習	準備学習は特になし
学習へのアドバイス	言葉を学ぶことは楽しいことなので、積極的に参加して欲しい
履修条件	特になし

教科書	講師が準備
参考書	授業で紹介

オフィスアワー	授業後に受け付ける
その他	



		大田原キャンパス					
科目名	スペイン語初級2(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	瀬上 マレーナ	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	“文法を中心とした日常会話の基礎を学びます。実際に耳で触れることにより、言語だけでなくその国の文化や慣習なども感じることができるでしょう。オーラルを中心としていますので、語学教育で欠かすことのできない、発音・会話を中心に行います。本授業は聞く・話すなど「使える言語取得」をめざしています。”
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語や他の外国語との違いを発見できる。</li> <li>2. 通じるスペイン語の発音を身に付けることができる。</li> <li>3. 聞く・話すに重点を置いて簡単な読み書きも習得できる。</li> <li>4. 語学習得だけでなく、その国の文化・慣習を感じることができる。</li> <li>5. 外国人とのコミュニケーションに緊張感がなくなる。</li> <li>6. 緊急時の簡単な医療用語を習得できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	Be 動詞	
第2回	Be 動詞 + 動詞 Have	
第3回	不規則動詞、現在形	
第4回	現在形(Give, Put, Say)、数	
第5回	現在動詞(Seem, look, look like など)	
第6回	表現の仕方(like, dislike など)	
第7回	現在分詞(ing)	
第8回	前置詞、発音(Before, After)	
第9回	過去形、動詞	
第10回	不規則動詞、過去形	
第11回	未完了過去形	
第12回	命令形	
第13回	前置詞、発音	
第14回	緊急時の簡単な会話文	
第15回	「授業のまとめとテスト」	

成績評価の方法	■定期試験、□実技試験、□実習評価、■小テスト、□レポート、□その他( )
評価の基準	定期試験 80%、その他授業内容により指示します。
準備学習 学習へのアドバイス	特にオーラルを中心に授業を進めていくので、積極的な参加を期待します。
履修条件	特になし

教科書	講師が準備
参考書	授業で紹介

オフィスアワー	授業後に受け付ける
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	中国語初級1(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	陳霞芬	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜2限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義、グループ練習						

授業の概要 (主題)	世界では、いま中国語を使用する人口が約13億で、世界総人口の20%を占め、中国語が世界で最も話者の多い言語である。本学では、「国際性」の理念をより一層深めるために、前期では「中国語初級1」、後期では「中国語初級2」を学び、中国語について「読／聴／写」の四技能の習得を目指す。講義形態としては、中国語を母語とする担当教員による文法説明および発音・会話練習とともに、多様なメディアを用いた中国の文化を紹介する中から、生きた中国語を学習する。
授業の到達目標	医療福祉専門用語を含め、基本的な中国語の理解と中国語への一層の興味を促し、後期の「中国語初級Ⅱ」への継続的学習に導く。また本学のカリキュラム「海外保健福祉事情」(単位認定性)の中国夏季研修を履修する学生にとっては、現地での応用にも役立てたい。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「中国語初級1」についてのガイダンス	
第2回	中国語の基本音節練習	
第3回	中国語入門・基本編Ⅰ・第1回	
第4回	中国語入門・基本編Ⅰ・第2回	
第5回	中国語入門・基本編Ⅰ・第3回	
第6回	中国語入門・基本編Ⅰ・第4回	
第7回	中国語入門・基本編Ⅰ・第5回	
第8回	中国語入門・基本編Ⅰ・第6回	
第9回	中国語入門・基本編Ⅰ・第7回	
第10回	中国語入門・基本編Ⅰ・第8回	
第11回	中国語入門・基本編Ⅰ・第9回	
第12回	中国語入門・基本編Ⅰ・第10回	
第13回	中国語入門・基本編Ⅰ・第11回	
第14回	「中国語初級1」についての復習	
第15回	「中国語初級1」についてのまとめ	

成績評価の方法	■筆記試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験60%、小テスト40%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に中国語を聞き、語る学習姿勢で臨んでほしい また予習と復習も心がけてほしい
履修条件	特になし

教科書	講義時に資料配布
参考書	中国語入門(上野恵司著、NHK出版)

オフィスアワー	木曜3限、J棟108研究室
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	中国語初級1(基礎)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	陳霞芬		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜4限	必修/選択	選択		単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義、グループ練習							

授業の概要 (主題)	世界では、いま中国語を使用する人口が約13億で、世界総人口の20%を占め、中国語が世界で最も話者の多い言語である。本学では、「国際性」の理念をより一層深めるために、前期では「中国語初級1」、後期では「中国語初級2」を学び、中国語について「読／聴／写」の四技能の習得を目指す。講義形態としては、中国語を母語とする担当教員による文法説明および発音・会話練習とともに、多様なメディアを用いた中国の文化を紹介する中から、生きた中国語を学習する。
授業の到達目標	医療福祉専門用語を含め、基本的な中国語の理解と中国語への一層の興味を促し、後期の「中国語初級Ⅱ」への継続的学習に導く。また本学のカリキュラム「海外保健福祉事情」(単位認定性)の中国夏季研修を履修する学生にとっては、現地での応用にも役立てたい。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「中国語初級1」についてのガイダンス	
第2回	中国語の基本音節練習	
第3回	中国語入門・基本編Ⅰ・第1回	
第4回	中国語入門・基本編Ⅰ・第2回	
第5回	中国語入門・基本編Ⅰ・第3回	
第6回	中国語入門・基本編Ⅰ・第4回	
第7回	中国語入門・基本編Ⅰ・第5回	
第8回	中国語入門・基本編Ⅰ・第6回	
第9回	中国語入門・基本編Ⅰ・第7回	
第10回	中国語入門・基本編Ⅰ・第8回	
第11回	中国語入門・基本編Ⅰ・第9回	
第12回	中国語入門・基本編Ⅰ・第10回	
第13回	中国語入門・基本編Ⅰ・第11回	
第14回	「中国語初級1」についての復習	
第15回	「中国語初級1」についてのまとめ	

成績評価の方法	■筆記試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験60%、小テスト40%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に中国語を聞き、語る学習姿勢で臨んでほしい また予習と復習も心がけてほしい
履修条件	特になし

教科書	講義時に資料配布
参考書	中国語入門(上野恵司著、NHK出版)

オフィスアワー	木曜3限、J棟108研究室
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	中国語初級1(基礎)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	山田 登美子	科目担当者						
学科	全学科			学年	全学年	期	前期	
曜日時限	金曜2限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間	
授業の形態	講義、グループ練習							

授業の概要 (主題)	世界では、いま中国語を使用する人口が約13億で、世界総人口の20%を占め、中国語が世界で最も話者の多い言語である。本学では、「国際性」の理念をより一層深めるために、前期では「中国語初級1」、後期では「中国語初級2」を学び、中国語について「読／聴／写」の四技能の習得を目指す。講義形態としては、担当教員による文法説明および発音・会話練習とともに、多様なメディアを用いた中国の文化を紹介する中から、生きた中国語を学習する。
授業の到達目標	医療福祉専門用語を含め、基本的な中国語の理解と中国語への一層の興味を促し、後期の「中国語初級Ⅱ」への継続的学習に導く。また本学のカリキュラム「海外保健福祉事情」(単位認定性)の中国夏季研修を履修する学生にとっては、現地での応用にも役立てたい。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「中国語初級1」についてのガイダンス	
第2回	中国語の基本音節練習	
第3回	中国語入門・基本編Ⅰ・第1回	
第4回	中国語入門・基本編Ⅰ・第2回	
第5回	中国語入門・基本編Ⅰ・第3回	
第6回	中国語入門・基本編Ⅰ・第4回	
第7回	中国語入門・基本編Ⅰ・第5回	
第8回	中国語入門・基本編Ⅰ・第6回	
第9回	中国語入門・基本編Ⅰ・第7回	
第10回	中国語入門・基本編Ⅰ・第8回	
第11回	中国語入門・基本編Ⅰ・第9回	
第12回	中国語入門・基本編Ⅰ・第10回	
第13回	中国語入門・基本編Ⅰ・第11回	
第14回	「中国語初級1」についての復習	
第15回	「中国語初級1」についてのまとめ	

成績評価の方法	■筆記試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験60%、小テスト40%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に中国語を聞き、語る学習姿勢で臨んでほしい また予習と復習も心がけてほしい
履修条件	特になし

教科書	講義時に資料配布
参考書	中国語入門(上野恵司著、NHK出版)

オフィスアワー	授業後に受付ける
その他	

						大田原キャンパス	
科目名	中国語初級2(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	陳霞芬	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜4限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義、グループ練習						

授業の概要 (主題)	今日では中国語を使用する人口が約13億で、世界総人口の20%を占め、中国語が世界で最も話者の多い言語である。本学では「国際性」の理念をより一層深めるために、前期では、「中国語初級1」、後期では、「中国語初級2」を学び、中国語について、「説／聴／読／写」の四技能の習得を目指す。中国語を母語とする教員担当教員による文法説明、発音・会話練習、および多様なメディアを用いた中国の生活文化の一部分を紹介する中から、生きた中国語を学習する。
授業の到達目標	医療福祉専門用語を含め、基本的な中国語の理解と中国語への一層の興味を促し、次年度の「中国語中級」への継続的学習に導く。また本学のカリキュラム「海外保健福祉事情」(単位認定制)における中国夏季研修を履修する学生の現地での応用にも役立てたい。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「中国語初級2」についてのガイダンス	
第2回	中国語の基本音節練習	
第3回	中国語入門・基本編Ⅱ・第1回	
第4回	中国語入門・基本編Ⅱ・第2回	
第5回	中国語入門・基本編Ⅱ・第3回	
第6回	中国語入門・基本編Ⅱ・第4回	
第7回	中国語入門・基本編Ⅱ・第5回	
第8回	中国語入門・基本編Ⅱ・第6回	
第9回	中国語入門・基本編Ⅱ・第7回	
第10回	中国語入門・基本編Ⅱ・第8回	
第11回	中国語入門・基本編Ⅱ・第9回	
第12回	中国語入門・基本編Ⅱ・第10回	
第13回	「中国語初級2」についての復習	
第14回	「中国語初級2」についてのまとめ	
第15回	総括	

成績評価の方法	■筆記試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 60%、小テスト 40%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に中国語を聞き、語る学習姿勢で臨んでほしい 予習と復習も心がけてほしい
履修条件	前期の「中国語初級1」を履修し、単位を取得した学生を対象とする

教科書	講義時に資料配布
参考書	中国語入門(上野恵司著、NHK出版)

オフィスアワー	木曜3限、J棟108研究室
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	中国語初級2(基礎)			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	山田 登美子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 4限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義、グループ練習						

授業の概要 (主題)	今日では中国語を使用する人口が約13億で、世界総人口の20%を占め、中国語が世界で最も話者の多い言語である。本学では「国際性」の理念をより一層深めるために、前期では、「中国語初級1」、後期では、「中国語初級2」を学び、中国語について、「説／聴／読／写」の四技能の習得を目指す。担当教員による文法説明、発音・会話練習、および多様なメディアを用いた中国の生活文化の一部分を紹介する中から、生きた中国語を学習する。
授業の到達目標	医療福祉専門用語を含め、基本的な中国語の理解と中国語への一層の興味を促し、次年度の「中国語中級」への継続的学習に導く。また本学のカリキュラム「海外保健福祉事情」(単位認定制)における中国夏季研修を履修する学生の現地での応用にも役立てたい。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「中国語初級2」についてのガイダンス	
第2回	中国語の基本音節練習	
第3回	中国語入門・基本編Ⅱ・第1回	
第4回	中国語入門・基本編Ⅱ・第2回	
第5回	中国語入門・基本編Ⅱ・第3回	
第6回	中国語入門・基本編Ⅱ・第4回	
第7回	中国語入門・基本編Ⅱ・第5回	
第8回	中国語入門・基本編Ⅱ・第6回	
第9回	中国語入門・基本編Ⅱ・第7回	
第10回	中国語入門・基本編Ⅱ・第8回	
第11回	中国語入門・基本編Ⅱ・第9回	
第12回	中国語入門・基本編Ⅱ・第10回	
第13回	「中国語初級2」についての復習	
第14回	「中国語初級2」についてのまとめ	
第15回	総括	

成績評価の方法	■筆記試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 60%、小テスト 40%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に中国語を聞き、語る学習姿勢で臨んでほしい 予習と復習も心がけてほしい
履修条件	前期の「中国語初級1」を履修し、単位を取得した学生を対象とする

教科書	講義時に資料配布
参考書	中国語入門(上野恵司著、NHK出版)

オフィスアワー	授業後に受付ける
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	中国語中級1(応用)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	陳霞芬		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜4限	必修/選択	選択		単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義、グループ練習							

授業の概要 (主題)	<p>今日では、中国語はその使用人口が約13億と、世界総人口63億の20%を占める、世界で最も話者の多い言語である。本学では「国際性」の理念をより一層深めるため、既に「中国語初級1、2」レベルの中国語学習を修了した学生を対象に、前期では「中国語中級1」、後期では「中国語中級2」を学び、中国語によるコミュニケーション能力の更なる向上を目指す。</p> <p>また中国語を母語とする担当教員による文法説明および発音・会話練習とともに多様なメディアを用いた中国生活文化等の紹介の中から、生きた中国語を学習する。</p>
授業の到達目標	<p>既習の中国語文法や表現に磨きをかけ、医療福祉専門用語を含めて更なる中国語の理解と運用力の向上を図るとともに、中国語への一層の興味を促し、後期の「中国語中級2」への継続的学習に導く。また本学のカリキュラム「海外保健福祉事情」(単位認定制)における中国夏季研修を履修者の現地での応用にも役立てたい。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「中国語中級1」についてのガイダンス	
第2回	中国語の基本音節練習	
第3回	中国語入門・応用編Ⅰ・第1回	
第4回	中国語入門・応用編Ⅰ・第2回	
第5回	中国語入門・応用編Ⅰ・第3回	
第6回	中国語入門・応用編Ⅰ・第4回	
第7回	中国語入門・応用編Ⅰ・第5回	
第8回	中国語入門・応用編Ⅰ・第6回	
第9回	中国語入門・応用編Ⅰ・第7回	
第10回	中国語入門・応用編Ⅰ・第8回	
第11回	中国語入門・応用編Ⅰ・第9回	
第12回	中国語入門・応用編Ⅰ・第10回	
第13回	「中国語中級1」についての復習	
第14回	「中国語中級1」についてのまとめ	
第15回	総括	

成績評価の方法	■筆記試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験60%、小テスト40%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に中国語を聞き、語る学習姿勢で臨んでほしい 予習と復習も心がけてほしい
履修条件	既に「中国語初級1、2」の中国語学習を修了した学生を対象とする

教科書	特に指定しない(講義時に資料配布)
参考書	中国語入門(上野恵司著、NHK出版)

オフィスアワー	木曜3限、J棟108研究室
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	中国語中級2(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	陳霞芬	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜2限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義、グループ練習						

授業の概要 (主題)	<p>今日では、中国語はその使用人口が約13億と、世界総人口63億の20%を占める、世界で最も話者の多い言語である。本学では、「国際性」の理念をより一層深めるため、既に「中国語初級1、2」レベルの中国語学習を修了した学生を対象に、今年度の前期では「中国語中級1」、後期では「中国語中級2」を学び、中国語によるコミュニケーション能力の更なる向上を目指す。</p> <p>また中国語を母語とする担当教員による文法説明および発音・会話練習とともに、多様なメディアを用いた中国生活文化等の紹介の中から、生きた中国語を学習する。</p>
授業の到達目標	<p>主に中国語初級1、2、中国語中級1の修了学生に対し、既習の中国語文法や表現に磨きをかけ、医療福祉専門用語を含め、更なる中国語の理解と運用力の向上を図るとともに、中国語への一層の興味を促し、今後の中国語の継続的学習に繋げたい。また本学のカリキュラム「海外保健福祉事情」(単位認定制)における中国夏季研修を履修する学生の現地での応用にも役立てたい。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	「中国語中級2」についてのガイダンス	
第2回	中国語の基本音節練習	
第3回	中国語入門・応用編Ⅱ・第1回	
第4回	中国語入門・応用編Ⅱ・第2回	
第5回	中国語入門・応用編Ⅱ・第3回	
第6回	中国語入門・応用編Ⅱ・第4回	
第7回	中国語入門・応用編Ⅱ・第5回	
第8回	中国語入門・応用編Ⅱ・第6回	
第9回	中国語入門・応用編Ⅱ・第7回	
第10回	中国語入門・応用編Ⅱ・第8回	
第11回	中国語入門・応用編Ⅱ・第9回	
第12回	中国語入門・応用編Ⅱ・第10回	
第13回	「中国語中級2」についての復習	
第14回	「中国語中級2」についてのまとめ	
第15回	総括	

成績評価の方法	■筆記試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験60%、小テスト40%
準備学習 学習へのアドバイス	積極的に中国語を聞き、語る学習姿勢で臨んでほしい 予習と復習も心がけてほしい
履修条件	前期の「中国語中級1」を履修し、単位を取得した学生を対象とする

教科書	特に指定しない(講義時に資料配布)
参考書	中国語入門(上野恵司著、NHK出版)

オフィスアワー	木曜3限、J棟108研究室
その他	



		大田原キャンパス					
科目名	韓国語初級1(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	この授業では初級学習者を対象に、韓国語の特徴に十分注意しながら「読む」「書く」「聞く」「話す」ための必要な基礎的能力を学んでいきます。日本人にとって使い分け／聞き分けの難しい発音が韓国語には多いため、前半では文字と発音を集中的に練習します。後半では基礎的な文法と語彙を修得しながら、それらを用いた会話の練習も進めていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文字と発音に慣れる、(2)簡単な文章の読み書きができる、(3)あいさつ・自己紹介など、日常場面での簡単なコミュニケーションができる、(4)外国語学習を通じて、異文化を理解する、(5)外国語・異文化への理解を深めることで、日本社会や文化の意味を改めて考える。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション:「韓国語」について	
第2回	第1課:文字と発音(1) 単母音・初声その1	
第3回	第1課:文字と発音(1) 半母音+単母音・終声その1	
第4回	第2課:文字と発音(2) 初声その2・有声音化	
第5回	第2課:文字と発音(2) 半母音+単母音・二重母音・連音化	
第6回	第3課:文字と発音(3) 初声その3・初声その4	
第7回	第3課:文字と発音(3) 終声その2・濃音化	
第8回	前半のまとめ・復習	
第9回	第4課:「韓国人です」(1)	
第10回	第4課:「韓国人です」(2)	
第11回	第5課:「韓国語は専攻ではありません」(1)	
第12回	第5課:「韓国語は専攻ではありません」(2)	
第13回	第6課:「教室は階段の横にあります」(1)	
第14回	第6課:「教室は階段の横にあります」(2)	
第15回	前期での学習事項のまとめ	

成績評価の方法	小テスト(毎回実施します)、定期試験
評価の基準	定期試験 70%、小テスト 30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには、どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。授業時間以外にも韓国語(外国語)に接することを心がけてください。
履修条件	韓国語学習の経験のない方を対象としています。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 入門編』朝日出版社、2012年。※後期にも使用します。一般の書店では扱われていないものなので、ご注意を(大学の書籍売店で購入可)。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	F-512 火曜 4 限(事前連絡あると助かります)
その他	現在では自らの専門分野に関係なく、少なくとも一つ以上の外国語は使えるようにしておくことが求められています。外国語に慣れ親しめば、その分だけ自分の世界(価値観)は広がっていきます。せっかく学ぶのですから、ぜひとも世界を広げてください。

				大田原キャンパス			
科目名	韓国語初級1(基礎)			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	金曜2限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	この授業では初級学習者を対象に、韓国語の特徴に十分注意しながら「読む」「書く」「聞く」「話す」ための必要な基礎的能力を学んでいきます。日本人にとって使い分け/聞き分けの難しい発音が韓国語には多いため、前半では文字と発音を集中的に練習します。後半では基礎的な文法と語彙を修得しながら、それらを用いた会話の練習も進めていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文字と発音に慣れる、(2)簡単な文章の読み書きができる、(3)あいさつ・自己紹介など、日常場面での簡単なコミュニケーションができる、(4)外国語学習を通じて、異文化を理解する、(5)外国語・異文化への理解を深めることで、日本社会や文化の意味を改めて考える。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション:「韓国語」について	
第2回	第1課:文字と発音(1) 単母音・初声その1	
第3回	第1課:文字と発音(1) 半母音+単母音・終声その1	
第4回	第2課:文字と発音(2) 初声その2・有声音化	
第5回	第2課:文字と発音(2) 半母音+単母音・二重母音・連音化	
第6回	第3課:文字と発音(3) 初声その3・初声その4	
第7回	第3課:文字と発音(3) 終声その2・濃音化	
第8回	前半のまとめ・復習	
第9回	第4課:「韓国人です」(1)	
第10回	第4課:「韓国人です」(2)	
第11回	第5課:「韓国語は専攻ではありません」(1)	
第12回	第5課:「韓国語は専攻ではありません」(2)	
第13回	第6課:「教室は階段の横にあります」(1)	
第14回	第6課:「教室は階段の横にあります」(2)	
第15回	前期での学習事項のまとめ	

成績評価の方法	小テスト(毎回実施します)、定期試験
評価の基準	定期試験70%、小テスト30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには、どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。授業時間以外にも韓国語(外国語)に接することを心がけてください。
履修条件	韓国語学習の経験のない方を対象としています。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 入門編』朝日出版社、2012年。※後期にも使用します。一般の書店では扱われていないものなので、ご注意を(大学の書籍売店で購入可)。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	F-512 火曜4限(事前連絡あると助かります)
その他	現在では自らの専門分野に関係なく、少なくとも一つ以上の外国語は使えるようにしておくことが求められています。外国語に慣れ親しめば、その分だけ自分の世界(価値観)は広がっていきます。せっかく学ぶのですから、ぜひとも世界を広げてください。

		大田原キャンパス					
科目名	韓国語初級2(基礎)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	前期「韓国語初級 1(基礎)」受講者を対象に、韓国語を「読む」「聞く」「書く」「話す」ための学習を進めていきます。基礎レベルの文法をベースに、語彙数を増やしながらか韓国語のコミュニケーション力を身に付けていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文字と発音に慣れる、(2)簡単な文章の読み書きができる、(3)あいさつ・自己紹介など、日常場面での簡単なコミュニケーションができる、(4)外国語学習を通じて異文化を理解する、(5)外国語・異文化への理解を深めることで日本社会や文化の意味を改めて考える。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション: 前期での学習事項の復習	
第 2 回	第 7 課:「午後、時間は大丈夫ですか」(1)	
第 3 回	第 7 課:「午後、時間は大丈夫ですか」(2)	
第 4 回	第 8 課:「小学生にテコンドーを教えてください」(1)	
第 5 回	第 8 課:「小学生にテコンドーを教えてください」(2)	
第 6 回	第 9 課:「ふつう、6 時に起きます」(1)	
第 7 回	第 9 課:「ふつう、6 時に起きます」(2)	
第 8 回	前半のまとめ・復習	
第 9 回	第 10 課:「野球がとても好きです」(1)	
第 10 回	第 10 課:「野球がとても好きです」(2)	
第 11 回	第 11 課:「昼食、食べなかったんですか」(1)	
第 12 回	第 11 課:「昼食、食べなかったんですか」(2)	
第 13 回	第 12 課:「春休みには何をするつもりですか」(1)	
第 14 回	第 12 課:「春休みには何をするつもりですか」(2)	
第 15 回	後期での学習事項のまとめ	

成績評価の方法	小テスト(毎回実施します)、定期試験
評価の基準	定期試験 70%、小テスト 30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには、どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。学んだことを、ぜひ復習してください。文字さえ覚えれば、もうこっちのものです。
履修条件	前期「韓国語初級 1(基礎)」履修者が対象。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 入門編』朝日出版社、2012 年。※前期に引き続き使用します。一般の書店では扱われていないものなので、ご注意を(大学の書籍売店で購入可)。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	F-512 火曜 4 限(事前連絡あると助かります)
その他	効果が現れるまでには努力と時間を要しますが、行動を起こさなければ効果は絶対に現れません。しかし努力した分は、(全てではないにせよ)報われます。その意味で、外国語学習はダイエットと似ています。要は、諦めたら負け、です。

				大田原キャンパス			
科目名	韓国語初級2(基礎)			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	前期「韓国語初級 1(基礎)」受講者を対象に、韓国語を「読む」「聞く」「書く」「話す」ための学習を進めていきます。基礎レベルの文法をベースに、語彙数を増やしながらか韓国語のコミュニケーション力を身に付けていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文字と発音に慣れる、(2)簡単な文章の読み書きができる、(3)あいさつ・自己紹介など、日常場面での簡単なコミュニケーションができる、(4)外国語学習を通じて異文化を理解する、(5)外国語・異文化への理解を深めることで日本社会や文化の意味を改めて考える。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション: 前期での学習事項の復習	
第 2 回	第 7 課:「午後、時間は大丈夫ですか」(1)	
第 3 回	第 7 課:「午後、時間は大丈夫ですか」(2)	
第 4 回	第 8 課:「小学生にテコンドーを教えてください」(1)	
第 5 回	第 8 課:「小学生にテコンドーを教えてください」(2)	
第 6 回	第 9 課:「ふつう、6 時に起きます」(1)	
第 7 回	第 9 課:「ふつう、6 時に起きます」(2)	
第 8 回	前半のまとめ・復習	
第 9 回	第 10 課:「野球がとても好きです」(1)	
第 10 回	第 10 課:「野球がとても好きです」(2)	
第 11 回	第 11 課:「昼食、食べなかったんですか」(1)	
第 12 回	第 11 課:「昼食、食べなかったんですか」(2)	
第 13 回	第 12 課:「春休みには何をするつもりですか」(1)	
第 14 回	第 12 課:「春休みには何をするつもりですか」(2)	
第 15 回	後期での学習事項のまとめ	

成績評価の方法	小テスト(毎回実施します)、定期試験
評価の基準	定期試験 70%、小テスト 30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには、どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。学んだことを、ぜひ復習してください。文字さえ覚えれば、もうこっちのものです。
履修条件	前期「韓国語初級 1(基礎)」履修者が対象。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 入門編』朝日出版社、2012 年。※前期に引き続き使用します。一般の書店では扱われていないものなので、ご注意を(大学の書籍売店で購入可)。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	F-512 火曜 4 限(事前連絡あると助かります)
その他	効果が現れるまでには努力と時間を要しますが、行動を起こさなければ効果は絶対に現れません。しかし努力した分は、(全てではないにせよ)報われます。その意味で、外国語学習はダイエットと似ています。要は、諦めたら負け、です。

		大田原キャンパス					
科目名	韓国語中級1(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	水曜3限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	前年度「韓国語初級1(基礎)」の受講者,あるいは初級レベルの学習経験者を対象に,韓国語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の応用能力を延ばしていきます。初級レベルでの学習事項を復習しつつ,新たな文法事項・語彙の理解を深め,韓国語のコミュニケーション力を身に付けていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文法事項に関する理解を深める,(2)韓国語の語彙量を増やし,コミュニケーションに役立てられるようにする,(3)外国語学習を通じて異文化,自国の文化を理解する。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション,初級の復習(1)	
第2回	第1課:「何年度入学ですか」(1)	
第3回	第1課:「何年度入学ですか」(2)	
第4回	第2課:「韓国語を一生懸命勉強するつもりです」(1)	
第5回	第2課:「韓国語を一生懸命勉強するつもりです」(2)	
第6回	第3課:「電子辞書,ちょっと見せてください」(1)	
第7回	第3課:「電子辞書,ちょっと見せてください」(2)	
第8回	前半のまとめ・復習	
第9回	第4課:「チューターが要りませんか」(1)	
第10回	第4課:「チューターが要りませんか」(2)	
第11回	第5課:「この間,一緒に撮った写真も送りました」(1)	
第12回	第5課:「この間,一緒に撮った写真も送りました」(2)	
第13回	第6課:「交通事故で道が混んで来られませんでした」(1)	
第14回	第6課:「交通事故で道が混んで来られませんでした」(2)	
第15回	前期での学習事項のまとめ	

成績評価の方法	小テスト(毎回),定期試験
評価の基準	定期試験70%,小テスト30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには,どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。学んだことを,ぜひ復習してください。文法事項の情報と語彙力を増やすことで,かなりの程度,外国語には対応できます。
履修条件	「韓国語初級1(基礎)」履修者,もしくは韓国語学習経験(初級レベル)のある者が対象。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 初中級編』朝日出版社,2016年。 ※一般の書店では扱われていないものなので,ご注意を(大学の書籍売場で購入可)。 ※後期にも使用します。 ※「韓国語初級1(基礎)」とは異なる教科書です。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	福井研究室 F-512 火曜4限(事前連絡あると助かります)
その他	外国の言語とともに,外国の文化や歴史にも興味を広げてください。

		大田原キャンパス					
科目名	韓国語中級1(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	火曜4限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	前年度「韓国語初級1(基礎)」の受講者,あるいは初級レベルの学習経験者を対象に,韓国語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の応用能力を延ばしていきます。初級レベルでの学習事項を復習しつつ,新たな文法事項・語彙の理解を深め,韓国語のコミュニケーション力を身に付けていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文法事項に関する理解を深める,(2)韓国語の語彙量を増やし,コミュニケーションに役立てられるようにする,(3)外国語学習を通じて異文化,自国の文化を理解する。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション,初級の復習(1)	
第2回	第1課:「何年度入学ですか」(1)	
第3回	第1課:「何年度入学ですか」(2)	
第4回	第2課:「韓国語を一生懸命勉強するつもりです」(1)	
第5回	第2課:「韓国語を一生懸命勉強するつもりです」(2)	
第6回	第3課:「電子辞書,ちょっと見せてください」(1)	
第7回	第3課:「電子辞書,ちょっと見せてください」(2)	
第8回	前半のまとめ・復習	
第9回	第4課:「チューターが要りませんか」(1)	
第10回	第4課:「チューターが要りませんか」(2)	
第11回	第5課:「この間,一緒に撮った写真も送りました」(1)	
第12回	第5課:「この間,一緒に撮った写真も送りました」(2)	
第13回	第6課:「交通事故で道が混んで来られませんでした」(1)	
第14回	第6課:「交通事故で道が混んで来られませんでした」(2)	
第15回	前期での学習事項のまとめ	

成績評価の方法	小テスト(毎回),定期試験
評価の基準	定期試験70%,小テスト30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには,どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。学んだことを,ぜひ復習してください。文法事項の情報と語彙量を増やすことで,かなりの程度,外国語には対応できます。
履修条件	「韓国語初級1(基礎)」履修者,もしくは韓国語学習経験(初級レベル)のある者が対象。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 初中級編』朝日出版社,2016年。 ※一般の書店では扱われていないものなので,ご注意を(大学の書籍売場で購入可)。 ※後期にも使用します。 ※「韓国語初級1(基礎)」とは異なる教科書です。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	福井研究室 F-512 火曜4限(事前連絡あると助かります)
その他	外国の言語とともに,外国の文化や歴史にも興味を広げてください。

		大田原キャンパス					
科目名	韓国語中級2(応用)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	原則として、前期「韓国語中級 1(応用)」の受講者を対象とします(初級レベル学習経験者は、相談のうえ決定)。前期に続き、韓国語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の応用能力を伸ばしていきます。初級レベルでの学習事項を復習しつつ、新たな文法事項・語彙の理解を深め、韓国語のコミュニケーション力を身に付けていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文法事項に関する理解を深める、(2)韓国語の語彙を増やし、コミュニケーションに役立てられるようにする、(3)外国語学習を通じて異文化、自国の文化を理解する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション, 前期の復習	
第 2 回	第 7 課:「暑い夏にサムゲタンを食べます」(1)	
第 3 回	第 7 課:「暑い夏にサムゲタンを食べます」(2)	
第 4 回	第 8 課:「重くないので一人ですますよ」(1)	
第 5 回	第 8 課:「重くないので一人ですますよ」(2)	
第 6 回	第 9 課:「日本のように茶碗をもって食べてもいいですか」(1)	
第 7 回	第 9 課:「日本のように茶碗をもって食べてもいいですか」(2)	
第 8 回	前半の学習事項の確認, 復習	
第 9 回	第 10 課:「リムジンバスの方がいいでしょうね」(1)	
第 10 回	第 10 課:「リムジンバスの方がいいでしょうね」(2)	
第 11 回	第 11 課:「難しすぎませんか」(1)	
第 12 回	第 11 課:「難しすぎませんか」(2)	
第 13 回	第 12 課:「卒業してもう一回来ようと思います」(1)	
第 14 回	第 12 課:「卒業してもう一回来ようと思います」(2)	
第 15 回	後期の学習事項の確認, 復習	

成績評価の方法	小テスト(毎回実施します), 定期試験
評価の基準	定期試験 70%, 小テスト 30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには、どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。学んだことを、ぜひ復習してください。文法事項の情報と語彙力を増やすことで、かなりの程度、外国語には対応できます。
履修条件	前期「韓国語中級 1(応用)」の履修者 ※それ以外は相談のうえ決定。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 初中級編』朝日出版社、2016 年。 ※前期に引き続き使用します。 ※一般の書店では扱われていないものなので、ご注意を(大学の書籍売店で購入可)。 ※「韓国語初級 1・2(基礎)」とは異なる教科書です。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	F-512 火曜 4 限(事前連絡あると助かります)
その他	外国語学習や国際交流、海外留学などに興味のある方、質問や討論など、いつでも歓迎します。

				大田原キャンパス			
科目名	韓国語中級2(応用)			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	原則として、前期「韓国語中級 1(応用)」の受講者を対象とします(初級レベル学習経験者は、相談のうえ決定)。前期に続き、韓国語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の応用能力を伸ばしていきます。初級レベルでの学習事項を復習しつつ、新たな文法事項・語彙の理解を深め、韓国語のコミュニケーション力を身に付けていきます。
授業の到達目標	(1)韓国語の文法事項に関する理解を深める、(2)韓国語の語彙を増やし、コミュニケーションに役立てられるようにする、(3)外国語学習を通じて異文化、自国の文化を理解する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション, 前期の復習	
第 2 回	第 7 課:「暑い夏にサムゲタンを食べます」(1)	
第 3 回	第 7 課:「暑い夏にサムゲタンを食べます」(2)	
第 4 回	第 8 課:「重くないので一人ですますよ」(1)	
第 5 回	第 8 課:「重くないので一人ですますよ」(2)	
第 6 回	第 9 課:「日本のように茶碗をもって食べてもいいですか」(1)	
第 7 回	第 9 課:「日本のように茶碗をもって食べてもいいですか」(2)	
第 8 回	前半の学習事項の確認, 復習	
第 9 回	第 10 課:「リムジンバスの方がいいでしょうね」(1)	
第 10 回	第 10 課:「リムジンバスの方がいいでしょうね」(2)	
第 11 回	第 11 課:「難しすぎませんか」(1)	
第 12 回	第 11 課:「難しすぎませんか」(2)	
第 13 回	第 12 課:「卒業してもう一回来ようと思います」(1)	
第 14 回	第 12 課:「卒業してもう一回来ようと思います」(2)	
第 15 回	後期の学習事項の確認, 復習	

成績評価の方法	小テスト(毎回実施します)、定期試験
評価の基準	定期試験 70%、小テスト 30%
準備学習 学習へのアドバイス	「目・手・耳・口」が外国語に慣れるまでには、どうしても一定以上の「くり返し」が求められます。学んだことを、ぜひ復習してください。文法事項の情報と語彙力を増やすことで、かなりの程度、外国語には対応できます。
履修条件	前期「韓国語中級 1(応用)」の履修者 ※それ以外は相談のうえ決定。

教科書	李潤玉ほか『改訂版 韓国語の世界へ 初中級編』朝日出版社、2016年。 ※前期に引き続き使用します。 ※一般の書店では扱われていないものなので、ご注意を(大学の書籍売店で購入可)。 ※「韓国語初級 1・2(基礎)」とは異なる教科書です。
参考書	必要に応じて授業時間に紹介していきます。

オフィスアワー	F-512 火曜 4 限(事前連絡あると助かります)
その他	外国語学習や国際交流、海外留学などに興味のある方、質問や討論など、いつでも歓迎します。



							大田原キャンパス	
科目名	作文・読解 I (入門) (留学生)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	福井 譲		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	木/金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	この授業では短い文の書き方から始め、段落を作り、次第に長い文章(最終的には 2000 字程度の文章)を書けるようになることを目指します。留学生活に必要な「書く能力」の基礎・基本をしっかりと学び、さまざまな場面に応じた文章の書き方、表現の仕方を身に付けます。日本語を正確に書きたいと思っている方や日本語でレポートが書けるようになりたいと思っている方を対象としています。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な文法を用いて正確な文章を書くことができるようになる。</li> <li>2. 基本的な文法を用いて論理的な文章を書くことができるようになる。</li> <li>3. 文体や引用など、形式的に正しいレポートを書くことができるようになる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	L1. 簡潔に回答する	
第 3 回	L2. 情報を文章にする	
第 4 回	L3. 状況を説明し意見を述べる	
第 5 回	L4. 段落を作る	
第 6 回	L5. 体験したことを報告する	
第 7 回	L6. テーマに沿った意見文を書く	
第 8 回	L7. 自分をアピールする文を書く	
第 9 回	レポートを書くための基礎知識	
第 10 回	L8. 順序だててレポートを書く(1)	
第 11 回	L8. 順序だててレポートを書く(2)	
第 12 回	L9. 引用してレポートを書く(1)	
第 13 回	L10. 資料を利用してレポートを書く(1)	
第 14 回	L10. 資料を利用してレポートを書く(2)	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート ■その他(宿題)
評価の基準	定期試験 60% その他 40%(各項目基準点を設けます)
準備学習 学習へのアドバイス	毎回、宿題を出します。その他にも予習・復習が必要です。
履修条件	入学時のプレースメントテストの結果を基に個別にアドバイスします。

教科書	プリントを使用します。
参考書	佐々木瑞枝・細井和代・藤尾喜代子, 2006, 中・上級者用日本語テキスト 大学で学ぶ 日本語ライティング 短文からレポート作成まで, The Japan Times

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	作文・読解Ⅱ(応用)(留学生)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期/後期
曜日時限	前期(金曜 6限) 前期(金曜 6限)	必修/ 選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	「レポート」は、私的な経験や感想を自由に書く「作文」とは違い、ある課題に対し一定の形式とルールに則って書くものです。この授業では留学生が学部生として日本語でレポートや論文を書くための「形式」とよりの確で自然な「表現」を学び、身に着けることを目標としています。
授業の到達目標	1. レポートの形式を適切に構成することができるようになる。 2. レポートに用いられる表現を正しく使用することができるようになる。 3. 6,000字程度のレポートを書くことができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	1. オリエンテーション	
第2回	2. L1, 2 作文の基礎	
第3回	3. L3 課題の提示(序論)	
第4回	4. L4 目的の提示(序論)	
第5回	5. L5 定義の分類(方法)	
第6回	6. L6 図表の提示(結果・考察)	
第7回	7. L7 変化の形容(結果・考察)	
第8回	8. L8 対比と比較(結果・考察)	
第9回	9. L9 原因の考察(結果・考察)	
第10回	10. L10 列挙(結果・考察)	
第11回	11. L11 引用(結果・考察)	
第12回	12. L12 同意と反論(結果・考察)	
第13回	13. L13 帰結(結果・考察)	
第14回	14. L14 結論の提示(結論)	
第15回	15. まとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート ■その他(宿題・課題)
評価の基準	定期試験 60% その他(宿題 10% 課題 30%(各項目に基準点を設けます))
準備学習 学習へのアドバイス	毎回、宿題を出します。その他にも予習・復習が必要です。
履修条件	入学時のプレースメントテストの結果を基に個別にアドバイスします。

教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会編著, 2002, 大学・大学院 留学生の日本語 4 論文作成編, アルク
参考書	二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子, 2009, 留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック, 東京大学出版会

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	作文・読解Ⅲ(完成)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲		科目担当者				
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜 6限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	「作文」や「感想文」、「手紙」といったものとは異なる「レポート」や「論文」の書き方を身につけることを目標とする。またさまざまな分野の文章について、限られた時間内で大意をつかめるようになるだけでなく、時間をかけて精読し細かな部分まで理解できるようになることを目指す。
授業の到達目標	1. 決められた時間内で文章を精読できるようになる。 2. 作文・読解Ⅰ、Ⅱで学んだことを総合的に復習しながらより深く学ぶことで、レポートや論文作成に実践的に生かすことができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション (作文)1. レポートに使われる文体 (読解)課題(新聞読解、要約)	
第2回	(作文)2. 文の基本、文章修正課題 (読解)課題に対するフィードバック	
第3回	(作文)3. 句読点の打ち方、記号の使い方 (読解)課題(論文読解、要約、意見の記述)	
第4回	(作文)4. 引用のしかた、段落 (読解)課題に対するフィードバック	
第5回	(作文)5. 仕組みの説明 (読解)課題(新聞読解、要約、意見の記述)	
第6回	(作文)6. 歴史的な経過の説明 (読解)課題に対するフィードバック	
第7回	(作文)7. 分類 (読解)課題(論文読解、要約、意見の記述)	
第8回	(作文)8. 定義 (読解)課題に対するフィードバック	
第9回	(作文)9. 要約 (読解)課題(新聞読解、要約、意見の記述)	
第10回	(作文)10. 比較・対象 (読解)課題に対するフィードバック	
第11回	(作文)11. 因果関係 (読解)課題(論文読解、要約、意見の記述)	
第12回	(作文)12. 論説文 (読解)課題に対するフィードバック	
第13回	(作文)13. 資料の利用 (読解)課題(新聞読解、要約、意見の記述)	
第14回	(作文)14. レポートの作成 (読解)課題に対するフィードバック	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート ■その他(宿題)
評価の基準	定期試験 60% 小テスト 20% 宿題 20%(各項目に基準点を設けます)
準備学習 学習へのアドバイス	予習が必須です。
履修条件	入学時のプレースメントテストの結果を基に個別にアドバイスします。

教科書	プリントを使用します。
参考書	植木香・植田幸子・野口和美(2006) 完全マスター1級 日本語能力試験文法問題対策

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	文法・語彙 I (入門) (留学生)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	木曜 6 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	初級レベルの文法と中級レベルの語彙を復習しながら、日常生活で要求される正確かつ的確な表現を練習します。取り扱う内容は基礎的なものですが、長期に渡り日本語を学習・使用している留学生さんがよく間違いやすいものを主な対象としています。
授業の到達目標	(1) 基礎的な文法項目と語彙を、正しく用いることができるようになる。 (2) 適切な語彙を選択し、文法的に正しいレポートを作成することができるようになる。 (3) 日本語で正確なコミュニケーションができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	文法(1):第 1 課 助詞, 第 2 課 「は」と「が」	
第 3 回	文法(2):第 7 課 こ・そ・あ, 相手と自分との関係	
第 4 回	文法(3):第 10 課 継続性か瞬間性か, 第 12 課 他動詞と自動詞の対	
第 5 回	文法(4):第 13 課 可能表現, 第 15 課 条件など	
第 6 回	文法(5):第 17 課 使役, 第 18 課 受身・使役受身	
第 7 回	文法(6):第 19 課 敬語	
第 8 回	語彙(1):1 年間の暮らしに関することば	
第 9 回	語彙(2):仕事に関係することば	
第 10 回	語彙(3):状態・感情を表すことば	
第 11 回	語彙(4):副詞の整理	
第 12 回	語彙(5):カタカナ語	
第 13 回	語彙(6):多義語	
第 14 回	語彙(7):複合語	
第 15 回	全体のまとめと復習	

成績評価の方法	定期試験, 小テスト, 授業態度(授業への積極的な参加)
評価の基準	定期試験 60%, 小テスト 20%, 課題 20%
準備学習 学習へのアドバイス	予習と復習を心がけてください。
履修条件	プレイスメントテストの結果と個別指導に基づき, 履修します。

教科書	プリントを使用します。
参考書	友松悦子ほか編『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント 20』スリーエーネットワーク, 2003 年。 佐々木仁子・松本紀子『日本語能力試験対策 N2 日本語総まとめ 語彙』アスク, 2011 年。

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	文法・語彙Ⅱ(応用)(留学生)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	前期/後期
曜日時限	前期(水曜 6限) 後期(水曜 4限) 後期(火曜 6限)	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	中級レベルにおいて留学生が間違えやすい文法と学習しにくい語彙を学習します。本授業は、日本語の中級から上級レベルの文法や語彙に自信がなく、書いたり話したりすることに不安のある人、もう一度、基礎から日本語力を固めたい人を対象として想定しています。
授業の到達目標	1. 書き言葉に多用される表現文型を使ってレポートを作成することができるようになる。 2. 前後の文脈に注意して、論理的な文章を書くことができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション	
第2回	助詞の働きをする言葉(1) L3	
第3回	助詞の働きをする言葉(2) (3)L4, L5	
第4回	名詞化の方法「の」「こと」 L6	
第5回	ていねいな言い方 L19	
第6回	語彙(1) 気持ち・動作・行為 (第1週)	
第7回	語彙(2) 様子 (第2週)	
第8回	語彙(3) 副詞 (第3週)	
第9回	語彙(4) 漢字を使うことば 1 (第4週)	
第10回	語彙(5) 漢字を使うことば 2 (第5週)	
第11回	語彙(6) 多義語 (第6週)	
第12回	語彙(7) カタカナの語彙 (第7週)	
第13回	語彙(8) 意味の似ている言葉 (第8週)	
第14回	まとめ	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート ■その他(宿題)
評価の基準	定期試験 60% 小テスト 20% 宿題 20%(各項目に基準点を設けます)
準備学習 学習へのアドバイス	日本語ⅠAの次の段階の項目を学習します。各自の学習計画に合わせ履修してください。
履修条件	入学時のプレースメントテストの結果を基に個別にアドバイスします。

教科書	プリントを使用します。
参考書	友松悦子・和栗雅子(2007)中級日本語文法要点整理ポイント 20 スリーエーネットワーク 佐々木仁子・松本紀子(2011)日本語総まとめ N1 語彙 アスク

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	文法・語彙Ⅲ(完成) (留学生)			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	福井 謙	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜 5限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	より高度で自然な日本語を話したり書いたりできるように、使い分けが難しい文法項目について学んでいく。意味が通じるレベルから脱皮し、分かりやすくて確かな文法表現を身につける。語彙に関しては、主に医療・福祉の現場で使われる語彙に注目し、中でもカタカナの表現を中心に学んでいく。
授業の到達目標	1. 類似した文法事項を区別し、適切に用いることができるようになる。 2. 医療・福祉の現場で使用されるカタカナ語について、和語や漢語の表現とともに学び、その両方が使えるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション (文法)1. 行為の対象(語彙)1. 病院と施設	
第2回	(文法)2. 目的・手段・媒介 3. 起点・終点・限界・範囲 4. 時点・場面 (語彙)2. 病院の中	
第3回	(文法)5. 時間的同時性・時間的前後関係 6. 進行・相関関係 7. 付帯・非付帯 (語彙)3. 人々	
第4回	(文法)8. 限定 9. 非限定・付加 10. 比較・程度・対比 (語彙)4. 体	
第5回	(文法)11. 判断の立場・評価の視点 12. 基準 (語彙)5. 整容介助	
第6回	(文法)13. 関連・対応 14. 無関係・無視・例外 (語彙)6. 食事介助	
第7回	(文法)15. 例示 16. 程度の強調 (語彙)7. カレンダー	
第8回	(文法)17. 話題 18. 逆説・譲歩 (語彙)8. レクリエーション	
第9回	(文法)19. 原因・理由 20. 仮定条件・確定条件 (語彙)9. 休日	
第10回	(文法)21. 逆説仮定条件 22. 不可能・可能・困難・容易 (語彙)10. 勉強	
第11回	(文法)23. 傾向・状態・様子 24. 経過・結末 (語彙)11. 日誌	
第12回	(文法)25. 否定・部分否定 26. 伝聞・推量 (語彙)12. 書類	
第13回	(文法)27. 心情の強調 28. 誘い・勧め・注意・禁止 (語彙)13. まとめの問題	
第14回	(文法)29. 主張・断定的評価 30. 感嘆・願望 (語彙)14. まとめの問題	
第15回	総括	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート ■その他
評価の基準	定期試験 70% 小テスト 20% その他 10%(各項目に基準点を設けます)
準備学習 学習へのアドバイス	予習が必須です。
履修条件	入学時のプレースメントテストの結果を基に個別にアドバイスします。

教科書	プリントを使用します。
参考書	特にありません。

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	発表・討論 I (応用) (留学生)			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期/後期
曜日時限	前期(月曜 6 限) 後期(月曜 6 限)	必修/ 選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	この授業では講義や研究発表の場で必要な技術・方法について学びます。講義や発表の流れをつかみ、その主張や要点を的確に把握する技術を練習します。また自らが発表する時に必要な構成と表現方法、資料の作り方／扱い方にも注意して、どのようにすれば効果的な発表ができるかを学習します。
授業の到達目標	(1) 講義や発表の流れ・要点が把握できる, (2) 論点を的確に把握し, 要約することができる, (3) 相応しい表現や情報を用いた資料が作成できる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	第 0 課: メモの取り方, 構成の確認	
第 3 回	第 1 課: 発表の流れと基本的な表現, 練習	
第 4 回	第 2 課: 背景説明, 問題提起, 方向付け, 分類の表現	
第 5 回	第 2 課: 問題と応用練習	
第 6 回	第 3 課: 背景説明, 問題提起, 方向付け, 全体の予告, データの提示と活用	
第 7 回	第 3 課: 問題と応用練習	
第 8 回	第 4 課: 行動提示, データの説明と解釈, 本論の扱い	
第 9 回	第 4 課: 問題と応用練習	
第 10 回	第 5 課: データの比較と発表	
第 11 回	第 5 課: 問題と応用練習	
第 12 回	第 6 課: 結論の提示と全体のまとめ, 補足説明と質疑応答	
第 13 回	第 6 課: 問題と応用練習	
第 14 回	質疑応答の対処法, 資料の活用法, 課題 I	
第 15 回	前期での学習事項のまとめ	

成績評価の方法	定期試験, 課題発表, 授業態度 (授業への積極的な参加)
評価の基準	定期試験 35%, 課題発表 35%, 授業態度 30%
準備学習 学習へのアドバイス	(1) 授業時間中は積極的に参加・練習してください。(2) 気になること／分からないことはそのままにせず, 質問や調査など「解決」するようにしてください。
履修条件	プレースメントテストの結果と個別指導に基づき, 履修します。

教科書	プリントを使用します。
参考書	犬飼康弘『聴解・発表ワークブックーアカデミックスキルを身につける』スリーエーネットワーク, 2007 年。

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	発表・討論Ⅱ(完成)(留学生)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 3限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	演習						

授業の概要 (主題)	この授業では、特に論理的话题について発表する際に必要な「効果的な話の進め方」について学習します。自分の意見を分かりやすく述べる、相手の興味を引き付けながら話す、意見の異なる相手と衝突を避けて伝えるといった技術を、ここでは練習します。
授業の到達目標	(1)社会の出来事について、多様な語句・表現を用いて詳細に説明・描写できる、(2)異なる／多様な視点に配慮しながら、自らの意見を伝えることができる、(3)相手との関係を損なわず、自らの意見を伝えることができる、(4)抽象的な意見と具体的な事実をうまく使い分け、論理的に述べる事ができる、(5)相手に分かりやすい語彙・表現を活用し、端的に述べる事ができる。

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション	
第2回	第1課:「好きなシーンを紹介しよう」	
第3回	第2課:「子どもたちに母国の行事を紹介しよう」	
第4回	第3課:「困った状況を伝えて交渉しよう」	
第5回	第4課:「不満に対処しよう」	
第6回	第5課:「目上の人に注意を促そう」	
第7回	第6課:「グラフや表を説明しよう」	
第8回	前半のまとめ	
第9回	第7課:「ステレオタイプを打ち破ろう」	
第10回	第8課:「就職試験制度について説明しよう」	
第11回	第9課:「働くことの意義について討論しよう」	
第12回	第10課:「環境問題について話そう」	
第13回	第11課:「犯罪傾向から現代社会を語ろう」	
第14回	第12課:「マスコミの功罪について討論しよう」	
第15回	後半のまとめ、後期授業の総括。	

成績評価の方法	定期試験, 課題発表, 授業態度(授業への積極的な参加)
評価の基準	定期試験 35%, 課題発表 35%, 授業態度 30%
準備学習 学習へのアドバイス	(1)授業時間中は積極的に参加・練習してください、(2)気になること／分からないことはそのままにせず、質問や調査など「解決」するようにしてください。
履修条件	

教科書	プリントを使用します。
参考書	荻原稚佳子・齋藤眞理子・伊藤とく美 『日本語超級話者へのかけはし-きちんと伝える技術と表現-』スリーエーネットワーク, 2007年。

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	



				大田原キャンパス			
科目名	医療福祉専門漢字（留学生）			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期/後期
曜日時限	前期(火曜 6 限) 前期(木曜 6 限)	必修/ 選択	必修	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	学部共通科目 6 科目(解剖学, 公衆衛生学, リハビリテーション概論, 臨床心理学, 生理学, 医学概論)の専門用語に使われる漢字の中で, 読み書きの難しい約 300 字について学習します。漢字のレベルは日本語能力試験試験 1 級以上の漢字約 229 字を含みます。
授業の到達目標	(1)専門分野の漢字を見て正しく読むことができるようになる。 (2)専門用語を正しく書くことができるようになる。 (3)講義中に専門用語を正しく聞き, 正しく書き取ることができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	第 1 課 漢字 No.1~No.28	
第 3 回	第 2 課 漢字 No.29~No.56	
第 4 回	第 3 課 漢字 No.57~No.84	
第 5 回	第 4 課 漢字 No.85~No.112	
第 6 回	第 5 課 漢字 No.113~No.140	
第 7 回	第 6 課 漢字 No.141~No.168	
第 8 回	前半のまとめと復習	
第 9 回	第 7 課 漢字 No.169~No.196	
第 10 回	第 8 課 漢字 No.197~No.224	
第 11 回	第 9 課 漢字 No.225~No.252	
第 12 回	第 10 課 漢字 No.253~No.280	
第 13 回	第 11 課 漢字 No.281~No.306	
第 14 回	後半のまとめと復習	
第 15 回	まとめと総括	

成績評価の方法	定期試験, 小テスト, 授業態度(授業への積極的な参加)
評価の基準	定期試験 60%, 小テスト 20%, 課題提出 20%
準備学習 学習へのアドバイス	読み方や意味だけでなく, 「日本語の漢字」として書き方にも注意して練習します。
履修条件	プレースメントテストの結果と個別指導に基づき, 履修します。

教科書	プリントを使用します。
参考書	古橋洋子『医学漢字マスターブック』文光堂, 2001 年。 増田光司ほか編『基礎医学術語学習辞典』凡人社, 2006 年。

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	医療福祉専門語彙（留学生）			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	福井 譲	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	水曜 6限	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	国家試験の過去問題から、専門領域の語彙・表現について学習します。専門領域に関する知識も求められるため、各専門学科の学習も併せて進めてください。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国家試験で用いられる専門語彙を正しく読解できるようになる。</li> <li>(2) 国家試験で用いられる専門語彙を正しく発音できるようになる。</li> <li>(3) 専門語用語を聞き、内容を素早く理解できるようになる。</li> <li>(4) 対話コミュニケーションにおいて、専門用語を正しく用いられるようになる。</li> <li>(5) これら専門用語を、自由に活用できるようになる。</li> </ul>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション	
第2回	第1課 専門単語 1～25	
第3回	第2課 専門単語 26～50	
第4回	第3課 専門単語 51～75	
第5回	第4課 専門単語 76～100	
第6回	第5課 専門単語 101～125	
第7回	第6課 専門単語 126～150	
第8回	前半のまとめと復習	
第9回	第7課 専門単語 151～175	
第10回	第8課 専門単語 176～200	
第11回	第9課 専門単語 201～225	
第12回	第10課 専門単語 226～250	
第13回	第11課 専門単語 251～275	
第14回	第12課 専門単語 276～300	
第15回	後半のまとめと全体の総括	

成績評価の方法	定期試験、小テスト、授業態度(授業への積極的な参加)
評価の基準	期末試験 60%, 小テスト 20%, 課題 20%
準備学習 学習へのアドバイス	日常で用いられる単語とは異なる語彙を扱います。予習と復習に心がけてください。
履修条件	プレイスメントテストの結果と個別指導に基づき、履修します。

教科書	プリントを使用します。
参考書	古橋洋子『医学漢字マスターブック』文光堂, 2001年。 増田光司ほか編『基礎医学術語学習辞典』凡人社, 2006年。

オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。
その他	

					大田原キャンパス	
科目名	日本語基礎 I (初級)			授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	---	科目担当者				
学科				学年		期
曜日時限		必修/選択		単位数	3	時間数
授業の形態						

授業の概要 (主題)	
授業の到達目標	

授業計画		
回数	内容	担当

成績評価の方法	
評価の基準	
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	
参考書	

オフィスアワー	
その他	

						大田原キャンパス	
科目名	日本語基礎Ⅱ(初級)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	---	科目担当者					
学科				学年		期	
曜日時限		必修/選択		単位数	3	時間数	
授業の形態							

授業の概要 (主題)	
授業の到達目標	

授業計画		
回数	内容	担当

成績評価の方法	
評価の基準	
準備学習 学習へのアドバイス	
履修条件	

教科書	
参考書	

オフィスアワー	
その他	



総合教育科目  
【保健・体育系】



						大田原キャンパス	
科目名	健康科学理論 (VOD 授業)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	金子 純一郎	科目担当者	下井 俊典、西堀 眞弘				
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	集中講義	必修/選択	言語:必修 その他:選択	単位数	1	時間数	15 時間
授業の形態	VOD 授業(対面授業あり)						

授業の概要 (主題)	学生諸君の健康管理対策の一環ともなるよう、最新のデータも交えながら大学生生活に必要な事項を講義する。
授業の到達目標	健康(こころとからだ)について基本的な事項を理解し、自己の学生生活を充実したものとする。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	健康とは	西堀 眞弘
第 2 回	からだの調節と防御の仕組み①	西堀 眞弘
第 3 回	からだの調節と防御の仕組み②	西堀 眞弘
第 4 回	スポーツとからだの働き	金子 純一郎
第 5 回	健康増進とスポーツ	下井 俊典
第 6 回	スポーツにおける外傷、スポーツにおける応急処置	指方 梢(外部講師)
第 7 回	食事・嗜好と大学生生活(1)	郷間 悦子(外部講師)
第 8 回	食事・嗜好と大学生生活(2)	郷間 悦子(外部講師)
第 9 回	いろいろな身体的病気	西堀 眞弘
第 10 回	生活習慣病	西堀 眞弘
第 11 回	大学生生活と性、エイズ、性感染症	西堀 眞弘
第 12 回	精神の健康①ストレスとメンタルヘルス	石本 豪(外部講師)
第 13 回	精神の健康②青年によくある心の病気	石本 豪(外部講師)
第 14 回	精神の健康③現代社会とメンタルヘルス	石本 豪(外部講師)
第 15 回	総括	金子純一郎

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習(予習復習等)】 からだの仕組みと健康管理を関連づけて学習を進めること(予習復習各 30 分目標)
履修条件	

教科書	学生と健康(南江堂)、資料
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	教務窓口にお問い合わせのこと
その他	<p>※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <p>①回答期限までに全ての回を視聴すること</p> <p>②視聴後は確認問題に回答すること</p> <p>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</p> <p>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</p>



					大田原キャンパス		
科目名	健康科学実践 (必修:ST1)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	金子 純一郎	科目担当者	小林 薫、野村 高弘				
学科	言語聴覚学科(必修)、全学科(選択)			学年	全学年、 言語 1 学年	期	前期
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	選択(全学科) 必修(ST)	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	実技						

授業の概要 (主題)	運動やスポーツを通じて心身の健康を促し、学生生活および社会生活を豊かにすることを旨とする。種目は卓球、バレーボール、テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントン、ソフトボールである。
授業の到達目標	健康を常に意識し、健康増進のための行動ができる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション:なぜ、体を動かすことは健康にいいのか?	金子純一郎、小林 薫、野村高弘 以下同じ
第 2 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 3 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 4 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 5 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 6 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 7 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 8 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 9 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 10 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 11 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 12 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 13 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 14 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	実技
評価の基準	実技 100%
準備学習 学習へのアドバイス	運動会、球技大会などの学内スポーツイベントには積極的に参加すること。 スポーツウェアおよび各種目にあつたシューズを必ず着用すること。 体調管理は各自でおこない、無理はしないこと(ウォームアップ、クールダウンは各 15 分程度)。
履修条件	

教科書	指定なし
参考書	ストレッチングの科学、鈴木重行・編、三輪書店

オフィスアワー	各回の終了後に質問は受け付ける。
その他	

						大田原キャンパス	
科目名	健康科学実践				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	金子 純一郎	科目担当者	小林 薫、野村 高弘				
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	30 時間
授業の形態	実技						

授業の概要 (主題)	運動やスポーツを通じて心身の健康を促し、学生生活および社会生活を豊かにすることを目指す。 種目は卓球、バレーボール、テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントン、ソフトボールである。
授業の到達目標	健康を常に意識し、健康増進のための行動ができる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション:なぜ、体を動かすことは健康にいいのか?	金子純一郎、小林 薫、野村高弘 以下同じ
第 2 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 3 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 4 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 5 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 6 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 7 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 8 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 9 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 10 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 11 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 12 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 13 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 14 回	各種目の実践(ウォームアップ、クールダウン)	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	実技
評価の基準	実技 100%
準備学習 学習へのアドバイス	例年、5 限は履修者が多いため、2 限「健康科学実践」の履修を勧める。  運動会や球技大会などの学内スポーツイベントには積極的に参加すること。 スポーツウェアおよび各種目にあつたシューズを必ず着用すること。 体調管理は各自でおこない、無理はしないこと(ウォームアップ、クールダウンは各 15 分程度)。
履修条件	

教科書	指定なし
参考書	ストレッチングの科学、鈴木重行・編、三輪書店

オフィスアワー	各回の終了後に質問は受け付ける。
その他	



專 門 基 礎 科 目  
【 学 部 共 通 】



							大田原キャンパス	
科目名	公衆衛生学 (NS1)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者						
学科	看護学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	火曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	公衆衛生は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学(science)・技術(art)である。医療福祉関連職は、その専門的な知識・技能を生かした公衆衛生への貢献が求められていることから、公衆衛生学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人および集団における健康および疾病と、社会および環境との関係の重要性について説明できる。</li> <li>2. 様々な社会要因および環境要因が、個人および集団の健康に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>3. 一般環境、労働環境に存在する化学的・物理的有害要因による健康障害について説明できる。</li> <li>4. わが国における保健、医療、福祉および介護の諸制度の内容について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	衛生学・公衆衛生学序論、保健統計	
第 2 回	疫学	
第 3 回	疾病予防と健康管理	
第 4 回	主な疾病の予防(1)	
第 5 回	主な疾病の予防(2)	
第 6 回	環境保健(1)	
第 7 回	環境保健(2)	
第 8 回	環境保健(3)	
第 9 回	地域保健と保健行政、母子保健(1)	
第 10 回	母子保健(2)、学校保健	
第 11 回	産業保健(1)	
第 12 回	産業保健(2)、老人保健・福祉	
第 13 回	精神保健、国際保健医療(1)	
第 14 回	国際保健医療(2)、保健医療福祉の制度と法規	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	講義は、主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。 日常生活で公衆衛生学が関係している場面や、保健・医療・福祉に関する最近の話題を、自分で意識して探してみること。
履修条件	

教科書	鈴木庄亮, 久道茂(監修), 辻一郎, 小山洋(編集). シンプル衛生公衆衛生学 2017. 東京:南江堂, 2017(3月発行予定).
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民衛生の動向 2016/2017 厚生指針 増刊. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>2. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>3. 佐々木明子, 井原一成(編集). 公衆衛生学(新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度②) 第4版. 東京:メヂカルフレンド社, 2016.</li> </ol>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

						大田原キャンパス	
科目名	公衆衛生学 (RT1)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者					
学科	放射線・情報科学科			学年	1 学年	期	前期
曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	公衆衛生は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学(science)・技術(art)である。医療福祉関連職は、その専門的な知識・技能を生かした公衆衛生への貢献が求められていることから、公衆衛生学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人および集団における健康および疾病と、社会および環境との関係の重要性について説明できる。</li> <li>2. 様々な社会要因および環境要因が、個人および集団の健康に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>3. 一般環境、労働環境に存在する化学的・物理的有害要因による健康障害について説明できる。</li> <li>4. わが国における保健、医療、福祉および介護の諸制度の内容について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	衛生学・公衆衛生学序論、保健統計	
第 2 回	疫学	
第 3 回	疾病予防と健康管理	
第 4 回	主な疾病の予防(1)	
第 5 回	主な疾病の予防(2)	
第 6 回	環境保健(1)	
第 7 回	環境保健(2)	
第 8 回	環境保健(3)	
第 9 回	地域保健と保健行政、母子保健(1)	
第 10 回	母子保健(2)、学校保健	
第 11 回	産業保健(1)	
第 12 回	産業保健(2)、老人保健・福祉	
第 13 回	精神保健、国際保健医療(1)	
第 14 回	国際保健医療(2)、保健医療福祉の制度と法規	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	講義は、主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。 日常生活で公衆衛生学が関係している場面や、保健・医療・福祉に関する最近の話題を、自分で意識して探してみること。
履修条件	

教科書	鈴木庄亮, 久道茂(監修), 辻一郎, 小山洋(編集). シンプル衛生公衆衛生学 2017. 東京:南江堂, 2017(3月発行予定).
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民衛生の動向 2016/2017 厚生指針 増刊. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>2. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>3. 佐々木明子, 井原一成(編集). 公衆衛生学(新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度②) 第4版. 東京:メヂカルフレンド社, 2016.</li> </ol>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

							大田原キャンパス	
科目名	公衆衛生学 (OT1)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者						
学科	作業療法学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	木曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	公衆衛生は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学(science)・技術(art)である。医療福祉関連職は、その専門的な知識・技能を生かした公衆衛生への貢献が求められていることから、公衆衛生学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人および集団における健康および疾病と、社会および環境との関係の重要性について説明できる。</li> <li>2. 様々な社会要因および環境要因が、個人および集団の健康に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>3. 一般環境、労働環境に存在する化学的・物理的有害要因による健康障害について説明できる。</li> <li>4. わが国における保健、医療、福祉および介護の諸制度の内容について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	衛生学・公衆衛生学序論、保健統計	
第 2 回	疫学	
第 3 回	疾病予防と健康管理	
第 4 回	主な疾病の予防(1)	
第 5 回	主な疾病の予防(2)	
第 6 回	環境保健(1)	
第 7 回	環境保健(2)	
第 8 回	環境保健(3)	
第 9 回	地域保健と保健行政、母子保健(1)	
第 10 回	母子保健(2)、学校保健	
第 11 回	産業保健(1)	
第 12 回	産業保健(2)、老人保健・福祉	
第 13 回	精神保健、国際保健医療(1)	
第 14 回	国際保健医療(2)、保健医療福祉の制度と法規	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	講義は、主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。 日常生活で公衆衛生学が関係している場面や、保健・医療・福祉に関する最近の話題を、自分で意識して探してみること。
履修条件	

教科書	鈴木庄亮, 久道茂(監修), 辻一郎, 小山洋(編集). シンプル衛生公衆衛生学 2017. 東京:南江堂, 2017(3月発行予定).
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民衛生の動向 2016/2017 厚生指針 増刊. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>2. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>3. 佐々木明子, 井原一成(編集). 公衆衛生学(新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度②) 第4版. 東京:メヂカルフレンド社, 2016.</li> </ol>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。



						大田原キャンパス	
科目名	公衆衛生学 (PS)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	浅野 哲	科目担当者	清水 貴壽				
学科	薬学科			学年	3 学年	期	後期
曜日時限	火曜 1 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	人々の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する目的で、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。また、健康の意味を理解するとともに、疾病の原因を把握して、その予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。</li> <li>2. 人口統計の意義と疾病統計に関する指標について説明できる。</li> <li>3. 疫学の三要因、種類、リスク要因および疾病予防における疫学の役割について説明できる。</li> <li>4. 疾病の予防と健康増進対策について説明できる。</li> <li>5. 現代における感染症の種類と予防接種を含む予防法について説明できる。</li> <li>6. 生活習慣病の種類とリスク要因、疾病と生活習慣とのかかわりについて説明できる。</li> <li>7. 母子保健、労働衛生に関する現状の問題点を把握し、予防対策について説明できる。</li> <li>8. 老人保健衛生、公衆衛生行政について、将来展望を見据えて説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	健康と疾病の定義と疾病構造の変遷 (D1-(1)-①健康と疾病の概念-1)	浅野 哲
第 2 回	疾病の予防とヘルスプロモーション (D1-(2)-①疾病の予防とは-1~2)	浅野 哲
第 3 回	保健統計 (D1-(1)-②保健統計 1~3)	浅野 哲
第 4 回	死因別死亡率の変遷と将来予測 (D1-(1)-②保健統計 1~3)	浅野 哲
第 5 回	疫学とは: 疫学の種類と方法 (D1-(1)-③疫学 1~4)	浅野 哲
第 6 回	疫学とは: 疫学の実際 (D1-(1)-③疫学 1~4)	浅野 哲
第 7 回	感染症の疫学と予防 (D1-(2)-②感染症とその予防 1~4)	清水貴壽
第 8 回	母子感染症、性行為感染症とその予防対策 (D1-(2)-②感染症とその予防 1~4)	清水貴壽
第 9 回	母子保健衛生、産業保健衛生 (D1-(2)-④母子保健 1~2、D1-(2)-⑤労働衛生 1~2)	清水貴壽
第 10 回	生活習慣病の疫学と予防(生活習慣病とは、がん) (D1-(2)-③生活習慣病とその予防 1~3)	浅野 哲
第 11 回	生活習慣病の疫学と予防(循環器疾患、代謝性疾患 他) (D1-(2)-③生活習慣病とその予防 1~3)	浅野 哲
第 12 回	COPD、骨粗しょう症の疫学と予防(循環器疾患、代謝性疾患他) (D1-(2)-③生活習慣病とその予防 1~3)	浅野 哲
第 13 回	老人保健衛生 (D1-(2)-③生活習慣病とその予防 1~3)	浅野 哲
第 14 回	公衆衛生行政	浅野 哲
第 15 回	授業全体のまとめ	浅野 哲

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>公衆衛生学では、日々変化する保健・健康に関する知識の吸収と、疾患と関連した応用力が強く求められる。基本をしっかり身に付けたいので、日頃から十分に予習・復習をすること。</p> <p>【準備学習】&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習: シラバスを参考にして、教科書の該当する箇所を事前に読み、これまでに履修した衛生系科目、生物系科目(特に疾病と病態生理学)の概要を見直しておくこと(60分)</p> <p>復習: 授業であつかった内容に関して、教科書および参考資料を熟読するとともに、演習問題を通して理解に努めること。(100分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】&lt;各回共通&gt;</p> <p>前回の重点項目確認と演習の解答解説を行う。</p>
履修条件	特になし

教科書	衛生化学詳解・上下巻(上)京都廣川書店
参考書	厚生指標 増刊 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 厚生労働省 HP, 国立感染研, 国立医薬品食品衛生研究所, 内閣府食品安全委員会等の HP

オフィスアワー	月曜日・5 限・N 棟 6 階 N611(浅野)及び N620(清水) (他の曜日・時限でも、在室時には随時対応する)
その他	【関連するディプロマポリシー】 薬学科ディプロマポリシー②および③に該当

					大田原キャンパス		
科目名	公衆衛生学（共通）				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	島田 直樹	科目担当者					
学科	理学療法学科、言語聴覚学科、他学科			学年	理学、 言語 1 学年 他全学年	期	後期
曜日時限	水曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	公衆衛生は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学(science)・技術(art)である。医療福祉関連職は、その専門的な知識・技能を生かした公衆衛生への貢献が求められていることから、公衆衛生学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人および集団における健康および疾病と、社会および環境との関係の重要性について説明できる。</li> <li>2. 様々な社会要因および環境要因が、個人および集団の健康に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>3. 一般環境、労働環境に存在する化学的・物理的有害要因による健康障害について説明できる。</li> <li>4. わが国における保健、医療、福祉および介護の諸制度の内容について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	衛生学・公衆衛生学序論、保健統計	
第 2 回	疫学	
第 3 回	疾病予防と健康管理	
第 4 回	主な疾病の予防(1)	
第 5 回	主な疾病の予防(2)	
第 6 回	環境保健(1)	
第 7 回	環境保健(2)	
第 8 回	環境保健(3)	
第 9 回	地域保健と保健行政、母子保健(1)	
第 10 回	母子保健(2)、学校保健	
第 11 回	産業保健(1)	
第 12 回	産業保健(2)、老人保健・福祉	
第 13 回	精神保健、国際保健医療(1)	
第 14 回	国際保健医療(2)、保健医療福祉の制度と法規	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	講義は、主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。 日常生活で公衆衛生学が関係している場面や、保健・医療・福祉に関する最近の話題を、自分で意識して探してみること。
履修条件	

教科書	鈴木庄亮, 久道茂(監修), 辻一郎, 小山洋(編集). シンプル衛生公衆衛生学 2017. 東京:南江堂, 2017(3月発行予定).
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民衛生の動向 2016/2017 厚生指標 増刊. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>2. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 東京:厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>3. 佐々木明子, 井原一成(編集). 公衆衛生学(新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度②) 第4版. 東京:メヂカルフレンド社, 2016.</li> </ol>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

				大田原キャンパス			
科目名	公衆衛生学（必修:ORT1）			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	島田 直樹		科目担当者				
学科	視機能療法学科（必修）、全学科（選択）			学年	視機能1 学年 他全学年	期	後期
曜日時限	木曜 1 限	必修 / 選択	ORT : 必修 他: 選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 （主題）	公衆衛生は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学(science)・技術(art)である。医療福祉関連職は、その専門的な知識・技能を生かした公衆衛生への貢献が求められていることから、公衆衛生学の基本的事項について体系的に学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人および集団における健康および疾病と、社会および環境との関係の重要性について説明できる。</li> <li>2. 様々な社会要因および環境要因が、個人および集団の健康に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>3. 一般環境、労働環境に存在する化学的・物理的有害要因による健康障害について説明できる。</li> <li>4. わが国における保健、医療、福祉および介護の諸制度の内容について説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	衛生学・公衆衛生学序論、保健統計	
第2回	疫学	
第3回	疾病予防と健康管理	
第4回	主な疾病の予防(1)	
第5回	主な疾病の予防(2)	
第6回	環境保健(1)	
第7回	環境保健(2)	
第8回	環境保健(3)	
第9回	地域保健と保健行政、母子保健(1)	
第10回	母子保健(2)、学校保健	
第11回	産業保健(1)	
第12回	産業保健(2)、老人保健・福祉	
第13回	精神保健、国際保健医療(1)	
第14回	国際保健医療(2)、保健医療福祉の制度と法規	
第15回	総括	

成績評価の方法	定期試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	講義は、主として教科書を用いて、書画カメラや板書で重要ポイントを指摘しながら進めるので、教科書を忘れないこと。 日常生活で公衆衛生学が関係している場面や、保健・医療・福祉に関する最近の話題を、自分で意識して探してみること。
履修条件	

教科書	鈴木庄亮, 久道茂(監修), 辻一郎, 小山洋(編集). シンプル衛生公衆衛生学 2017. 東京: 南江堂, 2017(3月発行予定).
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民衛生の動向 2016/2017 厚生指標 増刊. 東京: 厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>2. 図説 国民衛生の動向 2016/2017. 東京: 厚生労働統計協会, 2016.</li> <li>3. 佐々木明子, 井原一成(編集). 公衆衛生学(新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度②) 第4版. 東京: メヂカルフレンド社, 2016.</li> </ol>

オフィスアワー	教員研究室(L棟4階403号室)に在室中は随時対応します。
その他	講義の進行状況などにより、授業計画を一部変更する場合があります。

					大田原キャンパス		
科目名	救急医学 (OT、ORT、RT、SHM、PS)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	篠澤 洋太郎	科目担当者					
学科	作業療法学科 2 年 視機能療法学科 2 年 放射線・情報科学科 3 年 医療福祉・マネジメント学科 2 年 薬学科 3 年、4 年			学年	OT2 ORT2 RT3 SHM2 PS3、4	期	前期前半
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	救急は医の原点である。医療に関係する職種を業とする者は、チーム医療である救急医療に参画できる技量を有していなければならない。また、重篤救急患者では現場でのバイスタンダーの初期対応が予後を左右する。講義では、各学科の職域専門性もふまえ、救急医療(とくに初期対応)の実際を、その基本をなす理論(救急医学)からわかりやすく解説する。救急医療の現場からの症例紹介や救急に関連する時事情報も随時組み込む。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急医療に関する基礎知識(救急医療体制、など)が会得できる。</li> <li>2. 救急患者の病態を把握し初期対応ができる。</li> <li>3. 救急蘇生法(含、AED 使用方法)を一般人に教えることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	救急医療概論、救急医療体制	
第 2 回	CPR(含、AED)	
第 3 回	救急患者の病態把握	
第 4 回	主要救急疾病	
第 5 回	外傷、創傷処置、特殊感染症(破傷風、他)	
第 6 回	外傷の ABCDEs、熱傷、気道損傷、電撃傷、雷撃傷	
第 7 回	化学損傷、異物、急性薬物中毒	
第 8 回	環境障害(熱中症、低体温、溺水、他)、災害医療、(授業のまとめ)	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験
準備学習 学習へのアドバイス	救急関連報道への関心。質問を歓迎。
履修条件	

教科書	指定しない
参考書	標準救急医学(医学書院)、救急救命士標準テキスト(へるす出版)

オフィスアワー	授業時間の前後(教室にて)
その他	

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください。

		大田原キャンパス					
科目名	救急医学 (NS、PT、ST)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	篠澤 洋太郎	科目担当者					
学科	看護学科 2 年 理学療法学科 2 年 言語聴覚学科 2 年			学年	2 年	期	後期前半
曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	救急は医の原点である。医療に関係する職種を業とする者は、チーム医療である救急医療に参画できる技量を有していなければならない。また、重篤救急患者では現場でのバイスタンダーの初期対応が予後を左右する。講義では、各学科の職域専門性もふまえ、救急医療(とくに初期対応)の実際を、その基本をなす理論(救急医学)からわかりやすく解説する。救急医療の現場からの症例紹介や救急に関連する時事情報も随時組み込む。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急医療に関する基礎知識(救急医療体制、など)が会得できる。</li> <li>2. 救急患者の病態を把握し初期対応ができる。</li> <li>3. 救急蘇生法(含、AED 使用方法)を一般人に教えることができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	救急医療概論、救急医療体制	
第 2 回	CPR(含、AED)	
第 3 回	救急患者の病態把握	
第 4 回	主要救急疾病	
第 5 回	外傷、創傷処置、特殊感染症(破傷風、他)	
第 6 回	外傷の ABCDEs、熱傷、気道損傷、電撃傷、雷撃傷	
第 7 回	化学損傷、異物、急性薬物中毒	
第 8 回	環境障害(熱中症、低体温、溺水、他)、災害医療、(授業のまとめ)	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験
準備学習 学習へのアドバイス	救急関連報道への関心。質問を歓迎。
履修条件	

教科書	指定しない
参考書	標準救急医学(医学書院)、救急救命士標準テキスト(へるす出版)

オフィスアワー	授業時間の前後(教室にて)
その他	

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください。

		大田原キャンパス					
科目名	微生物と病気			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	北村 義浩	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	金曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	さまざまな微生物がさまざまにヒトに疾患をもたらす。この世に、多くの感染症があることを理解して欲しい。
授業の到達目標	感染症とは何か説明でき、多様な感染症の中から複数の感染症を挙げてその個々の感染症の特徴を説明できる。 感染症の拡大を予防する実践ができるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ヒトと感染症の歴史： 感染症は、人間社会の脅威となってきた。交通機関の発達や医学の進歩により克服されたと思われていた感染症は、薬剤耐性を獲得するなどして、その様相を変えて再び現代社会の脅威となっている。 人類に脅威を及ぼしてきた感染症の変遷、そして対策の変化を理解する。 新興感染症とは何か説明できるようになる。 微生物の特徴を確認する(特に細菌とウイルスの違い)。	
第 2 回	免疫学総論： 疫(感染症)を免れるという体の免疫のしくみ、免疫系を構成する要素とその働きについて解説する。抗体の構造と機能が説明できるようになる。リンパ球の働きを説明できるようになる。	
第 3 回	感染症の診断、治療： 感染症の診断には、病原体を検出する方法と、患者が示す免疫反応により診断する方法がある。これを理解できて、説明できるようになる。 グラム染色を説明できる。 感染症の治療の中心である化学療法薬の分類が理解できて自分で説明できるようになる。	
第 4 回	感染症の例：傷からうつる感染症 普段の社会生活を送っている中で罹患する感染症、すなわち、市中感染症に関して、その代表的な疾患として、傷からうつる細菌感染症(破傷風と溶連菌感染症など)を挙げて、病態を理解し、自分で理解できるようになる。疾患の起原病原体、感染伝播の様式、発病にいたる経過などについて基本的な知識を説明できるようになる。	
第 5 回	感染症の例：ウイルス感染症 発疹の出る病気：麻疹、風疹、水痘 を学ぶ	
第 6 回	感染症の例：呼吸器の感染症 肺炎について学ぶ。 主要な肺炎(マイコプラズマ肺炎、肺炎球菌肺炎など)を挙げてその特徴を説明できる。	
第 7 回	インフルエンザと結核： (1) インフルエンザは風邪ではない。インフルエンザウイルスの全身感染症である。近い将来新型インフルエンザが登場し流行することが予想されている。 インフルエンザの特徴を説明できるようになる。特に、新しいインフルエンザが登場する仕組みを説明できるようになる。インフルエンザを予防するにはどうすれば良いのか説明できるようになる。 (2) 人類とともに歩んできた結核が、現在もお世界の大きな保健医療上の課題となっている現状を認識させるとともに、感染症としての結核についてその病原体、感染伝播の様式、発病にいたる経過などについて基本的な知識を学ぶ。結核の発病、診断、治療そして予防について基本的な知識を説明できるようになる。	
第 8 回	ウイルス肝炎： ウイルス肝炎とは何か説明できるようになる。 主要な感染症(A 型 / B 型 / C 型 / E 型 肝炎)を説明できるようになる。	

第9回	抗菌薬耐性細菌の脅威について学修する 2016年11月14～20日は「世界抗菌薬啓発週間(WHO)」および耐性菌対策推進月間(日本)である。 わが国は、「抗菌薬の使用量を3分の2に減らす」や「耐性菌に効果のある新薬の開発」などの取り組みを進めている。 薬剤耐性菌の脅威について説明できるようになる。	
第10回	新興感染症の例： エボラ出血熱について学ぶ。 新興感染症はどのようにして現れ、人類に脅威を与えるのかを説明できるようになる。	
第11回	衛生動物が媒介する感染症： 衛生動物とは、蚊やダニのようにヒトに病気をもたらず(媒介する)動物のことで、ヒトにとって有害動物である。 衛生動物が媒介する主要な感染症を挙げ説明できるようになる。	
第12回	性行為感染： 性行為感染とは何か説明できるようになる。 主要な感染症(エイズ、梅毒、淋病、ヘルペス)を挙げ説明できるようになる。	
第13回	寄生虫感染症： 寄生虫感染症について、ウイルス、細菌などの感染症と比較して説明することができる。 主要な寄生虫感染を挙げてその特徴を説明できる。	
第14回	ワクチン、感染症に関する法令： ワクチンはヒトなどの動物に接種して感染症の予防に用いられる。 ワクチンの種類を説明できるようになる。 わが国の予防接種の仕組みを説明できるようになる。 新・感染症法について説明できるようになる。	
第15回	総復習	

成績評価の方法	定期試験100% 定期試験に、教科書を含め紙媒体のものは何を持ち込んでも良い。
評価の基準	到達目標が達成されているかを多選択肢問題で評価する。
準備学習 学習へのアドバイス	復習を充分しましょう。 教科書を読み込んで下さい。
履修条件	以下の条件に1つ以上に当てはまる者が受講することが望ましい。 しかし、当てはまらない者で、感染症に大いに興味のある者が受講することは妨げない。そのような者にとっては学修負担が大きいかと思います。 1. 本学に来るまでに(高校、専門学校、または大学で)、生物学を履修し単位を取得した学生 2. 本学に来るまでに(高校、専門学校、または大学で)、微生物学関連科目(微生物学、感染症学、微生物遺伝学、公衆衛生学、など)を履修したことがある学生

教科書	感染症と生体防御(放送大学教育振興会;ISBN= 978-4595314827)
参考書	休み時間の免疫学 第2版、講談社 休み時間の微生物学、講談社 感染症の科学、東海大学出版会 よくわかる微生物学の基本としくみ、秀和システム

オフィスアワー	質問は出来るだけ授業中か授業前後の時間を利用して行って下さい。 致し方ない場合には、メールでの質問にも応えます。 アドレスは assignment@iuhw.ac.jp です。学生自身の iuhw メールアカウントからのメールのみ受け付けます。 標題に「質問」とか「コメント」等、必ず記入して下さい。
その他	講義の順序と内容は予告なく適宜変更されることがある。 第1回講義の前に第1章をあらかじめ読了しておいて下さい。 本科目は「選択」科目ですから、原則的には、再試験は行われません。



						大田原キャンパス	
科目名	リハビリテーション概論				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	前田 真治		科目担当者				
学科	看護学科(必修)、全学科(選択)			学年	看護2学年 全学年	期	後期
曜日時限	水曜 5限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	リハビリテーション専門職として必要な基礎知識を学習する。まず、リハビリテーションの概念、障害者心理、高齢者の特質、内容と方法(医学的、教育的)、リハビリテーション関連職種、チーム医療など基本的な概念を習得した上で、リハビリテーションマインドを学ぶ。さらに主な疾患のリハビリテーションとして、脳卒中、脊髄損傷、切断などについて学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションにおける障害者の心理状況が理解できる。</li> <li>2. 障害者や高齢者と接する際の、心構えが述べられ、身につけられる。</li> <li>3. 各疾患で生じる障害の主なリハビリテーションの流れが概説できる。</li> <li>4. チーム医療が理解できる。</li> <li>5. 関連専門職種の役割が理解できる</li> <li>6. リハビリテーションにおける主な疾患の治療法の概略が述べられる。</li> <li>7. 主な疾患のリハビリテーションが概説できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	リハビリテーション, 障害について, 病人と障害者役割について	
第2回	国際生活機能分類 ICF について	
第3回	廃用症候群・過用症候群・誤用症候群	
第4回	障害者心理1: 心理的経過、段階的理論、防衛機制	
第5回	障害者心理2、障害者との接し方	
第6回	高齢者の特徴とその接し方	
第7回	リハビリテーション・チーム医療の実際、高齢社会と少子化	
第8回	ノーマライゼーション、医学的リハ、教育的リハ	
第9回	おもなる対象疾患である脳卒中のリハ1(病態生理・治療・急性期脳卒中のリハビリテーション)	
第10回	おもなる対象疾患である脳卒中のリハ2(リハ中止基準, 理学療法・作業療法・ADLについて)	
第11回	脳卒中などに伴う高次脳機能障害のリハ(特に失語症と半側無視について)	
第12回	主なる対象疾患である脳卒中のリハ3(嚥下障害など)	
第13回	脊髄損傷のリハビリテーション	
第14回	切断者のリハビリテーション	
第15回	住宅改造(バリアフリーとユニバーサルデザイン)について	

成績評価の方法	筆記試験
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>プリント冊子と教科書を中心に行うので事前に見ておくように。廃用症候群以降で教科書を使用する【準備学習】&lt;各回共通&gt;</p> <p>予習: プリント冊子と教科書を用いるので事前に読んでくること(90分程度)</p> <p>復習: 授業で学習したことについてその日のうちに一読すること(60分程度)</p> <p>【疑問に関するフィードバック】</p> <p>その回あるいは次回回の講義で解説するので質問するように</p>
履修条件	なし

教科書	老人のリハビリテーション第8版(前田真治著、医学書院、2016)
参考書	医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版(上好昭孝 田島文博(編) 永井書店 2014)

オフィスアワー	毎週その時に、時間帯が変わりますので、作業療法共同研究室、国際医療福祉大学クリニックなどで聞いてください。
その他	講義の内容に即した独自のプリント教材も使用します。 【該当するディプロマポリシー】 看護学科ディプロマポリシー2)、6)に該当 共通ディプロマポリシー2)、3)に該当

							大田原キャンパス	
科目名	リハビリテーション概論 (PT1,ST1)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	若江 幸三良	科目担当者						
学科	理学療法学科、言語聴覚学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	リハビリテーション専門職として必要なリハビリテーションの概念と基礎知識を学習する。
授業の到達目標	リハビリテーションの概念、障害者心理、高齢者の特質、リハビリテーションの内容と方法(医学的、社会的、職業的、教育的)、リハビリテーション関連法、リハビリテーション関連職種、チーム医療、リハビリテーションの流れ、地域保健と福祉などについて基本的な概念を習得する。 専門職としてのリハビリテーションマインドを習得する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	リハビリテーションとは、障害とは、障害の種類とその年代推移	若江幸三良(全日程)
第 2 回	リハビリテーションの意義、国際生活機能分類 ICF など	
第 3 回	医学的リハ、教育的リハ、職業的リハ、社会的リハ、地域リハ	
第 4 回	病気・疾病・患者とは何か？ 廃用症候群、誤用症候群などについて	
第 5 回	障害者心理：心理的経過、段階的理論、防衛機制、医療者と障害者	
第 6 回	高齢者社会：高齢者の特徴とその接し方	
第 7 回	ノーマライゼーション・その概念と実行	
第 8 回	チーム医療：リハビリテーション関連職種とその過程	
第 9 回	患者の評価と測定、日常生活活動、QOL など	
第 10 回	社会制度：身体障害者福祉法、介護保険、自立支援法	
第 11 回	住宅環境と都市整備：障害者の住宅と環境	
第 12 回	リハビリテーションの実際：運動器・高齢者のリハビリテーション	
第 13 回	リハビリテーションの実際：脳・脊髄リハビリテーション	
第 14 回	リハビリテーションの実際：内科的疾患のリハビリテーション	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	定期試験 ※下記「その他」欄参照
評価の基準	上記にそって評価する。標準偏差などを使用する。
準備学習 学習へのアドバイス	講義内容は、臨床を基準に作成している。専門用語が多数あり、各自の学習を要する。試験に関して、主に過去問題を参考に作成している。(予習復習各 30 分目標)
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。また、真摯な受講態度を望む。

教科書	学内本屋にて各自購入のこと。* 購入必須
参考書	入門 リハビリテーション概論 (中村隆一編、医歯薬出版)。* 購入任意

オフィスアワー	国際医療福祉大学クリニックにて、月・土曜日・午前中に臨床・外来あり。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省は、出席状況を評価に含むことは不自然なことであるとの見解を示している。このことは、講義への出席は当たり前であり、所定の出席数に足りない場合、定期試験等の受験を認めないこととしている。</li> <li>・パワーポイントを使用し、講義資料としてのサブノートを学内本屋であらかじめ購入のこと。追加資料は、当日プリントを配布する。</li> <li>ディプロマポリシー：運動器科は、人間の機能障害・疼痛を主に扱っていて、その人が臨床的に困難なことを直感的に理解しなくてはならない。そのために、専門技術者としての知識・倫理観、疾患を理解し、専門技術者としての能力を身に付け、かつ対象者だけでなく医療従事者にも、それを伝達し表現できる記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力をつけることが必須である。</li> </ul>

							大田原キャンパス	
科目名	リハビリテーション概論 (OT1)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	藤田 亘	科目担当者						
学科	作業療法学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	本授業では、リハビリテーションの基本的内容について学ぶ。具体的には、リハビリテーションの概要、歴史、病期と障害、国際生活機能分類(ICF)、障害児教育、職業リハビリテーション、高齢者サービス、社会保障制度、医学的リハビリテーション、リハビリテーション過程と諸相、関連職種、診療報酬、施設基準について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションと医学的リハビリテーションの概要を理解できる</li> <li>2. 病期と障害、障害の種類、国際生活分類((ICF)を理解できる</li> <li>3. 障害児教育、職業リハビリテーション、高齢者サービス、社会保障制度を理解できる</li> <li>4. 医学的リハビリテーション及びその過程と諸相、関連職種を理解できる</li> <li>5. リハビリテーションに関する診療報酬、施設基準を理解できる</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	リハビリテーションと医学的リハビリテーションの概要	
第 2 回	障害者と歴史	
第 3 回	病気と障害、障害の種類	
第 4 回	国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷	
第 5 回	発達、ライフサイクル、心理、障害受容	
第 6 回	ハビリテーション、自立と自律、生活の質(QOL)	
第 7 回	障害児教育	
第 8 回	職業リハビリテーション	
第 9 回	高齢者サービス	
第 10 回	リハビリテーションを支える社会保障制度	
第 11 回	医学的リハビリテーションとリハビリテーション医学	
第 12 回	医学的リハビリテーション過程、病相期とリハビリテーションの展開	
第 13 回	リハビリテーション関連職種、作業療法士と理学療法士	
第 14 回	リハビリテーションに関する診療報酬、施設基準	
第 15 回	総括	

成績評価の方法	定期試験、小テスト、課題
評価の基準	定期試験 80%、その他 20%
準備学習 学習へのアドバイス	予習: 次回授業範囲や事前配布資料を読んでおくこと(90分) 復習: 毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理すること(90分) 課題に関するフィードバック: 総括において本授業に関するフィードバックを行う
履修条件	特になし

教科書	入門リハビリテーション概論 医歯薬出版
参考書	随時紹介

オフィスアワー	月曜 12:10~13:00 藤田研究室(D-515)
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	リハビリテーション概論 (ORT)			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	若江 幸三良	科目担当者					
学科	視機能療法学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	リハビリテーション専門職として必要なリハビリテーションの概念と基礎知識を学習する。
授業の到達目標	リハビリテーションの概念、障害者心理、高齢者の特質、リハビリテーションの内容と方法(医学的、社会的、職業的、教育的)、リハビリテーション関連法、リハビリテーション関連職種、チーム医療、リハビリテーションの流れ、地域保健と福祉などについて基本的な概念を習得する。 専門職としてのリハビリテーションマインドを習得する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	リハビリテーションとは、障害とは、障害の種類とその年代推移	若江幸三良(全日程)
第 2 回	リハビリテーションの意義、国際生活機能分類 ICF など	
第 3 回	医学的リハ、教育的リハ、職業的リハ、社会的リハ、地域リハ	
第 4 回	病気・疾病・患者とは何か？ 廃用症候群、誤用症候群などについて	
第 5 回	障害者心理：心理的経過、段階的理論、防衛機制、医療者と障害者	
第 6 回	高齢者社会：高齢者の特徴とその接し方	
第 7 回	ノーマライゼーション・その概念と実行	
第 8 回	チーム医療：リハビリテーション関連職種とその過程	
第 9 回	患者の評価と測定、日常生活活動、QOL など	
第 10 回	社会制度：身体障害者福祉法、介護保険、自立支援法	
第 11 回	住宅環境と都市整備：障害者の住宅と環境	
第 12 回	リハビリテーションの実際：運動器・高齢者のリハビリテーション	
第 13 回	リハビリテーションの実際：脳・脊髄リハビリテーション	
第 14 回	リハビリテーションの実際：内科的疾患のリハビリテーション	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	定期試験 ※下記「その他」欄参照
評価の基準	上記にそって評価する。標準偏差などを使用する。
準備学習 学習へのアドバイス	講義内容は、臨床を基準に作成している。専門用語が多数あり、各自の学習を要する。試験に関して、主に過去問題を参考に作成している。(予習復習各 30 分目標)
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。また、真摯な受講態度を望む。

教科書	学内本屋にて各自購入のこと。* 購入必須
参考書	入門 リハビリテーション概論 (中村隆一編、医歯薬出版)。* 購入任意

オフィスアワー	国際医療福祉大学クリニックにて、月・土曜日・午前中に臨床・外来あり。
その他	・文部科学省は、出席状況を評価に含むことは不自然なことであるとの見解を示している。このことは、講義への出席は当たり前であり、所定の出席数に足りない場合、定期試験等の受験を認めないこととしている。 ・パワーポイントを使用し、講義資料としてのサブノートを学内本屋であらかじめ購入のこと。追加資料は、当日プリントを配布する。

		大田原キャンパス					
科目名	関連職種連携論				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	降旗 幹子、韓 寛受				
学科	全学科			学年	2 学年	期	後期
曜日時限	金曜 5 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあつて、その現場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められている。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、それを行えるようになるためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性や連携について理解することが必要である。本講義では、保健・医療・福祉に携わる職種への理解を深めると共に、職種間連携のあり方について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を理解し、説明できる。</li> <li>2. 患者・対象者(児)について全人的に捉える視点を理解し、説明できる。</li> <li>3. 患者・対象者(児)・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する必要性を理解し、説明できる。</li> <li>4. 各職種がそれぞれの立場から評価を行い、それらを基にチーム全体で治療(支援)計画を策定する必要性を理解し、説明できる。</li> <li>5. 各職種の評価結果を共通理解するための共通用語である国際生活機能分類(ICF)について理解し、説明することができる。</li> <li>6. 各職種の専門性を理解し、業務内容の分担および責任体制を説明できる。</li> <li>7. チーム医療・チームケアにおける共同作業の進め方を理解し、説明できる。</li> <li>8. チーム医療・チームケアにおける倫理的問題および解決方法を理解し、説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	本学における関連職種連携教育の展開 (テーマ概要)本学における関連職種連携教育の目的を学び、展開方法を知る。各職種の共通理解のための共通用語である「国際生活機能分類(ICF: 身機能・身体構造、活動、参加)」を理解し、その活用方法を学ぶ。(教科書①1章 P13-27, P70-75 参照、教科書②持参)	教務委員長 OT 谷口敬道
第 2 回	チームワークのすすめ方とこれから学習する関連職種連携教育との関連 (テーマ概要)患者をとりまく複数の関係者が、協力して共通の目的を達成するためのチームワークのすすめ方を学ぶ。共通言語の使用や情報共有、見解の相違への理解等の重要な要素を学ぶ。(教科書①1章 P1-6, P59-75, 4章、教科書②II章 P171-174 参照)	ST 畦上恭彦
第 3 回	ライフステージと関連職種連携 (テーマ概要)人の誕生から死に至るまでの一連の成長・発達過程の視点から、関連職種連携のあり方について理解する。(教科書①1章 P51-64、教科書②P79-80, P171-174 参照)	NS 坪倉繁美
第 4 回	病期と関連職種連携 (テーマ概要)「病期」という用語は、広義のケアの中でもその意味合いが異なるため、患者の状況に応じた理解が求められる。急性期・回復期・維持期での病態の変化を理解し、国際生活機能分類(ICF)を用いた患者・対象者(児)への関連職種の連携のあり方を理解する。(教科書①1章 P70-75、2章参照)	OT 前田眞治 (医師)
第 5 回	医療領域における関連職種連携概論 (テーマ概要)医療領域では、患者・対象者(児)の背景(年齢・性別だけでなく遺伝的背景、アレルギー歴、疾病・障害の有無、生活環境等)について職種間にて情報を共有し、連携・協働することが重要になる。特に治療薬や診断薬の安全使用、副作用・相互作用の早期発見・対応には職種間の連携が不可欠となることから、薬物治療等の観点からも関連職種連携のあり方について理解する。(教科書①2章 P77-84, 3章 C P107-109、教科書②I章 1-2B P8-10, 2-2B P39-40, 3-2B P70-71, II章 1-B P98-103 参照)	PS 百瀬泰行 PS 前澤佳代子
第 6 回	保健・福祉領域における関連職種連携概論 (テーマ概要)病院から在宅、施設への移行期に直面する患者の特徴と、そこでの関連職種連携のあり方(院内連携、施設間連携、地域連携など)について理解する。(教科書①2章、教科書②I章 P1-91, II章 P93-174 参照)	SHM 松永千恵子 (社会福祉士)
第 7 回	人間を考える (テーマ概要)「関連職種の連携」を学ぶ意義はどこにあるか。患者・対象者(児)中心の医療・ケアの実践のためには倫理的視点を持ち、まず「人間を考える」ことの重要性について学ぶ。	日本ALS協会 会長 岡部宏生 様

第8回	医療領域における関連職種連携の実際 1: 脳血管障害患者におけるチーム医療・チームケア (教科書②Ⅱ章 1-A P94-98, 1-P P162-166, Ⅲ章 P183-190 参照)	国福病院 医師 MSW 清野綾乃
第9回	医療領域における関連職種連携の実際 2: 内部障害患者におけるチーム医療・チームケア (教科書②Ⅱ章 P93-174, Ⅲ章 事例3 P191-199 参照)	国福病院 ORT 塚原麻由佳 PS 神坐美弥子
第10回	医療領域における関連職種連携の実際 3: がん患者のチーム医療・チームケア (教科書②Ⅱ章 P93-174, Ⅲ章 事例5 P212-218 参照)	国福病院 医師 鈴木裕(消化 器外科) RT 橋本光康
第11回	保健・福祉領域における関連職種連携の実際 1: 精神障害者の自立支援とチーム医療・チームケア 関連法規(障害者総合支援法、精神保健福祉法など)について (教科書②Ⅱ章 1-G P123-128, 1-L P142-147 参照)	NPO 法人 那須フロンティア OT 遠藤真史 PSW 加藤茉莉
第12回	保健・福祉領域における関連職種連携の実際 2: 身体障害者の自立支援とチーム医療・チームケア/ 発達障害・知的障害の自立支援とチーム医療・チームケア 関連法規(障害者総合支援法、身体障害者福祉法など)について (教科書①2章 事例3 P94-101、教科書②Ⅰ章3 P64-91, Ⅱ章 P93-174 参照)	なす療育園 医師 下泉秀夫 リハセンター ST 金子忍
第13回	保健・福祉領域における関連職種連携の実際 3: 高齢者の自立支援とチーム医療・チームケア/ 関連法規(介護保険法など)について (教科書①2章事例1 P77-84、教科書②Ⅰ章3 P64-91, Ⅱ章 P93-174 参照)	にしなすの総合在 宅ケアセンター ケアマネジャー 磯玲子 生活相談員 小針 直哉 NS 秋葉喜美子
第14回	「関連職種連携論」のまとめ 次年度の演習「関連職種連携ワーク」に向けて	NS 降旗幹子 PT 韓寛受 PT 下井俊典 語学 三浦美恵子
第15回	総括	NS 降旗幹子 PT 韓寛受

成績評価の方法	1) 定期試験 2) 振り返り課題(リアクションペーパーを含む)
評価の基準	1) 定期試験 50% 2) 振り返り課題 50%
準備学習 学習へのアドバイス	【準備学習】 予習:教科書に加え、他職種の連携について自発的に調べて講義に臨むこと(20分程度) 復習:講義資料や教科書等で学習した内容を簡単にまとめること(20分程度) 【課題等に関するフィードバック】 「関連職種連携論」のまとめにおいてフィードバックする
履修条件	1) 講義時間 60分 振り返り課題(リアクションペーパーを含む) 30分 2) 授業後は、講義内容・教科書・資料を参考に各自でまとめを作成し、定期試験に備えること

教科書	①「医療福祉をつなぐ関連職種連携－講義と実習にもとづく学習のすべて－」南江堂 2013年 ②「保健医療福祉のための臨床推論 チーム医療・チームケアのための実学」朝倉書店 2016年
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	NS 世良喜子	:月曜日 18時00分～19時00分 B-516 研究室	
	NS 降旗幹子	:火曜日 12時00分～13時00分 A-515 研究室	
	PT 金子純一郎	:火曜日 16時30分～17時00分 物理療法実習室	
	OT 陣内大輔	:水曜日 14時40分～16時10分 D-511 研究室	
	ST 阿部晶子	:水曜日 12時10分～12時55分 C-506 研究室	
	RT 樋口清孝	:水曜日 18時00分～19時30分 J-212 研究室	
	ORT 内山仁志	:水曜日 16時20分～17時50分 F-501 研究室	
	SHM 酒井健	:木曜日 13時00分～14時30分 J-111 研究室	
	SHM 林和美	:火曜日 16時20分～17時50分 F-502 研究室	
	PS 百瀬泰行	:金曜日 16時20分～17時50分 N-607 研究室	
		前澤佳代子	:金曜日 13時00分～14時30分 N-603 研究室

その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー2)に該当
-----	-------------------------------------

※最新版は UNIVERSAL PASSPORT を確認してください。



		大田原キャンパス	
科目名	看護論	授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	笹谷 孝子	科目担当者	藤田 京子、世良 喜子、松本 明美、降旗 幹子、鈴木 由美、糸井 裕子
学科	全学科	学年	全学年
曜日時限	金曜 1限	必修/選択	選択
授業の形態	講義	単位数	2
		期	後期
		時間数	30時間

授業の概要 (主題)	看護はあらゆる健康レベルや成長発達段階にある人を対象とする。また、集団的視点と個別的視点から看護実践していく。すなわち看護職である保健師・助産師・看護師は、チーム医療の一員として健康支援に重要な役割を担う職種である。本科目では、他職種連携や協働という観点から、看護とはどのような役割と機能をもつのか、専門分化された領域や分野(基礎・管理看護学、小児看護学、成人看護学、リプロダクティブヘルス看護学、精神看護学、老年看護学、地域・在宅看護学、公衆衛生看護学等)から学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の定義・役割と機能について理解できる。</li> <li>2. 看護職の特徴について理解できる。</li> <li>3. 看護現象を理解するための代表的な理論および看護過程について理解できる。</li> <li>4. 看護の専門領域の視点から看護の役割と機能とは何か理解できる。</li> <li>5. 看護の倫理について理解できる。</li> <li>6. 看護の活躍する場および広がる看護の活動領域について理解できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	コースガイダンス 看護の定義 看護の役割と機能 看護実践のための基準	笹谷孝子
第2回	看護の対象とその理解 統合体としての人間	笹谷孝子
第3回	看護における倫理と倫理的課題	笹谷孝子
第4回	看護を理解するための代表的な理論と看護過程	笹谷孝子
第5回	看護の思考プロセスと看護過程論	笹谷孝子
第6回	看護提供のしくみ 専門分化された看護職	笹谷孝子
第7回	看護の役割と機能①基礎看護学・看護管理学	笹谷孝子
第8回	看護の役割・機能②小児看護学	世良喜子
第9回	看護の役割・機能③成人看護学	糸井裕子
第10回	看護の役割・機能④老年看護学	松本明美
第11回	看護の役割・機能⑤母性看護学・助産学	鈴木由美
第12回	看護の役割・機能⑥精神看護学	藤田京子
第13回	看護の役割・機能⑦地域・在宅看護学・公衆衛生看護学	降旗幹子
第14回	看護の活躍する場 広がる看護の活動領域	笹谷孝子
第15回	総括	笹谷孝子

成績評価の方法	■レポート ■授業への参加度
評価の基準	■レポート(90%) ■授業への参加度(10%)
準備学習 学習へのアドバイス	<p>事前学習として、日頃から保健・医療・福祉に関する最新情報に関心を持つと同時に、医療専門職としての自覚を持ち、幅広い教養と豊かな感性を磨くために、闘病記等対象理解につながる書籍に親しんでください。</p> <p>(2~3時間程度)</p> <p>毎時間終了時に理解度確認のレスポンスシートを提出してもらいます。(10分)</p> <p>事後学習として、学習内容を深めるために講義資料を基に復習してください。</p> <p>課題レポートを課すこともあります。(1~2時間程度)</p> <p>医療福祉の現場には必ずと言ってよいほど「看護職」の存在があります。将来、共に働く「看護職」とはどのような役割と機能を持っているのか、また、専門分化された領域や分野を知り、看護の活動の場や広がる看護の活動領域について、各自の専門職としての立場から学んでください。</p>
履修条件	特になし

教科書	特になし
参考書	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 その他、授業において適宜紹介する
オフィスアワー	金曜日 5 時限 A 棟 502 研究室(事前に連絡を入れてください)
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー 1) 2) に該当

							大田原キャンパス	
科目名	ケアマネジメント論（前半）					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	林 和美	科目担当者						
学科	全学科				学年	全学年	期	前期前半
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	今日 介護保険制度をはじめ様々な分野で導入されている「ケアマネジメント」について、その歴史と発展及びその技術について講義する。さらに介護保険制度下における介護支援専門員の支援プロセスに焦点をあて多職種連携のための「介護支援サービス」の理解を深めることを主眼とする。
授業の到達目標	ニーズ把握からサービス計画の作成、モニタリングなど一連のプロセスを理解し、連携する職種として「ケアマネジメント」の重要性が理解できるようになる。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ケアマネジメントとは	
第 2 回	ケアマネジメントの歴史と日本的展開	
第 3 回	ケアマネジメントの展開プロセス	
第 4 回	アセスメントとニーズ把握	
第 5 回	プランの調整手法と社会資源	
第 6 回	モニタリングの重要性と具体的方法	
第 7 回	地域包括ケアとケアマネジメント	
第 8 回	総括	

成績評価の方法	定期試験による
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	具体的に制度化されている介護保険におけるケアマネジメントを例示しながら講義していくので、介護保険制度を理解した上で聴講してほしい。さらに関連職種連携のツールとして「ケアマネジメント」はどのように生かせるかを講義全体で考察してほしい。なお授業前に30分の予習及び振り返り学習を30分程度行うこと。
履修条件	特になし

教科書	「ケアマネジメント」～在宅・施設のケアプランの考え方・つくり方～（全国社会福祉協議会）
参考書	福祉キーワードシリーズ「ケアマネジメント」中央法規出版 ケアマネジメント講座①「ケアマネジメント概論」中央法規出版 雑誌「ケアマネジメント」環境新聞社 雑誌「ケアマネジャー」中央法規出版

オフィスアワー	林 和美 火曜日5限(16時20分～17時50分)F502 林研究室
その他	共通ディプロマポリシー 2)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	ケースワーク論（前半）				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	小嶋 章吾	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期前半
曜日時限	木曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	ケースワークの概要について解説する。
授業の到達目標	ケースワークのついて理解する。

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ケースワークの実際から学ぶ	
第 2 回	ケースワークとソーシャルワーク	
第 3 回	ケースワークの対象	
第 4 回	ケースワークの技法	
第 5 回	ケースワークの原則	
第 6 回	ケースワークのプロセス	
第 7 回	ケースワークとケアワーク/ケアマネジメント	
第 8 回	ケースワークの分野・領域と課題	

成績評価の方法	レポート
評価の基準	レポート(80%)／受講姿勢(20%)
準備学習 学習へのアドバイス	<各回共通> 復習:講義内容及び配布レジュメをもとに、要点を確認するとともに、疑問点があれば自ら調べたり質問をすること(240 時間)
履修条件	特になし。

教科書	使用しない。
参考書	『ソーシャルワークを学ぶ』(学文社) ※学内書店に在庫あり。

オフィスアワー	水曜日3限(13時00分～14時30分)F517 小嶋研究室
その他	医療福祉・マネジメント学科の学生にとっては、社会福祉援助技術論Ⅱの要点を学ぶ。 他学科の学生にとっては、患者・利用者との関わりに活用できる視点や技法を学ぶ。

							大田原キャンパス	
科目名	医療管理学				授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	加藤 尚子		科目担当者					
学科	全学科				学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 3限	必修/選択	選択		単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	日本の医療提供体制の概要を示し、医療活動の主要な現場となる病院医療の仕組みを学ぶ。病院を円滑に運営するためのマネジメントの重要課題を把握する。
授業の到達目標	1.医療提供体制の全体像をイメージできる 2.病院医療の仕組みを立体的にイメージすることができる 3.病院医療の問題点を指摘することができる 4.病院マネジメントの重要性を理解し、将来のマネージャーとしての自覚を持つことができる

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	オリエンテーション	
第2回	病院の歴史	
第3回	医療を提供する仕組み	
第4回	医療法	
第5回	医療費の負担:医療保険①	
第6回	医療費の負担:医療保険②	
第7回	医療費の配分:診療報酬①	
第8回	医療費の配分:診療報酬②	
第9回	医療安全	
第10回	医療の質の評価	
第11回	医療専門職	
第12回	病院の組織	
第13回	病院のマネジメント	
第14回	2030年の病院像	
第15回	講義のまとめ	

成績評価の方法	定期試験、講義中に作成するレポート
評価の基準	定期試験 50%、講義中に作成するレポート 50%
準備学習 学習へのアドバイス	授業後の復習を重点的に行うこと。毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60分程度)。講義中は発言を求める。積極的な参加を期待する。平素から時事問題に関心を持ち、新聞をよく読んでおくこと。
履修条件	特になし

教科書	特に指定しない
参考書	池上直己:医療・介護問題を読み解く, 日本経済新聞出版社, 2014 棕野美知子他:はじめての社会保障, 有斐閣, 2016

オフィスアワー	月曜 6限(J棟 109 研究室)
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	医療管理学			授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	加藤 尚子	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	火曜 5 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	日本の医療提供体制の概要を示し、医療活動の主要な現場となる病院医療の仕組みを学ぶ。病院を円滑に運営するためのマネジメントの重要課題を把握する。
授業の到達目標	1.医療提供体制の全体像をイメージできる 2.病院医療の仕組みを立体的にイメージすることができる 3.病院医療の問題点を指摘することができる 4.病院マネジメントの重要性を理解し、将来のマネージャーとしての自覚を持つことができる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	病院の歴史	
第 3 回	医療を提供する仕組み	
第 4 回	医療法	
第 5 回	医療費の負担:医療保険①	
第 6 回	医療費の負担:医療保険②	
第 7 回	医療費の配分:診療報酬①	
第 8 回	医療費の配分:診療報酬②	
第 9 回	医療安全	
第 10 回	医療の質の評価	
第 11 回	医療専門職	
第 12 回	病院の組織	
第 13 回	病院のマネジメント	
第 14 回	2030 年の病院像	
第 15 回	講義のまとめ	

成績評価の方法	定期試験、講義中に作成するレポート
評価の基準	定期試験 50%、レポート 50%
準備学習 学習へのアドバイス	授業後の復習を重点的に行うこと。毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめる(60 分程度)。講義中は発言を求める。積極的な参加を期待する。平素から時事問題に関心を持ち、新聞をよく読んでおくこと。
履修条件	特になし

教科書	特に指定しない
参考書	池上直己:医療・介護問題を読み解く, 日本経済新聞出版社, 2014 棕野美知子他:はじめての社会保障, 有斐閣, 2016

オフィスアワー	月曜 6 限(J 棟 109 研究室)
その他	

		大田原キャンパス					
科目名	保健医療福祉制度論				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	金野 充博	科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	わが国の保健医療福祉関連の諸制度を概観し、医療福祉分野の専門職として必要な基礎知識を学ぶ。最新のニュースを素材に、アップツーデート(今日的)な問題についても理解を深める。
授業の到達目標	<p>1、社会保障制度の「現在・過去・未来」を概観、展望することで、制度が抱えている問題の所在を理解することができる。</p> <p>2、将来にわたって社会保障制度の「持続的安定」を図るため、問題をどう解決すべきかといった構想力を養うことができる。</p> <p>3、文章の書き方やレポート作成能力を高めることができる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	社会保障をめぐる国の台所事情—雪だるま式に増える借金と財政再建の行方	
第 2 回	同時進行する少子・高齢化—社会保障の一大転換点となる「2025年問題」	
第 3 回	医療・福祉を支えるマンパワー—不足する看護・介護職、外国人の活用は「救いの神」?	
第 4 回	医療機関と薬剤をめぐる諸問題—進む機能分化、ジェネリック医薬品、成長戦略と創薬	
第 5 回	児童福祉—子育て支援と待機児童、子どもの貧困、虐待	
第 6 回	障害者福祉、生活保護—違憲訴訟と障害者自立支援法、3つの「セーフティネット」	
第 7 回	特論①	
第 8 回	特論②(前半)、小論文の作成(後半)	
第 9 回	特論③(前半)、小論文の講評・解説(後半)	
第 10 回	医療保険—「自助・共助・公助」をどう組み合わせるか、市町村国保が抱える問題	
第 11 回	高齢者医療—75 歳は心身の曲がり角。「医療費無料化」から「定率負担」までの道のり	
第 12 回	介護保険—財政悪化によるサービス切り離し、「介護離職ゼロ」が最重要課題	
第 13 回	年金—公的年金にどこまで頼れるか、強まる年金カットの流れ	
第 14 回	雇用・労災保険—「自己都合」と「会社都合」離職の違い、長時間労働と過労死、「心の病」	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート ■その他(小論文)
評価の基準	筆記試験 60%、小テスト 20%、小論文 20%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>準備学習 復習を重点的に行うこと(60分) 課題等に関するフィードバック 小論文については模範例を示し、授業の中でポイントを解説する。</p> <p>その他アドバイス 世界に類を見ない少子・高齢化を背景に、社会保障制度に関連するニュースが流れない日はない。新聞やテレビなどを通して、政治や社会の動きを敏感にキャッチする習慣を身につけること。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	「はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ 第13版」(棕野美智子・田中耕太郎、有斐閣、2016) 「徹底解説! 介護保険制度のすべて—2015年度改正に完全対応」(金野充博、日本法令、2015)

オフィスアワー	月曜日 2 限(10:40~12:10) 研究室(C503)
その他	関連するディプロマポリシー 共通ディプロマポリシー2)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	保健医療福祉制度論 (ST1)				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	金野 充博	科目担当者					
学科	言語聴覚学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	わが国の保健医療福祉関連の諸制度を概観し、医療福祉分野の専門職として必要な基礎知識を学ぶ。最新のニュースを素材に、アップツーデート(今日的)な問題についても理解を深める。
授業の到達目標	<p>1、社会保障制度の「現在・過去・未来」を概観、展望することで、制度が抱えている問題の所在を理解することができる。</p> <p>2、将来にわたって社会保障制度の「持続的安定」を図るため、問題をどう解決すべきかといった構想力を養うことができる。</p> <p>3、文章の書き方やレポート作成能力を高めることができる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	社会保障をめぐる国の台所事情—雪だるま式に増える借金と財政再建の行方	
第 2 回	同時進行する少子・高齢化—社会保障の一大転換点となる「2025年問題」	
第 3 回	医療・福祉を支えるマンパワー—不足する看護・介護職、外国人の活用は「救いの神」?	
第 4 回	医療機関と薬剤をめぐる諸問題—進む機能分化、ジェネリック医薬品、成長戦略と創薬	
第 5 回	児童福祉—子育て支援と待機児童、子どもの貧困、虐待	
第 6 回	障害者福祉、生活保護—違憲訴訟と障害者自立支援法、3つの「セーフティネット」	
第 7 回	特論①	
第 8 回	特論②(前半)、小論文の作成(後半)	
第 9 回	特論③(前半)、小論文の講評・解説(後半)	
第 10 回	医療保険—「自助・共助・公助」をどう組み合わせるか、市町村国保が抱える問題	
第 11 回	高齢者医療—75歳は心身の曲がり角、「医療費無料化」から「定率負担」までの道のり	
第 12 回	介護保険—財政悪化によるサービス切り離し、「介護離職ゼロ」が最重要課題	
第 13 回	年金—公的年金にどこまで頼れるか、強まる年金カットの流れ	
第 14 回	雇用・労災保険—「自己都合」と「会社都合」離職の違い、長時間労働と過労死、「心の病」	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート ■その他(小論文)
評価の基準	筆記試験 60%、小テスト 20%、小論文 20%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>準備学習 復習を重点的に行うこと(60分) 課題等に関するフィードバック 小論文については模範例を示し、授業の中でポイントを解説する。</p> <p>その他アドバイス 世界に類を見ない少子・高齢化を背景に、社会保障制度に関連するニュースが流れない日はない。新聞やテレビなどを通して、政治や社会の動きを敏感にキャッチする習慣を身につけること。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	「はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ 13版」(棕野美智子・田中耕太郎、有斐閣、2016) 「徹底解説! 介護保険制度のすべて—2015年度改正に完全対応」(金野充博、日本法令、2015)

オフィスアワー	月曜日 2 限(10:40~12:10) 研究室(C503)
その他	関連するディプロマポリシー 共通ディプロマポリシー2)に該当



		大田原キャンパス					
科目名	保健医療福祉制度論 (NS1)				授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	金野 充博	科目担当者					
学科	看護学科			学年	1 学年	期	後期
曜日時限	水曜 5 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	わが国の保健医療福祉関連の諸制度を概観し、医療福祉分野の専門職として必要な基礎知識を学ぶ。最新のニュースを素材に、アップツーデート(今日的)な問題についても理解を深める。
授業の到達目標	<p>1、社会保障制度の「現在・過去・未来」を概観、展望することで、制度が抱えている問題の所在を理解することができる。</p> <p>2、将来にわたって社会保障制度の「持続的安定」を図るため、問題をどう解決すべきかといった構想力を養うことができる。</p> <p>3、文章の書き方やレポート作成能力を高めることができる。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	社会保障をめぐる国の台所事情—雪だるま式に増える借金と財政再建の行方	
第 2 回	同時進行する少子・高齢化—社会保障制度の一大転換点となる「2025年問題」	
第 3 回	医療・福祉を支えるマンパワー—不足する看護・介護職、外国人の活用は「救いの神」?	
第 4 回	医療機関と薬剤をめぐる諸問題—進む機能分化、ジェネリック医薬品、成長戦略と創薬	
第 5 回	児童福祉—子育て支援と待機児童、子どもの貧困、虐待	
第 6 回	障害者福祉・生活保護—違憲訴訟と障害者自立支援法、3つの「セーフティネット」	
第 7 回	特論①	
第 8 回	特論②(前半)、小論文の作成(後半)	
第 9 回	特論③(前半)、小論文の講評・解説(後半)	
第 10 回	医療保険—「自助・共助・公助」をどう組み合わせるか、市町村国保が抱える問題	
第 11 回	高齢者医療—75 歳は心身の曲がり角、「医療費無料化」から「定率負担」までの道のり	
第 12 回	介護保険—財政悪化によるサービス切り離し、「介護離職ゼロ」が最重要課題	
第 13 回	年金—公的年金にどこまで頼れるか、強まる年金カットの流れ	
第 14 回	雇用・労災保険—「自己都合」と「会社都合」離職の違い、長時間労働と過労死、「心の病」	
第 15 回	授業全体のまとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 ■小テスト □レポート ■その他(小論文)
評価の基準	筆記試験 60%、小テスト 20%、小論文 20%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>準備学習 復習を重点的に行うこと(60分) 課題等に関するフィードバック 小論文については模範例を示し、授業の中でポイントを解説する。 その他アドバイス 世界に類を見ない少子・高齢化を背景に、社会保障制度に関連するニュースが流れない日はない。新聞やテレビなどを通して、政治や社会の動きを敏感にキャッチする習慣を身につけること。</p>
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	「はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ 13 版」(棕野美智子・田中耕太郎、有斐閣、2016) 「徹底解説! 介護保険制度のすべて—2015年度改正に完全対応」(金野充博、日本法令、2015)

オフィスアワー	月曜日 2 限(10:40~12:10) 研究室(C503)
その他	関連するディプロマポリシー 共通ディプロマポリシー2)に該当

							大田原キャンパス	
科目名	社会福祉学（必修:ORT1）					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	山口 佳子		科目担当者					
学科	全学科			学年	全学年	期	後期	
曜日時限	水曜 3限	必修/選択	必修(ORT) ／選択(他学科)	単位数	2	時間数	30時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	保健・医療・福祉の専門職として、患者・利用者理解や専門職連携に必要な社会保障・社会福祉の基礎を修得する。 社会保障・社会福祉について理解し、チーム医療・チームケアにおいて他職種と自職種の価値を知り、活用できるようにする。
授業の到達目標	1. 社会保障制度と各種サービスについて理解し説明できる 2. 現代社会の福祉課題、動向について理解し説明できる 3. 施設や機関、専門職の機能と役割を理解し説明できる

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	私たちの生活と社会保障制度・社会福祉	
第2回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉	
第3回	社会保障制度改革	
第4回	保健医療サービスと福祉	
第5回	医療保障制度	
第6回	生活保護制度	
第7回	高齢者福祉の制度とサービス	
第8回	介護保険制度	
第9回	高齢者医療制度	
第10回	障害者福祉の制度とサービス	
第11回	児童・家庭福祉の制度とサービス	
第12回	年金保険制度	
第13回	労働保険制度	
第14回	保健・医療・福祉の連携	
第15回	まとめ	

成績評価の方法	定期試験、レポート等、参加状況
評価の基準	定期試験 80% 参加状況、レポート等 20%
準備学習 学習へのアドバイス	時事問題などに関連付けながら学習を進めること
履修条件	

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 『社会保障・社会福祉』 医学書院
参考書	適宜紹介する

オフィスアワー	月曜日 4限 14:40～16:10 F405 実習指導室
その他	

		大田原キャンパス						
科目名	臨床心理学概論（共通）				授業開始年度	2017 年度		
科目担当責任者	皆川 久仁子		科目担当者					
学科	全学科(言語聴覚学科以外)				学年	全学年	期	前期
曜日時限	月曜 2 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	臨床心理学は心の問題や対人援助に関する学問です。本講義では、臨床心理学の様々な理論や技法の学習を通じ、現代の多様な心の問題やその援助について考えていきます。さらには、人間、自分、心についての理解を深め、日常生活に活かせるような知識の獲得を目指します。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の基礎的な理論や技法を理解できる 2. 臨床心理学を一つの視点として、自分や他者、対人援助について考えることができる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス(臨床心理学とは)	
第 2 回	人格の発達と様々な心理的問題	
第 3 回	「自分」とは	
第 4 回	悩み・適応・不適応	
第 5 回	様々な心のつまずき	
第 6 回	心理的混乱と変容	
第 7 回	臨床心理学査定	
第 8 回	アセスメント体験	
第 9 回	心理療法とカウンセリング①ー精神分析	
第 10 回	心理療法とカウンセリング②ークライアント中心療法	
第 11 回	心理療法とカウンセリング③ー認知行動療法ほか	
第 12 回	家族と自分	
第 13 回	人間関係の深層	
第 14 回	正常と異常, 創造性	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 80%、レポート 20%
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60分程度)。 答えのない心の問題や援助について扱うため、積極的・主体的な姿勢で臨んでください。
履修条件	言語聴覚学科の学生は履修不可(言語聴覚学科に関しては 2 年次に必修科目「臨床心理学」として開講)

教科書	特に指定しない。
参考書	神田久男(編著)(2013)「心理援助アプローチのエッセンス」, 樹村房

オフィスアワー	火曜 3 限 J-205 研究室
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	臨床心理学概論 (OT1)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	佐久間 伸一	科目担当者						
学科	作業療法学科			学年	1 学年	期	前期	
曜日時限	月曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	臨床心理学は心の問題や対人援助に関する学問です。本講義では、臨床心理学の様々な理論や技法の学習を通じ、現代の多様な心の問題やその援助について考えていきます。さらには、人間、自分、心についての理解を深め、日常生活に活かせるような知識の獲得を目指します。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の基礎的な理論や技法を理解できる 2. 臨床心理学を一つの視点として、自分や他者、対人援助について考えることができる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス(臨床心理学とは)	
第 2 回	人格の発達と様々な心理的問題	
第 3 回	「自分」とは	
第 4 回	悩み・適応・不適応	
第 5 回	様々な心のつまずき	
第 6 回	心理的混乱と変容	
第 7 回	臨床心理学査定	
第 8 回	アセスメント体験	
第 9 回	心理療法とカウンセリング①ー精神分析	
第 10 回	心理療法とカウンセリング②ークライアント中心療法	
第 11 回	心理療法とカウンセリング③ー認知行動療法ほか	
第 12 回	家族と自分	
第 13 回	人間関係の深層	
第 14 回	正常と異常, 創造性	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 80%、レポート 20%
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60 分程度)。 答えのない心の問題や援助について扱うため、積極的・主体的な姿勢で臨んでください。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	神田久男(編著)(2013)「心理援助アプローチのエッセンス」, 樹村房

オフィスアワー	火曜 3 限 J-205 研究室
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	臨床心理学概論 (NS2)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	佐久間 伸一	科目担当者						
学科	看護学科			学年	2 学年	期	前期	
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	臨床心理学は心の問題や対人援助に関する学問です。本講義では、臨床心理学の様々な理論や技法の学習を通じ、現代の多様な心の問題やその援助について考えていきます。さらには、人間、自分、心についての理解を深め、日常生活に活かせるような知識の獲得を目指します。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の基礎的な理論や技法を理解できる 2. 臨床心理学を一つの視点として、自分や他者、対人援助について考えることができる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス(臨床心理学とは)	
第 2 回	人格の発達と様々な心理的問題	
第 3 回	「自分」とは	
第 4 回	悩み・適応・不適応	
第 5 回	様々な心のつまずき	
第 6 回	心理的混乱と変容	
第 7 回	臨床心理学査定	
第 8 回	アセスメント体験	
第 9 回	心理療法とカウンセリング①ー精神分析	
第 10 回	心理療法とカウンセリング②ークライアント中心療法	
第 11 回	心理療法とカウンセリング③ー認知行動療法ほか	
第 12 回	家族と自分	
第 13 回	人間関係の深層	
第 14 回	正常と異常, 創造性	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 80%、レポート 20%
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60分程度)。 答えのない心の問題や援助について扱うため、積極的・主体的な姿勢で臨んでください。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	神田久男(編著)(2013)「心理援助アプローチのエッセンス」, 樹村房

オフィスアワー	火曜 3 限 J-205 研究室
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	臨床心理学概論 (PT2/OR2)					授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	佐久間 伸一	科目担当者						
学科	理学療法学科、視機能療法学科			学年	2 学年	期	後期	
曜日時限	月曜 3 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	臨床心理学は心の問題や対人援助に関する学問です。本講義では、臨床心理学の様々な理論や技法の学習を通じ、現代の多様な心の問題やその援助について考えていきます。さらには、人間、自分、心についての理解を深め、日常生活に活かせるような知識の獲得を目指します。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の基礎的な理論や技法を理解できる 2. 臨床心理学を一つの視点として、自分や他者、対人援助について考えることができる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス(臨床心理学とは)	
第 2 回	人格の発達と様々な心理的問題	
第 3 回	「自分」とは	
第 4 回	悩み・適応・不適応	
第 5 回	様々な心のつまずき	
第 6 回	心理的混乱と変容	
第 7 回	臨床心理学査定	
第 8 回	アセスメント体験	
第 9 回	心理療法とカウンセリング①ー精神分析	
第 10 回	心理療法とカウンセリング②ークライアント中心療法	
第 11 回	心理療法とカウンセリング③ー認知行動療法ほか	
第 12 回	家族と自分	
第 13 回	人間関係の深層	
第 14 回	正常と異常, 創造性	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 80%、レポート 20%
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60分程度)。 答えのない心の問題や援助について扱うため、積極的・主体的な姿勢で臨んでください。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	神田久男(編著)(2013)「心理援助アプローチのエッセンス」、樹村房

オフィスアワー	火曜 3 限 J-205 研究室
その他	

							大田原キャンパス	
科目名	臨床心理学概論 (PS)					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	佐久間 伸一	科目担当者						
学科	薬学科			学年	1 学年	期	後期	
曜日時限	火曜 2 限	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	臨床心理学は心の問題や対人援助に関する学問です。本講義では、臨床心理学の様々な理論や技法の学習を通じ、現代の多様な心の問題やその援助について考えていきます。さらには、人間、自分、心についての理解を深め、日常生活に活かせるような知識の獲得を目指します。
授業の到達目標	1. 臨床心理学の基礎的な理論や技法を理解できる 2. 臨床心理学を一つの視点として、自分や他者、対人援助について考えることができる

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	ガイダンス(臨床心理学とは)	
第 2 回	人格の発達と様々な心理的問題	
第 3 回	「自分」とは	
第 4 回	悩み・適応・不適応	
第 5 回	様々な心のつまずき	
第 6 回	心理的混乱と変容	
第 7 回	臨床心理学査定	
第 8 回	アセスメント体験	
第 9 回	心理療法とカウンセリング①ー精神分析	
第 10 回	心理療法とカウンセリング②ークライアント中心療法	
第 11 回	心理療法とカウンセリング③ー認知行動療法ほか	
第 12 回	家族と自分	
第 13 回	人間関係の深層	
第 14 回	正常と異常, 創造性	
第 15 回	まとめ	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 80%、レポート 20%
準備学習 学習へのアドバイス	毎回の授業の内容を振り返り、ノートをまとめること(60 分程度)。 答えのない心の問題や援助について扱うため、積極的・主体的な姿勢で臨んでください。
履修条件	

教科書	特に指定しない。
参考書	神田久男(編著)(2013)「心理援助アプローチのエッセンス」, 樹村房

オフィスアワー	火曜 3 限 J-205 研究室
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	医療情報学概論			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	斎藤 恵一		科目担当者				
学科	全学科			学年	2・3・4 学年	期	後期
曜日時限	月曜 3 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>情報通信技術（ICT）の目覚ましい進歩により、医療情報分野でも ICT 化が推進されている。授業では、医療情報の ICT 化の進展に関連した諸事項を取り上げて解説するとともに、本学に構築されている仮想病院の電子カルテシステムを使いながらチーム医療で重要な情報共有を体験する。</p> <p>実際には、医療情報の特性、医療情報分野の行政の動向、個人情報保護、情報セキュリティ、医療情報の標準化、病院情報システムなどの項目を取り上げる。さらに、模擬診療記録をもとに、電子カルテ端末を使って、患者登録、各科受付、診察、各種オーダー、処方箋、所見入力、実施登録、会計等の操作を実際に行いながら業務や情報の流れを理解する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.医療情報の特性についてその概要を説明できる。</li> <li>2.医療分野の ICT 化に関する行政の動向についてその概要を説明できる。</li> <li>3.医療分野における個人情報保護についてその概要を説明できる。</li> <li>4.医療分野における情報セキュリティについてその概要を説明できる。</li> <li>5.医療情報の標準化についてその概要を説明できる。</li> <li>6.医療機関における情報システムについて例を挙げて説明できる。</li> <li>7.電子カルテシステムを操作して情報共有を体験する。</li> <li>8.電子カルテシステムを実際に使うことにより、診療情報の電子化の利点を理解する。</li> <li>9.模擬患者診療記録の入力を通じて、各職種の役割とその関わり方を理解する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	「医療情報とは」では、データ、情報、知識の違いを明らかにしたのち、医療情報の種類について例を挙げて説明する。さらに、マルチメディア性など医療情報の特徴について述べる。	
第 2 回	「行政の動向」では、ICT 化に関する医療行政の動向を取り扱う。重要事項を時系列的に追い、医療分野の ICT 化がどのように進められ現在に至っているかについて述べる。	
第 3 回	「個人情報保護」では、患者の秘密保護に関する歴史的経緯を概観したのち、プライバシー概念、コントロール権、OECD ガイドラインについてふれる。	
第 4 回	「情報セキュリティ(1)」では、医療分野での事例を挙げながら、情報セキュリティの対象、三要件、脅威と脆弱性、マルウェア、個人・組織人としての対策など基本事項を整理する。	
第 5 回	「情報セキュリティ(2)」では、パスワードやバイオメトリクスなどのユーザ認証方法、ファイアウォール、暗号技術とその応用など、主に情報セキュリティの要素技術を取り扱う。	
第 6 回	「医療情報の標準化」では、標準化の効用について述べたのち、用語・コード、データ形式・伝送および診療に関する標準化について説明する。	
第 7 回	「医療情報システム」では、電子カルテシステムの普及など最近の動向を含めた解説をしたのち、主に病院内の各部門で稼働する種々の情報システムについて概観する。	
第 8 回	「課題調査」では、第 1 回から 7 回までの内容からテーマを 1 つ選び、さらに詳しい調査をまとめてみる。	
第 9 回	「中間試験」は、第 1 回から 8 回までの内容から出題する。	
第 10 回	「病院外来業務を体験する(1)」では、電子カルテシステムの基本操作と注意事項を説明したのち、電子カルテ端末を使って模擬診療記録をもとに新規患者の登録作業を体験する。	
第 11 回	「病院外来業務を体験する(2)」では、模擬診療記録にもとづいて、新規患者の診療科登録、各科窓口受付をおこなったのち、医師がおこなうカルテ記載、オーダー登録を体験する。	
第 12 回	「病院外来業務を体験する(3)」では、医師からのオーダーに対して各職種が対応する実施登録、所見入力を体験する。	
第 13 回	「病院外来業務を体験する(4)」では、医師が実施する病名登録、リハビリ依頼とリハビリ科が行う予約、実施登録、リハビリ記録の入力を体験する。	
第 14 回	「病院外来業務を体験する(5)」では、診察終了後の会計処理(会計内容の確認と計算処理)、と患者呼び出し及び入金処理会計の一連業務の操作を体験する。	
第 15 回	「総括」では、これまでの講義内容と電子カルテシステムの操作体験をもとにディスカッションを行い、医療分野の ICT 化のメリット、デメリットについて再確認する。	



成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート □その他
評価の基準	試験 60% レポート 40%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】(90分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習より復習に重点をおいてください。</li> <li>・サブノート式の資料を配布するのでそれを使って復習すること。</li> <li>・学習した内容は再度確認し、分からない所は質問すること。</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は回収し解説する。</li> </ul> <p>【その他アドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬診療記録の入力操作をするので、極力欠席しないこと。</li> </ul>
履修条件	特になし

教科書	資料を配付します
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報サブノート 編集:日本医療情報学会医療情報技師育成部会;第3版 発行所:篠原出版新社(ISBN-10 4884123743)</li> <li>・新版 医療情報(医療情報システム編) 編集:日本医療情報学会医療情報技師育成部会;第2版 発行所:篠原出版新社(ISBN-10 4884123654)</li> </ul>

オフィスアワー	木曜日・3限・J棟 211 研究室
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー2)に該当

		大田原キャンパス		
科目名	福祉支援工学概論		授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	山本 澄子	科目担当者	東島 弘子	
学科	全学科		学年	全学年
曜日時限	火曜 3限	必修/選択	選択	前期
授業の形態	講義		単位数	2
			時間数	30時間

授業の概要 (主題)	福祉支援工学概論では、高齢者、障がい者の生活を支援する福祉用具について講義をする。福祉用具の目的、福祉用具に関する法制度、福祉用具使用者の状況について解説する。義肢装具、車いす、介護用ベッドなどさまざまな福祉用具を対象に、求められる機能、福祉用具の選択と適合に関する知識を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉用具の種類と法制度について説明できる。</li> <li>2. 福祉用具使用者の状況と福祉用具活用の意味を説明できる。</li> <li>3. 代表的な福祉用具の選択と適合について概要を説明できる。</li> <li>4. 福祉用具が使用者の生活に及ぼす影響について概要を説明できる。</li> <li>5. 福祉用具活用のための留意点について概要を説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	福祉用具とは(4月11日)	山本澄子
第2回	バリアフリーとユニバーサルデザイン(4月18日)	山本澄子
第3回	我が国の人口動態と高齢化(4月25日)	東島弘子
第4回	義肢装具(5月2日)	山本澄子
第5回	福祉用具と法制度(5月9日)	東島弘子
第6回	自助具(5月16日)	山本澄子
第7回	車いす(5月23日)	山本澄子
第8回	車いすを使用するための用具(5月30日)	山本澄子
第9回	車いす実習(6月6日)	山本澄子
第10回	歩行補助具(6月13日)	山本澄子
第11回	介護用ベッドとベッド付属品(6月20日)	山本澄子
第12回	腰にかかる負担を軽減する用具(6月27日)	山本澄子
第13回	福祉用具ユーザーの話(7月4日)	山本澄子
第14回	福祉用具個別援助計画(7月11日)	東島弘子
第15回	総括(7月18日)	山本澄子

成績評価の方法	定期試験 レポート
評価の基準	定期試験 90% レポート 10%
準備学習 学習へのアドバイス	福祉用具に興味があれば誰でも履修可能 毎回の授業を振り返り、復習を重点的に行う(60分)
履修条件	

教科書	資料を配布
参考書	特になし

オフィスアワー	講義の前後、メールでの質問に対応する
その他	

				大田原キャンパス			
科目名	福祉支援工学概論			授業開始年度	2017年度		
科目担当責任者	山本 澄子	科目担当者	東島 弘子				
学科	全学科			学年	全学年	期	後期
曜日時限	木曜 3限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	福祉支援工学概論では、高齢者、障がい者の生活を支援する福祉用具について講義をする。福祉用具の目的、福祉用具に関する法制度、福祉用具使用者の状況について解説する。義肢装具、車いす、介護用ベッドなどさまざまな福祉用具を対象に、求められる機能、福祉用具の選択と適合に関する知識を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉用具の種類と法制度について説明できる。</li> <li>2. 福祉用具使用者の状況と福祉用具活用の意味を説明できる。</li> <li>3. 代表的な福祉用具の選択と適合について概要を説明できる。</li> <li>4. 福祉用具が使用者の生活に及ぼす影響について概要を説明できる。</li> <li>5. 福祉用具活用のための留意点について概要を説明できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第1回	福祉用具とは(9月21日)	山本澄子
第2回	わが国の人口動態と高齢化(9月28日)	東島弘子
第3回	バリアフリーとユニバーサルデザイン(10月5日)	山本澄子
第4回	福祉用具と法制度(10月12日)	東島弘子
第5回	義肢装具(10月19日)	山本澄子
第6回	自助具(11月2日)	
第7回	車いす(11月9日)	山本澄子
第8回	車いすを使用するための用具(11月16日)	山本澄子
第9回	車いす実習(11月30日)	山本澄子
第10回	歩行補助具(12月7日)	山本澄子
第11回	福祉用具個別援助計画(12月14日)	東島弘子
第12回	介護用ベッドとベッド付属品(12月21日)	山本澄子
第13回	腰にかかる負担を軽減する用具(1月4日)	山本澄子
第14回	福祉用具ユーザーの話(1月11日)	山本澄子
第15回	総括(1月18日)	山本澄子

成績評価の方法	定期試験 レポート
評価の基準	定期試験 90% レポート 10%
準備学習 学習へのアドバイス	福祉用具に興味があれば誰でも履修可能 毎回授業を振り返り、復習を重点的に行う(60分)
履修条件	

教科書	資料を配布
参考書	特になし

オフィスアワー	講義の前後、メールでの質問に対応する
その他	

		大田原キャンパス		
科目名	関連職種連携ワーク		授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	谷口 敬道	科目担当者	加藤 英明、関 優樹	
学科	全学科		学年	3 学年
曜日時限	月曜 5 限	必修/選択	必修	前期
授業の形態	演習		単位数	1
			時間数	30 時間

授業の概要 (主題)	保健・医療・福祉に携わる職種の専門性と関連性、チーム医療・チームケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を理解し、説明できる。</li> <li>2. 模擬事例について全人的に捉える視点を理解し、説明できる。</li> <li>3. 模擬事例・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する必要性を理解し、説明できる。</li> <li>4. 各職種がそれぞれの立場から評価を行い、それらを基にチーム全体で治療(支援)計画を策定する必要性を理解し、説明できる。</li> <li>5. 関連職種連携論を踏まえ、ICF を用いて複数の職種の立場から模擬事例を説明できる。</li> <li>6. 関連職種連携論を踏まえ、ICF を用いて自他職種の役割が説明・分類できる。</li> <li>7. チーム医療・チームケアにおける共同作業の進め方を理解し、連携ワークを実践できる。</li> <li>8. チーム医療・チームケアにおける倫理的問題および解決方法を理解し、連携ワークを実践できる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	オリエンテーション	加藤 英明、関 優樹
第 2 回	グループワーク 1(自己紹介、テーマ検討)	各チーム担当教員
第 3 回	グループワーク 2(テーマ検討、事例研究)	各チーム担当教員
第 4 回	グループワーク 3(テーマ設定、担当教員報告)	各チーム担当教員
第 5 回	グループワーク 4(テーマ討議)	各チーム担当教員
第 6 回	グループワーク 5(テーマ討議)	各チーム担当教員
第 7 回	グループワーク 6(テーマ討議、担当教員報告)	各チーム担当教員
第 8 回	グループワーク 7(テーマ討議)	各チーム担当教員
第 9 回	グループワーク 8(発表資料作成)	各チーム担当教員
第 10 回	グループワーク 9(チーム内討議)	各チーム担当教員
第 11 回～ 第 14 回	関連職種連携ワーク報告会	各チーム担当教員
第 15 回	総括	加藤 英明、関 優樹

成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他
評価の基準	参加態度 20 点、課題達成 30 点、課題達成(報告会)20 点、レポート 30 点
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学修(予習復習等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬事例に関して、自職種が求められる役割について説明できるまで調べる(30 分)</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会后リフレクションを行う。</li> </ul> <p>【その他アドバイス】</p> <p>教科書に加え、「関連職種連携論」の講義配布資料を参考に臨むこと</p>
履修条件	

教科書	「医療福祉をつなぐ関連職種連携 ―講義と実習にもとづく学習のすべて―」南江堂 2013 年 「保健医療福祉のための臨床推論 チーム医療・チームケアのための実学」朝倉書店 2016 年
参考書	特に指定しない

オフィスアワー	各チーム担当教員による
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー②に該当

		大田原キャンパス		
科目名	関連職種連携実習		授業開始年度	2017年度
科目担当責任者	新井田 孝裕	科目担当者	坪倉 繁美、橋本 光康	
学科	全学科		学年	4 学年 薬学部のみ 5 学年
曜日時限	前期(集中講義)、 後期(集中講義)	必修/ 選択	単位数	1
授業の形態	実習		期	通年
			時間数	45 時間

授業の概要 (主題)	<p>それぞれ異なる専門職を目指す各学科学生が同一の実習現場において、対象者・家族中心のサービス提供の体験を通して、チーム医療・チームケアを学ぶ。対象者・家族の方々および実習施設指導者等の協力のもと、実習が展開される。</p> <p>具体的には全学科の学生がチームを形成し、1 名の対象者・家族についてアセスメントおよびサービス計画立案を行い、ケースカンファレンスにおいてその内容を討議する。併せて、各職種の職務見学および実習指導者のもとでの実践を行う。医療福祉の総合大学である本学の教育環境を生かした実習であり、協働して実習を行うことで、職場で実際に役立つ幅広い知識・技術等が修得できる。</p>
授業の到達目標	<p>対象者・家族の QOL を向上させることは、IPC の最終目的である。</p> <p>各専門職を目指す複数の学生によるチームとして、対象者・家族の理解、適切な思考過程による問題解決や支援(策の策定)を通じて、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健医療福祉分野におけるグループ・ダイナミクス※1)を実践し、その内容と意義を説明できる。</li> <li>2) グループ・ダイナミクスの方法論であるチーム・ビルディング※2)を実践し、その内容を説明できる。</li> <li>3) 自職種としての役割と責任が説明できる。</li> </ol> <p>※1)グループ・ダイナミクス 集団力学、集団力動。集団内相互作用。 確実なチーム形成を基盤としたチーム・アプローチにより、チームとして個々のメンバーの能力総和以上の結果を出すこと。またその結果までの経過。</p> <p>※2)チーム・ビルディング グループ、チームの形成・発達過程とその手順、方法論。</p>

授業計画		
回数	内容	担当
	全体オリエンテーション(学内)(6月20日)	実習担当教員
	事前演習(学内)(第1回:7月3日、第2回:7月14日)	実習担当教員
	施設別オリエンテーション、ケース提示(学内または実習先)	実習担当教員
	臨床参加(実習先)(7月29日～8月4日、実習施設により多少異なる) 対象者の情報収集および評価 自他職種部門での実習 ケースカンファレンスへの参加 など 実習期間中にアセスメントサマリー・総合サービス計画の作成と評価を実施する 実習成果を発表する	実習担当教員
	実習報告会(学内)(8月26日)	実習担当教員
	記録物、課題レポート提出	実習担当教員
	報告集作成(実習成果のまとめ)	実習担当教員

成績評価の方法	■実習評価 ■記録物(リフレクションシート、チームレポート) ■その他
評価の基準	関連職種連携実習評価表に準ずる
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習)】 関連職種連携論・連携ワークで学んだことを再確認しておくこと。これまで学んだ専門領域に関する基礎知識・技術等について他者に説明できるようにしておくこと。(60分)</p> <p>【課題等に関するフィードバック】 事前演習後チューター教員よりグループに対して評価をフィードバックする 実習期間中カンファレンスにて指導者より発表内容についてコメントする</p> <p>【その他アドバイス】 学習過程では、自分の推論過程を意識的に吟味し振り返る反省的な思考(リフレクション)を繰り返すことが重要である。</p>
履修条件	関連職種連携論、関連職種連携ワークの単位を修得していること。その上で、臨床教育委員会で履修が認められた者。

教科書	「医療福祉をつなぐ関連職種連携－講義と実習にもとづく学習のすべて－」南江堂 2013年 「保健医療福祉のための臨床推論」朝倉書店 2016年
参考書	指定しない

オフィスアワー	NS (臨床教育委員) PT (臨床教育委員) OT (臨床教育委員) ST (臨床教育委員) ORT (臨床教育委員) RT (臨床教育委員) SHM (臨床教育委員) SHM (臨床教育委員) PS (臨床教育委員)
その他	【関連するディプロマポリシー】 共通ディプロマポリシー2)に該当

		大田原キャンパス					
科目名	リスクマネジメント論 (VOD 授業)					授業開始年度	2017 年度
科目担当責任者	武藤 正樹	科目担当者	土屋 文人、斎藤 恵一、長谷川 敏彦、池田 俊也、横山直司				
学科	全学科			学年	3・4 学年	期	前期
曜日時限	集中講義	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	VOD 授業(対面授業あり)						

授業の概要 (主題)	本講義では、医療従事者が必要なリスクマネジメントについての動向と課題、ヘルスケア環境における医療の質・安全確保の基礎知識について学ぶ。また、分野別ケーススタディーを取り上げ、その原因と再発防止策、解決方法を理解する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療現場におけるリスク傾向や背景の把握ができる</li> <li>2. リスクマネジメントの基盤となる概念、理論について理解できる</li> <li>3. 国内外のリスク事象の動向ならびにその課題について理解する</li> <li>4. 施設内外における医療安全の組織と体制を理解する。</li> <li>5. 各ケースを通し、安全管理・予防・対応を理解する</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	医療の質と安全、その取り組みの実際(前編)	武藤正樹
第 2 回	医療の質と安全、その取り組みの実際(後編)	
第 3 回	リスクマネジメントに関連する医薬関連法令	池田俊也
第 4 回	医療安全の海外事情	
第 5 回	ヒューマンエラーと事故分析手法	池田俊也
第 6 回	医療の質の評価	
第 7 回	情報セキュリティー(前編)	斎藤恵一
第 8 回	情報セキュリティー(後編)	
第 9 回	個人情報の保護と情報管理について(前編)	斎藤恵一
第 10 回	個人情報の保護と情報管理について(後編)	
第 11 回	医薬品と医療安全 1	土屋文人
第 12 回	医薬品と医療安全 2	
第 13 回	医薬品と医療安全 3	土屋文人
第 14 回	医薬品と医療安全 4	
第 15 回	医薬品・医療事故について 1	土屋文人
第 16 回	医薬品・医療事故について 2	
第 17 回	安全管理に関する看護師の役割 1	横山直司
第 18 回	安全管理に関する看護師の役割 2 ケーススタディ	
第 19 回	安全管理に関する看護師の役割 3 ケーススタディ	横山直司
第 20 回	安全管理に関する他職種の役割/医療安全に関する感染管理	
第 21 回	医療の質と安全～苦情クレームと ADR～(前編)	武藤正樹
第 22 回	医療の質と安全～苦情クレームと ADR～(後編)	
第 23 回	医療の質・安全とコスト～前編～	池田俊也
第 24 回	医療の質・安全とコスト～後編～	
第 25 回	医療安全 セイフティマネジメント～前編～	長谷川敏彦
第 26 回	医療安全 セイフティマネジメント～後編～	
第 27 回	臨床指標とは(前編)	武藤正樹
第 28 回	臨床指標とは(後編)	

成績評価の方法	■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( )
評価の基準	定期試験 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>対面授業までに、各動画の視聴を完了し、理解を深めておくこと。</p> <p>【準備学習(予習復習等)】</p> <p>予習:事前に資料をプリントアウトし、内容を確認すること(30分)</p> <p>復習:視聴後に資料をもとに講義内容を振り返ること(60分)</p>

履修条件	なし
教科書	特に指定なし
参考書	特に指定なし
オフィスアワー	教務窓口にお問い合わせること
その他	<p>※VOD 授業は、単位修得の前提として以下①～④を必須とする。</p> <p>①回答期限までに全ての回を視聴すること</p> <p>②視聴後は確認問題に回答すること</p> <p>③対面授業は、日程を確認し、必ず出席すること</p> <p>④定期試験を受験すること(試験日は別途掲示)</p>



						大田原キャンパス	
科目名	電子カルテによるチーム医療概論				授業開始年度	2017年度	
科目担当責任者	斎藤 恵一		科目担当者	石川 徹、江田 哲也			
学科	全学科			学年	2・3・4 学年	期	後期
曜日時限	月曜 4 限	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30 時間
授業の形態	講義						

授業の概要 (主題)	<p>本学に構築された仮想病院の電子カルテシステムを使って、チーム医療で重要な職種間の情報共有を実際に体験する。電子カルテシステムの仕組みや諸機能を理解するとともに、診療情報の電子化の利点、個人情報保護、情報セキュリティ、標準化など、医療分野の ICT 化の進展に伴いさらに重要となってきた事項についても学ぶ。</p> <p>実際には、各種の医療専門職が登場する模擬患者診療記録をもとに、患者登録、各科受付、診察、各種オーダー、実施、所見などの入力、処方、会計等について、各学生が電子カルテ端末を使って操作を行う。前半では外来診療、後半では入院診療を通して診療情報の流れを把握する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子カルテシステムの操作を通して、関連職種間での情報共有を実際に体験する。</li> <li>2. 電子カルテシステムの諸機能を実際に使うことで、電子カルテの仕組みを理解する。</li> <li>3. 模擬患者診療記録をもとにした電子カルテ端末からの入力作業を体験し、各職種の役割とその関わり方を理解する。</li> <li>4. 模擬患者診療記録をもとに経過表を作成することで、診療課程と診療情報の流れを理解する。</li> <li>5. 電子カルテシステムを実際に使うことにより、診療情報の電子化の利点を理解する。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	第 1 回 電子カルテシステムから学ぶ病院業務・医療情報に関する説明 電子カルテシステムの基本操作及び注意事項の説明	
第 2 回	第 2 回 病院外来業務を体験する: 新患登録(新規患者の判断・保険情報の入力)、 受付(模擬患者診療記録に記載された診療科の登録)、カルテ画面の説明と基本操作	
第 3 回	第 3 回 病院外来業務を体験する: 医師の利用する電子カルテの操作(オーダー登録・カルテ の入力及び登録)、各職種が医師からのオーダーに対する受付・実施登録・所見入力	
第 4 回	第 4 回 病院外来業務を体験する: 各職種からの検査結果の受取、病名登録・リハビリ依 頼、リハビリ科が行う患者登録、リハビリ予約、実施登録、リハビリ記録の入力・登録	
第 5 回	第 5 回 病院外来業務を体験する: 診察終了後の会計処理の実施(会計内容の確認と計 算処理)、患者呼び出し及び入金処理	
第 6 回	第 6 回 外来診療で使用した模擬患者診療記録を基に経過表の説明 入院診療で使用する模擬患者診療記録を用いた経過表の作成	
第 7 回	第 7 回 作成した経過表の説明会、入院診療における電子カルテシステム操作の確認 病院入院業務を体験する: 新患登録(新規患者の判断・保険情報の入力)、受付	
第 8 回	第 8 回 病院入院業務を体験する: 医師の利用する電子カルテの操作(オーダー登録・カル テの入力及び登録)、各職種が医師からのオーダーに対する受付・実施登録・所見入力	
第 9 回	第 9 回 病院外来業務を体験する: 医師のオーダー情報の受取・病名登録・リハビリ依 頼、リハビリにおける患者登録、リハビリ予約、実施登録、リハビリ記録の入力・登録	
第 10 回	第 10 回 病院入院業務を体験する: 入院に向けた医師の操作(入院予約・病棟向け指示・入 院オーダー登録・カルテの入力及び登録)、各職種のオーダー受付・実施登録・所見入力	
第 11 回	第 11 回 病院入院業務を体験する: 入院登録(時刻・食事登録・病名及び診療科の確認) 看護師の電子カルテシステムにおける操作(指示確認、検温表の入力)	
第 12 回	第 12 回 病院入院業務を体験する: 看護師の電子カルテにおける操作(看護記録入力) 医師からのオーダーに対する各職種の操作(服薬指導、リハビリ)	
第 13 回	第 13 回 病院入院業務を体験する: 看護師の電子カルテにおける操作継続(看護記録入 力) 医師からのオーダーに対する各職種の操作継続(服薬指導、食事変更)	
第 14 回	第 14 回 病院入院業務を体験する: 退院後の会計処理の実施(会計内容の確認と計算 処理)、患者呼び出し及び入金処理	
第 15 回	第 15 回 授業を通して理解したことの総括 授業を通じた各職種の業務内容・患者との関わり・チーム医療における役割の総括	

成績評価の方法	□定期試験、□実技試験、□実習評価、□小テスト、■レポート、□その他( )
評価の基準	レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	<p>【準備学習(予習復習等)】(60分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬患者診療記録を基に授業を行うので、事前に目を通し診療の流れを把握すること。</li> <li>・自分の専門分野以外の職種の記述について積極的に用語等を調べること。</li> <li>・学習した内容は再度確認し、分からない所は質問すること。</li> </ul> <p>【課題等に関するフィードバック】</p> <p>授業で登場する職種に関して、ノートなどにメモを取ること。</p> <p>【その他アドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ毎回、端末を用いた電子カルテの操作(オーダー、実施入力、診療記録入力等)をしながら診療記録を作成していく授業なので、極力欠席しないこと。</li> </ul>
履修条件	

教科書	資料を配付する。
参考書	特に指定しない。

オフィスアワー	斎藤:木曜日・3限・J棟 211 研究室 石川:水曜日・3限・J棟 209 研究室 江田:水曜日・5限・J棟 107 研究室
その他	<p>【関連するディプロマポリシー】</p> 共通ディプロマポリシー2)に該当

							大田原キャンパス	
科目名	レクリエーション概論（共通 後半）					授業開始年度	2017 年度	
科目担当責任者	金子 純一郎		科目担当者					
学科	保健医療学部 医療福祉学部			学年	2 年生	期	後期後半	
曜日時限	木曜 1 限	必修/選択	選択	単位数	1	時間数	15 時間	
授業の形態	講義							

授業の概要 (主題)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々のライフ・スタイルを考慮した上で、コミュニティを形成することで生活の質の向上について考える。</li> <li>2. レクリエーションの活用方法を学ぶことで、人と社会の結びつきを活性できるかを考える。</li> <li>3. レクリエーションを実施するのに必要な事業計画を立案し、体験する。</li> <li>4. レクリエーションの実施前後で、対象者の成長や満足、達成感に与える効果を考える。</li> </ol>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々のライフ・スタイルを考慮した上で、コミュニティを形成することができる。</li> <li>2. レクリエーションの活用方法を説明できる。</li> <li>3. レクリエーションを実施できる。</li> <li>4. レクリエーションの実施前後で、対象者の成長を分析することができる。</li> </ol>

授業計画		
回数	内容	担当
第 1 回	1. レクリエーションの基礎理論	
第 2 回	2. レクリエーション支援論	
第 3 回	3. レクリエーション事業論	
第 4 回	4. コミュニケーション・ワーク	
第 5 回	5. 目的に合わせたレクリエーションワーク	
第 6 回	6. レクリエーション・ワーク実践	
第 7 回	7. レクリエーション・ワーク実践, 総括	
第 8 回	8. 総括	

成績評価の方法	演習課題レポート 100%
評価の基準	演習課題レポート 100%
準備学習 学習へのアドバイス	レクリエーションの有用性について、事前に調べてください。(予習復習各 30 分目標)
履修条件	

教科書	指定しない
参考書	レクリエーション支援の基礎, 財団法人日本レクリエーション協会

オフィスアワー	講義終了後, 16:30-17:00
その他	

---

平成29年度 授業計画（シラバス）集

総合教育科目

専門基礎/学部共通科目

平成29年4月1日 発行

編集・発行 国際医療福祉大学 大田原キャンパス

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600-1

TEL 0287-24-3000 FAX 0287-24-3100

WebSite <http://www.iuhw.ac.jp>

印刷所 第一印刷株式会社

---

